

聖徒の道

1

1996

第一六五回半期総大会報告

末日聖徒
イエス・キリスト
教会





「ああ、エルサレムよ」 グレッグ・オルセン画

「ああ、エルサレム、エルサレム、……ちょうど、めんどりが翼の下にそのひなを集めるように、わたしはおまえの子らを幾たび集めようとしたことであろう。それなのに、おまえたちは応じようとしなかった。見よ、おまえたちの家は見捨てられてしまう。わたしは言うておく、『主の御名によってきたる者に、祝福あれ』とおまえたちが言う時までは、今後ふたたび、わたしに会うことはないであろう。」(マタイ23: 37-39)

末日聖徒イエス・キリスト教会 第165回半期総大会報告

1995年9月30日、10月1日、
ユタ州ソルトレーク・シティー、
テンプルススクウェアのタバナクルにおいて開かれた
半期総大会の説教とその模様

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、10月1日に開かれた総大会の日曜日午前の部会で次のように語った。「今は、悲観的な考えがはびこっている時代です。わたしたちには信仰の使命があります。世界中の兄弟姉妹の皆さん、自分の信仰を再確認し、この御業を世に推し進めていこうではありませんか。皆さんは自分自身の生き方によって御業を強めることができます。福音を自分の剣と盾にしてください。

わたしたちは皆、この地上で最もすばらしい大義の一翼を担っているのです。この教義は啓示によって与えられました。神権は神から授けられたものです。主イエス・キリストの証に、さらにもう一つの証が加えられました。それはダニエルの夢に出てくる『あたかも人手によらずに山から切り出された石が全地に満ちるまで転がり進むように』（教義と聖約65：2）という小さな石そのもののなのです。」

9月30日土曜日、10月1日日曜日の2日間にわたった総大会の各部会は、ゴードン・B・ヒンクレー大管長、トーマス・S・モンソン第一副管長、

ジェームズ・E・ファウスト第二副管長の司会により行われた。

総大会に先立つ1週間前の9月23日、ヒンクレー大管長は中央扶助協会集会で、歴史に残る、大管長会ならびに十二使徒評議会の宣言を正式に発表した。これは、家族に焦点を当てたもので、「全地の責任ある市民と政府の行政官の方々に、社会の基本単位である家族を維持し、強めるために、これらの定められた事柄を推し進めてくださるよう」呼びかけている。

今大会でのおもな管理上の決定は、土曜日午後の部会で行われた。

1995年の夏に発表されたように、レックス・D・ピネガー長老およびチャールズ・ディディエ長老が七十人会長会から解任となり、ジャック・H・ゴーズリンド長老とハロルド・G・ヒラム長老が後任として同会長会に任命された。この決定は今大会で支持された。また、ともに七十人定員会のテッド・E・ブルーアートン長老とハンス・B・リンガー長老が名誉幹部の称号を受けた。さらに、エドワルド・アヤラ長老、リブランド・R・カー

ティス長老、ヘルベシオ・マーティンズ長老、J・バラード・ウォッシュバーン長老、デュレル・A・ウルジ長老が七十人第二定員会会員を解任となった。中央日曜学校会長会では、会長のチャールズ・ディディエ長老、第一副会長のJ・バラード・ウォッシュバーン長老および第二副会長のF・パートン・ハワード長老（3人とも七十人）が解任となり、新しい中央日曜学校会長会として、ハロルド・G・ヒラム長老が会長に、F・パートン・ハワード長老が第一副会長に、グレン・L・ベイス長老が第二副会長に支持された。

土曜日夜の神権部会でヒンクレー大管長は、神殿がマサチューセッツ州ボストンとニューヨーク州ホワイトブレーンズに建設されること、「現在ベネズエラに神殿を建てる計画についても検討中」であることを発表した。そして「これらに加えて、現在6つの敷地が検討されています。実に壮大なプログラムです。わたしは、世界中の末日聖徒のために神殿が比較的近い所に置かれるように切に願っています」と述べた。——編集部

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本誌は以下の言語で出版されています。月刊——イタリア語、英語、オランダ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語、ノルウェー語。隔月刊——インドネシア語、タイ語、タヒチ語。季刊——チェコ語、ブルガリア語、ハンガリー語、アイスランド語、ロシア語。

大管長会：ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト
十二使徒定員会：ボイド・K・バックナー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オックス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング

編集長：ジャック・H・ゴーズリンド

顧問：スベンサー・J・コンディー、L・ライオネル・ケンド

教科課程管理部責任者

実務部長：ロナルド・L・ナイトン

企画・編集ディレクター：ブライアン・K・ケリー

グラフィックスディレクター：アラン・R・ロイボーク

国際機関誌スタッフ

編集主幹：マービン・K・ガードナー

編集主幹補佐：R・バル・ジョンソン

編集副主幹：デビッド・ミッチェル

編集補佐／こどものページ：ディエーン・ウォーカー

工程管理：メアリーアン・マーティンデル

出版補佐：ベス・デリー

デザインスタッフ

機関誌グラフィックスディレクター：M・M・カワサキ

アートディレクター：スコット・パン・カンベン

デザイナー：シェリー・クック

制作主幹：ジェーン・アン・ピーターズ

制作：レジナルド・J・クリステンセン、デニス・カービー、マシュー・H・マックスウェル

予約購読スタッフ

ディレクター：ケイ・W・ブリッグス

配送部長：クリス・クリステンセン

マーケティング部長：ジョイス・ハンセン

聖徒の道 1996年1月号第40巻第1号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

印刷所 株式会社 リック/クロスロード

定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)

半年予約1,200円(送料共)

普通号/大会号200円

Copyright © 1996 by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved. Printed in Japan. 英語版承認—1994年8月 翻訳承認—1994年8月 原題—International Magazines January, 1996, Japanese, 96981300

●定期購読は、「聖徒の道」の申し込み用紙(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて管理本部経理課へご送金いただければ、直接郵送いたします。

●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課 ☎03-3440-2351 (代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資料管理部配送センター ☎044-811-0417

The Seito No Michi (ISSN 0385-7670) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150. Second-class postage paid at Salt Lake City, UT 84150 U.S.A. and Canadian subscription is \$9.00 per year. Thirty days' notice required for change of address. When ordering a change, include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both the old address and the new are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, P.O. Box 26368, Salt Lake City, Utah 84126-0368, U.S.A. Subscription information telephone number 801-240-2947.

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, P.O. Box 26368, Salt Lake City, Utah 84126-0368.

●以下のテーマによる説教が、それぞれ右側のページに掲載されています。このリストは話者が採り上げたテーマを、すべて網羅するものではありません。

あ 愛 27
証 58, 82
贖い 8, 20, 27, 35, 70, 72, 86, 95
アロン神権 48, 66, 72
イエス・キリスト 4, 8, 13, 15, 20, 24, 63, 72, 95, 104, 107, 110
意志 17, 66
祈り 58, 72, 99
戒め 51
教え 8, 27
か 回復 31, 70
家族 35, 48, 93
家庭 100
神の王国 79
完全 95
犠牲 46
逆境 8, 17, 20, 42, 63, 75
教育 35
教会の成長発展 58, 75
悔い改め 17, 20
啓示 79
権威 91
幸福 17, 24, 86, 91, 93
子供たち 27, 110
さ 賛美歌 72
慈愛 100, 107
祝福師の祝福 35, 66
純潔 86, 93, 110
女性 100, 104, 110
神権 10, 35, 51
神権の祝福 5, 35
信仰 5, 42, 75, 82, 99
神殿 58, 95
神殿の業 58
聖餐 31, 35, 72
聖約 72
聖霊 5, 8, 31, 33, 82, 99
前世 15
備え 39
た 態度 48
墮胎 93
知恵の言葉 82
罪 20, 99
弟子 24
伝道活動 35, 42, 54, 58
天父 15, 27, 54, 104

独身の女性 110
は 背教 35, 70
母親 99, 110
バプテスマ 31, 86
負債 39
扶助協会 100, 104, 107
不道德 93, 110
平和 100
奉献 24
ま 模範 17, 54, 89
『モルモン書』 33, 70
や 薬物の乱用 51
赦し 20, 95
預言者 48, 82
喜び 82, 95
ら 両親 48, 86, 89

●今大会の話者(アイウエオ順)の説教が右側のページに掲載されています。

アイリング、ヘンリー・B 42
ウェルズ、ロバート・E 70
ウルジ、デュレル・A 93
岡崎、チエコ・N 104
オックス、ダリン・H 27
クライド、アイリーン・H 107
ゴーズリンド、ジャック・H 8
ジャック、イレイン・L 100
ズウィック、W・クレイグ 13
スコット、リチャード・G 17
ダン、ローレン・C 31
ネルソン、ラッセル・M 95
バートン、H・デビッド 48
バックナー、ボイド・K 20
バラード、M・ラッセル 5
ヒラム、ハロルド・G 46
ヒンクレー、ゴードン・B 4, 58, 75, 99, 110
ファウスト、ジェームズ・E 51, 66
ブルーアートン、テッド・E 33
ヘイト、デビッド・B 79
ヘイルズ、ロバート・D 35
ベッカム、ジャネット・ヘイルズ 10
ペリー、L・トム 39
ポーター、ブルース・D 15
ホランド、ジェフリー・R 72
マックスウェル、ニール・A 24
ミケルセン、リン・A 86
モンソン、トーマス・S 23, 54, 63
リンガー、ハンス・B 91
ワースリン、アン・G 89
ワースリン、ジョセフ・B 82

目 次

末日聖徒イエス・キリスト教会第165回半期総大会報告 1

1995年9月30日(土) 午前の部会

集いの時 ゴードン・B・ヒンクレー.....	4
ハイラム・スミス——「天の柱のように強固」な人 M・ラッセル・バラード.....	5
霊的な山の頂 ジャック・H・ゴーズリンド.....	8
慈しみの力 ジャネット・ヘイルズ・ベッカム.....	10
救い主の愛に包まれて W・クレイグ・ズウィック.....	13
イスラエルの救い主 ブルース・D・ポーター.....	15
主を信頼する リチャード・G・スコット.....	17
輝かしい赦しの朝 ボイド・K・パッカー.....	20

1995年9月30日(土) 午後の部会

教会役員の支持 トーマス・S・モンソン.....	23
「御父の御心にのみ込まれる」 ニール・A・マックスウェル.....	24
力強い理念 ダリン・H・オークス.....	27
証人 ローレン・C・ダン.....	31
『モルモン書』——神聖な古代の記録 テッド・E・ブルーアートン.....	33
神権がもたらす祝福 ロバート・D・ヘイルズ.....	35
「備えていれば恐れることはない」 L・トム・ペリー.....	39

1995年9月30日(土) 神権部会

信仰により人々に影響を与える ヘンリー・B・アイリング.....	42
奉仕に伴う犠牲 ハロルド・G・ヒラム.....	46
「わたしは行って行きます」 H・デビッド・バートン.....	48
強いられてでなく、自ら行動する ジェームズ・E・ファウスト.....	51
神を尊ぶ者を、神は尊ばれる トーマス・S・モンソン.....	54
伝道と神殿、そして管理の職 ゴードン・B・ヒンクレー.....	58

1995年10月1日(日) 午前の部会

忍耐——天の徳 トーマス・S・モンソン.....	63
神権の祝福 ジェームズ・E・ファウスト.....	66
世界に告げるメッセージ ロバート・E・ウエルズ.....	70
「わたしを記念するため、このように行いなさい」 ジェフリー・R・ホランド.....	72
この道を歩み続け、信仰を保つ ゴードン・B・ヒンクレー.....	75

1995年10月1日(日) 午後の部会

まず神の国を求めなさい デビッド・B・ヘイト.....	79
光と真理の窓 ジョセフ・B・ワースリン.....	82
幸福をもたらす永遠の律法 リン・A・ミケルセン.....	86
子供たちの心に触れる アン・G・ワースリン.....	89
「主よ、わたしたちは、だれのところに行きましょう」 ハンス・B・リンガー.....	91
戦略 デュレル・A・ウルジ.....	93
完成への道 ラッセル・M・ネルソン.....	95
信仰と証があやなす織物 ゴードン・B・ヒンクレー.....	99

1995年9月23日(土) 中央扶助協会集会

扶助協会——ギレアデの乳香 イレイン・L・ジャック.....	100
生きたネットワーク チエコ・N・岡崎.....	104
扶助協会は何のために アイリーン・H・クライド.....	107
世の策略に対抗して立つ ゴードン・B・ヒンクレー.....	110
指導者の言葉.....	116
チャーチニュース.....	118
ローカルニュース.....	122

集いの時

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

わたしたちは一つの偉大な家族であり、神の息子、娘です。神の愛する御子の業に携わっています。



兄 弟姉妹の皆さん、半年ごとに、この盛大な世界的大会とともに集う機会があるのは、素晴らしいことです。世界中から集まって、互いに証を述べ、教えを受け、兄弟姉妹として交流します。わたしたちの享受するこの交わりは、大変心地よく、きわめて重要なものであり、この偉大な組織の文化の一部になっています。

1世紀以上もの間、歴史的なここタバナクルで、集会が持たれてきました。この説教壇から主の御言葉が広まっていったのです。何年もの間、数知れぬ話者がこの壇上に上りました。個性は異なっていましたが、精神においては一つでした。それは「それゆえ、説く者と受ける者が互いに理解し合い、両者ともに教化されて、ともに喜ぶのである」(教義と聖約50:22)と、主が言われた精神にほかならないのです。

この偉大なタバナクルも、年ごとに、

狭くなっていくように感じられます。現在では、さらに大勢の聴衆を収容するもっと大きな施設で、幾つかの地区大会が開かれています。例えば、つい最近では、ワシントン州タコマ地区でわたしたちは大会を開きました。そこでは、一か所に集った1万7,328人の末口聖徒を前にして、わたしたちは話をする特権を得ました。ただ音響効果は、タバナクルという驚くべき建築物には及びませんでした。

もちろん、ここテンプルスクウェアに集っている皆さんよりも、はるかに大勢の方々が電子メディアの驚異によって、参加してくださっています。タバナクルは次第に、ラジオ、テレビ、有線放送、衛星放送によってこうした大会の集いを伝える、放送スタジオになりつつあります。大会の様子は、今、アメリカ合衆国、カナダ、西インド諸島の全域で映し出されています。イギリス諸島ならびにヨーロッパの多くの地域でも放映されています。太平洋諸島、ニュージーランドとオーストラリア、アジアの島々、メキシコ、中央アメリカ、南米諸国にも、遠からず、生中継で放映できる日が来るように、わたしたちは願っています。しかし現在でも、わずかな努力を払えば、教会員の半数以上の方々は、今日、わたしが話す様子を見聞きできます。

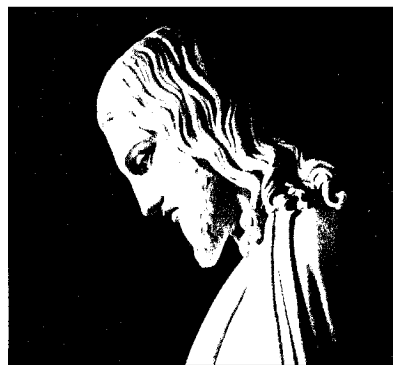
わたしが話している場所のちょうど真下にあるタバナクルの地下では、大勢の通訳者たちが働いています。自国の言葉で話を聞きたいと願う人々が、そうできるようにするためです。こうした献身的な男女の大きな働きに敬意を表し、感謝します。彼らはこの通訳

という業のために自らの時間と才能を惜しみなく提供しています。

人手によらずに山から切り出された小さな石が、転がり進んで全地に満ちます(教義と聖約65:2参照)。わたしたちの主の、発展するこの王国に籍を置くことは、何とすばらしいことでしょう。どこに住んでいようと神の子供たちの心を隔てる、政治的な境界はありません。わたしたちは皆、一つの偉大な家族であり、神の息子、娘です。神の愛する御子の業に従事しています。この御方はわたしたちの贖い主、救い主であって、その真理に対する証はわたしたちの心の内に燃えています。皆さん一人一人が、この業に対するそうした証を受ける権利があります。わたしたちが教会または神の王国と呼んでいるものに、わたしたちを一つに結びつけているのは、崇高な基本的真理に対する個人の知識なのです。

こうしてわたしたちは6か月ごとに集まり、信仰を新たにし、神に関する事柄に対して理解を深め、わたしたち全員が末日聖徒イエス・キリスト教会として知る、この偉大な特筆すべき兄弟愛、姉妹愛の輪の中で、互いに愛と尊敬を示し合います。皆さんとともに、わたしも今日、明日と開かれる集会を心待ちにし、主の聖なる御霊がわたしたち一人一人とともにあるよう、主の祝福を祈っています。

すべての話し手、歌い手、祈りをささげる者のうえに、なかんずく、わたしの心にある深い愛と感謝を込めて、御霊の声によって耳を傾けるすべての人のうえに、主の祝福があるようお祈りしています。イエス・キリストの御名により、アーメン。



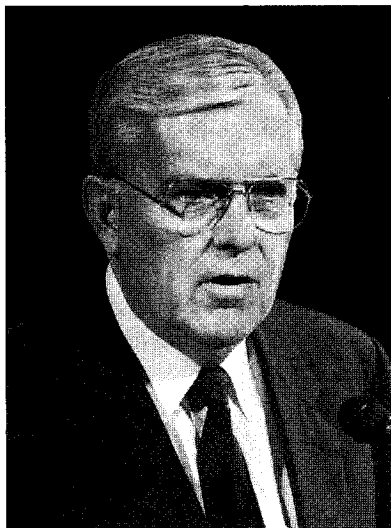
ハイラム・スミス

「天の柱のように 強固」な人

十二使徒定員会会員

M・ラッセル・バラード

ジョセフ・スミス自身がかつて^{はらから}同胞に、ハイラムの模範に従って生活するよう勧めたほです。



愛する兄弟姉妹の皆さん、今日皆さんの前に立てることを感謝します。2か月前に心臓のバイパス手術を受けてから、どこにでも立てるようになり、喜んでいます。過去数か月間、わたしのために示された教会員の強い信仰と祈りを感じてきました。そのことに心から感謝しています。わたしは豊かに祝福されました。皆さんの前へりくだって天父に感謝します。

7月の初旬に、わたしたち夫婦はバルマイラ、カートランド、ノーブーの教会史跡を見て回りました。7人の子供とその伴侶、^{はんにょう}20人の孫も一緒でした。中には、この旅行が心臓病に影響する

かもしれないと言う者もいました。それはどうか知りませんが、この旅行によって、わたしたちの心は、深い愛と尊敬の念に満たされました。それは預言者ジョセフ・スミスとその家族、そして回復されたイエス・キリストの福音を初めに受け入れ、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になった信仰堅固な人々に対する気持ちでした。実際に多くの啓示や指示が与えられたその場所に立って、『教義と聖約』について家族に教えるのは、実にすばらしい経験でした。

これらの靈感あふれる場所を訪れ、家族皆で回復の出来事に浸って、この時代に生きる特権を思い返しました。つまり、神の子供たちに救いと昇栄をもたらす天父の計画が、教義上はつきりと理解されている時代です。主イエス・キリストや回復された教会とわたしたちとの関係が明らかにされたことにより、わたしたち一人一人は貴く力ある知識を得ました。道徳が退廃し、価値観が破壊される困難な時代に、生活を導く真理が余すところなく啓示されたことを神に感謝します。

数週間の療養期間中は、いつもよりはるかに自由な時間が多く、考えたり、^{めいそう}瞑想したり、祈ったりできる機会がたくさんありました。時間という賜物のために、わたしと同じ状態になることはお勧めできませんが、すべての人が

熟考し、瞑想する時間を取るなら、必ずや祝福を享受できることでしょう。静かに内省するときに、御霊は多くのことを教えてくれるのです。

わたしは御霊によって大切な責任を受けました。それは、開拓者の信仰の遺産を決して失わないという責任です。教会歴史を理解することによって、わたしたちは、特に青少年は、大きな力を得ることができます。わたしはハイラム・スミスの子孫として、神聖な責任を感じています。それはこの偉大な指導者の重要な働きを、教会員の心に銘記することです。ジョセフ・スミスは、ただイエス・キリストは別として、ほかのいかなる人よりも力ある業を行い、比類ない業績を残しました。彼の兄で祝福師のハイラムも、雄々しい生涯を送り、顕著な貢献をしました。わたしの心は彼への思いと尊敬でいっぱいです。

1840年9月、ジョセフ・スミス・シニアは、家族を集めました。この年老いた敬うべき祝福師は、死を前にして、愛する妻と子供たちに祝福を残したいと思ったのです。生きている子供たちの中でいちばん年上のハイラムは、父親が天に召されるときに、天からの助けがあって、教会の敵が末日聖徒を支配する力を持たないようにと願いました。父親のスミスはハイラムの頭に手を置き、「神から授けられる業を達成するのに十分な平安があるように」と祝福しました。ハイラムが終生忠実であることを知っていた父親は、この最後の祝福を次の約束で結びました。「あなたは最後の日まで、天の柱のように強固で揺るがないでしょう。」

この祝福は、ハイラムの最大の特質を示しています。ほかのだれよりハイラムは、「天の柱のように強固」でした。ハイラムの生涯を通じて、悪魔は力を結集して働きかけ、彼を打ち負かすか、正しい道から外れさせようとしていました。

1823年に彼の兄のアルビンが亡くなると、ハイラムはスミス家で重要な責任を担うようになりました。同時に、回復の長く困難な過程を通じて、弟のジョセフを援助し、仕えました。そして最後には、ジョセフ・スミスとともに、過去の福音の神権時代の殉教者の

一人に加えられました。世に対する最後の証として、自らの血を流したのです。

ハイラムは常に「強固」でした。人生のたどるべき道を知り、自ら選んでそれに従いました。ジョセフにとって、ハイラムは同僚であり、守り手であり、助け手であり、親友であり、そして同じ殉教者でした。不法な迫害に生涯さらされていました。自分の方が年上でしたが、弟に与えられた神からの召しを認めていました。ジョセフに強く助言することもありましたが、ハイラムはいつも、弟に従いました。

ジョセフは兄について、こう述べています。「ハイラム兄弟、あなたは何と忠実な心を持っていることでしょう。わたしのためにしてくれたことの報いとして、永遠のエホバが永遠の祝福をあなたの頭に授けてくださるよう、ああ、どれほど多くの悲しみを共にしてきたことでしょうか。」²

別の機会にも、ジョセフは兄について、深遠な優しい言葉を述べています。「わたしは、死よりも強い愛でハイラムを愛しています。」³

ハイラムはためむことなく教会に奉仕しました。1829年には、数人の兄弟とともに、金版を見ることを許されました。この金版から『モルモン書』が翻訳されたのです。そして、「金版を実際に目で見、手で持ち上げてみた」⁴ 八人の証人の一人として、残りの生涯、『モルモン書』の神聖さを証しました。ハイラムは、この福音の神権時代の最初にバプテスマを受けた一人です。1830年、当時30歳のハイラムは、末日聖徒イエス・キリスト教会を正式に組織するために選ばれた6人の中の一人となりました。1831年、ハイラムはオハイオの大会でこう言いました。「わたしの持つものはすべて主のものであり、わたしは御心を続けて行うために備えられました。」⁵ 1833年、主が、カートランド神殿の着工の遅れに関して教会員を叱責されたとき、ハイラムは率先して基礎の穴掘りを始めました。神殿管理委員会の長として、ハイラムは、教会員を集めて、ほとんどの会員が文字どおり何もできないときに、カートランド神殿の建設という不可能

と思われた仕事を成し遂げました。また数年後には、ノーブー神殿の建設のために同様の働きをしました。

ハイラムは、オハイオで監督会、最初の高等評議員、祝福師、副管長、そしてかつて二人しか受けていない大管長補佐の職に就いて、働きました。

ハイラムは教会のために何度も伝道しました。中でも、カートランドからインディアナまでの旅は、最もつらい試練の一つでした。そのときに、最初の妻ジェルシャが6番目の子供を産んですぐに亡くなったのです。ハイラムの母ルーシー・マック・スミスは、ジェルシャの死を手紙でこう伝えました。「わたしたちの心は悲しみで張り裂けそうです。ジェルシャはだれからも愛される女性でした。」⁶

ハイラムは悲しみに沈みましたが、その信仰は揺るがず、天父と教会に仕えるという決意は決して鈍りませんでした。神はその忠実さに報いて、教会史上最も偉大な女性の一人、メアリー・フィールディングを送られ、後に二人は結婚しました。そして、主に従う者としての模範と愛というすばらしい遺産を築き上げました。

確かに、ハイラム・スミスは、回復の強固な柱でした。しかし悲しいことに、多くの教会員は、カーセージの監獄で弟とともに殉教したこと以外、ハイラムについてほとんど知りません。殉教は重要ですが、彼はもっと多くのことをしています。ジョセフ・スミス自身がかつて同胞に、ハイラムの模範に従って生活するよう勧めたほどです。⁷ では、ハイラムの生涯から、わたしたちも倣うべき幾つかの模範を挙げてみましょう。

1829年、ジョセフが『モルモン書』の翻訳を終えたとき、ハイラムは福音を広めて教会を築きたいと強く思いました。そこで、何をすべきか主に尋ねてほしいと、ジョセフに頼みました。教義と聖約第11章にこのときの主の答えが記されています。「わたしの言葉を告げようとしないで、まずわたしの言葉を得るように努めなさい。……すでに……出ているわたしの言葉を研究し、……現在翻訳されつつあるわたしの言葉を研究しなさい。」⁸

ハイラムの生涯は、彼が主からのこの指示に忠実であったことを証しています。ハイラムは最後の日まで、聖文を通して主の御言葉を究めるために、努力しました。カーセージの監獄では、『モルモン書』からの抜粋を読んで研究しました。聖文は明らかにハイラムの一部であり、慰めや力が最も必要なときに、彼は聖典を開いたのです。

霊的な強さという面を考えただけでも、もしわたしたちが毎日聖文を研究するなら、力が増し加えられて、教師として、宣教師として、友人として、もっと効果的に働けるでしょう。ハイラムがしたように神の御言葉を研究するなら、ハイラムのように最大の試練にも耐えられるでしょう。

ハイラムの生涯からの2番目の偉大な模範は、回復の初めのころのことです。ルーシー・マック・スミスによれば、少年ジョセフが、聖なる森での経験を初めて家族に話したとき、ハイラムを含め全員が、「喜んで」そのメッセージを聞きました。家族は「円く座って、……『聖書』をまだ読み通したことのないこの少年に、最大の関心を向けました。」⁹ これは、弟のニーファイが神の召しを受けたときの、レーマンやレムエルの反応とは対照的です。また、弟のヨセフをエジプトに売った兄たちの嫉妬心とも対照的です。ハイラム・スミスには、嫉妬も敵意もなかったのです。むしろ、弟のメッセージに霊的な真理を感じてひとえに喜び、ジョセフの話を中心に信じました。ハイラムは主から、何が正しいか教えられ、残りの生涯、ジョセフに忠実に従いました。

救い主は教義と聖約第124章で、こう言われました。「[ハイラム]の心が高潔であるので、また彼がわたしの前に正しいことを愛するので、主なるわたしは彼を愛する……。」¹⁰

忠実なハイラムは、偉大な信仰の持ち主で、ジョセフの見たすべてを見る必要はありませんでした。彼にとって、ジョセフの口から真理を聞き、それが正しいという御霊のささやきを感じれば、十分だったのです。信じる信仰は、ハイラムの霊的な強さの源でした。そ

れは、今も昔も忠実な教会員にとって霊的な力の源です。わたしたちに必要なのは、ささいなことにいちいち疑問を抱く会員ではなく、心で感じて、御霊に近く生活し、そのささやきに喜んで従う会員なのです。議論や不平なしに、また奇跡の現れを目にしなくても、福音の真理を受け入れる探求心なのです。自分よりも年齢が下で経験の浅い監督やステーク会長、定員会や補助組織の指導者から勧告を受け入れて、喜んでそれに従うなら、どれほど祝福されることでしょうか。「正しいこと」に対し、不承不承でなく、喜んで従うならば、どれほど大きな祝福を受けることでしょうか。

ハイラムの生活に見られる3番目の模範は、彼の無私の奉仕です。母親は彼のこの特質について、こう言いました。「ハイラムの優しさと思いやりは言葉に尽くせません。」¹¹ジョセフが足の痛みで苦しんでいたとき、ハイラムは母親に代わって、1週間以上、毎日ほとんど24時間付ききりの看病をしました。

ハイラムは、真っ先に訪問者に友情を示し、だれよりも早く争いを静めようとする人でした。最初に敵を救済人でした。預言者ジョセフは、こう言っています。「もしハイラムにけんかをしている二人を仲直りさせることができないければ、天使にもできないでしょう。」¹²

当時の教会内で必要だったことが、今日の教会や家族にも必要ではないでしょうか。わたしたちは、特別な注意を必要とする人々の問題に敏感でしょうか。霊的または情緒的に苦しんでいて、わたしたちの愛や励まし、助けを必要とする家族に気づいているでしょうか。ハイラムの無私の奉仕の模範は、わたしたちがそれに従う決意をすれば、今日の世の中に力強い影響を及ぼすでしょう。

もう一つの偉大な模範は、リバティーの暗い監獄でのことです。ここでハイラムとジョセフ、数人の人々は、寒さと飢え、非人道的な扱い、それに友人たちから隔離された孤独感に悩まされていました。この学びの場で、ハイラムは逆境や艱難に耐えるという教訓を学びました。この最も厳しい試練の中で、ハイラムがいちばん心配した

のは、自分のことでも同僚のことでもなく、家族でした。妻にあてた手紙の中で、ハイラムは、妻子の安否がいちばん気がかりであると書いています。「家族の問題について考えるとき、わたしの心は悲しみに押しつぶされそうです。……しかし、わたしに何ができるでしょうか。……どうか、主の御心が成りますように。」¹³

各地の教会を訪れると、苦悩を伴う大きな試練を受けている会員に会います。体をむしばむ健康上の問題で苦しんでいる会員がいます。伴侶や子供たちのことでどうすることもできない難しい状況に置かれている夫や妻、親がいます。わたしたちはだれでも、自分の力ではどうすることもできない苦難や逆境、好ましくない状況に直面することがあります。多くの環境は、時間や涙、祈り、信仰などを用いなければ対処できません。心に平安を得るには、わたしたちもハイラムのように、こう言わなければなりません。「しかし、わたしに何ができるでしょうか。……どうか、主の御心が成りますように。」

ジョセフは確かに靈感を受けて、兄ハイラムについてこう書きました。「あなたの名は書き記され、……後に続く人々が見て、あなたの模範に従うでしょう。」¹⁴教義と聖約第124章で、ハイラムは「彼の名が代々とこしえにいつまでも尊敬を込めて覚えられる」¹⁵と約束されました。わたしたちがこの約束の成就に貢献できますように。わたしたちが「[彼]の模範」に従って

主の御業を行うとき、ハイラムの名は誉れとなるでしょう。ハイラム・スミスをはじめ、忠実な先祖たちに対する思いが、わたしたちの心から消え去ることのないよう、へりくだり、イエス・キリストの御名により祈ります。アーメン。

注

1. ルーシー・マック・スミス, *History of Joseph Smith* 「ジョセフ・スミスの生涯」 p.309
2. *History of the Church* 「教会歴史」 5:107-108
3. 「教会歴史」 2:338
4. リチャード・ロイド・アンダーソン, *Investigating the Book of Mormon Witnesses* 「『モルモン書』の証人の研究」 pp.158-159より引用
5. ドナルド・Q・キャノン, リンド・W・クック編, *Far West Record* 「ファーウェストの記録」 p.21より引用
6. 「ジョセフ・スミスの生涯」 p.246
7. 「教会歴史」 5:108
8. 教義と聖約11:21-22
9. 「ジョセフ・スミスの生涯」 p.82
10. 教義と聖約124:15
11. 「ジョセフ・スミスの生涯」 p.55
12. J・P・ウィットソー・オズボーン, "Hyrum Smith, Patriarch" *The Utah Genealogical and Historical Magazine* 「大祝福師、ハイラム・スミス」 『ユタ系図歴史機関誌』 p.56
13. *Hyrum Smith letter to Mary Fielding Smith, 16 March 1839* 「ハイラム・スミスからメアリー・フィールディングへの書簡, 1839年3月16日」
14. 「教会歴史」 5:108
15. 教義と聖約124:96



霊的な山の頂

七十人会長会

ジャック・H・ゴーズリンド

イエス・キリストに対する証の力は、現代の生活に指針を与えてくれる偉大な、しかしあまり利用されていない源泉の一つです。



最近、わたしはジャクソンレイクの集会に出席する機会がありました。この街はアメリカ合衆国西部のワイオミング州にある、雄大なテートン山にあります。起伏の多い山の頂で、涼しくさわやかな秋の空気に包まれながら、息をのむほど美しい風景を眺めていると、訪れるだれもが心の高揚と再生を感じます。その地を訪問する割り当ては、人々の日々の仕事の大変さを思うときわめて快適なものでした。平穏な山々の景色は、わたしだけでなく出席者全員の英気を養ってくれました。この世の諸問題に打ち勝つ力を感じ、自分の直面していたチャレンジもちっぽけに感じました。こうして、新たな希望と情熱により、鮮明なビジョンを得、心を一新して帰路に就きました。

あの山岳高地は、わたしにいろいろなことを考えさせてくれました。今朝

は、その幾つかを皆さんと分かち合いたいと思います。

主はしばしば山の頂を聖所として用いられました。神殿がまだなかった旧約聖書時代に、主は山頂を聖所に用いて、預言者たちに真理を明らかにされました。同様に、『新約聖書』と『モルモン書』にも、神が僕たちに真理を明らかにされた神聖な山の頂のことが記されています。ジョセフ・スミスは聖なる森でひざまずきましたが、彼は比喩的な意味で、霊的にきわめて高い山頂でひざまずきました。

今日、主は、わたしたちが自分だけの霊的な山の頂に立ち、真理と靈感を受けられるよう、様々な方法を備えてくださっています。例えば、聖文を調べるなら、物事をはっきりと識別できる高みにまで霊性が高揚し、日々の様様な疑問に対して答えが得られます。さらに、世界各地には神殿が建てられていて、わたしたちはそこに参入して指示と靈感を受け、神聖な儀式を執り行うことができます。ここで開かれているような各種の大会をはじめ、愛する指導者の預言的な言葉、聖餐会やステーク大会などは、どれも真理を耳にする豊富な、満足感のある機会となり、わたしたちの心に深い影響を及ぼします。

自らの人生や日々の仕事の中で、わたしたちはまたとない自分だけの「山頂での体験」を作り出すことができます。わたしの言うこの霊的な山頂とは、主であり救い主であるイエス・キリストへの証をはぐくみ、強めることです。どのような高い山でも頂上に立てば、眼前には畏敬の念を起こさせるほどの

すばらしい眺めが広がります。救い主が人の理解を超えた愛をもって命をささげ、人類の苦痛をその身に引き受けてくださったことを知ると、わたしたちも同じようにきつと自分だけの霊的な山頂に立ち、圧倒されるほどの畏敬の念を体験できるでしょう。

イエス・キリストに対する証の力は、現代の生活に指針を与えてくれる偉大な、しかしあまり利用されていない源泉の一つのようです。福音や教会の中にあつて、どれほど善良で、忠実で、献身的であるよう努めていても、わたしたち一人一人が主への揺るぎない信仰が与える力と影響力をもって取り組むなら、必ずやなおいっそう多くのことを成し遂げられるでしょう。一例をご紹介します。

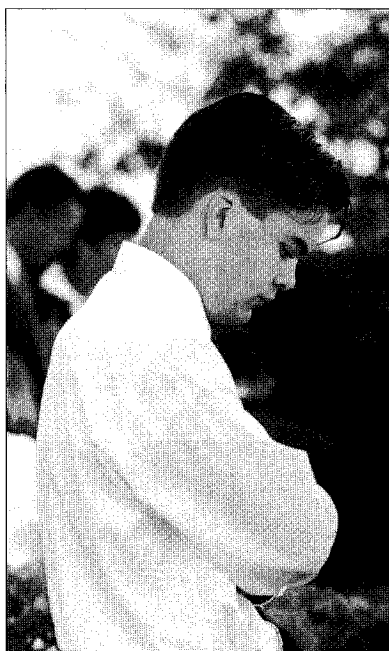
わたしの話を聞いていらっしゃる親の皆さんは、子供たちに正邪の違いを教え、誠実で、人を敬い、道徳的に清い生活を送り、家族を愛する人になるよう教えることに努めていらっしゃると思います。皆さんは、罪の赦しのバプテスマなど、救いの儀式の重要性を子供たちに教えようと熱心に努めていらっしゃいます。適切な年齢になると、息子さんたちが神権に聖任されることを望んでいらっしゃいます。正しい場所で、正しい人と、正しい時期に、正しい権能の下で結婚するのは、昇栄に不可欠であることを知るように、子供たちに教えていらっしゃいます。

これらの教えをはじめとするほかの同じような教えは、すべての末日聖徒にとって非常に重要であり、わたしたちの信条や価値観を表すものです。もし子供たちがこれらの教えを御霊を通じて学び、親の側も、救い主の贖いに対する強い証の強力な影響を受けながら教えるなら、親子はともに愛と信頼の雰囲気の中で教え学ぶことができ、子供たちは教えをいつまでも心に留めるでしょう。聖文はこう教えています。「子をその行くべき道に従って教えよ、そうすれば年老いても、それを離れることがない。」(箴言22:6) ナザレのイエス、大工の息子として育ったイスラエルの贖い主、主なる救い主、イエス・キリストは、命を犠牲にして、わ

たしたちが不死不滅と永遠の命を得られるようにしてくださいました。これを感じる気持ちはやがて確信となり、子供たちをはじめわたしたちに託された人々に伝えるすべての教を明らかにしてくれます。

時折感じるのですが、わたしたちはいろいろなことを懸念するあまり、子供たちの教育を福音の真理という基盤に結びつけられずにいるのではないのでしょうか。わたしたちはあるいは、家族が従順を期待しているからという理由で律法や原則を守るように子供たちに教えていることが往々にしてないのでしょうか。しかしそれでは子供たちは、新たな真理を聞くとき、近所の人や監督を喜ばせるために従い、別の新たな真理を聞けば、何かほかの理由のために従うようになりかねません。子供たちに永遠の真理を教えているながら、救い主に対する確固とした証^{あかし}に基づいて説明しなかったとしたら、史上最も偉大な教師である御方の模範の力を無にしてしまうでしょう。

同様にわたしたちの多くは字義どおりに一貫して従い、悲しむべき罪を犯さないという従順のレベルには到達しています。わたしたちは自分を振り返って、「お隣の家庭と比べて劣るわけではないから」と満足し、安心してしまいます。しかしこれでは、霊的成長という山の中腹で、ほかの人たちに合わせて自分の歩みを止めているようなものです。だれもがこの快適なレベルにとどまるのを好みます。そこではどの戒めも無理なく守ることが出来ます。しかしわたしたちは、イエス・キリストへの信頼、知識、証、信仰のゆえに福音の原則や律法に従うことを自ら学び、教える必要があります。聖文中で「分かりやすい言葉で話すことを喜びとしている」(2ニーファイ25:4)と語ったニーファイは、ニーファイ第二書第25章で、わたしたちに次のことを思い起こさせてくれています。「わたしたちはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを預言^{よめる}し、また、どこに罪の赦しを求めればよいかを、わたしたちの子孫に知らせるた



めに、自分たちの預言したことを書き記すのである。」(26節)

救い主に対する証をわたしたちの信仰の完全なよりどころとするのは、時に難しいこともあるでしょう。これに対し、ハロルド・B・リー大管長はこう勧告しています。「信仰と知識を携えて、限界と思えるところまで行きましょう。そこまで来たらさらにあと2、3歩、歩を進めてみてください。きっとあなたは、信仰と知識が増して、自分を導いてくれるのを感じるでしょう。」(ボイド・K・パッカーによる引用、Regional Representative Seminar『地区代表セミナー』1977年4月1日)

証をはぐくみ、少しずつでも信仰を増し、ぬるま湯のような状態から抜け出す努力をするときに、わたしたちは自分だけの霊的な山の頂に近づき、かつて経験しなかった霊的導きと真理を受けることができるのではないのでしょうか。そうすれば、わたしがテートン山の頂で経験したように、わたしたちはもっと明らかに考え、物事の本質を見極め、清く新鮮な光の中で真理を理解できます。さらに、聖霊の導きと影響を受けて、新たな意義と深い理解の下に人々の生活に祝福をもたらし、教える方法を悟るようになるでしょう。

今朝、わたしの心にある願いが一つだけかなえられるなら、皆さんの心に

イエス・キリストに対する揺るぎない思いを深く植え付けたいと思います。この時代に、ハワード・W・ハンター大管長はわたしたちすべてに向けてこう語りました。「わたしたちは今まで以上に深くキリストを知り、これまでに以上に頻繁に主を思い起こして、過去にも増して雄々しく主に仕えなければなりません。」(『聖徒の道』1994年7月号、p.67)

ハンター大管長がこのチャレンジに満ちた言葉を通じて、わたしたちに求めたものは、預言者アルマが心の中に大きな変化を経験するように教えたのと同じではないのでしょうか。アルマはゼラヘムラの教会員たちに、心を高め、いっそう高い霊のレベルに到達する必要があると説きました。神を信頼する必要性や信仰を行使することがいかに大切かも語りました。さらに、今日のわたしたちも自問する必要がある次のような重要な質問をしました。「さて見よ、わたしの同胞よ、わたしはあなたがたに言う。もしあなたがたが心の変化を経験しているのであれば、また、贖い^{あがな}をもたらし愛の歌を歌おうと感じたことがあるのであれば、今でもそのように感じられるか尋ねたい。」(アルマ5:26)

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちの美德、すなわちあらゆる義にかなった働き、善い行い、従順さ、人に祝福をもたらすための努力は、キリストに対する信仰、主の使命と犠牲に対する証、快適な平地から進んで抜け出す熱意に基づき、また動機づけられていなければなりません。わたしたちがイエス・キリストと贖いの効力に対する証を強め、増し、尊んで大いなるものとする方法を見いだすとき、初めてわたしたちはアルマの質問に肯定的な答えができるのです。

サタンはわたしたちが山頂にたどり着いて非常に強い証をはぐくみ、サタンの影響の及ばない状態になるのを恐れています。サタンはわたしたちの努力を阻もうと働きかけます。しかし、主はこう勧告されました。「小さい群れよ、恐れてはならない。善を行いなさい。この世と地獄をあなたがたに対

して連合させなさい。あなたがたがわたしの岩の上に建てられるならば、それらは打ち勝つことができないからである。」(教義と聖約6:34)

確信をもって申し上げますが、この世と地獄が皆さんに襲いかかることはないでしょう。しかし、皆さんが今の霊のレベルから踏み出して、さらに高いレベルへ上ることは必要です。

最後に、愛する預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長の力強い言葉を引用してわたしの話を閉じたいと思います。「人生を前進しましょう。最善のものが目の前に横たわっています。若人の生活にもっと霊的なものを取り入れましょう。万人が永遠の命を得られるようになった贖い主の贖罪について学ぶことで、彼らが世の救い主をもっと身近に感じるようになるとき、すべての少年(少女)の心に主とのきずなを培いましょう。」(ウェストハイ・セミナリー卒業式、ソルトレーク・シティー1995年5月14日、ユタ州ヒーバーシティー/スプリングビル地区大会、神権指導者会、1995年5月13日)

神が子供を持つ皆さんを祝福されるように。わたしたちは皆さんを愛しています。皆さんの取り組んでいる事柄が容易でないのは承知しています。毎日がチャレンジと試しの連続であり、手の下しようがないと思うこともしばしばでしょう。そんなとき、信仰を奮い起こし、主に頼ることにより、新たな力と活力を得、元気を取り戻して、親として主から託された子供たちを教え、祝福できるように願っています。ハワード・W・ハンター大管長やゴードン・B・ヒンクレー大管長、またイエス・キリストに対する不変の証を述べるように召されたすべての人々の勧告から、皆さんに知っていただきたいと思います。それは主の教えに対する愛と献身、わたしたちのためになされた主の贖いの祝福を通してのみ、神の王国で家族を祝福し、救うための力が得られるということです。皆さんがそのような力を受けて教えられますように心から願っています。これらのことをイエス・キリストの聖なる御名により証します。アーメン。

慈しみの力

中央若い女性会長

ジャネット・ヘイルズ・ベッカム

神はわたしたち一人一人に力を与えてくださいました。それは実行する力、選択する力、奉仕する力、愛する力、多くの善をなす力です。



ある母親が言いました。「だれか、若人を21歳になるまで神殿に閉じ込めておいてくれないかしら。」ある父親は言いました。「家では自分はまったく無力なんです。わが家はめちゃくちゃですよ。」安心感や秩序、コントロール、平安を求める人々の叫びを和らげてくれる力はあるのでしょうか。

小学校3年の初めに家族で引っ越したとき、わたしは力の必要性を初めて感じました。ちょうど友達やよその家族のことについて分かり始めたころでした。新しくできた友達と一緒に、近所の人や物について品定めをし、だれそれのところには座って遊べる木陰があり、だれそれのところには屋根に登って遊べる鶏小屋があるなどという話を聞きました。だれの父親がいちばん強いかを話し合ったこともありましたが、そのとき分かったのは、近所の子

供たちはわたしより皆年上だということでした。さいわい、わたしにはたくさん友達のいる姉が二人いました。必要とあれば、高校の全生徒が助けてくれる、と吹聴したこともありました。自分を守るためには人の力が必要であると感じたからです。

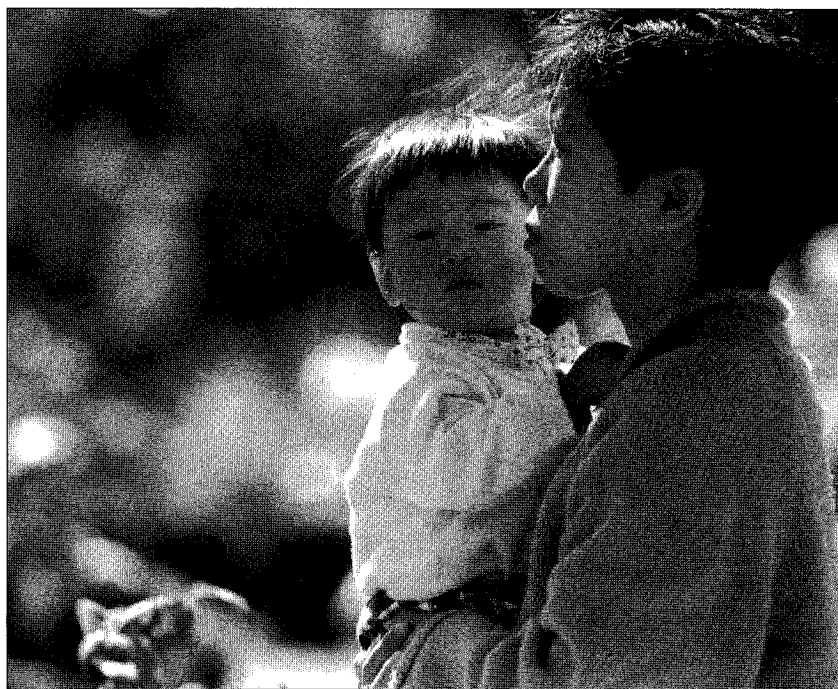
8歳のわたしの世界はだんだんと広がっていきました。それとともに、この文明の世に対処していくための手腕の必要性も増してきました。そして、体の大きさや物の数、援助してくれる人などに安心感を抱くようになりました。人の力あるいは影響力は、幼いときから利用されます。ほとんどの子供はまず体の大きさから入ります。「やめないと、お母さんと呼ぶから。」「お父さんが帰って来たら、懲らしめてもらうからね。」自分が小さいために大きさを求めるのです。おもちゃが武器となり、雪だるまがとりでとなります。当時は戦時中でしたが、わたしはまだ3年生でした。わたしがいちばん怖いと思ったのは、木製の銃で瓶のふたのパッキングに使う輪ゴムを撃っていた男の子でした。彼は女の子の足をねらうのです。友達が、輪ゴムをプレゼントした人には撃ってこないと教えてくれましたが、そうすることで彼の武器を増やすのは卑怯な(ひきょう)ことのように感じられました。また、このがき大将をどれほど信用できるのかも疑わしく思えました。確か、その銃は最後に先生に取り上げられたと思います。当時のわたしは、教師や両親などのように力を持った人、特に公平なルールをもって対処してくれる人に感謝したものでした。

その年、娘4人のわたしたち家族に男の子が生まれ、周りの人たちも喜んでくれました。自分自身一人息子であった父に、家名を継ぐ人ができたわけです。しかし、数か月して、トミーには重度の障害があることが分かりました。わたしは家の外で使っていた力とはまったく反対のものを心に感じるようになりました。愛、優しさ、思いやりといった新しい面がはぐくまれていったのです。わたしは、両親がそれまでの生活を変えてまで、トミーを5年半にわたり優しく看護するのを目にして育ちました。弟は座ることも話すこともできませんでしたが、ただそのほほえみだけで部屋中を温かくしてくれました。町中の人々が前よりも優しくなり、関心や思いやりを持つようになったように思えました。家の外のものに対する恐れが消えていきました。

母と弟が家にいるということで、家に安心感を覚えました。夜は、両親がいました。家の中がもっと温かくなったように思われました。それまでとは違った力がありました。それは、自分の心の中から大きくなっていくように見えました。友達などから得たその場のぎのぎの力とは異なり、もっと永続性がありました。それは慈しみの力、愛の力であり、静かで平安なものでした。

しばしば家庭の中で学べる慈しみに力はあります。慈しみがないとむなしい気持ちがします。ある家族は、奉仕活動に携わるために、恵まれた生活に別れを告げました。貴い目的のためにフィリピンへ1年間行くことになったのです。その家族の母親は「生活があまりにもつらくて驚いた」と言っています。今までとはまったく違う生活で、便利なものは何もありません。彼女はこう言っています。「アメリカにいたときと同じで、いつもいららしていましたよ。」そこで彼らは、新しい日課を作りました。5時半に体操をし、6時半になったら聖文を勉強し、それから朝食を取り、学校に行く、というものです。午後は毎日、孤児院で奉仕しました。

少しずつ、変化が出始まりました。忍耐と感謝、尊敬の念が増えていったの



です。互いに心を打ち明けて話し、相手の話に心から耳を傾けるようになりました。彼女は続けてこう言っています。「舌を切られ、目の飛び出た5か月になる赤ちゃんが孤児院に連れて来られたときのことは、決して忘れられません。」その赤ちゃんが物乞い同様の生みの母親に危害を加えられたことを知ったとき、それは、以前に家で話し合ったこの国の実情を肌で感じる経験となりました。また、人々への新たな次元の愛が培われ始めました。それは生命の尊厳に対する敬意です。この家族は、「善を行うように導く……御霊を信頼し」（教義と聖約11：12）、徐々に自分自身を変える力を経験したのでした。

天の力は正義を通してすべての人に与えられます。モルモンは「善を行うように誘い、またキリストを信じるように勧めるものはすべて、キリストの力と賜物によって送り出されているのである」（モロナイ7：16）と言っています。

ジョセフ・スミスが力についての啓示を受けたのは、政治的な力の攻撃に遭ってリバティーの監獄に幽閉されたときです。ジョセフは初め、敵に仕返しをすることを主に求めました。「あなたの怒りがわたしたちの敵に向かっ

て燃えますように」（教義と聖約121：5）と願ったのです。御父はそれに対してより大きな祝福をもってこたえられました。「息子よ、あなたの心に平安があるように。」（7節）そして、忠実に堪え忍ぶならば「神はあなたを高い所に上げるであろう。あなたはすべての敵に打ち勝つであろう」（8節）との約束を与えられたのです。

神がジョセフ・スミスに神権の力について教えられたのは、同じリバティーの監獄でのことでした。「いかなる力も影響力も、神権によって維持することはできない、あるいは維持すべきではない。ただ、説得により、寛容により、温厚と柔和により、また偽りのない愛によ〔る。〕」（教義と聖約121：41）神権の力が行使されるのは、互いに仕え合うとき、説き、教えるとき、バプテスマを施し、聖任するとき、癒し、結び固め、回復し、祝福し、預言や証をするとき、そして正しい行いをするときです。

一方、人に影響を及ぼすこの世的な力は、良い力である場合とそうでない場合があります。また、それは常に一時的なものです。人はすべてこの力を持っていますし、それは必要なことです。この力は正しく使わなければなりません。この力を正しく使わないと自



由を失うことがあります。教会が存続できなくなる可能性もあります。もちろん、規則も必要ですし、法律も必要ですが、「天の力は義の原則に従ってしか制御することも、運用することもできない」(教義と聖約121:36)という聖文を思い起こす必要があります。

ある忠実な教会員の女性が、慈しみの力が人生にもたらした影響についてこう証してくれました。

「わたしは8歳になるまで、自分の母親に身体上の障害があることなどまったく気づかずに育ちました。母は後に多発性硬化症と診断されました。ピーハイブの1年目の5月のある朝、目が覚めると、母は首から下が完全にまひしてしまっていました。目はすで

に見えなくなっていました。」

寝たきりででありながら、この立派な母親は家事をよく取り仕切りました。娘はさらに次のように記しています。

「ある日、オープンを掃除する当番がわたしに回ってきました。不満を募らせ、惨めな気持ちでこの役目に取りかかりました。やがて母親の寝室に行き、哀れっぽい声ですねてみました。すると母が涙を流しているのに気づきました。母は言いました。『わたしが起き上がって、あのオープンをゴシゴシできたらどれほどいいかしらね。』それ以来わたしは、働くことについて違った見方をするようになりました。今でもオープンを掃除しなければならなくなると、あのときのことを

思い出します。

母がそばにいてくれることで、わたしは特別な祝福にあずかりました。彼女はわたしの思春期の思いや疑問を忍耐強く聞いてくれました。母はわたしに、自分はこの世の中でいちばんおもしろく重要な人物であるかのように感じさせてくれました。いつも家庭にいて、気を配り、関心を示してくれました。いつもわたしのためにいてくれたのです。」

この姉妹のお母さんは、彼女が高校3年の春に亡くなりました。そのときのことは次のようにつづられています。

「若いころ、何よりもつらかったのは、学校からだれもない家に戻り、母の寝室に向かう長い廊下を歩くときでした。いつもそばにいて何でも打ち明けることのできた、親友にして相談役がいなくなってしまったのです。しかし母はわたしに、愛と思いやり、知恵、心の広さという目には見えない永遠の遺産を残してくれました。わたしは母の慈しみに永久に感謝することでしょう。」

この気丈な母親は障害にもめげず、人を愛し、啓発し、また皆の心を鼓舞し、正義を不朽のものとし、善い行いをする力を備えていたのです。

神がわたしたち一人一人に力を与えてくださっていることを自覚していたのだと思います。それは実行する力、選択する力、奉仕する力、愛する力、多くの善をなす力です。今こそ、自分を制するときではないでしょうか。預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう言っています。「信仰を持ち、……正しいことを行いましょう。」わたしたちに向けてこうも告げています。「わたしたちには、恐れるべきものは何もありません。神がわたしたちを導いておられます。……主は戒めに忠実に歩む人々に祝福を注いでくださいます。」(「主の御業」『聖徒の道』1995年7月号、p.77) 現代の預言者の助言に従うことにより、また救い主イエス・キリストの教えに従うことにより正義の力を求めて生きることができまうように。イエス・キリストの御名により申し上げます。アーメン。

救い主の愛に包まれて

七十人

W・クレイグ・ズウィック

障害と謙遜さによって御霊を招く、信頼できる友人は、わたしたちに教訓を与え、祝福をもたらします。



心 からへりくだって、初めてこの神聖な場所に立っています。ヒンクレイ大管長の言葉と思いは、救い主がわたしたち一人一人に願っておられることであると、確信しています。

ある晴れわたった夏の朝、わたしたち家族は息子のスコットが参加する特別なオリンピックを見に行きました。このオリンピックは、障害を持つ人々が、楽しく競い合うために毎年開かれます。50メートル走が始まり、位置に着こうとする選手たちは、特別な友人の助けを受けていました。この友人たちは、愛情を込めて「ハガー（抱き締めてくれる人の意）」と呼ばれています。スタートの数秒前に、ハガーは、ゴールラインの所に立ちます。だれが最初にゴールするかは問題ではありません。大切なのは、すべての選手がゴールし、そこでハガーから抱き締められ祝福されることです。勇気あるラ

ンナーと、思いやりのあるハガーが、真理の大切な原則を教えていました。

主は簡潔にこう言われました。「神の戒めを忠実かつ熱心に守りなさい。そうすれば、わたしはあなたをわたしの愛の腕の中に抱くであろう。」（教義と聖約6：20）救い主の腕に抱かれて、慰めを得たいとだれもが願っています。

救い主は、その使命を果たされる間、肉体や知能に障害のある人に、深い哀れみをもって接し、その心を見られました。主の弟子に与えられた神聖な責任は、障害のある人々に愛の手を差し伸べ、主の模範に従うことです。勇敢な主の弟子は、奉仕と愛の業を行う有意義な方法を探し求めます。

リチャード・G・スコット長老の次の勧告は、的を射ています。「わたしたちは、主が人に祝福をもたらされるための仲立ちとなれるのです。同時に、救い主のわたしたちへの思いやりと関心、そして主の愛の強さとぬくもりを聖霊を通して感じるでしょう。」（Ensign『エンサイン』1994年5月号、p.9）

わたしたちの仕事は、苦しみ悩んでいる人々のわずかな障害をも理解することであり、祈りの気持ちで努めるときに初めて達成されます。それは、軽い学習障害や失読症、軽度の難聴かもしれません。これらの人々は、わたしたちの助けなしには、救い主の優しさにあずかることも、人生の喜びを味わうこともできないかもしれません。

時には非常に無慈悲なこの競争社会にあって、だれもが安らぎを求めています。すべての人は神の霊の子供であり、素晴らしい価値を持っています。

知的障害を持つ少女メアリーは、教会員ではありませんが、何にでも参加したくて、うずうずしていました。それを感じ取った数人の若い女性たちが、ワードで計画した劇に参加するよう、招待しました。彼女の家族は発表会に招かれました。メアリーの父親は、娘が参加できるように配慮してくれた教会について、もっと知りたいと思いました。そして家族全員が福音を受け入れ、バプテスマを受けました。

思いやりのある友達や教師、監督、そして孤独感や疎外感を取り除いてくれたすべての人に、感謝しています。有意義な参加の場が、いつでもあります。そして、すべての人がその過程で、高められ、豊かになります。

ナバロ姉妹は、チリ南部の小さな村に住んでいます。関節炎を患っているために、歩くときは激しい痛みを感じながら、杖にすがらなければなりません。彼女はもう19年間、知的障害のある娘さんの手を引き、杖をついて、足を引きずりながら2マイルの道を教会に通っています。そんな彼女にとって、扶助協会の聖歌隊指揮者の召しは、かけがえのないものです。進んで人に手を差し伸べる彼女のもとに、人々は引き寄せられます。そして、障害者の娘さんを皆で助けています。

救い主は限りない徳をもってすべての人が喜びを得られるようにしておられます。「すべての人に、ほかの人と同様の者となる特権が与えられており、それを禁じられる者はだれ一人いない。」（2ニーファイ26：28）一人一人が独自の賜物を授かっており、各自が受けたものに相当する貢献をする必要があります。

ジェイミー・ウィーラーは、卓越した16歳の青少年です。彼はダウン症という障害を持って生まれました。しかし、ワードで召しを受け、監督を助け、大活躍しています。ボーイスカウトのプログラムにも活発に参加しています。実に彼は、人々に貢献し、心から愛され、感謝されています。

預言者ジョセフ・スミスはこう教えています。「神がこの世に送られたすべての人の心と霊は、成長する可能性

を持っている。」(Teachings of the Prophet Joseph Smith『預言者ジョセフ・スミスの教え』p.354)

障害と謙遜さによって御霊を招く、信頼できる友人は、わたしたちに教訓を与え、祝福をもたらします。そして、新しい次元の信仰、勇気、忍耐、愛、個人の価値を教えてください。

重度の障害を持つ4人の青年が、ブラジルのサンパウロ神殿で働いています。それぞれの障害は異なりますが、美しい神殿内の安らかさに貢献するとき、何千もの人々に祝福をもたらしているのです。聖文にこうあります。「人の価値が神の目に大いなるものであることを覚えておきなさい。」(教義と聖約18:10)

わたしの心は、知的障害を持って生まれた長男のスコットへの深い感謝の

念と愛で満たされています。スコットの勇気と愛は、多くの友達や家族に、御霊を通して、「救い主のわたしたちへの思いやりと関心、そして主の愛の強さとぬくもり」(『聖徒の道』1994年7月号、p.9)を感じさせてくれます。また、永遠の伴侶、ジャンに感謝します。彼女の信仰と子供たちへの優しい愛は、家庭を平安な場所にしてくれました。妻は、神の子供たち一人一人を元気づける方法をいつも見いだしてくれます。

神の子供一人一人への愛を表されたときの救い主の気持ちについて考えてください。群衆は「涙を流しながら、もうしばらくとどまっていたほしいと願うかのように、イエスをじっと見詰めてい」ました。

「そこで、イエスは彼らに言われた。

『見よ、わたしの心は、あなたがたに対する哀れみに満たされている。』

あなたがたの中に病気の者がいるか。彼らをここに連れて来なさい。……癒してあげよう。わたしはあなたがたのことを哀れに思(う)。」

あなたがたの信仰がわたしから癒しを受けるのに十分であることも、わたしは知っている。』(3 ニーファイ 17:5-8)

わたしたち一人一人が、その信仰により、救い主の愛の腕の中に抱かれていると感じられるように願っています。救い主が生きておられ、わたしたち一人一人を親しく知っておいでになることを、イエス・キリストの御名により証(あかし)します。アーメン。



イスラエルの救い主

七十人

ブルース・D・ポーター

主は、放蕩にふける者たちを捜し出し、天の家に連れ帰るために長い道のりを旅されます。疲れ果て、飢えて、虐げられたわたしたちを捜し出すと、食べさせ、飲ませてくださいます。



放蕩息子のたとえ話は、わたしたちすべてに当てはまります。わたしたちは、ある意味で、だれもが天父の放蕩息子であり娘であることに、この話から思い当たります。なぜなら使徒パウロが記しているように「……すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなって」いるからです（ローマ3：23）。

救い主のたとえ話に登場する道を踏み外したこの息子のよう、わたしたちも前世という故郷を離れ、「遠い所」にきています（ルカ15：13）。放蕩息子のように、わたしたちも神聖な受け継ぎを頂いていながら、罪のためにそれを浪費し、霊的に「ひどいききん」を経験しています（同14節）。放蕩息子のように、苦い経験を通じてわたしたちも、この世的な楽しみや娯楽が豚の食べるいなご豆ほどの値打ちも

ないことを知っています。わたしたちは、御父に救いを請い、天の家に戻りたいと切に願っています。

久しく罪にさまよい

主を呼び求めぬ

（「イスラエルの救い主」『賛美歌』4番第3節）

放蕩息子のたとえ話の中で、兄の方は父親に対していつも誠実でした。彼はこう言っています。「わたしは……一度でもあなたの言いつけにそむいたことはなかった」（ルカ15：29）。同様に、救いの計画の中であって、御父の長子は、罪も汚れもありませんでした。しかし、両者には大きな違いがあります。たとえ話の中で、兄は戻って来た放蕩の息子への歓迎ぶりに嫉妬しました。一方、救いの計画では、長子は放蕩者の帰りを可能にしておられるのです。

御父は主を、御自身の息子、娘を罪の縄目から救うために遣わされました。主は哀れみに満ちた心でこう言われました。「わたしは彼らを、その犯したすべての背信から救い出して、これを清める。」（エゼキエル37：23）主は、放蕩にふける者たちを捜し出し、天の家に連れ帰るために長い道のりを旅されます。疲れ果て、飢えて、虐げられたわたしたちを捜し出すと、食べさせ、飲ませてくださいます。主はわたしたちの中に住まれ、重荷とともに負ってくださいます。そして最後に、至高の愛の行為として、長子なる主はすべてを投げ出して、わたしたち一人一人を贖ってくださいます。わたしたちの

負債を完全に支払うため、御自身の富、すなわち持てるすべてを犠牲にしてくださいます。

主が備えられたこの贖いの機会を拒む人々がいます。傲慢な心に支配された彼らは、悔い改めよりも束縛を選びます。しかし、主の申し出を受け入れ、誤った道から立ち返ろうとする人々は、罪から癒され、主の賜物として自由を得ます。これらの人々を、主は喜びの歌をもって御父のみもとに導かれるのです。

天父の長子が罪の縄目からわたしたちを贖ってくださいましたことを証します。わたしたちは買い取られた民です。パウロの言葉を借りれば、「代価を払って買いとられた」のです（1コリント7：23）。ゲツセマネの園で御父の長子は、「万物の下に身を落と」されました（教義と聖約88：6）。主は「われわれの病を負い、われわれの悲しみをにな」われました（イザヤ53：4）。ゴルゴタの丘で主は、御自分がその罪を贖った人々の手で十字架にかけられて「死にいたるまで、自分の魂をそそぎだし」（同12節）、惜しみなく命をささげ、世に打ち勝たれました。

地上に降臨される前に、主はアブラハム、イサク、ヤコブの神、全地の創造主であり、偉大な「わたしは有る」と言われた御方でした。この至高の状態から主は降臨され、最も貧しい環境の下にお生まれになったのです。人としての悲しみを経験するためです。この世的な身分ではなく、主はみすばらしい馬屋に生まれ、大工として素朴な人生を送ることを選ばれました。パレスチナの人々から見向きもされないへんぴな村で成長されました。自分の名声を求めることもなく、「かわいた土から出る根のように育〔ち、〕われわれの見るべき姿」もありませんでした（イザヤ53：2）。

主は政治的権力を握り、名誉を得ることもできたでしょうが、それよりも人々を癒し、教えることを選ばれました。ローマの圧政から解放することで人々の歡心を買うこともできたでしょうが、それよりも彼らを罪からお救いになり、御自分の民から拒まれました。

ガリラヤでの栄光を捨てて、エルサレムでの屈辱に満ちた裁判を経験されました。そして文字どおり、主イエス・キリストはわたしたちの贖いのために「すべての人の苦を引き受け」（教義と聖約18：11）、最大の要求にこたえられました。

「しかし、世の人々は自分たちの罪悪のために、この御方を取るに足りない者と判断する。それで彼らはこの御方を鞭打つが、この御方はそれに耐えられる。また彼らはその御方を打つが、この御方はそれにも耐えられる。まことに、彼らはこの御方につばきを吐きかけるが、この御方はそれにも耐えられる。それは、この御方が人の子らに対して愛にあふれた優しさと寛容に富んでおられるからである。」（1ニー

ファイ19：9）

数年前、わたしはクリスマスを間近に控えてエルサレムを訪れました。街は冷たく荒涼としており、政治的な緊張の高まりが街の様子からうかがえました。しかしわたしの心には平安が満ちていました。この地こそ、主がこよなく愛された街であり、主が永遠の犠牲を払われた場所であると知っていたからです。全人類の救い主が住まわれた地であると知っていたからです。

土曜日の夜遅くに合衆国に帰国しました。安息日の夜が明け、時計のベルで目を覚ますと「おお 聖き夜」の歌詞が聞こえてきました。

「いやしき馬ぶねには
世の王の王寝ね給う」（レクリエー

ション歌集』pp.171-174)

そして、イスラエルの救い主の完全な生涯と輝かしい犠牲に思いをはせると、涙が込み上げてきました。主はまさに、へりくだった人々の友として、柔和な人の希望としてお生まれになったのです。

主イエス・キリストが、悔い改めを条件に、わたしたちの罪の代価を支払ってくださったことを証します。主は御父の長子であり、イスラエルの聖者です。復活の初穂です。主は生きておられ、わたしたちの贖い主、「われらの喜び、……救い主、わが王」であることを証します（『賛美歌』4番）。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

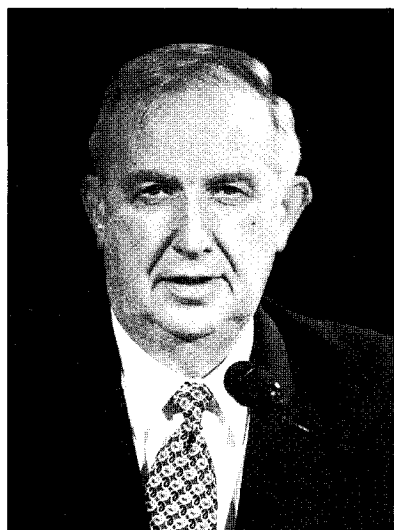


主を信頼する

十二使徒定員会会員

リチャード・G・スコット

主の時に従って解決策がもたらされ、平安が満ち、むなしい思いが払いのけられます。これは確かなことです。



心 からの祈りが希望どおりになくえられないと、非常に苦しい思いをするものです。特に、自分では良いことに思え、主からの答えが大きな喜びと幸福をもたらすように思えるときに答えがないと、つらい気持ちがします。病気の克服であれ、孤独感からの解放であれ、道を踏み外した子供の改心であれ、心身の障害との共存であれ、衰弱していく愛する者の生存を祈ることであれ、肯定の答えが頂けることはいかにも合理的であり、幸福に欠かせないものである、と思いがちです。従順に生活することにより得られる深く誠実な信仰が希望どおりの結果を出してくれないと、わたしたちはどう考えていいか分からなくなります。

逆境を好む人はだれもいません。試練や失意、心痛には、基本的に異なる二つの原因があります。まず、神の律法に背く人々には常に苦痛が伴います。

しかし、逆境のもう一つの原因は、わたしたちの人生において主御自身が目的を達成しようとしておられることから来るものです。試練を通してわたしたちをさらに鍛えようという目的です。したがって、わたしたちの試練や問題がどちらから来ているのかを見極めることは、非常に重要です。対処の方法がまったく異なるからです。

まず、罪によって心を痛めている人々の場合です。悲しみから完全に抜け出すには、打ち砕かれた心と悔いる霊により悔い改める以外に方法がないことを心に留めてください。すべてにわたって主に頼り、主の教えに添った生活をする必要があります。そうする以外、永続する癒しと平安を得ることは不可能です。へりくだって悔い改めるのを引き延ばすことは、心の安らぎを得るうえで遅れや妨げのもとになります。自分の過ちを認め、援助を求めてください。監督は、皆さんの友であり、心に平安と充実感を再び見いだすうえで鍵となる人です。悔い改めるための強さを得て救済を受ける道は、皆さんの前に開かれています。

では、もう一つの理由で逆境に直面している方々に提案をさせていただきます。天の御父が知恵をもって皆さんに下される試練は、皆さんがふさわしく義にかなった生活をし、主の戒めに従っているときでさえ必要なのです。

試練というものは、えてして順風満帆に思えるようなときに、重なってやって来るものです。そうした試練がもし不従順によるものでなければ、それは、皆さんにさらに成長する準備ができた、と主が感じておられるしるし

です（箴言 3：11-12 参照）。皆さんの成長と理解と思いやりに拍車をかけて皆さんを切磋琢磨し、そこから、永遠にわたる利益を勝ち得てもらうためです。皆さんが現在の状態から主が意図しておられる状態へと移るには、かなり背伸びをしなければならず、往々にしてそれが不快感や苦痛をもたらすのです。

逆境に遭うと、たくさんの疑問がわいてきます。有益な疑問もあればそうでないものもあります。なぜわたしにこんなことが起こらなければならないのかとか、なぜ今こんなことに苦しまなければならないのかとか、一体わたしが何をしたというのだ、といった疑問は、皆さんを迷路に陥れるだけです。神の御心に反抗するような質問をしてみたところで何の解決にもなりません。そうではなく、わたしには今何ができるだろうか、この経験から何を学べばよいのだろうか、わたしはどう変わればよいのだろうか、だれを助けたらよいのだろうか、これまでの試練の中で受けてきた皆さんの祝福をどのようにして思い起こせばよいだろうか、と自問してください。心の奥底にある個人の望みを二の次にして主の御心に従うのは、大変難しいことです。しかし、心からの確信を抱いて「あなたの御心をお教えください」、「あなたの御心が成りますように」と祈れば、皆さんは愛に満ちた天の御父から最大限の助けを受けられる強い立場に身を置くことになります。

この人生は心からの信頼を基とした経験の場です。つまり、イエス・キリストへの信頼、イエス・キリストの教えに対する信頼、聖なる御霊に導かれるわたしたちの能力への信頼です。聖なる御霊に導かれたわたしたちは、主の教えを通してこの世では幸福を得、永遠の世界では目的のある幸福な至高の存在として生活することができるのです。信頼とは、結果を知らされないまま、初めから進んで従うことです（箴言 3：5-7 参照）。そして、好ましい結果を望むのであれば、主への信頼をさらに強く永続するものにするように努め、個人の感情や経験から来る

自信は抑えるようにしなければなりません。

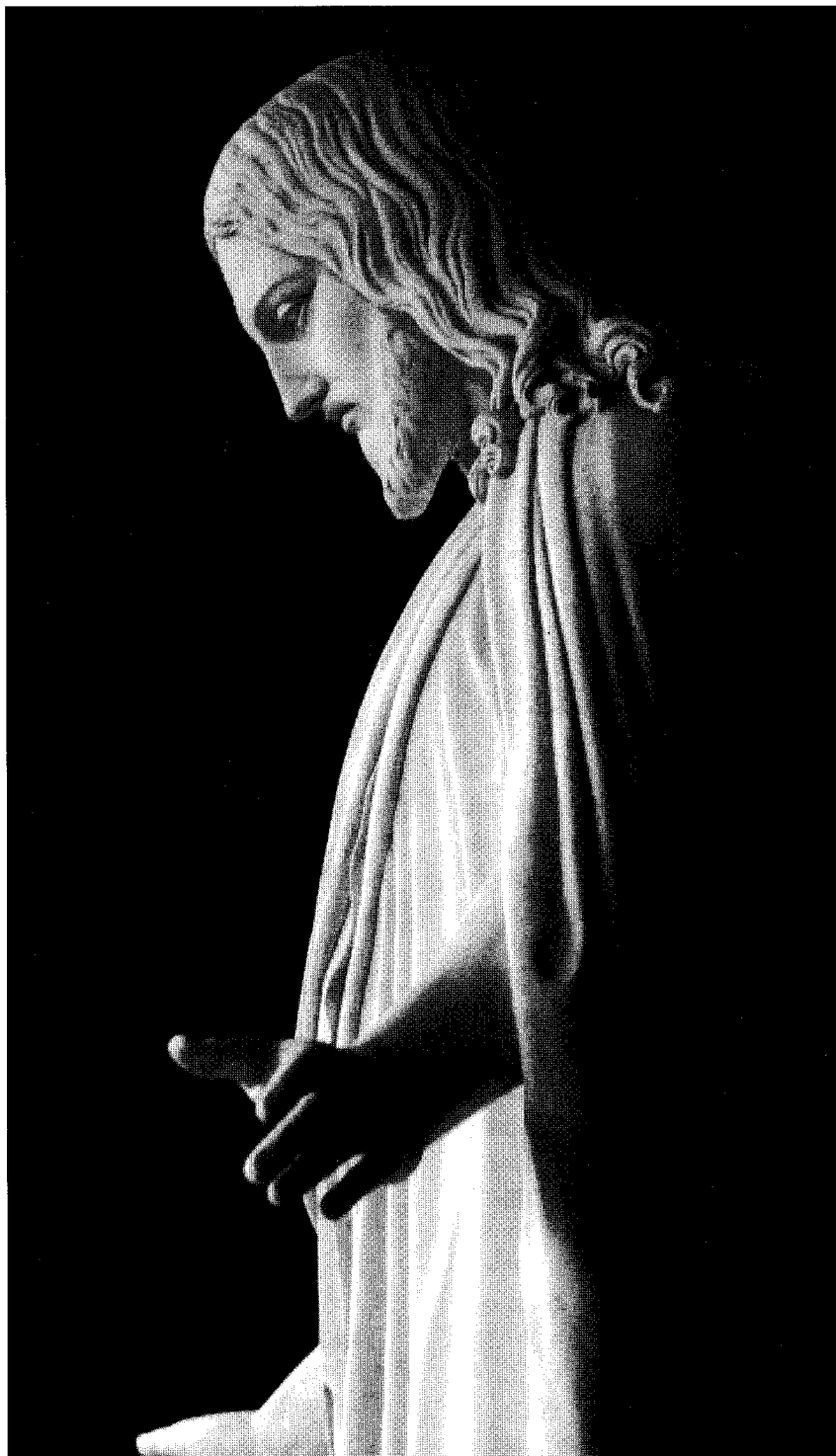
信仰を行使するとは、主が皆さんを理解したうえで事を行っておられるということに対して、また皆さんの永遠の利益のためにそれを行ってくださるということに対して、たとえいかなる方法でそれが行われるか理解できなくても、信頼を置くことなのです。永遠の事柄ならびにこの世でのその影響力に関するわたしたちの理解は赤ん坊のようです。しかし、わたしたちは時々、一から十まで知っているかのように行動することがあります。主の目的のために試練を経験しなければならないときがそうです。そのようなときは、主に信頼を置き、主への信仰を行使してください。主はきっと皆さんを助けてくださいます。主からの助けは一般に、段階を踏んで一つ一つやって来ます。その各段階を通る間、成長から来る苦痛や困難は続きます。すべてが一度の祈りで解決されれば、皆さんは成長できません。天の御父とその愛子^{あいし}は皆さんを完全な愛で愛しておられますから、その困難が皆さんや皆さんの愛する人々のためにどうしても必要なものでなければ、皆さんにこれ以上苦しい思いをさせるはずがありません。

主はすべてにわたってわたしたちの完全な模範です。ゲツセマネで御父に、「わが父よ、もしできることでしたらどうか、この杯^{さかずき}をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの思いのままにではなく、みこころのままになさって下さい」(マタイ26:39)と言われた主^{かんべき}以上に、完全な信仰と偉大な従順と完璧な理解を示した人がほかにいるのでしょうか。後に主は、再びこう嘆願しておられます。「わが父よ、この杯を飲むほかに道がないのでしたら、どうか、みこころが行われますように。」(マタイ26:42。同44節も参照)

わたし自身、心から感謝しているのは、最も大切なことを願う心からの切なる祈りのときでも、「みこころが行われますように」(マタイ26:42)という言葉で締めくくるように救い主^{みこころ}が教えておられる点です。御父の御心を

進んで受け入れようという皆さんの気持ちは、御父が知恵をもって決断されたことを変えるものではありません。しかし、その決断が皆さん個人に与える影響は確実に変わります。御父の御心に進んで従うなら、主の決断は、皆

さんの人生に今までにない大きな祝福をもたらすでしょう。わたしは次のことに気づきました。天の御父はわたしたちの成長を心から願っておられるので、ほとんど聞き取れないほどかすかながらも穏やかな促しの声を送ってく



バーテル・トルバルセン作「クリストス」のレプリカ。テンブルスクウェアの訪問者センター北館にある。

ださっており、わたしたちが不平を言わずに進んで従えば、その声を聞き取る力が増し加えられ、主の御心を非常にはっきりした形で知ることができるということです。この悟りはわたしたちが信仰を持つときに、すなわち自分の望みに反することであっても主の御心を行おうとするときにもたらされます。

天の御父は、皆さんの必要としているものや望み、願いを言葉に表すように招いておられます。しかしそれは、交渉のようにして求めるべきではありません。どのような指示が出て主の御心に喜んで従うという態度が必要です。主が言われた「求めなさい。そうすれば与えられるであろう」(3ニーファイ27:29)との招きの言葉は、皆さんの望むものはすべて与えられるという約束の言葉ではありません。完全な愛をもって皆さんを愛しておられ、皆さん自身が願うよりも皆さんの幸福を願っておられる天の御父の判断に基づき、そのふさわしさと必要に応じて授けられるのです。

皆さんの人生の中で主によって一つの大切な扉が閉じられるとき、主は、皆さんの信仰の度合いに応じて、閉じられた扉の替わりになる別の扉をたくさん開けて、愛と思いやりを示してください。また、行く手を明るく照らすために霊の光を与えてくださることでしょう。それはしばしば、最も過酷な試練を経験した後で、すべてを御存じである御父の愛と思いやりの現れとしてもたらされます。それは皆さんをさらに大きな幸福やさらに深い理解へと導くものであり、主の御心を受け入れてそれに従おうとする決意を強めてくれるものとなるでしょう。

救い主に対して信仰を持ち、救い主の教えに対して証を持てるのは、何と驚くべき祝福でしょうか。この輝ける導きの光に恵まれている人は、世界でもごく少数です。回復された完全な福音は、永遠の見地と目的と理解をもたらしてくれます。人生の中の、不公平で、不平等で、理屈に合わないと思えるような難しい問題にも対処できる力を与えてくれるのです。『モルモン

書』をはじめとする聖文の言葉に思いをはせることにより、この霊的な真理を学ぼうではありませんか。この教えを、理屈だけでなく心でも理解できるようにしましょう。

最も困難な問題をも克服する力と勇氣と能力を伴った永続する幸福は、イエス・キリストを中心にした生活から生まれます。主の教えに従順になれば、堅固な土台ができます。これには努力が必要です。それこそ一夜漬けでできるものではありませんが、主の時に従って解決策がもたらされ、平安が満ち、むなしい思いが払いのけられます。これは確かなことです。

最近、ある偉大な指導者が、高齢に伴う体の障害にもかかわらず、「わたしは今の状態に感謝しています」と語りました。幸福の窓を開くのに、受けているたくさんの祝福に思いをはせるのは一つの知恵です。

逆境が皆さんの生活のすべてを飲み込んでしまうことのないようにしてください。自分に何ができるか考えましょう。できるところから始めてください。そしてしばらくの間、できないことはすべて主にお任せし、その間ふさわしい方法で人のために尽くし、それから再度自分に何ができるかを検討してみるのです。

悩みを抱え、そのために気持ちが沈みがちなときでも、平安と喜びが得られるということを知ってください。そうです。苦痛や失意、不満、悩みは、人生というステージで繰り広げられる劇のほんの一場面にすぎないのです。そしてその場面の背後には、平安と、愛に満ちた天の御父が約束を守ってくださるとの確信があるのです。その約束を成就するには、御父の幸福の計画を理解し、すべての儀式を受け、聖約を守ることにより御父の御心を受け入れるという決意をしなければなりません。

主の計画は、主とともに生活できるように皆さんを高め、大いなる祝福を授けるといふものです。これにふさわしいかどうかは皆さんの成熟と進歩、愛、そして人に仕える力によって決まります。主は皆さんが神となれるよう

に備えてくださっています。皆さんにはまだその意味が十分には理解できないでしょう。しかし、主は御存じです。主を信頼し、主の御心を探し求めて、それに従ってください。そうすれば、皆さんのこの世の限りある心では理解も及ばない祝福を受けられるでしょう。皆さんの天の御父と御子は、何が幸福をもたらすかについて、皆さんよりもよく知っておりになります。御二方は皆さんに幸福の計画をお授けになりました。理解して従えば、幸福という祝福は皆さんのものとなるでしょう。この神聖な計画にかかわる儀式と聖約に従い、それらを受け入れて大切にすれば、この世において大きな満足を味わえます。それはまさにすべてに勝る幸福です。そして皆さんは、神の王国に入る資格を得た愛する人々とともに永遠にわたる栄光の生活を送る備えをするのです。

これまでお話しした原則が真実であることをわたしは知っています。それは、数々の個人的な厳しい試練を通して証明されてきました。まずは皆さんの人生の中に主の御手が現れていることを認め、不平を言わずに主の御心を受け入れることから始めましょう。たとえそう決めても、皆さんを成長させるための苦しみはすぐには取り去られないでしょう。しかしわたしは証します。これこそが強さと理解力を得るための最良の方法なのです。そのような姿勢は、理由の分からない人生の窮境に立たされたときにあなたを救ってくれます。手探りであったはずの人生が、実りある意義深いものになっていくのです(教義と聖約24:8参照)。

天の御父が皆さんを愛しておられることを証します。そして、救い主が皆さんを幸福にするために命をささげられたことを証します。わたしは主を知っています。主は皆さんが必要としていることをすべて御存じです。皆さんが不平を言わずに御二方の御心を受け入れれば、御二方は皆さんを祝福し支えてくださるでしょう。わたしはそのことをはっきりと知っています。イエス・キリストの御名により申し上げます。アーメン。

輝かしい赦しの朝

十二使徒定員会会長代理
ボイド・K・パッカー

滅びの道を選んだごく少数の人は別として、悪習、薬物の乱用、反抗、背き、違反などのために、完全な赦しという約束から除外される人は一人もいないのです。



18 47年4月、ブリガム・ヤングは開拓者たちの最初の一行を連れてウィンタークォーターズを出発しました。時を同じくして、そこから2,600キロ西方では、哀れなドナー隊の一行の生存者たちが、シエラネバダ山中をサクラメント渓谷に向かっていました。

彼らは、山頂直下で雪に見舞われて身動きができず、厳しい冬を過ごしたのです。何日、何週間、何か月にもわたって、飢えと苦しみの中で生き延びた人がいたということ自体、信じ難いことです。

生存者の中に15歳のジョン・ブリーンがいました。4月24日の夜、彼は、ジョンソン牧場にたどり着きました。何年か後に、彼は次のように書いています。

「ジョンソン牧場に着いたのは、日

が暮れてかなりの時間が経過してからのことであつた。そのため、牧場を見たのは空が白みかけてからのことだつた。天気は良く、地は緑の草に覆われ、鳥のさえずりが木々のこずえから聞こえていた。旅は終わった。自分が生きていることが信じられなかった。

あの朝目にした光景は、写真のように心に焼きついている。ほとんどの出来事は記憶のかなたに消えてしまったが、ジョンソン牧場のそばのあの野営地の光景はいつも心に残っている。」¹

わたしは初め、「ほとんどの出来事は記憶のかなたに消えてしまった」という彼の言葉をいぶかしく思いました。数か月にも及ぶ信じ難いほどの苦痛や悲しみが、どうして心から消えてしまったと言えるのでしょうか。過酷で陰うつな冬が、どうして明るい朝の光景に取って代わられたのでしょうか。

しばらく考えたわたしは、それは、決していぶかしく思うようなことではないと思うようになりました。わたしの知っている人にも、同じようなことがありました。一人の人が、罪悪感と霊的飢餓という長い冬を経験した後に、^{ゆる}赦しという朝を迎えるのを見たのです。

赦しの朝を迎えたとき、人は次のことを学びます。

「見よ、自分の罪を悔い改めた者は赦され、主なるわたしはもうそれを思い起こさない。」²

「わたしこそ、わたし自身のためにあなたのとがを消す者である。わたしは、あなたの罪を心にとめない。」³

「わたしは彼らの不義をゆるし、もはやその罪を思わない。」⁴

「わたしは、彼らの不義をあわれみ、もはや、彼らの罪を思い出すことはしない。」⁵

預言者アルマは、若かったころ、「永遠の苦痛に責めさいなまれ……きわめてひどい苦しみを受け」⁶しました。

「おお、……自分が追放されて霊と肉体がともになくなってしまえば」⁷と思ったほどでした。

しかし、彼の心に一つの思いが浮かびました。その思いをはぐくみ、それに基づいて行動したとき、赦しの朝がやって来ました。アルマは言っています。

「わたしは二度と罪を思い出して苦しむことがなくなつた。

おお、何という喜びであつたことか。何という驚くべき光をわたしは見たことか。まことに、わたしは前に感じた苦痛に勝るほどの喜びに満たされたのである。」⁸

大きな過ちを犯した人から手紙が来ます。彼らは「わたしは赦されるのでしょうか」と尋ねます。

その答えは、「はい」です。

福音は、悔い改めることにより、苦しみや罪悪感から解放されると教えています。完全な福音を知った後で滅びの道を選んだごく少数の人は別として、悪習、薬物の乱用、反抗、背き、違反などのために、完全な赦しという約束から除外される人は一人もいないのです。

「主は言われる。さあ、われわれは^{たがい}互に論じよう。たとひあなたがたの罪は、緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。^{くれない}紅のように赤くても、羊の毛のようになるのだ。」これは真実です。そしてイザヤはこう続けています。「もし、あなたがたが快く従うなら……。」⁹

さて、聖文で約束されている神の恵みが与えられるのは、「わたしたちが最善を尽くした後」¹⁰のみです。

あなたは、自分が犯した過ちは霊的に不当なことではないと言うかもしれませんが、背いたことに変わりはなく、反抗したり、怒ったり、冗談でごまかそうとしたりしてもだめです。それは無駄なことであり、またそうする必要ありません。

戻る道はあります。しかし、あなたの感情を傷つけないために、もしわたくしが厳しいことを言わなかったとしたら、それはあなたの助けにはならないでしょう。

ジョン・グリーンは、単なる望みだけでジョンソン牧場での輝かしい朝を迎えたわけではありません。彼は苦しみながら、一步一步がくようにして進んだのです。生き延びられることが分かったとき、苦しみが終わることが分かったとき、彼は、自分のつらい体験について不平を言うことはありませんでした。また山を下る間、彼にはずっと助けがありました。救助隊と一緒にだったのです。

犯した罪がささいな場合、謝罪だけで律法の要求を満たします。こうした過ちのほとんどは自分自身と主との間で解決できます。ただ、それは速やかに行われなければなりません。¹¹ 主に告白し、償いをする必要があります。

主は、わたしたちが心から悔い改めていることを実生活の中で示し、「それを告白し、そしてそれを捨てる」¹² ならば、「いつも罪の赦しを保てる」¹³ ようになると約束してくださっているのです。

アルマは、道を踏み外した息子に、「罰がなければ、人は悔い改めをすることができなかつた」¹⁴ と率直に言っています。

罰は、ほとんどの場合、自分が自分に課す苦しみとなって現れます。それは、特権を失うことにより進歩できなくなることもかもしれません¹⁵ (詳しくは、注参照)。人は、罪のために罰せられないとしても、罪そのものによって罰せられるのです。

背きの中には、懲戒を受けることによって初めて赦しの朝とともにやって来る救いを得られるものがあります。あなたの過ちが深刻なものであれば、監督のところに行かなければなりません。ジョン・グリーンを山から連れ出してくれた救助隊のように、監督は、教会としての赦しに必要な道を踏めるよう導いてくれます。それに加えて主から直接の赦しを得るためには、各自で努力しなければなりません。



赦しを得るためには償いが必要です。それは、奪ったものを元に戻し、傷つけた人の苦しみを和らげることです。

しかし、時には奪ったものを返せない場合があります。奪ったものが自分のところがないからです。例えば、だれかをとてつもなく傷つけてしまった場合、あるいはだれかを辱めてしまったような場合、それはあなたの力だけで元に戻すことはできません。

また、壊したものを修復できない場合もあります。ずっと昔のことであったり、傷つけた相手があなたの償いを拒否する場合もあります。また、傷があまりにも深すぎて、どれほど必死に願っても元に戻せないこともあります。

償いがないかぎり、あなたの悔い改めは受け入れられません。犯したことのやり直しが利かない場合、あなたは身動きができなくなります。そのとき、どれほど困った気持ちになり、あきらめてしまいたくなるかは、容易に理解できるのではないのでしょうか。アルマがそうでした。

アルマを救った思いは、人が元に戻せないことを元に戻すこと、人が癒すことのできない傷を癒すこと、自分が壊して修復できないものを修復すること、それこそ、キリストの贖罪の目的である、というものでした。後にアルマはこの思いに基づいて行動しました。

あなたの決意が固く、最後の1コド

ラントまで支払おうとするとき、¹⁶ 償いの律法は差し止められます。そして、償いの義務が主に移され、主があなたに代わって償われるのです。

繰り返します。滅びの道を選んだごく少数の人は別として、悪習、薬物の乱用、反抗、背き、違反などのために、完全な赦しという約束から除外される人は一人もいないのです。これは、キリストの贖罪がもたらす約束です。

どのようにしてすべてが償われるか、わたしたちには分かりません。現世で終わらないものもあるかもしれません。啓示や訪れなどから分かっていることは、主の僕たちは、幕の向こう側でも^{あがな}贖いの業を続けているということです。¹⁷

この知識は、罪の有無にかかわらずわたしたちにとって慰めとなります。わたしが考えているのは、道をそれた子供たちの過ちのために堪え難い苦しみを味わい、希望を失っている父親、母親のことです。

教会員の中には、どうして神権指導者たちが、自分をありのままに受け入れ、純粋なクリスチャンとしての愛をもって慰めてくれないのかと思う人もいることでしょう。

純粋なクリスチャンとしての愛、つまりキリストの愛は、すべての行いを容認するものではありません。親であればだれでも経験しているように、子供を心から愛していても、ふさわしく

ない行いを認めることはできません。

わたしたちは教会として、ふさわしくない行いを認めることはできませんし、主が末日聖徒に求めておられる事柄に相反することを実践したり教えたりする人を、正会員として受け入れることはできません。

同情から、ふさわしくない行いを認めれば、一時的には慰めを与えられるでしょうが、それは最終的にその人の幸せに貢献していることにはなりません。¹⁸

親切と、寛容、柔和、温厚、偽りのない愛についての啓示の中で、主は「聖霊に感じたときは、そのときに厳しく責めなさい。そしてその後、あなたの責めた人があなたを敵視しないために、その人にいっそうの愛を示しなさい」¹⁹という指示を与えておられます。

主は、わたしたちが負債を支払うための方法を備えてくださっています。わたしたちは、ある意味で贖いに参画することができます。自分が奪ったものではないものをほかの人に返そうとするとき、また、わたしたちのせいのできたのではない傷を癒そうとするとき、あるいは、自分が作ったのではない負債を支払おうとするとき、それは贖罪の一部を学んでいることになるのです。

救いが手の届くところにあるにもかかわらず、罪悪感にさいなまれて生きている人が何と大勢いることでしょうか。それはちょうど、我慢に我慢を重ねて欲しいものも持たずに生活し、自分の財産をすべて売り払ってアメリカ行きのいちばん安い船の切符を買ったある移民女性に似ています。

彼女は、自分で買い込んだわずかの食糧を細かく分けて食べました。しかし、その食糧も間もなく底をつきました。ほかの人が食事に出かけても、彼女は、デッキの下に閉じこもり、我慢しました。そして、とうとう最後の日が来て、彼女は、今後の旅路に向けて体力をつけるためにも、1回だけ食事をしようと思い立ちました。そこで食事の値段を尋ねると、食事はすべて旅行代金の中に含まれているという返事が返ってきました。

あの、大いなる赦しの朝は、一度にはやって来ないかもしれません。最初うまくいかなかったからといって、あきらめないでください。悔い改めの中で最も難しいことは、自分自身を赦すことである場合が多いからです。落胆はその試練の一部です。あきらめないでください。あの輝かしい朝は必ず訪れます。

そのとき、「人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安」²⁰が再びやって来ます。そのときには、神と同じようにあなたも、自分の罪を思い起こすことがなくなります。どのようにしてそれが分かるのでしょうか。それは、経験すれば分かります。²¹

大分前のことですが、わたしは、ハロルド・B・リー大管長とワシントンD.C.に行ったことがあります。ある朝早く、わたしは大管長から部屋に呼ばれました。大管長は、ロープ姿で腰を下ろし、ジョセフ・F・スミス大管長の『福音の教義』を読んでおられました。そして、「これを聞いてください」と言って、次の文章を読み始めました。

「イエスは殺されたときその業を終えておられなかったし、死から復活した後も終えられたわけではなかった。地上に降臨した目的は達成されたが、すべての業を成就されなかった。ではいつ成就されるのだろうか。それは滅びの子を除いて、この地球が終わりに至るまでに生まれた、あるいは生まれるであろう父祖アダムのすべての息子娘を贖い、救うまでは成就しないのである。これらがイエスの使命である。わたしたちは自分自身とわたしたちに頼るすべての人を救うまで〔わたしたちの〕業を終えないであろう。わたしたちはキリストと同じように、シオン山の救い手になるはずだからである。わたしたちはこの使命を与えられている。」²²

預言者ジョセフ・スミスは「神に近づくに老いすぎるということはない。赦されることのない罪を犯したのでないかぎり、赦しの恵みは手の届くところにある」²³と教えています。

だからこそわたしたちは、祈り、断食し、嘆願します。わたしたちは、道

をそれた人を愛しており、その人たちのことをあきらめることはありません。

わたしはキリストとキリストの贖罪の力について証します。わたしは次のことが真実であることを知っています。「その怒りはただつかのまで、その恵みはいのちのかぎり長いからである。夜はよもすがら泣き悲しんでも、朝と共に喜びが来る。」²⁴イエス・キリストの御名により申し上げます。アーメン。

注

1. ジャン・ブリー、*Pioneer Memoirs* 『開拓者回顧録』(未刊行)、PBS テレビ放送、*"The Americanization of Utah"* PBS Television broadcast 『ユタのアメリカ化』(PBSテレビ放送)への引用
2. 教義と聖約58:42
3. イザヤ43:25、下線付加
4. エレミヤ31:34
5. ヘブル8:12。ヘブル10:17も参照
6. アルマ36:12、下線付加
7. アルマ36:15、下線付加
8. アルマ36:19-20
9. イザヤ1:18-19
10. 2ニーファイ25:23
11. 教義と聖約109:21参照
12. 教義と聖約58:43。エゼキエル18:21-24、31-32も参照
13. モーサヤ4:12、下線付加
14. アルマ42:16
15. 赦しは、悔い改めた人で赦されることのない罪を犯さなかったすべての人に及ぶ(マタイ12:31参照)。しかしながら、ダビデの場合のように、赦しは必ずしも昇栄を約束するものではない(教義と聖約132:38-39参照。詩篇16:10;使徒2:25-27; *Teachings of the Prophet Joseph Smith* 『預言者ジョセフ・スミスの教え』p. 339も参照)。
16. マタイ5:25-26参照
17. 教義と聖約138章参照
18. 『預言者ジョセフ・スミスの教え』pp. 256-257参照
19. 教義と聖約121:43
20. ペリピ4:7
21. モーサヤ4:1-3参照
22. ジョセフ・F・スミス『福音の教義』p. 423
23. 『預言者ジョセフ・スミスの教え』p. 191、下線付加
24. 詩篇30:5。教義と聖約61:20も参照

教会役員の支持

第一副管長

トーマス・S・モンソン



兄 弟姉妹の皆さん、ヒンクレー大管長からの指示により、これから中央幹部ならびに教会の中央補助組織会長会の方々の名前を提議いたしますので、皆さんに賛意の表明をしていただきたいと思います。

預言者、聖見者、啓示者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてゴードン・ビトナー・ヒンクレーを支持して下さるよう、また、大管長会第一副管長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、大管長会第二副管長としてジェームズ・エスドラス・ファウストを支持して下さるよう提議いたします。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方はその意を表してください。

十二使徒定員会会長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、十二使徒定員会会長代理としてボイド・K・パッカーを、また十二使徒定員会会員としてボイド・K・パッカー、L・トム・ベリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセ

ル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリングを支持して下さるよう提議いたします。賛成の方はその意を表してください。反対の方。

大管長会の副管長、ならびに十二使徒を預言者、聖見者、啓示者として支持して下さるよう提議いたします。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方があれば同じようにその意を表してください。

レックス・D・ビネガー長老とチャールズ・ディディエ長老は地域会長会で働くよう割り当てを受けたため、七十人会長会会員の責任から感謝を込めて公式に解任するよう提議いたします。感謝して下さる方はその意を表してください。

わたしたちは七十人会長会として、カーロス・E・エイシー、L・アルディン・ポーター、ジョー・J・クリステンセン、モンティ・J・ブラフ、W・ユージン・ハンセン、ジャック・H・ゴーズリンド、ハロルド・G・ヒラムの各長老を支持して下さるよう提議いたします。賛成の方はその意を表してください。反対の方。

テッド・E・ブルーアートン長老、ハンス・B・リンガー長老を、感謝の挙手をもって七十人第一定員会の名誉会員として任命したいと思います。賛成の方はその意を表してください。

同じく心からの感謝を込めて、中央幹部として働いて下さったエドワルド・アヤラ、リグランド・R・カーティス、ヘルベシオ・マーティンズ、J・バラード・ウォシュバーン、デュレル・A・ウルジの各長老を七十人第

二定員会会員から解任するよう提議いたします。この感謝を表明して下さる方は挙手をもってその意を表してください。

これまで日曜学校中央会長会として働いて下さったチャールズ・ディディエ長老、J・バラード・ウォシュバーン長老、F・バートン・ハワード長老を感謝の挙手をもって解任したいと思います。同意して下さる方はその意を表してください。

わたしたちは日曜学校中央会長会として、会長にハロルド・G・ヒラム長老を、第一副会長にF・バートン・ハワード長老を、第二副会長にグレン・L・ベイス長老を支持するよう提議いたします。賛成の方はその意を表してください。反対の方があればその意を表してください。

わたしたちは、そのほかの中央幹部、中央補助組織会長会を現状のまま支持して下さるよう提議いたします。この提議に賛成して下さる方はその意を表してください。反対の方。

ヒンクレー大管長、提議は全員一致で賛意の表明が得られたようです。兄弟姉妹の皆さんが変わらぬ愛と祈りを込めて支持して下さることに感謝いたします。



「御父の御心にのみ込まれる」

十二使徒定員会会員
ニール・A・マックスウェル

自分の思いを神に従わせることは、個人が神の祭壇にささげられる唯一の所有物です。



教 会員が奉獻について語るとき、敬虔な態度ですべきです。だれもが「神の栄光を受けられな」い状態にあり、一部の人はさらに遠くかけ離れた状態にあるからです（ローマ3：23）。たとえ誠実な人でもそこに到達できず、至らなさを感じながら努力を続けています。慰めになるのは神の恵みが「〔主〕を愛して〔主〕のすべての戒めを守る者」だけでなく、「そうしようと努める者」にも注がれることです（教義と聖約46：9参照）。

第2のグループは、「高潔」ですが「雄々しくない」会員です。自分の至らなさや完全な奉獻の重要性に気づいていません（教義と聖約76：75, 79）。この「高潔な人々」は悲しくも、邪悪でもなければ、罪深くも不幸でもあり

ません。何かをしたのでなく、していないところが誤っているのです。例えば、雄々しければ、ただ楽しく思い出される存在でなく、人々に深い影響を与える人になれたのです。

第3のグループは、「神の御心に添わない」この世のものにどっぷりつかっている人で、ペテロの言葉が思い出されます。この世のものに征服されれば、わたしたちはその「奴隷」になるのです（2ペテロ2：19）。

もし「肉のことを思」（ローマ8：5）うなら、「キリストの思い」（1コリント2：16）は持てません。なぜなら人の思いは、イエスの思いとはかけ離れているからです。願いや「心の…志」（モーサヤ5：13）も同じです。皮肉なことに、ほんとうの主人を知らなければ、ほかの主人に仕えるだけになるでしょう。そしてたとえ、自分で気づかなくても、その主人に支配され、主から引き離されていきます。実に、わたしたちは皆、たとえ何ものにも関心がなくても、何らかの業に携わっているのです。

わたしたちは、主に導かれるのを喜ばなければ、それだけ自分の欲求に支配され、この世のつまらない事柄に心を奪われます。解決策はベニヤミン王の驚嘆すべき嘆きの言葉の中にあります。「仕えたこともなく、見も知らぬ他人で、心の思いと志を異にしている主人を、どのようにして人は知ることができようか。」（モーサヤ5：13）多くの現代人は悲しいことに、「あなた

がたはキリストをどう思うか」（マタイ22：42）と聞かれてこう答えます。

「あまり考えたことはないね。」

教会の中の「高潔な人々」が奉獻の妨げとなるものを持っている例を、3つ挙げましょう（使徒5：1－4参照）。

ある姉妹は、立派で人目につく奉仕活動を行って、地域社会で賞賛を受けています。しかし、主の弟子の大切な二つの要素であるイエスの聖なる神殿と聖文については、どちらかと言うと「見も知らぬ他人」になっています。しかし、彼女はキリストの面影を受けることができるはず（アルマ5：14参照）。

ある「高潔な」父親は、家族への責任を忠実に果たしてはいますが、家族一人一人に対する思いやりや、優しさに欠けています。彼はわたしたちが従うべきイエスの思いやりや、優しさについて「見も知らぬ他人」でしたが、もう少し努力すれば大きな違いが生じるでしょう。

ある帰還宣教師は、名誉ある伝道中に磨いた技術を用いて、仕事で成功するため熱心に働いていました。そして、ついに世の中の期待にこたえて多忙となりました。こうして自分のことよりも、神の王国の建設を第一にすることを忘れたのです。今針路を少し修正すれば、後の到達地を大きく変えることができるでしょう。

今話したように、問題はすべきことをしていない点にあります。してはならない月の栄えの罪は捨てて、今後は二度と犯さず、怠惰の罪にもっと注意を向けなければなりません。こうした怠惰は、日の栄えの王国に入る完全な資格に欠けていることを表しています。自らもつと奉獻することにより、これらの怠惰の罪はなくなります。怠惰の罪の結果は悪を行う罪と同じように現実のものです。多くの人はすべきでない重大な罪を避ける信仰を持っていますが、夢中になっていることを犠牲にして、怠惰に注意を向けるだけの信仰がありません。

ほとんどの怠惰の原因は、利己心を捨てないことにあります。わたしたち

は自分の小さな問題に忙しすぎて、励ましや親切、称賛など助ける方法を知りながら、相手の重大な問題に気づかずにいます。最も助けや励ましを必要とする人は、落胆のあまりそれを求めることすらできないのです。

実に、思いを形成する望みが、すべてを左右します。望みは行為に先立ち、心の中心にあって、わたしたちを神に近づけるか、あるいは遠ざけるかします（教義と聖約4：3参照）。望みは神によって教育されますが（ジョセフ・F・スミス『福音の教義』p.288参照）、ほかのものに操られることもあります。しかし、望み、すなわち「心の思いと志」（モーサヤ5：13）を決めるのは、わたしたちなのです。

究極の原則は「〔わたしたちの〕望みに応じて、……そのとおりになる」です（教義と聖約11：17）。なぜなら主は「すべての人をその行いに応じて、またその心の望みに応じて」裁かれるからです（教義と聖約137：9。アルマ41：5；教義と聖約6：20、27も参照）。個人の意志は、あくまでその人のものです。神はそれを支配したり、侵したりはなさいません。ですからわたしたちは、自分が欲しいもののもらす結果を求める方がよいのです。

もう一つの永遠の真理は、自分の意志を神の御心と一致させたときにのみ、完全な幸福が得られることです。ほかの方法では得られません。たとえわたしたちが最初は「望みを持つだけで……言葉の一部分でも受け入れることができるほど」であっても、主は助けを与えてくださいます（アルマ32：27参照）。主に必要なのは、わずかな機会です。しかしそれを望み、作るのは、わたしたちです。

非常に多くの人が完全な奉獻をためらうのは、神の御心にのみ込まれるのが、自己を失うことだと思いをしているからです（モーサヤ15：7参照）。わたしたちがほんとうに心配しているのは、もちろん自分を捨てることではなく、地位や時間、称賛、財産など、利己的なものをあきらめることです。救い主が自分を捨てなさいと教えられたのも、もっともです（ルカ



9：24参照）。主が求めておられるのは、新しい自分を得るために、古い自分を捨てることです。自己を失うのではなく、真の自分を見いだすことが、問題なのです。皮肉なことに、実は大勢の人が、はるかに価値のない趣味や仕事のために、すでに自分を失っているのです。

第一の位でも第二の位でも、奉獻されたイエスは、御自分のしていることを御存じでした。常に御父に倣われました。「子は父のなさることを見てする以外に、自分からは何事もすることができない。父のなさることであればすべて、子もそのとおりにするのである。」（ヨハネ5：19）「わたしは……初めから、すべてのことについて父の御心に従ってきた。」（3ニーファイ11：11）

自分の意志が次第に神の御心に従うようになると、人生の試練に遭うときに、とても必要な靈感や啓示を受けられます。イサクの件で試されたとき、アブラハムは「不信仰のゆえに疑うようなことは」しませんでした（ローマ4：20）。ジョン・テラーはこう述べました。「啓示の霊だけが、アブラハムにこの自信を与え、……この特異な状況の中で彼を支えたのである。」（*Journal of Discourses*『説教集』14：361）わたしたちも、簡単に説明のつかない複雑な試練の中で主に頼れるでしょうか。イエスがわたしたちの悩み

や苦しみを知っておられることを、理解しているでしょうか、ほんとうに知っているでしょうか。贖罪を有効にする完全な奉獻は、主の完全な憐れみを保証します。主はわたしたちが経験する前にその苦痛を受けたので、わたしたちを救う方法を知っていらっしゃいます（アルマ7：11-12；2ニーファイ9：21参照）。最も罪のない御方が最も苦しまれたのですから、わたしたちの苦難は主の苦痛に及びません。しかし、主と同じ従順を示して「みこころのままに……」（マタイ26：39）とすることができます。

従順に向かって成長すると、もう一つの祝福がもたらされます。喜びを感じる能力が高められるのです。プリガム・ヤング大管長はこう語りました。「もしすばらしい喜びを得たければ、末日聖徒になって、イエス・キリストの教義に従って生活しなさい。」（『説教集』18：247）

兄弟姉妹の皆さん、このように奉獻は、何かを断念することでも、盲従することでもありません。むしろ、ゆっくりとした成長であり、「さらに聖くなお努めん」（『賛美歌』74番）と歌いながら正直さを増すことです。奉獻は、むとんちゃくに行くことではなく、主の業の重荷をさらに引き受けることなのです。

奉獻とは「キリストを確固として信じ」、「完全な希望の輝きを持ち、神と

すべての人を愛し……、キリストの言葉をよく味わいながら」力強く進むことです（2ニーファイ31：20）。イエスは威厳をもって力強く進まれました。贖罪を60パーセントだけ行って、しりごみされたわけではありません。主は全人類のために「備えを終え」て、すべての人に復活をもたらされました。40パーセントの人を取り残されたのではありません（教義と聖約19：18-19参照）。

次のように自問するとよいでしょう。「わたしをしりごみさせるものは何か？」柔和な心で自己反省すれば、深い洞察が得られます。例えば、わたしたちは主の弟子となる道程で、喜んで何を捨てたのでしょうか。弟子となる道は、古い罪を捨てて散らかすことが許され、むしろ奨励される唯一の道です。最初のうちは、行ってはいけない重大な罪を捨てていきます。後になると、自分の時間や才能の誤った使い方や不十分な使い方を捨てていくのです。

奉献に至る道沿いには、時には厳しい求めてもいないチャレンジがあって、よりいっそう奉献するために必要な犠牲を、払うように求めています（ヒラマン12：3参照）。もしのんびりと成長してきたなら、厳しい時期が必要かもしれません。満足しすぎていれば、神が不満の気持ちを起こさせられるかもしれません。価値ある洞察を得るために、懲らしめが必要かもしれません。新しい召し与えられて、これまで伸ばした技術で楽にこなせる責任を離れるかもしれません。慣れ切ったぜいたく品をはがされ、物質主義という悪性の腫瘍を取り去る必要があるかもしれません。高慢な心をなくすために、屈辱に焼かれるかもしれません。何らかの方法で、わたしたちの欠けている部分が教えられるでしょう。

ジョン・テラーは、主はわたしたちの心の弦を締め上げる方を選ばれると語りました（『説教集』14：360）。もし心の弦がこの世の事柄に同調していたら、それを締め上げるか、壊すか、大きな変化を起こさなければなりません（アルマ5：12参照）。

奉献は、原則と過程から成ります。

一時のものではありません。自由に一滴ずつ注いで、ついには奉獻という器をあふれさせるのです。

しかしずっと以前にイエスが教えられたように、主が求められることをすると、「〔自ら〕決意」しなければなりません（ジョセフ・スミス訳ルカ14：28）。ヤング大管長はさらにこう勧めています。「主の御心に従い、すべてのことに主の御手を認めなさい。そうすれば、まさに正しい者となる。それまでは、完全に正しいとは言えない。それがわたしたちの目指すところである。」（『説教集』5：352）

神の御手を認めるとは、預言者ジョセフの言葉によれば、神のすべての目的ならびに自らの人生における主の目的を成就するために、前もってなされた「十分な備え」を信頼することです（*Teachings of the Prophet Joseph Smith*『預言者ジョセフ・スミスの教え』p.220）。主は明確に指示されることもあれば、単に許しを与えられるだけのように思えることもあります。したがってわたしたちは、神の御手の



テンプルスクウェアの大会訪問者たちを穏やかに見守るハイラム・スミス(左)とジョセフ・スミスの像。

役割をいつも理解できるわけではありませんが、従うべき神の御心だと思います。わたしたちが悩みや苦しみや遭うとき、いつも直ちに納得のいく助けが来るわけではありませんが、それを補う助けが与えられるでしょう。こうした認識の過程が従順への道を開き、「静まって、わたしこそ神であることを知れ」という聖句を体験するのです（詩篇46：10）。

自分の意志が神の御心に「のみ込まれ」れば、苦難は必ず取り除かれるというよりも、むしろ「キリストの喜びにのまれて」いきます（アルマ31：38）。

70年前、モールトン卿は「強制されないことへの従順」と言いました。これは「従うことを強要されない事柄に従うこと」を表しています（“Law And Manners” *Atlantic Monthly*「法律と慣習」『月刊アトランティック』1924年7月号、p.1）。神の祝福は、奉献に伴うものも含め、それが基づく律法に自ら従うことによってもたらされます（教義と聖約130：20-21参照）。わたしたちの望みの深さが、「強制されないことへの従順」の度合いを表します。神はわたしたちに、さらに奉献し、すべてのものを与えるよう求めていらっしゃる。そうすれば、神のみもとへ帰るとき、「〔神〕が持つておられるすべて」を惜しみなく与えられるでしょう（教義と聖約84：38参照）。

要するに、自分の思いを神に従わせることは、個人が神の祭壇にささげられる唯一の所有物です。わたしたちがささげるほかのすべてのものは、兄弟姉妹の皆さん、実際は神からすでに与えられたものか、借りたものにすぎません！ しかし皆さんやわたしが自分の意志を最終的に神の御心に従わせるとき、真の意味でささげ物をしているのです。それがわたしたちのささげられる唯一のものだからです。

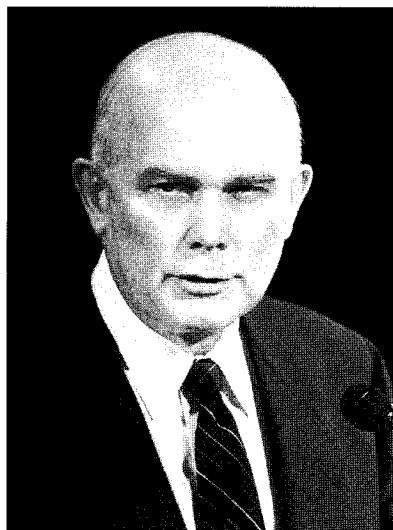
奉献は無条件で身をゆだねることであり、それは完全な勝利です。

この勝利を心から望めるよう、イエス・キリストの御名によりお祈りします。アーメン。

力強い理念

十二使徒定員会会員
ダリン・H・オークス

末日聖徒が絶えず心を配らなければならないのは、偉大で力強い永遠の真理、天父のみもとに帰る道を人々が見いだすとき役立つ真理を教え、強調することです。



昨年の夏、わたしはある選ばれた婦人の葬儀に出席しました。弔辞に立った話者は、この女性の優れた3つの特質について話しました。誠実さ、従順、信仰です。これらの特質に結びつけて彼女の生涯が語られるのを聞きながら、わたしは弔辞でそのような力強い特質について語るのには実に適切であると感じました。人生はつまらない事柄ではありません。ですから、人の死に際してはいつでもよい事柄を回想して語るべきではありません。むしろ葬儀は、力強い理念について語るべきときです。それは、人生の重要性を適切に伝え得るような理念であり、残された人々に力強い励ましを与え得る理念であるべきです。

この、心を鼓舞される葬儀の精神に浸っているうち、人生のほかの面でもこの原則が当てはまることに気づきま

した。両親は子供たちに力強い理念を教えるべきです。ホームティーチャーや、訪問教師、様々なクラスの教師についてもそれは言えます。救い主は、「人はその語る無益な言葉」で裁かれると警告されました（マタイ12：36）。現代の啓示もわたしたちに「軽々しい話」をやめ、「軽薄」をなくし（教義と聖約88：121）、「無益な思い」と「過度の笑い」とを遠ざけるよう（教義と聖約88：69）警告しています。どうでもいいことについて話して回る人は大勢います。しかし、末日聖徒が絶えず心を配らなければならないのは、偉大で力強い永遠の真理、天父のみもとに帰る道を人々が見いだすとき役立つ真理を教え、強調することです。

約30年前、何人かの学者が共著で一般教養の本を書きました。すべての教養人に求められる知識を集大成したものです。『知識の宝庫（The Knowledge Most Worth Having）』と題されたこの本は、すべての知識が同じ価値を持つわけではないという事実を思い起こさせる良い例となりました。ある知識はほかの知識よりも重要です。この原則は、いわゆる霊的知識にも当てはまります。

この部会の最初にも聖歌隊が感動的な歌声を聞かせてくれた、皆さんに愛されている賛美歌「神の子です」（189番）の中で説かれている理念について、考えてみましょう。ここには「わたしは何者か」という人生の大切な質問への答えが記されています。まさに人は神の子であり、霊の面で、天の両親とつながっています。天の父母がおられ

るという事実は、永遠の可能性を暗示しています。この力強い理念は、落胆に対する特効薬となります。この理念はわたしたち一人一人を強め、正しい選択をさせ、最善を尽くそうという思いを与えてくれます。若人の心に、自分は神の子供であるという力強い理念を確立してください。そうすれば人生の諸問題に立ち向かう自尊心と動機づけを彼らに与えることになります。

神との関係を理解すると、人と人との関係についても理解できます。この地上の男女は皆、神の子供であり、霊の兄弟姉妹です。何と力強い理念でしょう。神の独り子がわたしたちに互いに愛し合うよう命じられたのもうなづけます。もし全人類がそのとおりできたなら、どんなにすばらしいでしょう。もし兄弟姉妹としての愛と無私の奉仕の精神がすべての国境、宗教、人種の違いを超えることができたなら、世界はどんなに変わることでしょう。そのような愛が意見や行動の違いを消し去ることはないかもしれませんが、愛はわたしたち一人一人の心を、自分と相入れない行動をする相手にではなく、行動そのものに向けるよう促すでしょう。

天父が御自分の子供たちすべてを愛してくださっているという永遠の真理は、計り知れないほど力強い理念です。地上の親の愛と犠牲を通して、子供たちが天父の愛を思い浮かべられれば、なおさら力強いものになります。愛はこの世で最も強い力です。アーサー・ヘンリー・キング（米国の作家）はこう言いました。「愛は、単なる興奮、激しい感情ではない。愛は行動に駆り立てる力である。愛は生涯を通じてわたしたちを支え、喜びの心で務めを果たさせるものである。」（*The Abundance of Heart* 『豊かな心』 p.84）

だれもが愛の力について模範を目にしているはずですが、わたしは父の思い出をつづりました。父はわたしが8歳になる前に亡くなりました。当時わたしが書いた次の文を読み返すと、少年の生活を包んでいた愛の力を感じます。

「わたしは父とのきずなについて非

常に強い印象を持っている。しかし、父との思い出の中のどんな出来事や言葉をもってしても、それを書き表すことはできない。それは感情なのだ。とうに忘れてしまった父の言葉や行いが基となって、この感情は、父への全幅の信頼とともに存続している。父はわたしを愛し、誇りに思ってくれた。……そのような思い出だからこそ、少年のころも、大人になった今でも心に留めておけるのだ。」(Memories of My Father「父の記憶」1967年10月15日)

互いに教え合うべき、力強い理念がもう一つあります。現世には目的があり、肉体の死は終わりではなく、不死不滅という次の段階への移行にすぎないということです。ブリガム・ヤング大管長はこう説いています。「現世にわたしたちが存在しているのは、父なる神のもとに戻って昇栄するという唯一の目的のためだけである。」(Discourses of Brigham Young『ブリガム・ヤング説教集』ジョン・A・ウィットソー編、p.37) 永遠の進歩という概念は、わたしたちの神学の中で最も力強い理念の一つです。それはわたしたちに、つまずきのときには希望を、成功しているときにはさらに向上しようという気持ちを与えてくれます。確かにこの理念は、偉大であり、主が「心にとどめ」るように命じられた「永遠の厳粛さ」を感じさせます(教義と聖約43:34)。

落胆から立ち直らせてくれるもう一つの力強い理念は、「人の……永遠の命」(モーセ1:39)をもたらす、末日聖徒イエス・キリスト教会の取り組んでいる業です。これは永遠にかかわる業です。必ずしも現世のうちにすべての問題が克服され、すべての大切な関係が修復されるわけではありません。しかし、救いの業は、死のとばりを超えて続くのですから、現世という限られた期間にすべてを成し遂げられなくともあまり懸念すべきではありません。

今すぐに生活に取り入れることのできる力強い理念は、わたしたちは天父に祈ることができ、天父は祈りを聞いてわたしたちに最も良い方法で助けてくださるといふものです。たいていの

人は、愛する人との別れから生じる恐ろしく空虚な気持ちを経験したことがあると思います。しかし、もしわたしたちが、「天父に祈れば、聞き入れてくださる」ことを心に留めていれば、そのような空虚感にいつも耐えることができます。わたしたちはいつでも、力強い友である御方と交流できるので。その御方はわたしを愛し、ふさわしいときに主の御心^{みこころ}にかなう方法で助けてくださいます。

祈りをささげればこたえられることを示す事例は無数にあります。幼い子供に関係するすばらしい事例も幾つかあります。スペンサー・W・キンボール大管長に関する伝記を見てみましょう。

「スペンサーは、両親が自分たちの問題を主に携え行くのを繰り返す目にしていた。ある日、当時5歳のスペンサーが外で家の手伝いをしていて、1歳になる幼いファニーが家からよちよち歩きだして、姿が見えなくなってしまった。だれもファニーを見つけれなかった。すると16歳のクレアが言った。『ママ、もし祈れば、主はきっとファニーのいる所に導いてくださるわ。』そこで母親と子供たちは祈りをささげた。祈り終わるとすぐゴードンが鶏小屋の方に歩いて行った。すると、鶏小屋の裏の大きな箱の中で、ファニーがぐっすり眠っていたのである。オリブはその日の日記にこうしたためた。『わたしたちはみんなで天父に何度も何度も感謝をささげた。』(エドワード・L・キンボール、アンドリュー・E・キンボール・ジュニア共著、Spencer W. Kimball『スペンサー・W・キンボール』p.31)

イエス・キリストに従うすべての人は、クリスチャンの信仰に見られる最も力強い理念が、イエス・キリストの復活と贖い^{あがな}であることを知っています。主のおかげで、わたしたちは罪を赦^{ゆる}され、再び生きることができます。このような力強い理念は、これまでこの説教壇をはじめ様々な場所で、数え切れないほど語られてきました。これらの理念はよく知られてはいますが、たいていの人々の生活にあまり応用さ

れずにいます。

わたしたちが規範としているものは、人気のあるスポーツ選手や芸能人でも、貯蓄や名声でも、高価なおもちゃでもありません。また、一時的な事柄に専念して永遠の事柄を忘れさせるような気休めでもありません。わたしたちが模範として最優先しているのは、イエス・キリストです。わたしたちは主について証し、主の教えと模範を生活の中でいかに実践していけるか、互いに教え合わなければなりません。

この件に関し、ブリガム・ヤングはわたしたちに幾つかの実用的なアドバイスをしています。こう言っています。「神は創造し、組織されるが、悪魔が意図しているのは、ただ、破壊だけだ。それが神と悪魔の違いである。」(『ブリガム・ヤング説教集』p.69) 両者がこのように対照的であるため、わたしたちは「すべての事物には反対のもの」(2ニーファイ2:11)があることを示す、重要な事例を現実に目にしています。

「忘れないでください。救い主イエス・キリストは、常にわたしたちを強めてくださいます。決して滅ぼそうとはされません。わたしたちはイエスのこの模範の力を、余暇や遊びの時間も含めて、与えられた時間の活用の仕方に取り入れなければなりません。書籍や雑誌、映画、テレビ、音楽が主張するテーマについてよく考えてください。わたしたちの選ぶ娯楽に含まれる主張は、神の子供たちを強めるものでしょうか、滅ぼすものでしょうか。これまでの人生でわたしは、神の子供たちを強め高めるものを、反対のものに、つまり堕落させたり、おとしめたり、破壊したりする描写に取って代えようとする盛んな風潮を目にしてきました。

このような状況の中からくみ取れる力強い理念とは、人を強めるものはすべて主の目的に貢献し、人をおとしめるものはすべて悪魔の目的に貢献しているというものです。わたしたちは毎日、自分の選ぶものによって、前者か後者かのどちらかを支援しています。この事実は、わたしたちの責任を思い起こさせ、それを主に喜んでいただけ

る方法で果たしていこうという気持ちにさせてくれます。主はわたしたちに希望を与えるために苦しまれ、導きを与えるために模範を示してくださいました。

わたしたちは常に主を念頭に置かなければなりません。エホバがイスラエルの子らに最初に与えた戒めは「あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない」でした（出エジプト20：3）。これは簡単な理念のように思えますが、多くの人が実践しにくいと感じています。

最優先して取り組むべきことを、優先順位が下位のものとは置き換えるのは、実に簡単なことです。50年前、クリスチャンの哲学者C・S・ルイスはそのような風潮を、悲しいほどこの時代に当てはまる実例をもって描写しました。彼の著書『悪魔の手紙』の中で、古参

の悪魔は、クリスチャンを堕落させ、イエス・キリストの御業を阻む方法を説いています。ある手紙では、「度を越えた献身」がクリスチャンをいかに主とその教えの実践から遠ざけるものか説明しています。ルイスは二つの例を提示しています。それは極端な愛国主義と平和主義です。そしてそれらの「度を越えた献身」がいかにその信奉者たちを堕落させていくかを説明しています。

「彼に愛国主義か平和主義を自分の宗教の一部として扱うことから始めさせなさい。次に党派心をあおって、それを自分の宗教のいちばん大切な部分と見なすようにさせなさい。次に静かにまた徐々に、宗教が単に『大きな目的』の一部となる段階にまで、彼を誘い導きなさい。そこでキリスト教が尊ばれるおもな理由は、イギリスの戦争

行為、あるいは平和主義に対して格好の論拠を提供できるからである……。君がその人間にいったんこの世の事柄を目的とさせ、信仰を手段とさせられるなら、彼は君のものになったも同然。彼がこの世のどんな種類の目的を追及しようともほとんど大差はない。」（C・S・ルイス『悪魔の手紙』p.35）

わたしたちは今の時代に容易にこの風潮を見受けます。つまり、多くの目的はそれ自体良いものなのですが、優先順位の点で「あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない」と命じられた主よりも前にそれらの目的を置くなら、霊的な堕落を引き起こす要因となります。イエス・キリストとその御業が最初に来るべきなのです。主や主の王国、主の教会を目的達成の手段として用いるものは何でも、悪魔の目的に貢献していることとなります。

ほかの二つの力強い理念は、恐ろしい経験から生き延びた気高い若い女性によって明らかにされました。バージニア・リードは悲劇的なドナー・リード隊の生存者でした。この隊は、開拓者の時代にほろ馬車の旅でカリフォルニアまで行きました。もしこのほろ馬車の一行がすでに道の整ったオレゴン街道を、北西方向にワイオミングのフォートブリッジャーからアイダホのフォートホールへ向かい、そこから南西方向にカリフォルニアに向かっていれば、目的地に無事に到着できたでしょう。しかし、彼らは道案内人に間違った道を教えられてしまいました。ランスフォード・W・ヘイスティングスという人物が彼らに、自分の告げる近道を通れば、大幅に旅程を縮められると説き勧めたのです。こうして、ドナー・リード隊はフォートブリッジャーからの安全な道を通らずに、南西方向に向かい悪戦苦闘することになりました。彼らは険しいワサッチ山脈を切り開きながらソルトレーク湖の南方を通過し、うだるような暑さの中、ぬかるんだ塩の平原を越えて西方へと進んだのです。

未開の道による遅れと想像を絶する



大会開始前の十二使徒定員会会員。左から、ボイド・K・パッカー十二使徒定員会会長代理、次いで、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリンの各長老。



苦勞により、ドナー・リード隊はシエラネバダ山脈に着くのに1か月も遅れてしまいました。初雪が舞う前に山越えをしようと東の斜面を焦って登るうちに、彼らはあと1日で頂上にたどり着いてカリフォルニアへの下り道という所まで来ていながら、悲劇的な冬の嵐に見舞われました。冬の間、その場で立ち往生したため、隊員の半数が飢えと寒さで息絶えてしまいました。

数か月後、険しい山々と、飢えと恐怖による非情な苦難を乗り越えて、13歳のバージニア・リードはカリフォルニアにたどり着き、中西部に住むここに手紙を書き送りました。彼女は自分の味わった経験と恐ろしい苦難について詳述した後、次のような賢明な勧告をして手紙を結んでいます。「大事なものは、決して近道は通らず、できるかぎり急ぐことです。」(バージニア・

E・B・リードから、いとこのマリー・ガレスピーにあてた手紙、1847年5月16日付け。J・ロデリック・コーンズ、デール・L・モーガン共編、*West from Fort Bridger*『フォート・ブリッシャーから西の地域』p.238に引用)

それは力強く真実のこもった助言です。10代の若者にとって特にそうです。若人は多くの誘惑に満ちた道や口のうまい道案内人に取り巻かれています。この道案内人とは、安全な道の代わりに危険な近道を教える人々のことです。人生の旅路の中で、「こっちの道を試したらどうか」とか「ここで少し休んだら」といった提案はよく聞きます。若人の皆さん、どうかバージニア・リードの次の助言を心に留めてください。「大事なものは、決して近道を通らず、できるかぎり急ぐことです。」

この話を使徒パウロの生涯に見られる模範によって閉じたいと思います。伝道中彼は、軽薄な心、怠惰な思い、くだらない事柄に毒された多くの人々を目にしました。アテネの様子を彼はこう言っています。「アテネ人もそこに滞在している外国人もみな、何か耳新しいことを話したり聞いたりすることのみに、時を過ごしていた。」(使徒17:21)パウロが力強い理念に基づいた決意をしていたことは、コリントの聖徒にあてた手紙から明らかです。パウロは、「神のあかしを^お宣べ伝えるのに、すぐれた言葉や知恵」を用いませんでした。それについてコリント人たちにこう言っています。「なぜなら、わたしはイエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリスト以外のことは、あなたがたの間では何も知るまいと、決心したからである。」(1コリント2:1-2)

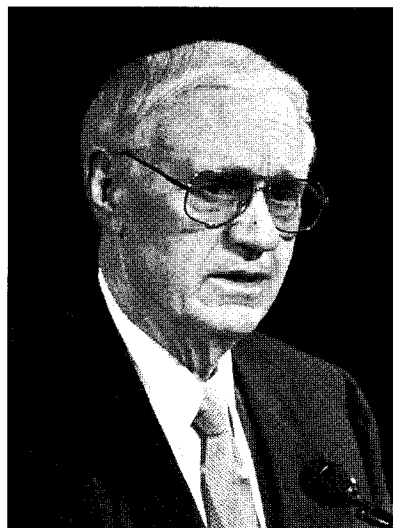
神の戒めと、神の僕たちの模範に従いましょう。永遠の価値を持つ、数々の力強い理念を基として人々を教え導きましょう。そうすれば義にかんたった行いを促し、神の子供たちを強め、人が永遠の命を得る助けをなせるでしょう。わたしたちがそのような生活を送れるよう、イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。

証人

七十人

ローレン・C・ダン

バプテスマを受けて教会に入り、^{たまもの}聖霊の賜物を通して^{みたま}御霊の確認を受けた人は皆、神の証人となります。



福音の回復以来、この壇上をはじめ様々な場所で、^{あがな}贖い主の神聖な使命について個人的な証が驚くほど多く述べられてきました。そして、それは可能なかぎり記録に残されてきました。

証人の律法は常に、地上における主の御業の一部を成してきました。「すべての事がらは、ふたりか三人の証人の証言によって確定する」(2 コリント13:1。申命17:6;19:15;マタイ18:15-16;ヨハネ8:12-29も参照)と、この律法は述べています。証人は、ある出来事が起こったことや、神の与えてくださった教義と原則が真実であることを確認するのです。

証人の第一の義務は証することです。回復されたイエス・キリストの福音が真実であると証する人は、自分が真実であると知っている事柄を語ります。主と主のまことの証人は、世の理解を

超えた真理を知っています。パウロはこのことを理解しており、こう述べました。「ところが、わたしたちが受けたのは、この世の霊ではなく、神からの霊である。それによって、神から賜わった恵みを悟るためである。

この賜物について語るにも、わたしたちは人間の知恵が教える言葉を用い^{みたま}ないで、御霊の教える言葉を用い、霊によって霊のことを解釈するのである。」(1 コリント2:12-13)

少年時代のある日、ユタ州トゥーエルステークでステーキ大会に出席し、訪問者の話に注意深く耳を傾けたことがありました。その訪問者とはリグラン・リチャーズ長老で、心温まる霊的な話し方で福音を説き教えてくれました。そのすばらしい経験は今も心に残っています。何が話されたか覚えていませんが、そのときに自分がどのように感じたかは覚えています。イエス・キリストの特別な証人の言葉に耳を傾けていたためにそう感じたのだと、後になって分かりました。彼は確かに真理を知っていました。そしてその日、福音の真理に関するわたしの霊の根はさらに深く伸びたのです。

オーソン・プラット長老はこう述べています。「信じているだけでは証人になれません。神は人に、すなわち人類の中のある人々に、御自身の証人となるよう求めておられます。その証人は、神の実在についてほかの人々に証を述べるのです。」(Journal of Discourses『説教集』16:209-210)

救い主がこの地上で生涯を送られたとき、大勢の人々が数々の偉大な奇跡を目にし、救い主の教えを聞きました。

しかし、全員が証人になったわけではありませんでした。またキリストが不信仰な者に直接教えを説かれたり、奇跡を起こされることはありませんでした。主は限られた人々に対してのみ、彼らの目を開き、御自分がどういう者であるか悟れるようにされたのです。

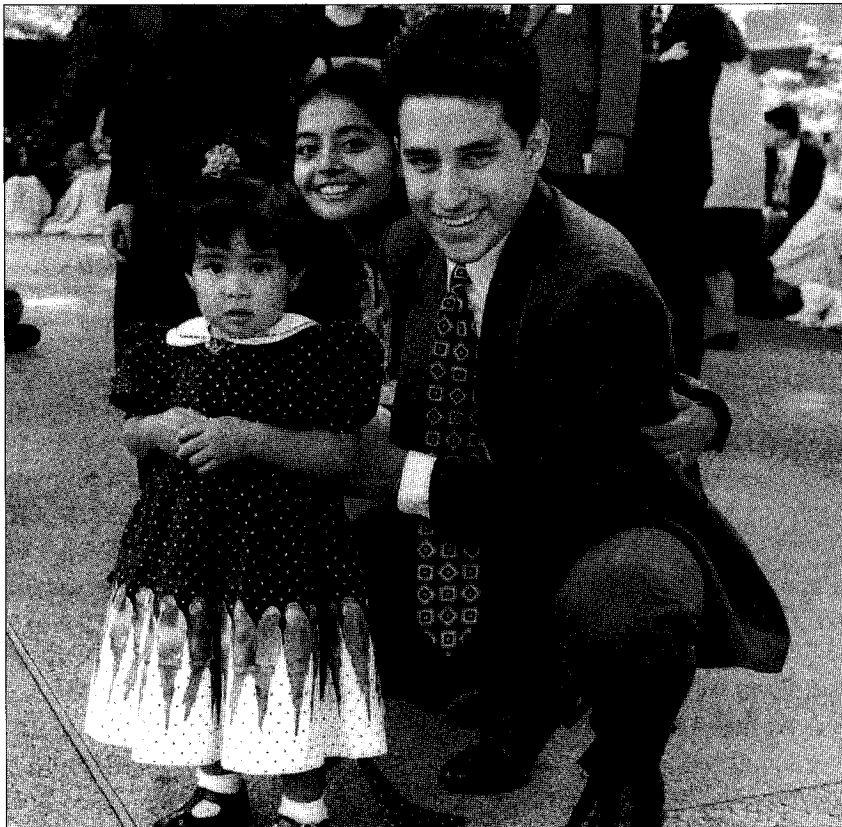
救い主により、十二使徒の召しとともに、キリストの特別な証人としての召しが定められました。

預言者ジョセフは、主の復活に関連してこう述べました。「神は死者の中からキリストをよみがえらせられた。そして、わたしたち(使徒)は……主の証人である。神が御自身に従う者〔すべて〕に与えられた聖霊もまた証人である。」(History of the Church『教会歴史』2:19)

バプテスマを受けて教会に入り、聖霊の賜物を通して御霊の確認を受けた人は皆、「いつでも、どのようなことについても、どのような所にいても」(モーサヤ18:9)神の証人となります。そして聖餐にあずかる度に、救い主の御名を受け、救い主の戒めを守り、いつも救い主を覚えるという証を新たにします。御霊に感動した人は、自らこれらのことを知るだけでなく、御霊の力を受けてほかの人々の心にもそれを伝えます。これは教会の伝道の業の基となっています。「人が聖霊の力によって語るときには、聖霊の力がそれを人の子らの心に伝えるからである。」(2 ニーファイ33:1)

聖霊の証は、目で見える証拠よりもはるかに大きな影響を及ぼします。教会の会員としてわたしたちは、言葉だけでなく、聖約を守ることによって、またほかの人々への接し方や自分の日々の生活態度によって、救い主とこの御業の真実性を証する者となります。

大管長会と十二使徒は、「全世界におけるキリストの名の特別な証人」(教義と聖約107:23)として召されています。神による選任と神権への聖任と聖霊の火により、地上で教えを説く務めの鍵を有している人々です。七十人は大管長会と十二使徒会の指示の下に行動し、異邦人をはじめ、全世界に対する特別な証人となります。すべて



の会員はこぞって、パウロが述べている「雲」のような「多くの証人」(ヘブル12:1)になるのです。

預言者ジョセフは、わたしたちの神権時代における王国の御業を次のような神聖な言葉で定義づけています。「そして今、〔イエス・キリスト〕についてなされてきた多くの証の後、わたしたちが最後に小羊についてなす証はこれである。すなわち、『小羊は生きておられる。』

わたしたちはまことに神の右に小羊を見たからである。また、わたしたちは証する声を聞いた。すなわち、『彼は御父の独り子である。』」(教義と聖約76:22-23)

『モルモン書』の三人の証人、オリバー・カウドリとデビッド・ホイットマー、マーティン・ハリスはこう述べました。「また、一人の天使が天から降って来て、携えて来たその版を目の前に置いたので、わたしたちはその版とそれに刻まれている文字を見たことを謹んで言明する。目で見て、これらのものが真実であると証するのは、父なる神と主イエス・キリストの恵みに

よるものであることを知っている。」「モルモン書」「三人の証人の証」)

ウィルフォード・ウッドラフ大管長は、このタバナクルでこう述べました。「ジョセフ・スミスは、彼が自ら公言したように、神の預言者、聖見者、啓示者です。彼は……生き長らえて……十二使徒に王国の鍵を渡しました。……彼が据えた土台の上に、わたしたちは王国を築いているのです。」(『説教集』13:164)

デビッド・O・マッケイ大管長は、この御業を始めた人々が生きていた時代から、彼により召されて今日この御業に携わっているわたしたちの時代までを生きた人です。こう述べています。「わたしには、御父と御子が預言者ジョセフ・スミスに御姿を現し、彼を通じてイエス・キリストの福音を明らかにされた、という不変の証があります。……キリストの〔ような〕生活に導く3つの原則、すなわち神会、兄弟愛、奉仕の原則は、わたしたちの教会のすべての活動に行き渡っています。」(Testimonies of the Divinity of the Church of Jesus Christ of

Latter-day Saints by Its Leaders
『末日聖徒イエス・キリスト教会の神性に関する教会指導者の証』p.178)

生ける預言者、ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう述べています。「わたしには、神の御子、イエス・キリスト、救い主、贖い主、旧約のエホバ、新約のメシヤが……実際に生きておられるという証があります。……主の贖いの犠牲のおかげで、……わたしたち一人一人は、主の真理に忠実に歩むならば、昇栄と永遠の命に至ることができるのです。これは現在のわたしたちの理解力を超えたものです。この御方は、わたしの贖い主、わたしの主、わたしの救い主、わたしの王、わたしの友です。」(カリフォルニア州、ベイカビル/サンタローザ地区大会での神権指導者会、1995年5月20日)

今日この壇上に立った人々の述べた証は、神の権能を受けてこの御業に最初に携わった人々の証と一致しています。

その同じ証が、この教会の会員や宣教師によって御父の子供たち一人一人に繰り返して述べられているのです。彼らの証は、教義について学び、御霊を感じ、イエス・キリストの完全な福音にあずかって癒しを得るように招いています。

彼らの証に、この御業が真実であるというわたし自身の証を付け加えたいと思います。わたしたちを心にかけ見守ってくださっている天の神がいられることを知っています。神が生きておられることを知っています。確信をもって言えます。心から知っているのです。イエス・キリストが救い主であり、贖い主であられることを知っています。ジョセフ・スミスが神のまことの預言者であったことを知っています。今日、ゴードン・B・ヒンクレー大管長が神の預言者であること、またこの福音がイエス・キリストの福音であることを知っています。主の祝福を受けて、わたしたちが証人の言葉に耳を傾けることができ、わたしたち自身証を述べることができますように。イエス・キリストの御名によって。アーメン。

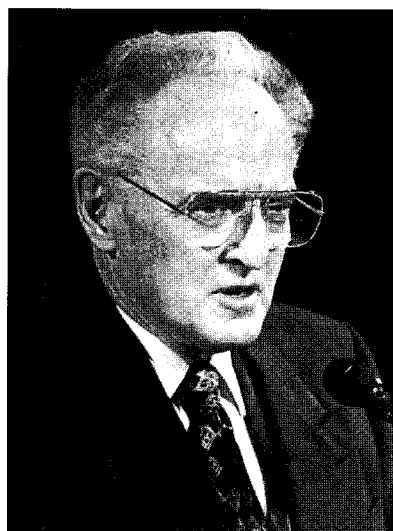
『モルモン書』

神聖な古代の記録

七十人名誉会員

テッド・E・ブルーアートン

教会に対して疑問や不安を抱いている人々は、この堅固なよりどころに心を向けていただきたいと思います。



うさぎの足などを幸運のシンボルとして信じている人がいます。しかし本来あるべき足を失ったうさぎにしてみれば、それは何の幸運ももたらしません。

こんな話をするのは、ただわたしたちが自分の信仰を、真実、まじめな気持ちで本来あるべき対象に置き、キリストの功德に頼っているか、自問すべきだと思うからです。救いが主を通してのみもたらされ、わたしたちが揺るぎない信仰を持つならば、主が重荷と悲しみを負ってくださるという確信を抱いているでしょうか。

聖文にはこう記されています。「この聖書は〔神〕についてあかしをするものである。」(ヨハネ5:39) 永遠の命とは、神と御子を知ることです(ヨ

ハネ17:3参照)。「モルモン書」を探求すれば主を知ることができます。どのページも主を証^{あかし}しています。1981年に英語版の新しい『モルモン書』に加えられた変更は、1830年に刊行された、手書き原稿の初版に基づいてなされました。

『モルモン書』は古代アメリカ大陸の神聖な記録であり、そこには2,000年以上前からの様々な出来事が明らかにされています。

『モルモン書』は、主が特別な目的のためにアメリカ大陸に導かれた家族の記録です。3つのグループがエルサレムの地を後にして、海を渡りました。救い主が降誕される何世紀も前のことです。そして約束の地、アメリカ大陸に到着したのです。

アメリカ先住民族によって書かれた、古代アメリカに関する文献は、このような起源を裏付けています。例えば、古代の伝説に基づいてグアテマラのキチェ族の言語で1554年に記された、ディオニシオ・ホセ・コネイ、デリア・ゲッツ共訳の『トトニカパンの支配者の称号 (Title of the Lords of Totonicapán)』という題名の文献には、以下のような翻訳が載せられています。

「3つの偉大なキチェ族は……イスラエル王国の10部族のまつえいである。この10部族は、シャルマネセル王により征服されて、囚われの身となり、アッスリヤの辺境地に散らされて、移住を決意した。

当時、キチェ族には3つの国があり、日の昇る所から来た彼らはイスラエルの子孫で、イスラエルの人々と同じ言葉話し、同じ生活習慣を持っていた。……彼らはアブラハムとヤコブの子孫なのである。……

1554年9月28日のこの日、我々はこの宣誓書に署名するものである。この宣誓書には、我々の先祖からの言い伝えにより、彼らが海のかなたの地から、すなわちシバン・ツランというバビロニアの国境地域から来たものであることを記してある。」(『トトニカパンの支配者の称号』pp.167, 170, 194)

十二使徒評議会の一員であるマーク・E・ピーターセン長老は、次のように書いています。「^{いにしえ}古のイスラエル人たちが散られ、あらゆる国々に散在していく一方で、〔リーハイの息子である〕レーマンとレムエルの子孫たちは選ばれて西半球の広大な地域に移り住んでいたのです。彼らは全世界の各地に点在しています。」(Children of Promise『約束の子孫』p.31, 下線付加)

多くの集団がアメリカ大陸に移り住みましたが、『モルモン書』に登場する3つの集団ほど重要な意味を持つ人々はいません。これらの人々の血統はカナダ・アルバータ州のインディアンであるブラックフット族とブラッド族、アメリカ南西部のナバホ族とアパッチ族、南アメリカ西部のインカ族、メキシコのアステカ族、グアテマラのマヤ族などをはじめとする西半球ならびに太平洋の島々に住むアメリカ先住民族に受け継がれています。

えりぬきの先住民族であるこれらの人々は、『モルモン書』が真実の書物であることを認めています。この書物は、彼らの先祖により彼らのために記されているからです。スペンサー・W・キンボール大管長はこう述べています。

「レーマン人の改宗者たちは信仰篤い人々です。教会を離れる人はほとんどいません。この世の波にのまれて、道をそれてしまう人も中にはいますが、20世紀のリーハイの子孫である彼らは、古の先祖たちのような信仰と恵みを受け継いでいます。ヒラマン書第6章36

節にはこうあります。『またこのことから、レーマン人が主の言葉を容易に喜んで信じたので、主が彼らに主の御霊を注ぎ始められたことも分かる。』(The Teachings of Spencer W. Kimball 『スペンサー・W・キンボールの教え』p.178, 下線付加)

いかなる宗派の教会の指導者であろうと、不可知論者であろうと、貴い価値を持つ『モルモン書』を与えてくださった神を、こぞって賛美し、喜びの声を上げる日がやがて訪れるでしょう。なぜなら『モルモン書』は、神が生きておられ、イエスがまさにキリストであり、^{あがな}贖い主であられることを世に宣言する、神聖で非の打ちどころのない2番目の証だからです。

1番目の証とは『聖書』のことです。『聖書』には、主についての中東地域での証が記されています。主はヨハネによる福音書第10章16節で、他の羊も主の声に聞き従うであろうとおっしゃいました。主は復活の後、アメリカ大陸に御姿を現し、こう言われました。

「まことに、あなたがたに言う。『わたしには、この囲いにはいない他の羊がある。わたしは彼らをも導かねばならない。彼らもわたしの声に聞き従うであろう。そして、ついに一つの群れ、一人の羊飼いとなるであろう』とわたしは言ったその羊とは、あなたがたのことである。」(3ニーファイ15:21)このような二つの証を否定する人は、自分の救いの機会を危険にさらしているのです。

『モルモン書』に託されたきわめて重要なメッセージ、つまり目的は、そのタイトルページに示されています。「これはイスラエルの家の残りの者に、主が彼らの先祖のためにどのような偉大なことを行われたかを示すものであり、……主の聖約を、彼らに分かるように示すものである。——また、ユダヤ人と異邦人に、イエスがキリストであり、永遠の神であり、すべての国民に御自身を現されることを確信させるものである。」

古代アメリカの文献には、白いひげをたくわえた神が天から降りて来られたという神話がよく見受けられます。



この御方は様々な名前と呼ばれています。その一例がケツアルコアトルです。わたしの蔵書の中には、16世紀の歴史家たちによって、スペインの征服者到着よりはるか昔にアメリカ大陸を訪れた白いひげの神に関する伝承を記したものがああります。以下の引用文にもこのような伝承が含まれています。

1499年生まれのパルナルド・デ・サハグンの言葉です。「ケツアルコアトルは昔、皆から尊ばれ、神としてあがめられていました。この御方は長髪でひげをたくわえておられました。人々は、この主のみを礼拝していました。」(Historia General de las Cosas de Nueva España 『ヌエバ・エスパーニャの一般通史』S・A・ポーラ編, pp.195, 598)

1537年生まれのディエゴ・デュランはこう記しています。「徳高く信仰深い偉大な御方。ひげをはやし、背が高く、髪は長く、威厳に満ちた雰囲気があり、英雄的な行為をし、奇跡を起こされた御方。わたしはこの御方をき

と、祝福された、神の使者(の一人)だろうと確信しています。」(Historia de las Indias de Nueva España, 『ヌエバ・エスパーニャのインディオの歴史』S・A・ポーラ編, 1:9)

1474年生まれのパルトロメ・デ・ラス・カサスの記すところによれば、羽毛のある蛇、ケツアルコアトルは、白く、あご全体にひげをたくわえ、背が高く、東の海から来て、またそこから戻って来ます。(Los Indios de Mexico y Nueva España Antología 『メキシコとヌエバ・エスパーニャのインディオ詞華集』S・A・ポーラ編, pp.54, 218, 223参照)

ベネズエラのインディアンである、タマナコス族にも白いひげの神に関する同様の伝説があります。「[アマリベカという御方は、]朝の明るく柔らかな雲のように白い顔をしておられ、その白さは髪の毛も頭に付けた飾りも同様でした。……この御方はこう言われました。『わたしはアマリベカといい、わたしの父イナウイキの名によって来た。』」(アルトゥーロ・ヘルマンド・トヨ, Leyendas Indígenas del Bajo Orinoco 『オリノコ川下流に伝わる先住民の伝説』テッド・E・ブルーアートン訳, pp.19-22)

主が古代アメリカに來られたことについて、『モルモン書』には正確な説明があります。『モルモン書』が古代から伝わる書物であることを受け入れ、ジョセフ・スミスが英語で書かれていたとは考えられない古代の記録を確かに持っていたとするなら、次のような疑問が生じます。ジョセフ・スミスはどのようにそれを翻訳したのか。唯一理にかなった答えは、本人が語るように、神の啓示によったというものです。

「それさえ主張しなければ『モルモン書』は神聖な聖文だと認めよう」と言うことほど、わたしたちの救いを永遠に危うくすることがあるでしょうか。教会に対して疑問や不安を抱いている人々は、この堅固なよりどころに心を向けていただきたいと思います。

『モルモン書』の預言者ニーファイはこう書いています。「わたしたちは子孫と同胞に、キリストを信じ、神と

和解するように説き勧めるために、熱心に記録し続けようと努めている。それは、わたしたちが最善を尽くした後、神の恵みによって救われることを知っているからである。」(2ニーファイ 25:23)

B・H・ロバーツ長老は1909年にこう記しています。

「〔聖霊こそが〕『モルモン書』の真実性を実証するおまなよりどころとなられるべきである。そのほかの証拠は、この根本的で、絶対に間違いのない証拠に次いで来るものである。ほかにどんなに優れた証拠を持って来てもこの順序は変わらない。どんなに巧みに反論したとしても、〔聖霊の〕位置を変えることはできない。……

しかし、真理を擁護するうえで2番手に来る証拠も、自然現象の中の副次的な原因と同じように、非常に重要で神の目的を達成する力強い原動力となる。」(New Witnesses for God『神の新たな証人』pp.vi-vii)

日が静かに昇るように、時折わたしたちは主の御声も静かであると感じます。しかし、主の御声は、わたしたちが祈り、黙想し、耳を傾けるなら聴き取ることができます。そして主からの答えとして、わたしたちの心にはつきりとした考えが与えられます。

日が昇るように確かに、神も全能の御子も生きていらっしゃる。日が毎日昇るように確かに、末日聖徒イエス・キリスト教会は主の教会です。

日が昇るので、わたしたちはすべてを見ることができます。

同様に、イエス・キリストが生きていらっしゃるの、わたしたちは主の光によって永遠不変の真理を理解し、現世の目的と、今こうして存在している理由、前世と現世での生活がいわゆる死後の世界に及ぼす影響について教えてくれる、輝かしい道を知ることができるのです。

『聖書』は一つの証です。

『モルモン書』はもう一つの証です。

そしてわたしも主がよみがえられ、やがて再臨されることを証する者の一人です。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

神権がもたらす祝福

十二使徒定員会会員

ロバート・D・ヘイルズ

神権は、この暗くて悩み多い世界に住む神の子供たちに光を与えてくれます。



数週間前のことですが、わたしはチリのサンティアゴでの神権者訓練集会に出席していました。土曜日の会でわたしたちは、バプテスマを受けた兄弟たちが神権を受けることの大切さについて話しました。翌朝早く、わたしは神権が人生にもたらす影響について力強い証を感じながら目を覚ました。そして夜明けまでの数時間、自分自身と家族、そして世界中の人々にとって神権がどういう意味を持つのかを考えました。

兄弟姉妹の皆さん、神権がなくなれば、わたしたちの人生はいかに暗くむなしなものとなるのでしょうか。神権の力がこの地上になければ、悪魔ははばかりことなく世界を席卷することでしょう。聖霊の賜物がわたしたちに導きと悟りを与えてくれることはありません。主の御名により語る預言者もいません。神聖な永遠の聖約を交わす

神殿ありません。祝福を受けたり、バプテスマや癒しを施したり、人に慰めを与えたりする権能もないのです。神権の力がなければ「全地はことごとく荒廃する」(教義と聖約2:1-3参照)のです。光もなく、望みもなく、あるのは暗闇だけです。

わたしたちにとって、神権の祝福のない世界は何と暗いことでしょうか。

愛に満ちた天の御父は、経験を得させ、試しを与えるために、御自身の息子、娘をこの地上に送られました。また、御父のみもとに戻る道も授け、その道を照らすに十分な霊の光を授けられました。神権は、この暗くて悩み多い世界に住む神の子供たちに光を与えてくれます。そしてわたしたちは、神権の力を通して、わたしたちを真理と証と啓示へと導く聖霊の賜物を受けることができるのです。この賜物は老若男女を問わず、すべての人に平等に与えられます。わたしたちは神権の祝福を通して「神の武具で身を固め…悪魔の策略に対抗」する(エペソ6:11-18参照)ことができます。この守りは、わたしたち一人一人が手にすることのできるものです。

神権を通して、ほかの多くの祝福が神の息子、娘に与えられています。神権があるのでわたしたちは、聖なる儀式を受けて神聖な聖約を交わし、天の御父のみもとに戻る細くて狭い道を進むことができるのです(マタイ7:13-14参照)。

神権とは、主の御名により行動するために神から授けられた神の力です。神権は時間を超越しています。「初めにあったこの神権は、世の終わりにもあるであろう。」(モーセ6:7。His

tory of the Church『教会歴史』3：386も参照) この世が創造される前に、神権の指示の下で天上の会議が開かれました。宇宙やわたしたちが住むこの地球は、偶然にできたものではありません。神権の力によって造られたのです。偉大な救い主が言葉を発せられ、すべての元素がそれに従いました。わたしたちがこの星に存在するのを可能にしている自然界の体系、生命を支えているこの世の物質、これらはすべて神の偉大な神権の力を通して秩序正しく作用し、循環し続けているのです。地上に住む人々はこの神権の力に気づいていませんが、すべての生物は神権の力により存在しているのです。

地球の創造により、神の息子、娘に生活と成長の場が与えられました。御父が驚くべき神権の祝福をわたしたちに授けてくださる場所です。神権は最初にアダムに与えられました。アダムは何世代にもわたって神権の鍵を持っていました。アダムは息子であるアベルとセツに始まり、7代に及ぶ子孫に神権を授けました(教義と聖約84：16；107：40-53参照)。そしてアダムの死後も神権は父から子へと受け継がれ、メルキゼデクにまで至りました。

もともとこの神権は「神の御子の位に従う聖なる神権と呼ばれていた。

しかし、至高者の名を敬い尊ぶことから、この名をあまり頻繁に繰り返すのを避けるために、昔の教会員はこの神権を、メルキゼデクにちなんで、メルキゼデク神権と呼んだのである。」(教義と聖約107：3-4)「メルキゼデクはそれほど偉大な大祭司であったからである。」(同2節)

メルキゼデクの手から神権を受けたのはアブラハムでした(教義と聖約84：14参照)。主は後にアブラハムに「地のすべての氏族は、あなた(すなわち、あなたの神権)によって、また、……あなたの子孫(すなわち、あなたの神権)によって、……救いの祝福すなわち永遠の命の祝福である福音の祝福を授けられるであろう」(アブラハム2：11)との約束を与えられました。

また、神の御子、救い主イエス・キリストが旧世界と新世界の両方で教会

を設立されたのは、この神権によってでした。主はその両方の世界で、「命にいたる……狭い門」(マタイ7：13-14；3ニーファイ14：13-14)に入る手段としての神聖な聖約と儀式を確立されました。さらに、両方の地で教会の諸事を管理し、御言葉を神の息子、娘に伝えるために、12人の特別な証人を聖任されました。

イエス・キリストは、悔い改めて聖なる神権の力によりバプテスマを受けるすべての人の罪を贖あがなわれました。そして、贖罪により死の縄目を断ち切り、「彼に従順であるすべての人に対して、永遠の救の源」(ヘブル5：9)となられたのです。

イエスと使徒たちの死後、地球は暗闇に包まれました。暗黒時代として知られるこの時期は大背教の時代であり、地上の人々から長い間神権の祝福と儀式が取り去られました(ジョセフ・フィールディング・スミス、Answers to Gospel Questions『福音の質疑応答』ジョセフ・フィールディング・スミス・ジュニア編、2：45参照)。

しかし、預言されていたとおり、神の栄光の神権が、それに伴うすべての祝福とともにわたしたちの時代にこの地上に回復されました。神権の回復とその祝福は1820年に始まります。少年預言者ジョセフ・スミスが聖なる森で、天の御父と御子イエス・キリストにまみえ、言葉を交わしたのです。

後にほかの天の使い、すなわちバプテスマのヨハネやペテロ、ヤコブ、ヨハネ、それにモーセやエライアス、エリヤなどが訪れ、人類の救いと昇栄に必要な力と権能と鍵を預言者ジョセフ・スミスに授けました。それにより、古代のアロン神権とメルキゼデク神権を有するイエス・キリストの教会が地上に回復されました。そして、今や神がアブラハムに聖約されたように、地上のすべての個人と家族が祝福にあずかるようになったのです。

兄弟姉妹の皆さん、考えてみてください。神権は回復され、今日、この地上にあるのです。また、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は生ける預言者であり、大管長会と十二使徒定員会が、

主イエス・キリストの現代の使徒として存在しています。この神権時代の鍵を有するこれらの預言者、聖見者、啓示者の管理の下に、今日の教会の神権者は神の御名により行動する正統な権能を授けられています。彼らは主から承認を受けた僕として神権の力と権能を通して人々を祝福し、与えられたすべての神権の聖約と儀式、祝福を授けるのです。

神権の祝福はすべての人に及びます。事実、「〔御父は〕御自分のもとに来て主の慈しみにあずかるように、すべての人を招かれる。したがって主は、黒人も白人も、束縛された者も自由な者も、男も女も、主のもとに来る者を決して拒まれぬ。……すべての人が神にとって等しい存在なのである。」(2ニーファイ26：33)

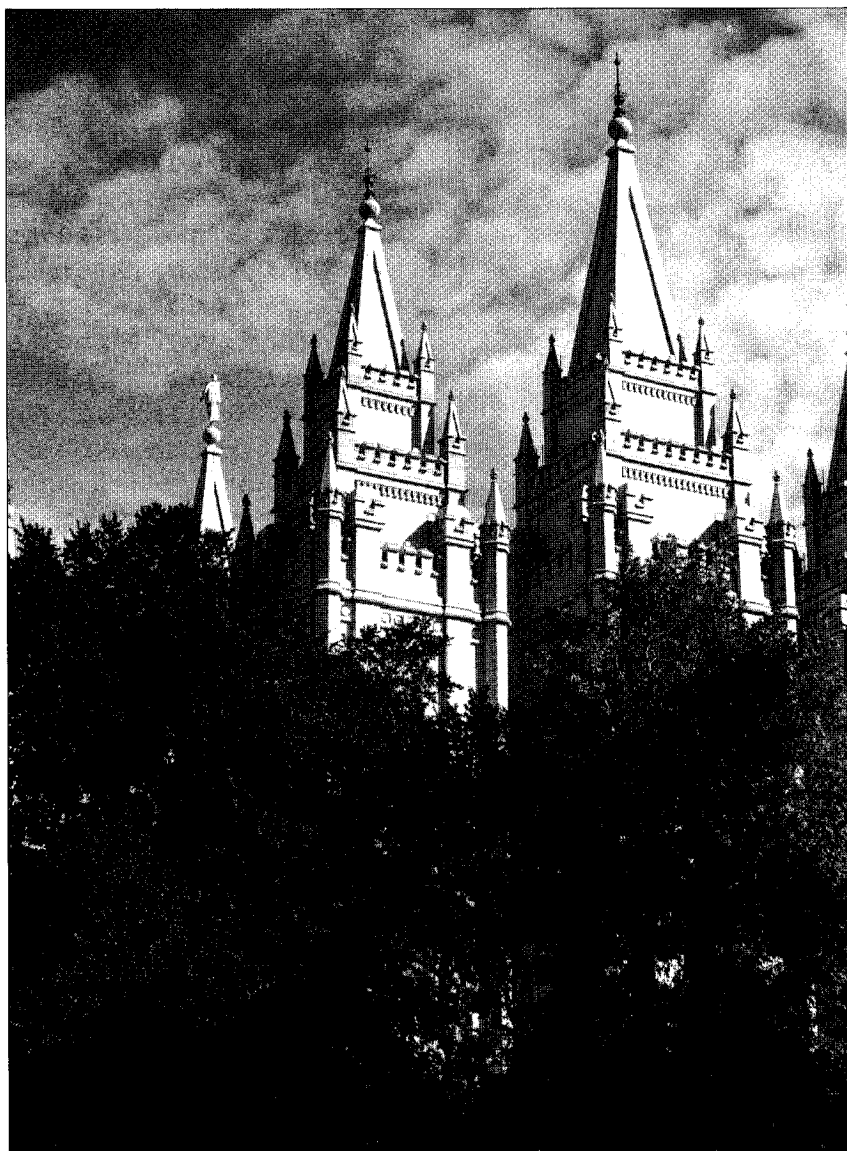
神権の祝福にはどのようなものがあるでしょうか。ではわたしとともに、一人の子供が生涯にたどる理想的な霊の旅に出かけてみましょう。つまり、人生の中で神権を通して受ける祝福の機会を眺めてみたいと思うのです。

まず、生まれたばかりの赤ちゃんは愛の腕に抱かれ、父親が祖父、監督あるいはほかの神権者により、命名と神聖な祝福の宣言を受けます。この祝福は聖霊の導くままに行われます。

程なくして、この子は初等協会と日曜学校に参加し、忠実な教師からレッスンと指導を受けます。主の方法により教えるよう神権の力によって召され、任命された教師からです。

この子が責任を負う年齢である8歳になると、神権を持つ人によって水に沈められるバプテスマを受けます。そして、メルキゼデク神権を持つ人から末日聖徒イエス・キリスト教会の会員としての確認の儀式を受けます。この儀式では聖霊の賜物たまものが授けられます。その静かな細い声に従えば、永遠の命に至る細くて狭い道をそれずに進むことができるのです。

また、毎週日曜日に、ほかのふさわしい教会員とともに神権者による聖餐を受けます。パンはイエス・キリストの体を、水はわたしたちの罪を贖うために流されたイエス・キリストの血を



表しています。聖餐せいさんの儀式の間、その子は救い主が受けられた苦しみあつしみに思いをはせ、イエスの御名みかどなを進んで受けることを証あかしします。また、いつも主を覚え、主の戒めを守ることを約束します。それに対して主は、「いつも御子の御霊みたまを受けられる」(教義と聖約20:77) ことを約束してくださるのです。

やがて子供から大人への過渡期に入ると、監督や青少年の指導者から霊的な面でのカウンセリングやアドバイスを受けるようになります。こうした教会の若人を指導し鼓舞するために召され、任命されるのが、アロン神権と若い女性の指導者です。

それ以上の勧告や慰めが必要なとき、また病気のときは、父親やホーム

ティーチャー、監督、そのほかの神権指導者から神権の祝福を受けることができます。また、聖任された祝福師により授けられる祝福師の祝福は、神から息子、娘への靈感に満ちた言葉を含み、生涯を通じての指針と慰めとして、永遠にわたる意味を持っています。それがどんなにすばらしいものであるか考えてみてください。

ふさわしいと判断されれば、若い男性はアロン神権を受けます。アロン神権は準備の神権であり、成熟の度合いに応じて、執事、教師、そして最後に祭司へと聖任されていきます。後に資格が得られれば、メルキゼデク神権を受け、その長老の職に聖任されます。若い姉妹たちはまず若い女性という組

織に属し、後に扶助協会の会員になります。こうした経験はすべて、若い男性や女性に、学び奉仕する機会を与え、この世でのありきたりの友人関係よりももっと大切な兄弟愛や姉妹愛を身をもって味わうためにあるのです。

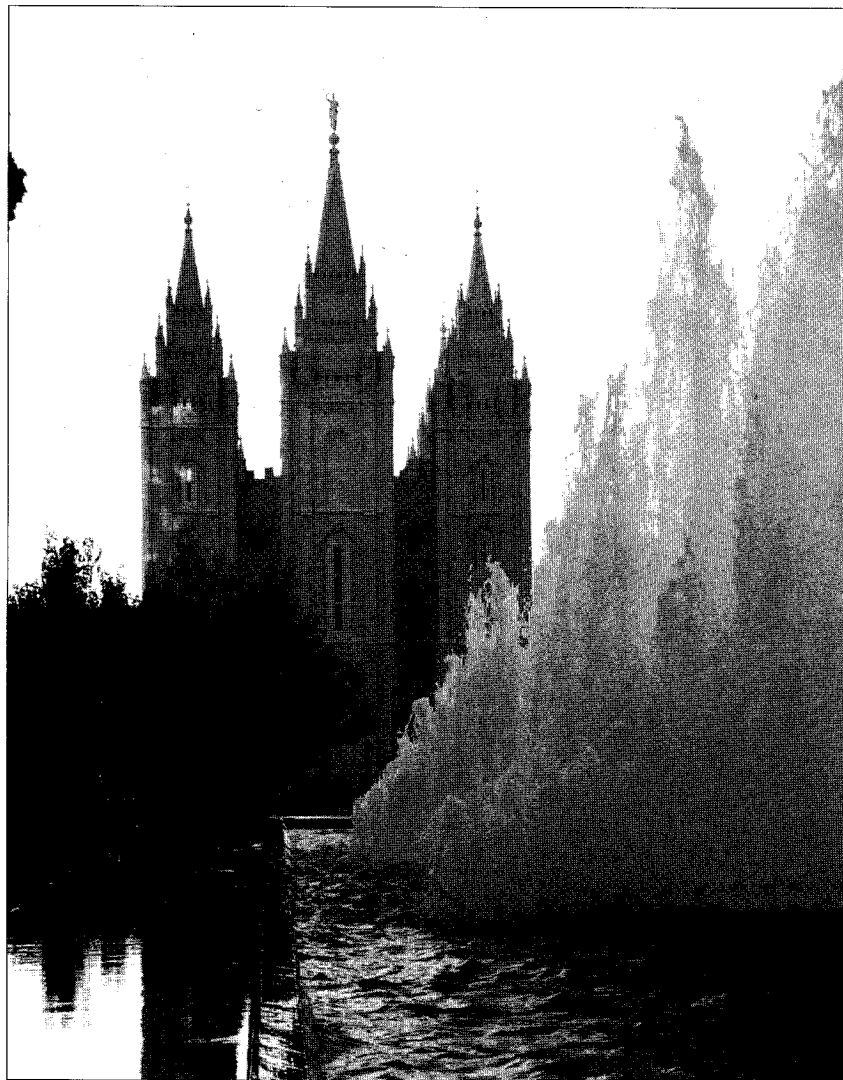
こうした若い男性や女性は専任宣教師として召され、伝道部長の神権による指示の下で、耳を傾けるすべての人に主イエス・キリストの証を伝えます。そして彼らは、この奉仕と犠牲の祝福を通して心がへりくだるのを経験し、すべてを奪おうとするこの世の傾向と、すべてを与えようとする神の王国の姿との対称的な違いを識別できるようになります。こうして人のために自分自身をささげる習慣を身に付けた彼らは、生涯を通じて教会や地域社会のために奉仕をします。また同時に、ほかの人の奉仕による祝福にも浴します。

若い男性や女性が受けることのできる神権の祝福で最大のものは、神殿での祝福でしょう。神殿では天国の一部をかいま見ることができます。聖なる神殿で、彼らは世にあって世のものではなくります。そして、自分たちが天の王の子孫、すなわち神の息子、娘であることを理解するのです。神殿の外ではとても届きそうもない永遠にかかわる喜びが、突然、身近に感じられるようになります。

神殿内では救いの計画が説明され、神聖な聖約が交わされます。これらの聖約は、神聖な神殿のガーメントを身に着けることをも含めて、エンダウメントを受けた人々に力を与え、彼らを悪魔の力から守ってくれます。自身のエンダウメントを受けた若い男性や女性は、神殿に参入して代理の儀式を受けます。生きている間に神権の祝福を受ける機会を得られずに世を去った人々にその祝福が及ぶようにするためです。

神殿の儀式の極致は永遠の結婚です。花婿と花嫁は、忠実であれば、永遠にわたって夫婦、親子がともに主のみもとで生活できることを約束されます。これは永遠の命と呼ばれます。

義よこしまになかったこのような男女が永遠の伴侶とともに家庭を築くに当たって、神権は引き続き祝福をもたらします。



神の御心は、現代の預言者、聖見者、啓示者の言葉に耳を傾け、それに従って生活する中で知ることができます。また夫は「聖い御霊の宿る神聖な建物として、また、家族が礼拝し、世の中から逃れて安らぎを得、霊的に成長し、永遠にわたって結ばれるための備えをする神聖な場所として」(『神の御言葉に固くつきて』メルキゼデク神権個人学習ガイド1, p.155) 自分の家を奉獻します。

この夫婦は親として子供の成長に合わせて家庭の夕べで福音を教えます。そして子供に、個人や家族で祈ることを教えます。また、聖なる預言者たちにより記され、世代を超えて保存されてきた『モルモン書』をはじめとする回復された聖典を、やはり個人や家族で研究します。両親は救いの計画を教

え、子供たちに自分たちがこれまで受けてきた同じ神権の祝福と儀式を受ける備えをさせます。

献身的な夫は、出産を控えた妻の頭に優しく手を置き、メルキゼデク神権の力を通して特別な祝福を宣言します。そして彼は、神権の聖約の下に生まれた赤ちゃんを腕に抱き、父親としての霊感に満ちた祝福の言葉を述べるのです。

このようにして、神権の祝福のサイクルは世代を超えて受け継がれていきます。これはすべて、神の息子、娘の「不死不滅と永遠の命」をもたらすという、御父の神聖な目的を成就するためなのです(モーセ1:39)。

兄弟姉妹の皆さん、わたしは神権の驚くべき力によって世界中の老若男女が高められ、祝福され、癒され、慰められ、力づけられるのを目の当たり

にしてきました。わたしはこの神権の祝福がすべての人に与えられるよう心から望んでいます。

神権を持つ兄弟の皆さん、神権を尊んで大いなるものとしてください。神権を持っていながら使っていない人は、よく行使してください。神権を受けていない兄弟の皆さんは、授けられるよう熱心に求めてください。そして、わたしたちすべてが神権の祝福を受けることに、また分かち合うことにもっと熱心になり、天の力をわたしたち自身と愛する人々の人生に呼び込めるようにと願っています。

サンティアゴでのあの早朝の数時間以来、わたしは神権について、また神権が世界中の人々にとってどのような意味を持つのかについて、何度も深く考えてきました。ここで、神権の祝福についてのわたしの心からの証をソネットの形で皆さんにお伝えしたいと思います。

聖なる賜物である神権の力のゆえに
主よ、我らはあなたの祝福された御名
をたたえます

この祝福し、導き、高める力のゆえに
あなたの永遠の愛はわたしたちとともに
あるからです

神権の力のない人生は
何と希望がなく、暗く、失意に満ちて
いることでしょう

サタンは思いのままに人を欺き
いつも惨めな状態に陥れようとしてい
ます

主の御霊はわたしたちに光をもたらし
サタンの火矢から守ってくれます
あなたの聖約はすべてに勝り、わたし
たちの望みは輝きます
神権の力により、あなたのもとに戻る
のです

わたしたちはホサナと歌い、主の御名
をたたえます
神権の力が末日に回復されたからです

従順であるかぎり、この地上の男女
や家族のために神が用意してくださ
った壮大な永遠の祝福が、神権の力を通
して授けられることをお約束します。
イエス・キリストの御名により証しま
す。アーメン。

「備えていれば 恐れることはない」

十二使徒定員会会員
L・トム・ペリー

自らを霊的に備えることが大切であるように、この世の必要にも備えなければなりません。



リーハイは家族を連れて荒れ野を旅したとき、素晴らしい夢を見ました。命の木の夢、すなわち示現は、象徴を通してわたしたちに人生や歩むべき道について多くの知識を与えてくれます。聖文には次のように書かれています。

「そして、一本の木が見えたが、その実は人を幸せにする好ましいものであった。

そこで、行ってその木の実を食べると、それは、今までに味わったどんな実よりもずっと甘いことが分かった。またその木の実は白く、今までに見たどんな白いものにも勝って白かった。

そしてその木の実を食べると、わたしの心は非常に大きな喜びに満たされた。それでわたしは、家族にも食べて

ほしいと思い始めた。その実が、ほかのどんな実よりも好ましいことが分かったからである。」(1ニーファイ 8：10-12)

リーハイは夢の中で、神の愛であるといわれていた甘い実を食べようとして多くの人々が進んで来るのを見ました。また、神の御言葉を意味する鉄の棒につかまっていれば、命の木にたどり着けるはずでした。しかし、途中で暗黒の霧、すなわち誘惑に襲われ、多くの人が道を見失ってしまいました。聖文はこのように続いています。

「そして、わたしはまた、押し進んで来るほかの人々を見たが、この人々は進んで来て、鉄の棒の端をつかんだ。そして彼らは、鉄の棒にすがりながら暗黒の霧の中を押し進み、ついに進んで来てその木の実を食べた。

そして彼らは、木の実を取って食べると、恥じるかのように辺りを見回した。

それでわたしも辺りを見回すと、水の流れている川の向こう側に、一つの大きく広々とした建物が見えた。それは地上に高くそびえ、ちょうど空中にあるかのように立っていた。

その建物は、老若男女を問わず人々でいっぱいであった。この人々の衣服の装いは、非常に華やかであった。そして彼らは、その木の所までやって来てその実を食べている人々を指さし、あざけり笑っている様子であった。

それでその木の所までやって来た人々は、その実を味わった後にあの人々にあざけり笑われたので恥ずかし

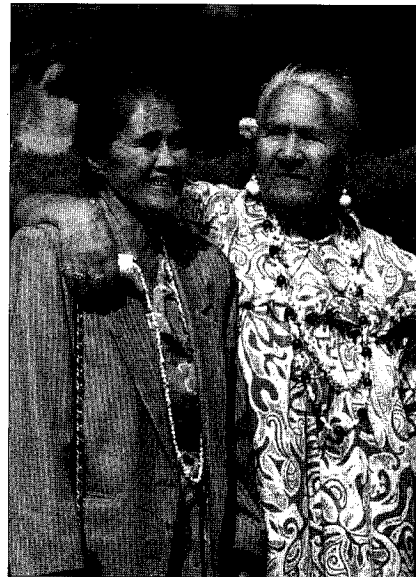
く思い、禁じられた道に踏み込んで姿が見えなくなってしまった。」(1ニーファイ 8：24-28)

今日わたしは、リーハイの夢のこの部分についてお話ししたいと思います。現在、あの「大きく広々とした建物」から聞こえてくる声は、われ先にこの世のものを手に入れるようわたしたちを誘惑します。わたしたちは車3台分のガレージとレジャー用の車がある、もっと大きな家が必要だと考えます。ブランドものの洋服やビデオ付きの2、3台目のテレビ、最新型のコンピューターや車を欲しがります。一方支払いのためには、将来の必要を考えず、借金することがよくあります。欲しいものをすぐ手に入れるという、こうした傾向のために、破産が増え、多くの家族が経済的な負担のあまりの重さに苦しんでいます。

現代は、人類の歴史の中でもとりわけすばらしい時代であると同時に、問題の多い時代です。技術革新が生活の隅々まで行き渡るにつれて、変化があまりに速いため、生活のバランスを取るのが難しくなっています。ある程度安定した生活をするには、先を見越した計画が不可欠です。個人と家族の備えに関してこれまで受けてきた勧告を見直す時期が来ている、恐らく緊急にそうする必要がある、とわたしは思います。わたしたちのランプに、最後まで堪え忍ぶのに十分な油が入っていてほしいものです。キンボール大管長はこのように勧告しています。

「準備の大切さに関するわたしたちへの主の勧告を見直すと、そのメッセージの明快なことに改めて気づく。悪を遠ざけるだけでは、準備というランプの油を十分に満たすことはできない、と明言されているのだ。わたしたちはさらに、備えに役立つプログラムに熱心に取り組む必要がある。」

また、大管長はこうも述べています。「主はわたしたちの善良な望み、願い、意志のみを取り上げて、実際の働きがあるかのように受け取ることはなさない。あくまでも自分自身の力で実際に行動しなければならないのである。」(『救しの奇跡』p.12)



絶えず大幅に上下するインフレの波、戦争や個人間の争い、全国的な災害や異常気象、無数の不道德な行為、犯罪や暴力、家族や個人への攻撃や圧力、技術の進歩の陰で廃れていく職業などは、日常茶飯事です。備えの必要は火を見るより明らかなです。『教義と聖約』の中で主がわたしたちに約束されているように、備えがあれば、恐れから解放されるという大きな祝福にあずかることができます。「備えていれば恐れることはない。」(38：30)

自らを霊的に備えることが大切であるように、この世の必要にも備えなければなりません。だれもが次のように自問してみる必要があります。「自分

自身と家族の必要を満たすために、どのような備えをすべきだろうか。」

わたしたちは何年も前から、将来に備えて少なくとも次の4つの必要に備えるように教えられてきました。

第1に、適切な教育を受ける必要です。自分と家族を養うに足る収入が得られるような、安定した仕事に就ける技能や専門職を身に付けてください。急速に変化する世の中では、そうした技能もすぐに役に立たなくなることがあり、絶えず将来に備える必要があります。進歩についていく努力をしなければ、職場で取り残されてしまいます。例えば、歯医者^{じやく}が10年前と同じ器具や技能で診療を続けたら、患者の数はど

うなるでしょうか。コンピューターを使わずに他社と競争しようとするビジネスマンについてはどうでしょう。最新の建築材料や建築技術を取り入れない建築家はどうでしょう。教育は、生活の必要性から、生涯にわたって継続していくべきものになってきました。わたしたちは予定を組むとき、現在と将来に備えて自分を磨くための時間を十分取る必要があります。

第2は、収入の範囲内で生活し、万一に備えて貯蓄する必要があります。主が祝福してくださったものを計画的に使って生活するよう、自己訓練してください。定期的に什分の一^{じゅうぶん}を納めるように、将来の家族の必要に備えて定期的

に幾らかずつ貯金してください。将来の計画をする際には子供たちも参加させることです。子供たちが家の裏庭で、毎年、とうもろこしやラズベリー、トマトを植え、収穫し、近所の人たちに売っていくなら、きっと将来、伝道や教育の資金に大いに役立つ時が来るでしょう。ガレージの中には、使っていない自転車やおもちゃの自動車、運動器具、スキーやローラーブレードなどが眠っていることでしょう。こうしたものに使ったお金を将来のために蓄えていたら、どれほど大きな金額となったか計算してみてください。わたしが今、「使っていない」ものと言ったことを忘れないでください。ガレージがいろいろなものでいっぱい、もはや肝心の車を入れることもできないという経験のある方が、たくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。

第3に、過度の負債を避ける必要です。やむを得ず借金する場合でも、よく考えて折り、できるかぎり良い助言を受けた後に決めるべきです。それも、返済能力の範囲内にとどめるよう自制する必要があります。わたしたちは、疫病を避けるように負債を避けなさいという賢明な勧告を受けてきました。J・ルーベン・クラーク副管長は、教会員に何度も堂々と勧告しました。

「収入の範囲内で生活してください。負債は清算し、常に負債を避けてください。過去にあったように将来にも訪れるであろう不慮の事態に備えて貯蓄してください。儉約と勤勉、質素の習慣を身に付け、いっそう励んでください。」(Conference Report『大会報告』1937年10月, p.107) また、次のようなクラーク副管長の利子についての説明を、どこか目につく所にはっておくとよいでしょう。

「利子は、決して眠ることも、病むことも、死ぬこともありません。……一度借金をすれば、利子は昼夜を問わずあなたに付きまとうのです。あなたはそれを阻むことも、逃れることも、また忘れることもできません。利子は、懇願にも、威嚇にも、命令にも応じません。そして、もしあなたがそのやり方に口を挟んだり、反したり、要求に

応じなかったりしようものなら、たちまちあなたを押しつぶしてしまうのです。」(『大会報告』1938年4月, p.103)

借金は大きな誘惑です。借金は簡単にできるだけにいっそう心して避ける必要があります。もし住宅ローンが30年間ではなく10年間か15年間だったら、どれほど純資産が増えるか、また、もし自分の時間や才能を使って家の増改築をしたら、その働きがどれだけの価値を持つか、計算してみてください。

クレジットによる負債は、いともたやすく手に負えなくなります。クレジットカードを正しく使えるよう自己訓練ができていないなら、カードは持たないことです。財産管理のよくできる家族にとっては、利子は払うものではなく、稼ぐものです。わたしは仕事に就くようになって間もないころ、賢明な上司から次のような利子の定義を教わりました。「利子の原則を理解する者は、利子を受け取り、理解しない者は、利子を支払う。」

第4に、生命を維持するための食糧と日用品を入手し、貯蔵する必要があります。衣類を購入し、緊急時に役立つように、分別ある綿密な計画に基づいて貯蓄をしてください。もう随分前からわたしたちは、将来に備え、1年分の必需品を蓄えるように教えられてきました。しかし、豊かな時代にあってほとんど皆、この勧告を忘れてしまったように思われます。この勧告をないがしろにする時は去りました。現在世の中で起きている様々な出来事に思いをはせ、この勧告について真剣に考慮しなくてはならない時期なのです。

職業も常に変化しています。今日では、就職する若い人たちは定年までに、恐らく3回か4回業種の違う仕事に就くと言われています。職種に関しては、一生のうちには、もっと頻繁に、10回以上変わる場合もあるでしょう。失業時に備えるには、働いているときに、不遇の場合に備えて蓄えておくよりほかに方法がありません。まだ貯えをしていない人は、今すぐ計画を立ててください。すでに計画を立てている人は、現在の計画を見直してください。

1年分の貯蔵計画に合う価値のあるものを購入しましょう。今は大急ぎで買いあさるような状況ではありません。むしろ、注意して購入し、貯蔵品を回転させるように計画を立てる必要があります。今日の不安定な世の中では、この勧告を心に留めて将来に備えることがぜひとも必要です。

リーハイの受けた偉大な示現について、リー大管長は次のように述べています。

「すべての男女、若人が人類を悩ませている問題の答えを必死に探し求めているこの混乱と挫折の渦巻く中で、もし彼らに最も必要とされるものが一つあるとすれば、それは『鉄の棒』である。あらゆる『徳高いこと、好ましいこと、あるいは誉れあること』を最終的には破壊し、破滅させる奇妙な曲がりくねった道の多い中で、この鉄の棒は、永遠の命に至るまっすぐな道に沿って設けられた安全標識である。」(『大会報告1970-72』1971年4月, p.156)

残念なことに、あまりにも多くの会員が、リーハイの示現に出てくるあざける人々に似ています。彼らは忠実な人々をあざ笑う、無関心な人々です。神の特別な福音の証人として、また教会を管理する神の代理人として、教会の幹部を受け入れるという選択をした忠実な人々をあざけるのです。今日、わたしは皆さんに、昔から教えられてきた基本原則、すなわちあらゆる時代にあって人類に貢献してきた儉約、勤勉、誠実の原則に立ち返るよう心からお勧めいたします。世の高慢である「大きく広々とした建物」を避けてください。なぜなら、そのような建物は必ず崩れるからであり、その崩れ方は非常に甚だしいからです。

神がわたしたちを祝福され、わたしたちがこれまで受けてきた勧告に賢明に従い、わたしたちの家族の強い結束と安全のために、物心両面の備えをなすことができますように、主なる救い主、イエス・キリストの御名によってへりくだりお祈りいたします。アーメン。

信仰により 人々に影響を与える

十二使徒定員会会員

ヘンリー・B・アイリング

主が皆さんを僕としてふさわしくくださる、と確信してください。人の永遠の命をもたらすために、信仰をもって影響を与え、主を助けるのです。



今晚、全世界の聖なる神権の鍵^{かぎ}を有し、行使する預言者によって管理されるこの集会に、神の神権者の皆さんとともに集えることを感謝します。ヒンクレー大管長は4月の総大会の日曜午前の部会で話をし、最後の方でこう言いました。「兄弟姉妹、最後に、一つのことをお話したいと思います。これは、いつまでも忘れないでいただきたいと思います。」

この前置きの後に、わたしたちの注意をとらえた言葉が続きます。

「この教会は大管長のものではありません。この教会の頭^{かしら}は、主イエス・キリストです。わたしたちは一人一人が、その御名を受けています。わたしたちは皆、この偉大な御業^{みわざ}とともに携

わっています。わたしたちは、天父の御業と栄光である、『人の不死不滅と永遠の命をもたらす』(モーセ1:39) ための働きの中で、天父の助け手となるために、召されているのです。皆さんの受けている責任も、わたしの受けている責任も、その重要性に変わりはありません。この教会に、小さな召しとか、つまらない召しなどはありません。わたしたちは皆、責任を果たしていく中で、人々の生活に影響を及ぼすのです。主はわたしたち一人一人に、その責任について次のように言われました。

『それゆえ、忠実でありなさい。わたしがあなたを任命した職において務めなさい。弱い者を助け、垂れている手を上げ、弱くなったひざを強めなさい。』(教義と聖約81:5) (『聖徒の道』1995年7月号, p.76)

皆さんは、自分の果たしている召しが、大管長の召しと同じように重要な責任だと聞いて、不思議に思うかもしれません。しかし、その理由は理解できるでしょう。皆さんも大管長も、教会の頭である同じ救い主によって召されています。そして同じ業に携わって、人の永遠の命をもたらすために、主を助けているのです。召しを通して人々の生活に影響を与えています。奉仕によって皆さんが影響を与える人々は、神にとって何よりも価値ある存在です。そして、いかに影響を与えるかは、皆さんにとっても、神のほかの僕^{しもべ}にとつ

ても、同じく重要な問題です。

召しに伴う影響がこのように重要なのは、その目的が重要だからです。皆さんの責任は、人々が永遠の命に向かう選択ができるような影響を与えることです。この永遠の命は、神の賜物^{たまもの}の中で、最大のものです。青少年の皆さんの中には、簡単な割り当てに思えることや毎日の行いが永遠の結果をもたらすという考えに納得できない人もいるでしょう。

しかし、皆さんは考える以上のことをしているかもしれないのです。来週、執事定員会の会長から、本人も家族も一度も教会に来たことのない少年を、日曜日に連れて来るよう依頼されるかもしれません。皆さんは歩いて彼の家へ行き、何度か一緒に教会に来た後、彼が引越してしまうかもしれません。そんなとき、大したことはできなかった、と思えるでしょう。しかしそのようなある少年のおじいさんがステーキ大会のときにわたしのところに来て、一人の執事が孫にしてくれたことを細かく話してくれました。それは10年以上も前の、はるかに離れた所での出来事でした。目に涙をためて、今は大人になっているその執事にお礼を言っほしい、と彼は言いました。本人は気づかなかったことでしょうか、13歳の執事定員会会長から割り当てを受けた12歳の執事を通して、主が手を差し伸べられたのです。

その老人の気持ち分かる人もいるでしょう。孫の母親は、女手一つで彼を育て、教会とは接触がありませんでした。老人はあらゆる手を尽くして、彼らの生活に影響を与えようとししました。彼らを愛していたからです。娘と孫に対する責任を感じていました。そして分かったのです。いつの日か、彼らは物事のあるがままに目を向けて、永遠の命を受けるにふさわしい選択をしたいと心から願うようになり、またその選択には救いをもたらすイエス・キリストへの信仰が不可欠だと知るようになる、と。

老人の心痛は、心配な人がいても助けられないときに、ほとんどの人が感じるものでした。だれもがその心の痛

に幾らかずつ貯金してください。将来の計画をする際には子供たちも参加させることです。子供たちが家の裏庭で、毎年、とうもろこしやラズベリー、トマトを植え、収穫し、近所の人たちに売っていくなら、きっと将来、伝道や教育の資金に大いに役立つ時が来るでしょう。ガレージの中には、使っていない自転車やおもちゃの自動車、運動器具、スキーやローラーブレードなどが眠っていることでしょう。こうしたものに使ったお金を将来のために蓄えていたら、どれほど大きな金額となったか計算してみてください。わたしが今、「使っていない」ものと言ったことを忘れないでください。ガレージがいろいろなものでいっぱい、もはや肝心の車を入れることもできないという経験のある方が、たくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。

第3に、過度の負債を避ける必要です。やむを得ず借金する場合でも、よく考えて折り、できるかぎり良い助言を受けた後に決めるべきです。それも、返済能力の範囲内にとどめるよう自制する必要があります。わたしたちは、疫病を避けるように負債を避けなさいという賢明な勧告を受けてきました。J・ルーベン・クラーク副管長は、教会員に何度も堂々と勧告しました。

「収入の範囲内で生活してください。負債は清算し、常に負債を避けてください。過去にあったように将来にも訪れるであろう不慮の事態に備えて貯蓄してください。儉約と勤勉、質素の習慣を身に付け、いっそう励んでください。」(Conference Report『大会報告』1937年10月, p.107) また、次のようなクラーク副管長の利子についての説明を、どこか目につく所にはっておくとよいでしょう。

「利子は、決して眠ることも、病むことも、死ぬこともありません。……一度借金をすれば、利子は昼夜を問わずあなたに付きまとうのです。あなたはそれを阻むことも、逃れることも、また忘れることもできません。利子は、懇願にも、威嚇にも、命令にも応じません。そして、もしあなたがそのやり方に口を挟んだり、反したり、要求に

応じなかったりしようものなら、たちまちあなたを押しつぶしてしまうのです。」(『大会報告』1938年4月, p.103)

借金は大きな誘惑です。借金は簡単にできるだけにいっそう心して避ける必要があります。もし住宅ローンが30年間ではなく10年間か15年間だったら、どれほど純資産が増えるか、また、もし自分の時間や才能を使って家の増改築をしたら、その働きがどれだけの価値を持つか、計算してみてください。

クレジットによる負債は、いともたやすく手に負えなくなります。クレジットカードを正しく使えるよう自己訓練ができていないなら、カードは持たないことです。財産管理のよくできる家族にとっては、利子は払うものではなく、稼ぐものです。わたしは仕事に就くようになって間もないころ、賢明な上司から次のような利子の定義を教わりました。「利子の原則を理解する者は、利子を受け取り、理解しない者は、利子を支払う。」

第4に、生命を維持するための食糧と日用品を入手し、貯蔵する必要があります。衣類を購入し、緊急時に役立つように、分別ある綿密な計画に基づいて貯蓄をしてください。もう随分前からわたしたちは、将来に備え、1年分の必需品を蓄えるように教えられてきました。しかし、豊かな時代にあってほとんど皆、この勧告を忘れてしまったように思われます。この勧告をないがしろにする時は去りました。現在世の中で起きている様々な出来事に思いをはせ、この勧告について真剣に考慮しなくてはならない時期なのです。

職業も常に変化しています。今日では、就職する若い人たちは定年までに、恐らく3回か4回業種の違う仕事に就くと言われています。職種に関していえば、一生のうちには、もっと頻繁に、10回以上変わる場合もあるでしょう。失業時に備えるには、働いているときに、不遇の場合に備えて蓄えておくよりほかに方法がありません。まだ貯えをしていない人は、今すぐ計画を立ててください。すでに計画を立てている人は、現在の計画を見直してください。

1年分の貯蔵計画に合う価値のあるものを購入しましょう。今は大急ぎで買いあさるような状況ではありません。むしろ、注意して購入し、貯蔵品を回転させるように計画を立てる必要があります。今日の不安定な世の中では、この勧告を心に留めて将来に備えることがぜひとも必要です。

リーハイの受けた偉大な示現について、リー大管長は次のように述べています。

「すべての男女、若人が人類を悩ませている問題の答えを必死に探し求めているこの混乱と挫折の渦巻く中で、もし彼らに最も必要とされるものが一つあるとすれば、それは『鉄の棒』である。あらゆる『徳高いこと、好ましいこと、あるいは誉れあること』を最終的には破壊し、破滅させる奇妙な曲がりくねった道の多い中で、この鉄の棒は、永遠の命に至るまっすぐな道に沿って設けられた安全標識である。」(『大会報告1970-72』1971年4月, p.156)

残念なことに、あまりにも多くの会員が、リーハイの示現に出てくるあざける人々に似ています。彼らは忠実な人々をあざ笑う、無関心な人々です。神の特別な福音の証人として、また教会を管理する神の代理人として、教会の幹部を受け入れるという選択をした忠実な人々をあざけるのです。今日、わたしは皆さんに、昔から教えられてきた基本原則、すなわちあらゆる時代にあって人類に貢献してきた儉約、勤勉、誠実の原則に立ち返るよう心からお勧めいたします。世の高慢である「大きく広々とした建物」を避けてください。なぜなら、そのような建物は必ず崩れるからであり、その崩れ方は非常に甚だしいからです。

神がわたしたちを祝福され、わたしたちがこれまで受けてきた勧告に賢明に従い、わたしたちの家族の強い結束と安全のために、物心両面の備えをなすことができますように、主なる救い主、イエス・キリストの御名によってへりくだりお祈りいたします。アーメン。

みゆえに熟考と祈りに導かれ、次の質問の答えを求めます。「どうしたらあの人に信仰をもって影響を与えられるだろうか。」

熟考の出発点として、まず、救い主と弟子たちについて考えてみましょう。この世で主が御業を行われた初期のころに、弟子たちは、信仰により主の影響を受けたいと思いました。

「使徒たちは主に、『わたしたちの信仰を増してください』と言った。

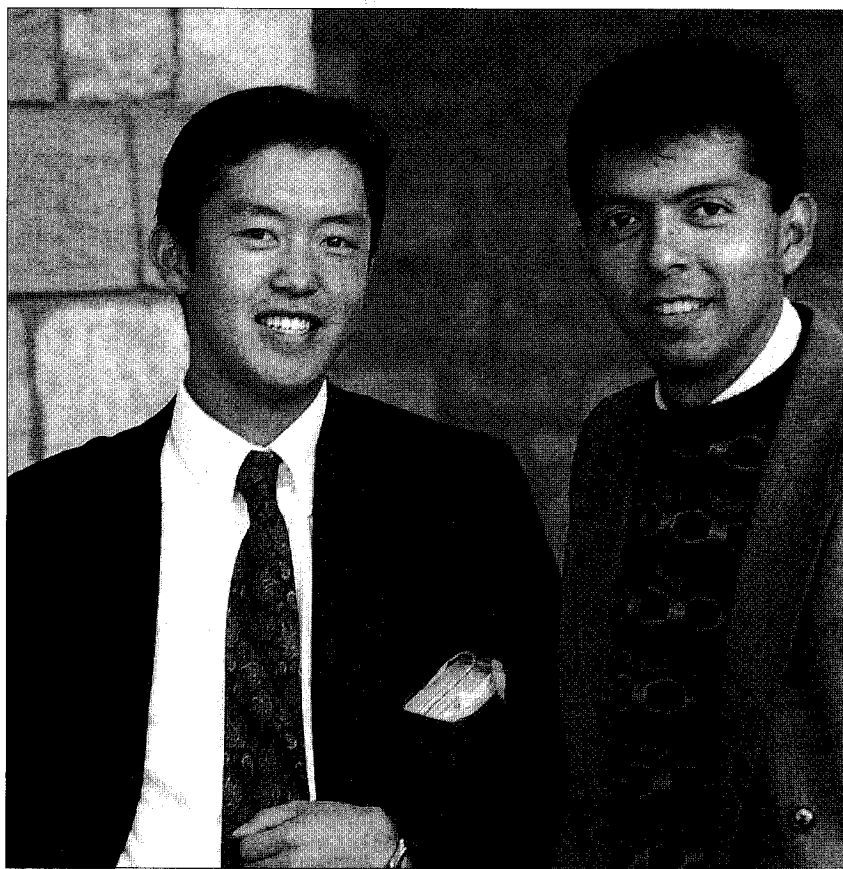
そこで主が言われた。『もし、からし種一粒ほどの信仰があるなら、この桑の木に、『抜け出して海に植われ』と言ったとしても、その言葉どおりになるであろう。』」(ルカ17:5-6)

主が種の話をして答えられたことは、驚くに当たりません。主への信仰を増すことについて、まず知るべきことは、それが木のように生長することです。アルマはどのようなたとえを使ったでしょうか。種とは、神の御言葉です。あなたが仕える相手、信仰が増していくのを目にしたいと思っている相手の心の中に、この種は植えられなければなりません。アルマはこのように説明しています。

「さて、御言葉を一つの種にたとえてみよう。さて、もしあなたが心の中に場所を設けて、種をそこに植えるようにするならば、見よ、それがほんとうの種、すなわち良い種であり、またあなたがたが主の御霊に逆らおうとする不信仰によってそれを捨てるようなことがなければ、見よ、その種はあなたがたの心の中でふくらみ始めるであろう。そして、あなたがたは種がふくらみつつあるのを感じると、心の中で次のように思うであろう。『これは良い種、すなわち御言葉は良いものに違いない。これはわたしの心を広げ、わたしの理解力に光を注ぎ、まことに、それはわたしに良い気持ちを与え始めている。』

さて見よ、これによってあなたがたの信仰は増さないであろうか。わたしはあなたがたに言う。信仰は増す、と。」(アルマ32:28-29)

種のために土を耕す必要があるように、人の心も御言葉が根付くために準備



をしなければなりません。アルマは人々に種を植えるように言う前に、心を備えるように言いました。彼らは迫害され、教会から追い出されました。

愛の深いアルマと生活環境とが人々を謙遜にして備えました。こうして、神の御言葉を聞く用意ができました。もし彼らが心の中に種を植える方を選べば、確実に生長し信仰が増し加えられるでしょう。

これらの例から、信仰をもって人々に影響を与えるために、わたしたちにできることが分かります。初めに、人々が何を選ぶか、また救い主が何をされたかは、皆さんが何をするかよりも重要です。しかし、人々が永遠の命へ向かう選択をするように助けるため、皆さんにできることがあります。

まず、種を植えるには神の御言葉を聞く以上のことが必要です。戒めを守ることによって試すのです。主はそのことを次のようにおっしゃっています。

「イエスは彼らに答えて言われた、『わたしの教はわたし自身の教ではなく、わたしをつかわされたかたの教で

ある。

神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が、神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。』」(ヨハネ7:16-17)

神の御言葉をただ聞くだけでは不十分です。天父の御心を知って、従いたいという気持ちから戒めを守る選択をするのです。こうした気持ちを抱くには、自分が愛されていると感じ、柔和でへりくだることに価値があると思わなければなりません。

皆さんは模範によって人々の力になることができます。その人への神の愛を感じて愛するなら、相手もそれを感じるでしょう。神に依存していることを感じて、柔和、謙遜になるなら、相手もそれを感じるでしょう。

模範に加え、悔い改めて福音に従いたいという望みを相手に抱かせるような方法で、神の御言葉を教えることができます。相手は、もう十分聞いたと思うかもしれませんが、しかし、神の御言葉を聞く以上のことが必要です。実

際に試して、心に植え付けるのです。

さらに効果的にするには、自分がどれほど神から愛され、神を必要としているか感じられるような方法で話すことです。

アロンは『モルモン書』に登場する偉大な宣教師の一人ですが、そのような教え方を知っていました。アロンはラモーナイ王の父である王をどのように教えたのでしょうか。

王の心は、すでに備えられていました。アロンの兄弟が息子のラモーナイに示した愛と謙遜^{けんそん}を目にしていたからです。しかし心の備えられた王にさえ、アロンは神の愛と必要性とを強調する方法で神の御言葉を教えました。アロンの以下の教え方に注目してください。

「そこでアロンは、王が自分の言葉を信じようとするのを見て、聖文を王に読んで聞かせながら、アダムの造られたこと、すなわち神が御自分の形に人を創造されたことから始めて、神がアダムに戒めを与えられたことや、人が背きのために墮落したことを話して聞かせた。

そしてアロンは、アダムが造られたことから始めて王に聖文を説き明かし、人が墮落^{あがな}したことと、人類のこの世の状態と、贖いの計画について話した。この贖いの計画は、キリストの名を信じようとするすべての人のために、キリストによって世の初めから備えられたものである。」(アルマ22:12-13)

アロンが得たようなすばらしい結果は、頻繁には起こらないでしょう。王はこのように神の御言葉を聞き、聖文の中で幸福の計画と呼ばれるものについて知りました。そして、悪を捨てて永遠の命を得るためなら何でも差し出す、と言いました。アロンが赦しを求めて神に祈るように言うと、王はその場にひれ伏しました。種が植えられ、王は御心^{みこころ}を行ったのです(15-18節参照)。

皆さんが仕える人々の心に触れるとき、アロンのした方法をそのまますべて行うわけではありません。同じことを幾つか行うのです。相手が神の愛を感じられるような方法で接します。また、自分が謙遜になって、相手が柔和

で謙遜になる道を選ぶように助けます。御霊の促すままに、神の愛とイエス・キリストの贖いの必要性について証^{あかし}を伝えながら、神の御言葉を説きます。そして、相手が守れる戒めを教えます。皆さんが伝道に行くと、求道者に祈りや『モルモン書』を読むこと、聖餐会への出席、バプテスマなどの決意を促すのはこのためです。戒めを守るときに、彼らの心に種が植えられるのです。そして種が生長すると心が広がり、そのときに信仰が増すのです。

皆さんは、すべき事柄だけでなく、御霊がそれをするように導くときを知っています。人々が神の御言葉を試し、悔い改める選択をしたいと思うとき、それは少なくとも神の愛と神への依存を感じ始めたときです。

例えば、賢明な監督は、葬儀がそのようなときであると知っています。家族が亡くなると、監督、定員会の会員、ホームティーチャー、訪問教師などが、その家族に手を差し伸べます。彼らを愛しているからです。普通、家族は謙遜になり、慰めと平安を求めており、多くの場合、神の御言葉を聞く備えができています。

監督は、そのことを頭に入れて、葬儀を計画します。証の内容は、救いの計画、イエス・キリストの贖い、復活、そして輝かしい再会です。なぜなら遺族に慰めと希望をもたらすからです。しかし、これらの教えには、それ以上のものがあります。神の御言葉を聞く人々の心は、愛と悲しみで和らいでいるので、より完全に従おうという気持ちになります。こうして信仰は増し、変化が起こり、彼らは永遠の命に向かって歩み始めるのです。

こうした機会がやって来るのは、大変な悲劇的事態や絶対的な必要に迫られる場合だけではなくです。人生には試練のときがあつて、霊的なことに固く心を閉ざした人でもこう自問します。「これ以上のものがないだろうか。」もし皆さんがその人の変わらぬ友人で、奉仕によって愛を示し、信頼されていれば、相手はその質問を皆さんに向けてくるでしょう。そのとき、相手の心が備えられたことが分かりま

す。「ええ、ありますよ。それがどこにあつて、どうしたら分かるのか、話しましょうか。」

皆さんの仕える相手が神の御言葉を試しているなら、教えるのはもっと易しくなります。例えば、執事か長老が聖文を研究するという戒めに従う決意をすれば、読んだ聖句から、神権を通して授けられる誉れと栄光について学べるでしょう(教義と聖約124:34参照)。聖文を読むという従順さによって、聖霊のささやきを聞けるようになり、神聖な召しや誉れのために、もっとふさわしい服装で神権の儀式を執行し、もっとよい言葉遣いをするようになります。周りの人が神権の権威を尊ばない場合、従順であるためには信仰が必要になります。しかし、信仰は使うときに強くなります。そして信仰が強くなれば、聞き従う力が増し加えられます。

さて、皆さんには人に奉仕するというすばらしい機会があります。人々が信仰の源を見いだし、その信仰によって、悔い改めの苦痛を経て赦しの平安を受けられるようにするのです。

しかし、たとえ人々が従順によって信仰をはぐくみ、罪を洗い清めても、その信仰を活気づけ強めるには、皆さんの助けが必要です。それには理由があります。祝福は、天父によりもたらされたことを認めなければ、その人を高慢にします。赦しのもたらす平安は、打ち負かされないように常に祈ることを怠ると、自信過剰につながります。たとえ、信仰を行使して、すばらしい霊的な経験をした人でも、後に欺かれて、背教したり、人生の試練に負けてしまったりすることがあるのです。ですから、信仰をはぐくみ、神に完全に頼れるように、皆さんの助けが要るのです。

皆さんが仕える相手が人生の試しに遭っていても、養う方法はほとんど同じです。愛を示し、謙遜になるよう励まします。神の御言葉を教え、信仰を行使して悔い改められるように、また、神が今以上の行いを望んでおられることを理解できるように助けてください。そうすれば、彼らが信仰をもつ

て耐えるのに役立つでしょう。

皆さんは人々の生活に影響を与えるという責任に圧倒されるかもしれませんが、しかし、救い主によって召されているという事実は励みになります。皆さんは、主が地上での務めの初めに召された人々と同じ約束を受けています。主は最初に、謙遜で教育がない人を召されました。最近召された皆さんに比べれば、訓練の面でも福音の知識の面でも乏しい人々でした。しかし、次の主の御言葉を聞いて、自分に当てはまることを理解してください。

「さて、イエスがガリラヤの海を歩いておられると、ふたりの兄弟、すなわち、ペテロと呼ばれたシモンとその兄弟アンデレとが、海に網を打っているのをごらんになった。彼らは漁師であった。

イエスは彼らに言われた、『わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。』

すると、彼らはすぐに網を捨てて、イエスに従った。」(マタイ 4:18-20)

主は皆さんを人間をとる漁師にされ

ます。「自分は不適格だ」と今は感じるかもしれませんが、しかしそれは不思議な方法で行われるのではなく、主に従うという選択の自然の結果です。人間をとる漁師になるために、そして、信仰をもって人々の生活に影響を与えるために、自分に何ができるか考えてみてください。皆さんに必要なのは、相手愛することでしょうか、もっと謙遜になって完全な望みを持つことでしょうか、聖霊を伴侶として、いつ、何を語り、証するか知ることでしょうか。

しかしすべては、主に従いながら主と交わした聖約を守るとき、自然にもたらされます。モロナイ書第8章25節から26節には、どのようにそれが起こるか説明されています。

「悔い改めの最初の実バプテスマである。バプテスマは信仰によって行われ、戒めを守ることである。そして、戒めを守るとは罪の赦しを生じ、

罪の赦しは柔和で心のへりくだった状態を生じ、柔和で心のへりくだった状態であれば聖霊の訪れがある。この慰め主は、希望と完全な愛を人の心に

満たされる。そしてこの愛は、熱心に祈ることによって、すべての聖徒が神とともに住む終わりの日が来るまで続くのである。」

皆さんはまだ、心の大きな変化を見ていないかもしれません。しかし、主に従っていけば必ずそれを経験できます。主が皆さんを僕としてふさわしくしてくださる、と確信してください。人の永遠の命をもたらすために、信仰をもって影響を与え、主を助けるのです。そうすれば、奉仕の中に期待以上の満足感を味わえるでしょう。

父なる神は生きておられ、皆さんを愛しておられます。イエスはキリストであり、皆さんを召し、すべての人の罪を贖われたことを証します。ゴードン・B・ヒンクレイ大管長は、神の子供たちに永遠の命を受けるうえで必要な聖約と儀式を行えるよう、すべての鍵を有しています。わたしたちの助けを通して、人々が悔い改め、神聖な聖約を交わし、それを守れますように、イエス・キリストの御名により心からお祈りします。アーメン。

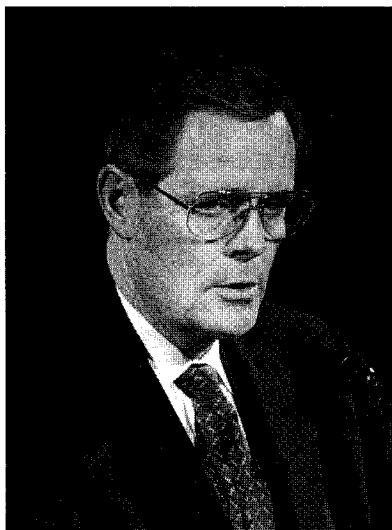


奉仕に伴う犠牲

七十人会会長

ハロルド・G・ヒラム

すべての有能な若い男性と経験豊かなご夫婦が、犠牲を払って専任宣教師として奉仕する人々の仲間に加わるよう、心から願っています。



今 晩こうして見渡しますと、多くの若い男性が雄々しい父親や王国の神権指導者とともに、席に着いているのが分かります。これらの父親や指導者の方々は、若い男性の皆さんの成功のためなら、どんな犠牲でもささげる備えができています。

犠牲の精神という、何年か前にわたしの所属するステーキのステーキ会長と話したときのことが思い出されます。わたしたちは予定していたアロン神権者のキャンプ旅行の話をしていました。各自が寝袋を持参する必要があると、わたしは考えていたのですが、ステーキ会長はこう言いました。「これまで寝袋で眠ったことがないんですよ。」すぐにわたしは聞き返しました。「ステーキ会長、ご冗談でしょう。この美しいアイダホに長年住んでいながら、寝袋で眠ったことがないんですか？」

「はい、一度もありません。」そしてこう言いました。「でも、寝袋に囲まれてやかましくて眠れなかったことならあります。」さらに続けて、「少年たちの救いに役立つのなら、もっとたくさんの寝袋に囲まれてでも寝ますよ」と言いました。

今日皆さんにお話ししたい犠牲とは、伝道活動に伴う犠牲のことです。創世の初めから天父は、世に出て福音を宣べ伝え、救世主イエス・キリストについて証するよう、ふさわしい僕を召してこられました。この召しを果たした人々の多くは、相当の犠牲を払って業を成し遂げてきました。

ここで、ずっと昔に伝道に出た4人の人物について触れたいと思います。それはアンモン、アロン、オムナー、ヒムナイというモーサヤ王の息子たちです。非常に大きな改心を遂げた4人は、すべての人に福音のメッセージを聞いてもらいたいと望みました。『モルモン書』にはこう記されています。

「モーサヤの息子たちは、救いがすべての造られたものに告知されることを願った。彼らは、だれであろうと人が滅びるのに耐えられなかったからである。まことに、無窮の苦痛を受ける人がいると考えただけで、彼らは震えおののいた。」(モーサヤ28:3)

彼らはレーマン人の中で伝道活動をさせてくれるよう、父に懇願しました。父モーサヤは、敵地で息子たちが無事でいられるか憂慮しました。

「そこでモーサヤ王は、息子たちをレーマン人の中へ行かせて御言葉を宣べ伝えさせるべきかどうか、主に尋ねた。」(6節)

主の答えの最初の部分は、モーサヤが聞きたいと願っていたことではなかったかもしれません。

「……主はモーサヤに言われた。『彼らを行かせなさい。』」(7節)しかしその後、次の3つのすばらしい約束が告げられました。第1に「多くの者が彼らの言葉を信じる」、第2に「わたしはあなたの息子たちをレーマン人の手から救い出そう」、第3に「彼らは永遠の命を得るであろう。」(7節)

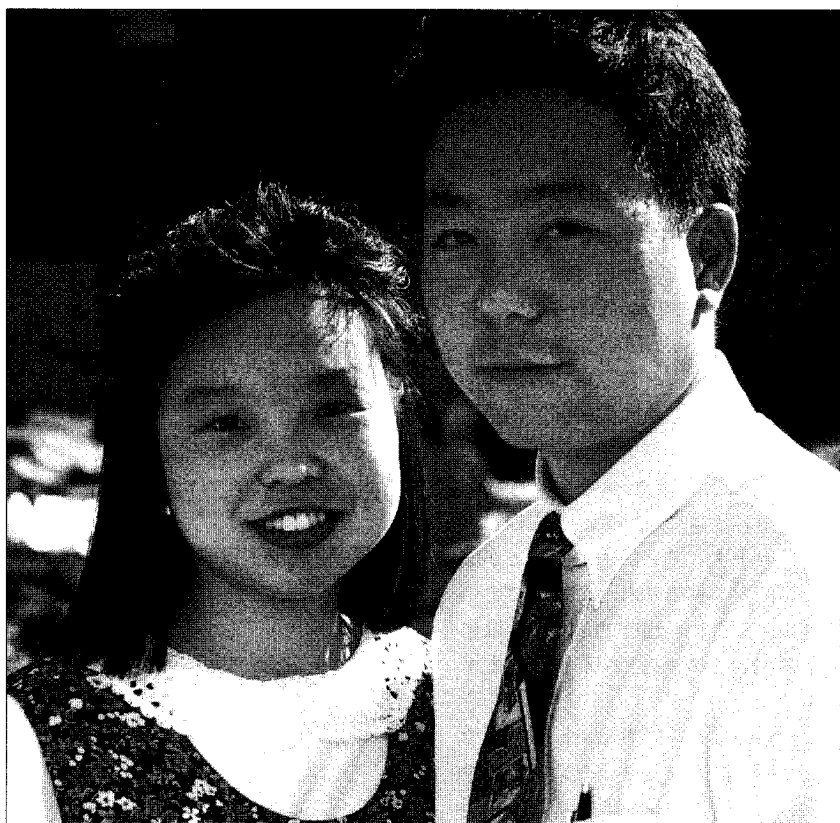
主は彼らに、この世の富を約束されたわけではありません。しかし主は、神のあらゆる賜物のうち最大のもの、すなわち永遠の命を約束されました。忠実な宣教師にとって、これ以上にすばらしい約束があるでしょうか。

宣教師となったモーサヤの4人の息子たちは、安易な道を選びませんでした。彼らの選択は、自分たちの都合や人の評判を度外視したものでした。第1に、彼らは王位継承権を放棄しました。こうして「モーサヤ王には王位を継ぐ者が一人もい」なくなりました(同10節)。息子たち全員が伝道に出たからです。伝道の業に携わることは、必ずしも周囲から受け入れられませんでした。彼らはほかの教会員からもあざけられたのです。アンモンはその経験をこう回想しています。「さて、兄弟たちよ、わたしたちがゼラヘムラの地に住む同胞に、わたしたちの同胞であるレーマン人に教えを説くためにニーファイの地へ行くと言ったとき、彼らがわたしたちをあざけり笑ったのを覚えているだろうか。」(アルマ26:23, 下線付加) 伝道の業に携わるといふ選択は、都合のいいものではありませんでした。アンモンは自分たちを襲ったチャレンジについてこう語っています。「……わたしたちは追い出され、あざけられ、つばきを吐きかけられ、頬を打たれた。また、……捕らえられて丈夫な縄で縛られ、牢に入れられた。」しかしアンモンはこう続けています。「……わたしたちは神の力と知恵によって、再び救い出された。」(29節)

確かに伝道は容易ではありませんでしたが、何千もの人々が改宗しました。

ここでもう1組の宣教師に目を向けてみましょう。今からそう遠くない、回復の時代の宣教師たちです。当時は、教会の内外の敵対者から相当な迫害がありました。二人の使徒、ブリガム・ヤングとヒーバー・C・キンボールは、預言者が彼らを地元で必要としていたであろう時期に、外国の伝道に召されました。ここで紹介するのは、ヒーバー・C・キンボール長老が伝道に旅立つ際の悲痛な状況をつづった歴史的な記述です。

「わたしは寝室に行くと、妻の手を握った。彼女はマラリア熱に苦しみもだえていた。傍らには二人の子供がやはり病に伏していた。わたしは妻と子供たちを抱き締めると、別れを告げた。唯一元気な子供は、幼いヒーバー・パーリーだけだった。あの子にとって、家族ののどを潤すために、丘のふもと
の泉から、手おけに水をくんで運ぶのは、大仕事だ。いよいよ荷馬車に乗り込んで、丘を下って行くのはほんとうにつらかった。このまま家族を残して行くことを思うと、胸の奥が締めつけられ、張り裂けそうで死ぬよりつらいと感じた。もう、耐えられないと思ったわたしは、御者に馬車を止めてもらい、ブリガム兄弟にこう言った。『ほんとうにつらいですね、体を起こして、皆にエールを送りましょうか。』わたしたちは身乗り出すと、帽子を頭上で3度振って、『イスラエル、万歳』と叫んだ。妻のピラート〔キンボール〕はわたしたちの声を耳にしてベッドから起き上がり、戸口に出て来た。彼女は笑みを浮かべながら、ヤング姉妹とともに叫んだ。『さよなら、神のご加護を。』わたしたちは返礼すると、御者に『行ってください』と告げた。この後、わたしは心が満たされ、感謝の念に包まれた。病床に伏したままだった妻が、自分の足で立つのを見られたからだ。そして、これから少なくとも2年は、再会できないだろうと覚悟したのだった。」(ヘレン・マー・ホイットニーによる引用、“Life Incidents” *Women's Exponent* 「人生の逸話」『ウーマンズ・エクスポネント』1880年7月15日、p.25) 使徒で



あるこの二人の宣教師は、このときを含め、4度伝道に召されました。

さて、現在に話を戻して、ブラジル、サンパウロのインターラゴス伝道部で、好青年の巡回宣教師と面接したときの話を話しましょう。わたしは彼にこう言いました。「ご家族のことを話してもらえますか。」すると、こんな話をしてくれました。彼は裕福な家庭に生まれました。父親は多国籍企業で重役をしていました。あるとき、家族でブラジルからベネズエラに移り住みました。きょうだいは7人で、皆教会員でした。

しかし彼が15歳のとき、父親は強盗に銃で撃たれ殺されてしまいました。家族会議の結果、ブラジルに戻って、これまでの貯えで、質素な家を買うことにしました。1年半後、母親は子供たちに自分が癌に冒されたことを伝えました。家族は残り少ない貯金を医療費の支払いに回しましたが、そのかいもなく、6か月後母親は幼い子供たちを残して、世を去りました。

ブーグス長老は、当時16歳でしたが、仕事に就きました。最初は衣料品の販

売をし、後にコンピューターのセールスをしました。こうして苦勞して得た収入は幼いきょうだいを養うために用いました。彼はこう言っています。「いつも十分な食事に恵まれていました。昼間は働いて、夜は子供達の勉強を見てやりました。とりわけ末の妹には、よく読み書きを教えてやったものです。」

ブーグス長老はさらに続けます。「そんなある日、監督から面接に呼ばれました。わたしを伝道に召したいと言うのです。わたしは監督に、『まず家族と相談させてください』と伝えました。家族会議を開くと、皆がわたしに言いました。『パパはいつも専任宣教師として、主に仕えるために備えなさいって教えてくれたじゃないか』と。わたしは召しを引き受けることにしました。そして、預言者からの召しの手紙を受け取ると、貯金を全額引き出し、新しいスーツとズボン、白いワイシャツにネクタイ、そして靴を買いそろえました。残ったお金は監督に渡しました。(それは、家族を4か月くらい養える額でした。) わたしは幼い弟や妹

たちを抱き締めると、伝道へと旅立ちました。」

わたしはこの勇気ある青年を見詰めながらこう言いました。「しかし、長老、あなたが行ってしまった今、家族の面倒はだれが見ているのですか。」

「はい、上の弟は16歳になります。わたしが母を亡くしたのと同じ年齢です。今は、彼が家族の面倒を見てくれています。」

最近、このブーグス兄弟と電話で話す機会がありました。彼が伝道から帰還して6か月になります。近況を尋ねるとこんな答えが返ってきました。

「またいい仕事に就いて、家族の世話をしています。でも伝道中のことが懐しくて仕方ありません。これまででいちばんすばらしい経験でした。今は弟が伝道に出る準備を手伝っていますよ。」

これらの偉大な宣教師をはじめとする人々が、快適な住まいや家族、愛する人々、ガールフレンドを喜んで犠牲にして、伝道の召しにこたえてきたのはどうしてでしょうか。それは彼らがイエス・キリストに対して証を持って^{あかし}いるからです。主を知るなら、何も苦になりません。ベッドの固さや狭さ、暑さや寒さ、異なった食習慣などは気になりません。難しすぎて、主に仕えるのが嫌になるような言語もあり得ないのです。主に仕えるためなら、どんな犠牲もささいなものです。主は御自分の兄弟姉妹を天父のみもとに連れ帰るために、すべてを犠牲にされたのですから。宣教師たちの召しへの忠実さゆえに、大勢の人々が永遠にわたって彼らの名前を心にとどめるでしょう。

^{あがな}贖い主のために働く専任宣教師となり、永遠の命を得られるようにしてくださった主についての知識を、天父の子供たちにもたらす助けをすることほど輝かしい召しはないと証します。すべての有能な若い男性と経験豊かなご夫婦が、犠牲を払って専任宣教師として奉仕する人々の仲間に加わるよう、心から願っています。イエス・キリストの御名によって申し上げます。アーメン。

「わたしは行って行います」

管理監督会第一副監督

H・デビッド・パートン

「行く」という決意の中で、だれにもできて最も大切なのは、「わたしは生ける預言者に従います」という決意ではないでしょうか。



後ろに座っておられるほかの中央幹部の方々、特に15人の預言者、聖見者、啓示者とともに、この歴史的な壇上にいられることは身に余る光栄であり、非常にへりくだる思いがします。神から召され、力を与えられたこれらのの方々、大管長会、十二使徒定員^{みわざ}会の方々、この大いなる神権の御業を管理し、導くために備えられ、精練され、試され、召された方々であると証^{あかし}いたします。

フィリピンのマニラにある商店街に、一つの看板が掲示され、人目を引いています。「『行く』という気持ちはあなたの知能指数よりも価値がある。」この看板に込められた意味をよく考えていると、ニーファイ第一書第3章7節に基づいて作られた、あのすばらしい

初等協会の歌を思い出します。「わたしは行って 主が命じられたことを 行う 主は道を備えてくださり わたしが従うことを 願っておられる。」“Nephi's Courage” *Children's Songbook* 「ニーファイの勇気」『子供の歌』pp.120-121) わたしはまた、福音の回復を祝う賛美歌の折り返し部分をハミングしたり口笛で吹いたりすることがよくあります。「主よ、み旨のまま行かん……み旨のまま言わん み旨に添いまして。」(「み旨のまま行かん」『賛美歌』172番)

偉大な能力と卓越した知能に恵まれているにもかかわらず、主が戒められたことを行って、行い、話すということになると、「行います」という態度を持てない人が大勢います。

行きます、行います、話します、そうします、どれを取ってみても揺るぐことのない従順の意味を含んでいます。信仰箇条の第3節にはこうあります。「わたしたちは、キリストの贖罪^{しよくざい}により、全人類は福音の律法と儀式に従うことによって救われ得ると信じる。」従順な行いの中でも最も偉大な行為は、ゲツセマネでなされたものです。救い主の心からの願いを思い起こしてみしましょう。「父よ、みこころならば、どうぞ、この杯^{さかずき}をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください。」(ルカ22:42)

神権を授かっているわたしたちにとって、「行います」という態度を求

められる大切な機会がよくあります。「わたしは神権の誓詞と聖約を忠実に守ります」「わたしは定員会の会長の指示に従います」「わたしは神聖な場所で交わした聖約に忠実な者となります」「わたしは今後の神権にかかわる奉仕の備えとして、アロン神権の務めをよく果たせるよう最善を尽くします」などがそうです。こよい、この「行う」という決意の中で、だれにでもできて最も大切なのは、「わたしは生ける預言者に従います」という決意ではないでしょうか。

ブリガム・ヤングは、「神の預言者に与えられた召しを破壊することはできないが、神の預言者と自分自身を結んでいる糸を断ち切って、地獄に落ちることはできる」と語っています (Conference Report 『大会報告』1963年5月号, p.81)。ジョン・A・ウィットソー長老は言いました。「いつの時代でも最も大切な預言者は生ける預言者である。……預言者、すなわち、過去について説き明かす者に従うことは、知恵を得るうえで不可欠である。教会の最大の強みは生ける預言者を通して、啓示が絶えず与えられるという教義にある。」 (Evidences and Reconciliations 『証言と和解』G・ホーマー・ドラム編, p.352)

ウィルフォード・ウッドラフ大管長は、ある会議の場でジョセフ・スミスがブリガム・ヤングに言ったことを、次のように記しています。「『ブリガム兄弟、前に立って記された神の御言葉、神託について、あなたの見解を述べてください。』ブリガム・ヤングは聖典を1冊ずつ自分の前に置いてから言いました。『生ける預言者の言葉は、書かれた言葉よりもっと大切なものである。なぜならば、生ける預言者の言葉は今日の人々のための神の御言葉を伝えるものだからである。』」ウッドラフ大管長は、さらに次のように書いています。「ブリガム兄弟が言い終えるとジョセフ・スミス兄弟は会衆に言いました。『ブリガム兄弟は主の御言葉を皆さんに伝えました。そして、真理を伝えました。』」 (『大会報告』1897年10月号, pp.22-23)



わたしたちは、生ける預言者にどれほど従っているでしょうか。ほんの6か月前、総大会の神権部会で与えられた勧告を覚えているでしょうか。例えば、ファウスト副管長が語った次の言葉を覚えているでしょうか。「夫または父親としての責任以上に大いなる責任はありません。その責任には解任がありません。……『あなたは心を尽くして妻を愛し、妻と結び合わなければならない。その他のものと結び合ってはならない。』 (教義と聖約42:22)」 (『大会報告』1995年4月, p.63)

モンソン副管長の熱烈な願いを覚えているでしょうか。「神権を持つ兄弟の皆さん、この世は皆さんの助けを必要としています。わたしたちが足もとを支え、手を握り、励ましを与え、鼓舞し、救いへ導かなければならない人々が大量にいるのです。……わたしたちには、見物人になるのではなく、神権奉仕というステージに立つ特権が与えられているのです。」 (『大会報告』1995年4月, p.67)

若人の皆さんの耳にゴードン・B・ヒンクレイ大管長のあの偉大な勧告が今でも鳴り響いているよう願っています。「悪い行いにふければ必ず、人生という織物の美しさを損なってしまふこととなります。不道德な行いは、どのようなものであれ、醜い糸となつてしまいます。また、どのような種類かを問わず、不正直も人生の傷となります。下品で冒瀆的な言葉遣いも人生の

美しい模様を汚してしまいます。」 (『大会報告』1995年4月, p.73)

アロン神権を授かっている若人の皆さん、「行います」というこの言葉について真剣に考えてみてください。そのために、『モルモン書』の初めの二つの書を勉強し、熟考し、よく味わうことによって気高い預言者、ニーファイのことをもっとよく知るといえるのでしょうか。わたしの友である若人の皆さんにお約束します。ニーファイのことをほんとうによく知るとなると、「主が命じられたこと」に従おうとするニーファイの決意と勇氣、熱意に感銘を受けます。そして自分もそのような特質を身に付けたいと思うようになります。そうすればサタンの誘惑を受けたとき、預言者の勧告や、両親の願い、あるいは、「主が命じられたこと」に背きそうになったとき、「わたしは行って、主が命じられたことを行います」 (1ニーファイ3:7) というニーファイのあの雄々しい言葉をすぐに思い起こせることでしょう。また、「主が命じられたこと」に反する行いをするように周囲の人々から誘われたときでも、ニーファイが兄たちに言った「主の命令を忠実に守りましょう」 (1ニーファイ3:16) という勇氣ある言葉を思い起こせるようになるでしょう。

わたしは、ニーファイの模範に従った勇氣ある青少年たちのことを知っています。年齢別グループによる野球の



州大会で優勝したあるチームのメンバーは、ほとんどがアロン神権者で構成されていました。このチームは、州の代表として州外で開かれる試合に招待されました。試合の開催地に到着して分かったことは、安息日に試合が組まれていたことでした。それぞれ、難しい決断を下さなければならない状況に追い込まれました。教会員でない人も自分のチームを支えるべきか、それとも「主が命じられること」に従って安息日を覚えてこれを聖とすべきか、という決断でした。安息日を守るとなれば、試合に勝つチャンスを無にすることになります。結局、彼らは一人一人そっとコーチのところに行き、ニーファイの模範に従って日曜日の参加は拒否すると申し出ました。ところが、日曜日になると、チームのこれまでの成績と悪天候のために、試合の日程が変更されたのでした。わたしは、ここ数年にわたり、これらの青年をそばで見守ってきました。彼らは今でもニーファイの立派な模範に従った生活をしています。彼らは伝道を終え、^{きょう}今日も主が命じられたことを行い、語るよう努力しているのです。

数週間前、わたしは長い間破られることのなかった野球の記録が更新されるのをテレビで見ました。ここにおられる皆さんの中にもご覧になった方は多いと思います。それは破られることはないと思われていた記録でした。記録を破った選手が家族とともに球場

に立って、観衆とチームから称賛されるのを見て、涙がわたしの頬を伝いました。わたしは彼の打撃と守備の腕に感心していましたが、この業績を達成する過程で見せてくれた彼の属性に、より深い感銘を受けました。彼は並外れた忍耐力、信念、犠牲、勇気、そして目標を達成するに当たった決意を示してくれたのです。「主が命じられたこと」を行って、行い、語るためにも、同じような属性が必要です。

成人の兄弟の皆さんにも、この「行う」という態度をお勧めします。それは現代の預言者たちによって何度も繰り返し強調されてきたことです。悪の力が蔓延し、社会と家族の基盤が崩壊しようとしている今日の世界にあって、それは非常に大切なことです。この「行う」態度は、自分の家族を導くことが自分にとっていちばん大切で神聖な責任であるという決意をもたらしめます。また、家族を教え、治める責任を社会や学校、教会に任せてはならないという決意をもたらしめます。『教義と聖約』には、父親と母親は子供たちに信仰、悔い改め、バプテスマ、聖霊、祈りの大切さ、主の前にまっすぐに歩むことを教える責任を主から与えられている、とあります（教義と聖約68：25、28参照）。

「生活に追われて忙しく、家族と過ごす時間がほとんど取れないけれど、その限られた時間だけは家族にとって有意義な時間となるよう努めていま

す」と、だれかが言うのを聞いたことはないでしょうか。この種の言い訳は大きな間違いです。家族を導いていくには、たくさんの時間と有意義な時間の両方が必要なのです。

わたしがワードの監督に召されたとき、4歳になる幼い息子、ブランドンが「これからお金の入った袋をもらう人になるの?」と尋ねました。わたしは什分^{じゅうぶん}の一のことを少しでも教えなければと思い、「そうだよ」と答えました。すると息子は、「ああ、よかった、これからお金持ちになれるんだね」と手をたたいて喜びました。後で分かったのですが、父親がお金持ちになって働く必要がなくなったら、もっと時間ができて自分と遊んでくれると思って喜んだのでした。

必ずしも必要でない「欲しいもの」に目を向けず、釣りやゴルフ、マリンスポーツ、旅行といった家族にかかわりのないことを避けることで、もっと家族との時間を量的に増やせるのであれば、今からでもすぐにそうする必要があります。兄弟の皆さん、このきわめて重要な「行う」という態度への決意を新たにする必要があります。忙しすぎていちばん大切な事柄、すなわち家族を正しく治め、生ける預言者に無条件で従うことを怠ることのないようにしましょう。

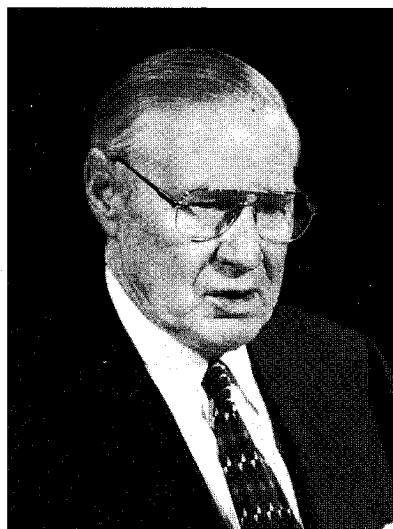
兄弟の皆さん、簡潔ながら影響力の強いあの初等協会の歌を思い起こし、さらには、口ずさむようにしようではありませんか。「わたしは行って 主が命じられたことを 行う 主は道を備えてくださり わたしが従うことを願っておられる。」わたしたちが「行う」という態度を何よりも大切にし、主の御心^{みこころ}にかなった行いができますように。わたしたちが生ける預言者に従うよう主は望んでおられます。また、主なる救い主、イエス・キリストは生きておられます。イエス・キリストはわたしたちの救い主、贖^{あがな}い主です。主は悔い改めの原則に従うときにわたしたちの罪を贖^{あがな}ってくださいます。これらのことが真実であると、イエス・キリストの聖なる御名^{みかど}により証^{あかし}いたします。アーメン。

強いられてでなく、 自ら行動する

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

主は、普通の能力の持ち主でも、^{けんそん}謙遜で信仰深く、主に仕えるのに熱心で向上心のある人を通して、大いなる奇跡を起こすことがおできになります。



教 会の神権者の皆さんにお話しするのは、いつでも神聖な責任です。今晚わたしは、おもにアロン神権者のすばらしい若者たちに向けてお話ししたいと思います。それというのも、教会の、そして全世界の未来が、皆さんが神権をどう考え、どのように尊重するかにかかっているからです。

最近、数人の若者に、皆さんの世代ってどういう世代ですか、と尋ねてみました。グループを代表して、一人の青年が「ぼくたちは、きわどい生き方をしているんです」と答えました。それ以来わたしは、きわどい生き方とはどういう意味か、何度も考えてみました。もちろん、いろいろな意味があり得るでしょう。このすばらしい青年は、バイクに乗ったり、がけを登った

りという、スリルやチャレンジのために不必要な冒険をするような、危険なレクリエーションのことを言っていたのだと思います。

数年前に、マリオン・D・ハンクス長老が、^{どうくつ}洞窟探検に行ったボーイスカウトのグループについて話したことがあります。洞窟の中の狭い通路には白い石が目印に置かれ、ところどころ明かりで照らされていました。1時間ほど歩くと、天井が高くて広いドーム型になった場所に出ました。ドームの下は、洞窟の床部分が崩れ落ちてできた深い穴が大きく口を開けているため、「底なし穴」と呼ばれていました。通路は狭くて、押し合ってもしかたのない状態でした。そのうち、体の大きい子がうっかり小柄な子を明かりの届かない泥の中に突き飛ばしてしまいました。この少年はバランスを失って怖くなり、^{くらやみ}暗闇の中で大きな叫び声を上げました。この恐怖の叫び声を聞いて、森林警備隊がすぐに駆けつけました。彼の懐中電灯に照らされて、少年は再び悲鳴を上げました。底なし穴の淵の、きわどい場所にいるのが分かったからです。'

この話の少年は無事救助されました。しかし、いつもこのようなハッピーエンドで終わる話ばかりではありません。がけつ淵のようなきわどい場所や、その先まで行くように誘惑されてしまう若者たちがあまりにも多すぎます。不安定な足がかりしかない所では、大けがをしたり、時には命を失ったりする

こともあります。人の命はかけがえがなく、冒険の名の下に犠牲にするには、あるいは『モルモン書』のヤコブ書にあるように「的のかなたに目を向け」²るには、もったいなさすぎます。

若い皆さんは、自分は不滅で、永遠に生き続けると思っているかもしれませんが、これから何年もたたないうちに、そうではないことが分かるはずです。きわどく生きるという言葉には、危険な「底なし穴」の淵のすぐ近くにいるという意味もあるかもしれません。それよりもっと危険なのは、「スリルを味わう」ために、いたずら半分³に麻薬やほかの薬物に手を出し、皆さんの魂を危険にさらすことです。

皆さんの中には、きわどい生き方によって、自分の強さや能力を発見できている人がいるかもしれませんが、また、それが自己を知る、あるいは男らしさを身に付ける道だと思っているかもしれません。しかし、意図的また不必要に、命や魂を肉体的あるいは道徳的危険にさらしながらスリルを追求することで自己を知るなど、不可能なことです。自分からわざわざ求めなくても、いつも自然にたくさんの危険がやって来るはず⁴です。皆さんが神権を尊び、才能を伸ばして、主に仕えるとき、強さが生まれ、自己を発見できるのです。皆さん一人一人が永遠の可能性を実現する資格を得るには、大変な努力が必要です。決して簡単ではありません。真の自己発見は、危険ながけを登ったり、車やバイクを猛スピードで走らせたりするより、はるかに大きな能力を求められるものです。皆さんの持っている強さ、根気、知恵、そして勇気のすべてを要します。

まだわたしが結婚したてで若かったころ、ハロルド・B・リー長老から監督会に召されました。そのときリー長老から、きわどい淵から遠ざかるためのすばらしい助言を頂きました。「これからは、単に悪を避けるだけでなく、悪に見えそうなものも避けなさい」と言われたのです。リー長老は、それ以上の説明はしませんでした。残りはわたしの良心に任されたのです。

それが、今晚、神の神権者である皆

さんにお話ししたい重要なポイントです。つまり、人生でがけっ淵からどれだけの距離を保って生きるかという道徳的決断を下す責任は、わたしたち一人一人にあるということです。ニーファイはこう記しています。「人の子らは墮落から贖われているので、すでにとこしえに自由となり、善悪を知るようになっていく。彼らは、神が下された戒めによって、大いなる終わりの日に律法に伴う罰を受けるほかは、思いのままに行動することができ、強いられることはないのである。」³強いられるとは、ほかのだれかの意志によって支配されるということです。

今は、多くの人々が自分の行動に対する責任を回避しようとする時代です。まだ若い弁護士だったとき、わたしは法律違反の嫌疑がかけられた人たちの弁護を裁判官から任命されていました。あるとき、ある若い男性の弁護を割り当てられたことがありました。二人で裁判官席に近づくと、老連邦裁判官はわたしたちを見下ろして、「どちらが被告人かね」と尋ねたのです。わたしはこのような経験から、法律を犯しても責任や罪の意識をまったく感じない人たちがいることを知りました。そういう人たちは、自分は悪いと感じていません。良心を捨ててしまったのです。犯罪は犯したけれども、それは正しく育てなかった両親の責任であり、自分に成功の機会を与えてくれなかった社会の責任だと言います。多くの場合、彼らは、自分の行為に対して責任を受け入れるかわりに、ほかのだれかや何かのせいにするのが常でした。彼らは自分自身の考えで行動せずに、人に強いられていたのです。

昔、アメリカのプロ野球のスター選手だったミッキー・マントルが、最近、長年にわたって様々な薬物を乱用してきたことを認めました。その命を救うために肝移植を受けたときに、びっくりするような声明を発表したのです。「わたしを模範にしないでください」と彼は言いました。また、残りの生涯は人の模範となる決意だ、とも言いました。ミッキー・マントルはようやく自分の過ちに責任を取ったのです。残



念なことに、それから間もなく彼はこの世を去りました。第二次世界大戦中、わたしのように士官養成訓練を経験した人がたくさんいます。そこでは、人命にかかわる重大な過失を犯したときに唯一許される言葉は、「言い訳しません」だと教えられました。

わたしたちは皆、時には勇気をもって断固、自分の生き方と自分が信じるものを擁護するために立ち上がる必要があります。ジョセフ・F・スミス大管長が青年のころ、そういう場面に遭遇したことがありました。

「ある朝、ほかの宣教師たちと一緒にソルトレーク・シティに戻る途中、乱暴な反モルモンの一団が、銃を撃ち鳴らし悪態をつきながら、馬に乗ってやって来ました。

リーダーの男は、馬から跳び下りると、『モルモンは皆殺しだ!』と叫びました。ほかの宣教師たちは、皆、森に逃げ込みましたが、ジョセフは勇敢にも一歩も退きませんでした。男は、ジョセフの顔に銃を突きつけると、『おまえはモルモンか』と尋ねました。

ジョセフは、胸を張って答えました。『そのとおりだとも。頭のとっぺんから足のつま先まで、生っ粋のモルモンだ!』

男はこの言葉に驚きました。そして、銃をしまうとジョセフと握手し、こう言いました。『あんたみたいに感じのいい男は初めてだ! 自分の信念を曲げない男に会えるのは、うれしいものだ。』男はそう言うと、馬にまたがり、仲間とともに去って行きました。」⁴

皆さんが、ジョセフ・F・スミスのように肉体的な危険に直面する可能性はあまりないでしょう。むしろ、皆さんが経験するのは、だまされたり、間違った道に引き込まれたりする危険です。ある面では、肉体的な危険よりも、こちらの危険の方が巧妙で難しく、はるかに強さと勇気を必要とします。

きわどい生き方から遠のくことは個人の責任です。時には、悪気のない若者たちが、許されることと、不適当なことを事細かく教えてもらいたがることがあります。恐らく、安心してきわどい場所に近づくためでしょう。彼らは時として、福音によって与えられているものより、禁じられているものに注意を向けているように思えます。例えば、独身成人グループで男女が一緒に泊まりがけの活動をすることは不適当だと指摘され、驚いた若者たちがいました。彼らは、「どうして預言者はそう教えていないのですか」と尋ねました。この件に関する教会の見解は、何年も前から明らかです。今さら改めて、悪に見えかねないことは避けなさい、と言うまでもないことなのです。わたしが強調したいのは、個人的な行動について何か疑問があれば、やめた方が賢明だということです。預言者の責任は神の御言葉を教えることであって、人間の行動の一点一画を細かく解説することではありません。わたしたちの道徳心が、善悪を見極めて善を選ぶように勧めてくれるはずです。もし単に悪を避けるだけでなく、悪に見えそうなものも避けるならば、自分の考えのままに行動することができ、ほかに強制されることはありません。

神権を持つ者には、自分自身の行動

に対する責任だけでなく、家庭や教会の女性と子供たちの、道徳的そして肉体的安全を守る責任があります。神権を持ち、教会のすばらしい若い女性たちとデートしている独身男性の皆さんには、彼女たちの身の安全と純潔を守るために最善を尽くす義務があります。皆さんは神権者として、教会の高い道徳基準がいつも維持されるように気を配るという、さらに大きな責任を受けているのです。主は、皆さんが性的な誘惑の淵に近づかない分別を備えていることを御存じです。もし皆さんが、淵を越えて、大いなる生殖の力を乱用するならば、皆さんの内にある神聖なものが一部失われてしまいます。わたしたちは一人一人、自分の行動に責任があります。自分自身を律することもできないで、どうしてこの世で、あるいは永遠に、重要な役割を果たすことが望めるでしょうか。

スリルを求める人の中には、内なるむなしさを、アルコールや麻薬、そして不道徳な性的関係という、外的な快楽で紛らそうとする人たちがいます。そして、自分の罪悪感を和らげるために、教会がもっと「現代的になる」「目覚める」あるいは「時代に同調する」ようになるのを、むなく待っています。デビッド・O・マッケイ大管長が教えたように、内なるむなしさを満たすには、「わたしたちの存在の中心であるはずの御方、神」との関係を整すしかありません。

「神をわたしたちの存在の中心に置くのは、簡単ではありません。それには戒めを守る決心が必要です。物質的な財産でも、肉体におぼれたり快楽を得たりすることでもなく、霊的な達成を第一の目標にしなければなりません。

わたしたちが内なる生活を完全に服従させて初めて、利己的で卑しい誘惑的な性質を超えることができます。……霊が離れると肉体に死が訪れるように、霊から神を遠ざけると、霊は死んでしまいます。わたしには、神と宗教が追いやられた世界に平和があり得るとは想像もできません。」⁵

主はわたしたち一人一人に大いなる業を用意しておられます。皆さんは、

そんなことがあり得るだろうか、と思うかもしれませんが。自分には、あるいは自分の能力には、何の特別なものも優れたものもないのに、と感じているかもしれません。もしかしたら、今まで自分は愚かだと感じたり、人からそう言われ続けてきたりした人があるかもしれません。わたしたちの中には、そう感じたり、言われたりしてきた人がたくさんいます。ミデアンびとからイスラエルを救うよう主に命じられたギデオンも、同じように感じました。ギデオンは、「わたしの氏族はマナセのうちで最も弱いものです。わたしはまたわたしの父の家族のうちで最も小さいものです」⁶と言いました。しかし、300人しか部下がいなかったのに、ギデオンは主の助けによって、ミデアンびとの軍勢を打ち破ることができました。⁷

主は、普通の能力の持ち主でも、謙遜で信仰深く、主に仕えるのに熱心で向上心のある人を通して、大いなる奇跡を起こすことがおできになります。それは、力の究極の源が神だからです。聖霊の賜物により、わたしたちは「すべてのことを知る」だけでなく、「すべてのことの真理」⁸を知ることのできるのです。

皆さんの多くは、自分の将来に不安を感じています。良心的な若者は皆そうです。しかし、皆さんの将来には、すばらしい機会が待っているのです。わたしは、長い生涯、人間関係を見詰めてきた経験から、もし次のことを守れば、皆さんの将来は想像以上に明るいものになると確信しています。

1. きわどい生活をしない。
2. 悪だけでなく、悪に見えるようなものも避ける。
3. ニーファイの忠告に従い、ほかから強制されるのではなく自ら行動する。
4. まず神の王国を求め、それによって、ほかのものはすべて添えて与えられるというすばらしい祝福を受ける。
5. 教会の指導者の勧告に従う。

今晚ここに集まり、話を聞いている何千人もの皆さんは、教会の未来の指導者であり、アブラハムの言う、創世

の以前より召され、主によって選ばれた人たちです。

「さて、主はわたしアブラハムに、世界が存在する前に組織された英知たちを見せてくださった。そして、これらすべての中には、高潔で偉大な者たちが多くいた。

神がこれらの者を見られると、彼らは良かった。そこで、神は彼らの中に立って言われた。『わたしはこれらの者を、治める者としよう。』神は霊であつたこれらの者の中に立って、見て、彼らを良しとされたからである。また、神はわたしに言われた。『アブラハム、あなたはこれらの者の一人である。あなたは生まれる前に選ばれたのである。』⁹

わたしは、主が、世界の歴史上でも困難なこの時代のために、特に強く雄雄しい霊をこの世に先立って取っておかれたのだと信じています。間もなく、この地上の神の王国の将来は若い皆さんの手にゆだねられます。皆さんの時代には今まで以上に多くのチャレンジと機会があるはずです。

皆さんが、若いうちから神権の召しにふさわしく、忠実であるように心からお勧めします。皆さんが今持っているのは備えの神権です。もし自分自身をふさわしく保つならば、遠からずさらに高い神権が与えられ、それに従って地上の神の聖い御業の中でいっそう大きな責任を託されることになります。

皆さんが、与えられた神権にふさわしくあるように、イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

注

1. *Improvement Era* 「インブループメント・エラ」1957年6月号, pp.444, 446-448, 450-451
2. 「モルモン書」ヤコブ4:14
3. 2ニーファイ2:26
4. "Courageous Mormon Boy" *Friend*, 「勇敢なモルモンの青年」 「フレンド」1995年8月号, p.43
5. *Gospel Ideals* 「福音の理想」 p.295
6. 士師6:15
7. 士師7章参照
8. モロナイ10:5
9. アブラハム3:22-23

神を尊ぶ者を、 神は尊ばれる

第一副管長

トーマス・S・モンソン

すばらしい気持ちとは、天父なる神がわたしたち一人一人を知っておられることを悟り、わたしたちに惜しみなく人を救う神の力をかいま見させ、わたしたちがその力にあずかることを許されるときにもたらされます。



神権持てる 神の僕^{しもべ}
恵みの福音 世界に宣^のべ
救いと真理 平和伝えん
……

教え、導き 恵みたまひ
主は終わりまで 共にいます¹！

これらの貴い言葉は、実に力強い約束を宣言しています。この歌詞はアロン神権を有する若い男性の皆さんにも、その父親をはじめとする、メルキゼデク神権を授かったすべての兄弟たちにも、当てはまります。

まだ昨日のことのようには思えるのですが、わたしはワードの執事定員会で書記をしていました。わたしたちは、賢明で忍耐強いある兄弟たちから、指導を受けていました。彼らはよく聖文を引用して教え、わたしたちをよく理解してくれていました。時間を割いてわたしたちの話に耳を傾け、一緒に笑い、わたしたちを強め、励ましてくれました。そして、わたしたちも救い主のように、知恵を加え、背丈を伸ばし、神と人から愛されることができると強調してくれました。彼らはわたしたちの模範でした。彼らの生活は証を反映していました。

青年期は成長の時期です。人格を形成するこの時期、わたしたちの心は真理を受け入れやすい一方、間違ったことも受け入れがちです。どちらを選択するかは執事や教師、祭司である皆さん次第です。年齢を重ねるにつれて、

選択はますます複雑になってきます。時には誘惑を受けて迷うことがあるかもしれません。個人の道徳的な標準を持つ必要性は日ごとに高まるだけでなく、1日のうちに何度も生じます。

教会の集会でよく耳にする賛美歌に込められた勧告は、心を鼓舞する教えを与えてくれます。

「選べ、正義を選べよ
みたまに導かれ
正義に頼るときには
光、常にあり」³

正しいことをするよう決心する気持ちちは、少年時代から培えます。あるしめやかな葬儀に参列した後の墓地で、まだ土をかぶせていない埋葬地のそばに一人の小さな少年が立っていました。少年の顔は無垢^{もくこ}そのもので、きらきりと輝く目からは、明るい将来を約束されていることを感じました。わたしは彼にこう言いました。「坊や、君はきっとすばらしい宣教師になるよ。今、何歳？」

「10歳です。」

「じゃあ、あと9年したら、伝道に出た君を見つけさせてもらうよ。」

少年はすぐに自分の気持ちを述べました。「モンソン兄弟、ぼくを探さなくてけっこうです。ぼくがあなたを探しますから。」若人の皆さん、わたしたちは人生の教訓を親から学び、また学校や教会でも学びます。しかし、「天父御自身が教えてくださっていて、わたしたちはその生徒なんだ」と感じる瞬間があります。今晚、そのような例をお話ししましょう。印象に残る、不変の教訓です。水泳に関するお話ですが、水泳の技術よりはるかにすばらしい教えが秘められています。

わたしは美しいプロボ峡谷の流れの速い川で泳ぎを覚えました。泳ぎ場は、川底の深くなった地点にあり、川に落下した大きな岩が散在していました。きっと、鉄道工事の人が峡谷を爆発させたときのものでしょう。泳ぎ場は危険で、深さは5メートル近くもあり、急な流れは大きな岩の方に向かい、その岩の下には渦巻きがわたしたちを吸

こよい、皆さんの前に立てるのは非常に大きな特権です。わたしは皆さんの信仰に感動し、皆さんの持つ可能性に畏敬の念を覚え、主の御業における義務への献身的な態度に鼓舞されています。

個人的にも親しい友であり、ともに主の御業に働いていた故ブルース・R・マッコンキー長老には大好きな賛美歌があり、彼はその曲を聞くのを楽しみにしていました。「この賛美歌の歌詞は、最善を尽くそうという気にさせてくれる」と、彼はよく言っていたものです。歌詞を少し読んでみましょう。

「み言葉により 召されし者

い込もうと待ち構えていました。そこは初心者や未熟な泳ぎ手には不向きでした。

わたしが12歳か13歳のある暑い夏の午後のことです。わたしは耕運機のタイヤから取った大きなチューブに空気を入れて肩に引っ掛け、はだしで鉄道の線路沿いに川の方へ歩いて行きました。泳ぎ場から1キロ半ほど離れた所で水に入り、チューブの上に座って、ゆったりと川下りを楽しんでいました。川を怖いなどは、思いませんでした。その川の特徴をよく心得ていたからです。

その日、プロボ峡谷のビビアンパークでは、ギリシャ出身の人たちが恒例の親睦会しんぼくかいを開いていました。ギリシャ料理やゲーム、ダンスを楽しんでいました。しかし、何人かが川で泳ごうとしてパーティーを抜け出しました。彼らが例の泳ぎ場に着いたころには、だれも泳いでいませんでした。日が暮れかかっていたからです。

一方、空気入りチューブはわたしを乗せて、上下に揺れながら、泳ぎ場のある急流に差ししかろうとしていました。すると、「助けて、だれか彼女を助けて」という半狂乱の叫び声が聞こえてきます。波などない体育館の水泳用のプールに慣れた一人の若い女性が、岩の所で危険な渦巻きに引き込まれていたのです。彼女を救助できるほど泳ぎの達者な人は、その場に一人もいません。突然、大惨事につながりそうなその場にわたしが流れて来ました。彼女の頭が3度目に水の下に沈んで見えなくなり、水の底へとまさに沈もうとしていました。わたしは手を伸ばすと彼女の髪をつかみ、彼女をチューブの片側に引き上げ、腕に抱えました。泳ぎ場の端まで来ると、流れが緩やかになりました。わたしはこの女性を乗せたままチューブをこいで、彼女を待つ家族や友人たちのところまで運びました。彼らはびしょぬれになったこの女性を抱き抱えると、キスをしてこう叫びました。「神様、ありがとうございます。この子は助かりました。」そして彼らはわたしを抱き締めてキスしました。わたしは恥ずかしくなって、急いでチューブの所に戻り、川下りを続



集会の賛美歌を歌う大管長会と十二使徒定員会会員。

けて、ビビアンパーク橋の所まで行きました。水は冷たかったのですが、寒さを感じませんでした。温かい気持ちに包まれていたからです。自分が人命救助に携わったことを改めて実感しました。天父が、「だれか彼女を助けて」という叫びを聞かれ、執事の少年であったわたしを、必要とされたまさにその瞬間に川の流れに乗せられたのです。その日、わたしは現世での何よりもすばらしい気持ちとは、天父なる神がわたしたち一人一人を知っておられることを悟り、わたしたちに惜しみなく人を救う神の力をかいま見させ、わたしたちがその力にあずかることを許されるときにもたらされると感じました。

神権の務めを行使するときに絶えず

祈ってください。そうすれば決して不思議の国のアリスのような状況には陥らないでしょう。ルイス・キャロルの物語にあるように、アリスは1本の道を通して不思議の国の森にたどり着きました。するとそこで道は二つに分かれていました。どちらの道にするか決めかねたアリスは、突然木の近くに現れたチェシャ猫に尋ねました。「どっちへ行きたいのかね?」と、猫が尋ねました。

「分からないわ。」

「それじゃ、どっちを選ぼうと大した違いはないね。」

神権を持つわたしたちは、自分がどこに行きたいのかよく分かっています。わたしたちの目的地は、天父の日の栄えの王国です。わたしたちには、日の

栄えへと続く明確な道を歩み続けると
いう神聖な責任があります。

もうすぐ皆さんも伝道に出る備えが
できます。皆さんが主の御霊の指示す
る所ならどこへでも喜んで行く備えが
できているのは、実にすばらしいこと
です。今の時代の風潮を考えると、そ
れだけでも現代の奇跡です。

伝道活動は、確かにきつい仕事です。
宣教師として奉仕するためには長い期
間にわたる研究と備えが要求されます。
宣教師自身が自分の宣べ伝える神聖な
メッセージに見合う生活を送らねばな
らないのです。それは「愛の働き」で
あると同時に、犠牲と、義務への献身
を伴います。

宣教師志願者の子供を持つある母親
が心配して、わたしにこう尋ねたこと
があります。「伝道の召しを待つ間、
息子は何を学んだらよいと思いま
すか。」奉仕についてだれもが知ってい
る、耳慣れた条件以上のことも含めて、
何か深遠な返事を彼女が期待してい
るのは明らかでした。しかしわたしはこ
う言いました。「息子さんに料理の仕
方を教えてください。特に、息子さん
に人とうまくやっていく方法を教えて
あげてください。これらの重要な二つ
の技術を身に付ければ、息子さんはさ
らに幸福で効果的な伝道生活を送れる
でしょう。」

若人の皆さん、執事、教師、祭司と
しての務めについて学び、自分は主の
用向きを受けているという思いを込め
て、愛と決意をもってそれらの務めに
携わってください。そうするとき、皆
さんは伝道の準備をしていることにな
るのです。

時々、教訓は静かに訪れます。2、
3週間前、わたしはソルトレーク・シ
ティーにある養護施設での聖餐会を訪
問しました。聖餐会のテーブルの所に
いた祭司たちが、自分たちの務めを執
り行うに先立ち、静かに座っていると、
開会の賛美歌が発表されました。大
きな部屋の前の方に座っていた患者が、
賛美歌を開くのにてこずっていました。
すると若い男性の一人がその患者のそ
ばにさっと歩み寄り、正しい賛美歌の
ページを優しくめくり、体の不自由な

この男性の指を取って賛美歌の歌い出
しの部分に持っていきました。二人は、
互いに心の通い合った笑みを交わし、
祭司の男の子は自分の席に戻りました。
愛をもって人を助けようとするこの謙
遜な態度に、わたしは感動しました。
わたしは彼をたたえてこう言いました。
「君はきっと優れた宣教師になる
よ。」

表現力に恵まれた宣教師もいれば、
福音の知識に秀でた宣教師もいます。
しかし中には大器晩成型で、日を追う
ごとに伝道技術にたけ、成功を収めて
いく人もいます。伝道部で、指導者と
しての地位のはしごを上り詰めよう
という誘惑を退けてください。監督長老
であろうと、巡回宣教師であろうと、
伝道部長補佐であろうと差異はありま
せん。重要なのは一人一人が最善を尽
くして、召された業に働くことな
のです。例えば、わたしは伝道部長時代、
何人かの宣教師たちが新任宣教師の訓
練にとってもたけていたので、彼らにほ
かの指導的責任を与えるのを控えてい
ました。

伝道地への赴任は、人によっては圧
倒される、びくびくする経験です。ハ
ロルド・B・リー大管長は、教会で責
任に召されたものの、至らなさを感じ
心配している人々について話したこと
があります。そしてこう勧告しました。
「忘れないでください。主が召された
人について、主は、ふさわしいと認め
ておられるのです。」

わたしがトロントに伝道本部を持つ
カナダ伝道部の伝道部長として働いて
いたとき、一人の宣教師がわたしたち
の伝道部に着任しました。彼はほかの
宣教師たちのようには、あまり才能に
恵まれていませんでした。しかし、宣
教師の業に献身的に打ち込みました。
伝道活動は彼にとっては困難なもので
したが、彼は全力を尽くそうと、雄々
しく取り組みました。

中央幹部を迎えての、あるゾーン大
会でのことです。訪問した中央幹部が
司会する聖句クイズに、宣教師たちは
あまり答えられないでいました。彼は
少しばかりの皮肉を込めてこう言いま
した。「これでは、皆さんが基本的な

伝道用パンフレットとその著者の名前
でさえも知っているとはとても思えま
せんね。」

わたしはその言葉に耐え切れなくな
り、大声でこう言ってしまいました。
「宣教師たちは、ちゃんと知っている
はずです。」

彼は「そうですか、では確かめてみ
ましょう」と言って、宣教師たちを起
立させました。そして、彼らの知識を
試すために一人の宣教師を選んだので
すが、聡明で、経験豊かで、熟達した
宣教師は選ばれませんでした。より
によってあの新しい宣教師、このような
知識を得ることに苦戦していたあの宣
教師が選ばれたのです。わたしの心は
文字どおり沈みました。わたしは長老
の顔に困り切った表情を見て取りまし
た。彼が恐怖で縮み上がっているのが
分かりました。どんなに心からこう
祈ったことでしょうか。「天父よ、どう
か彼を助けてください。」主は確かに
助けてくださいました。長い沈黙の後、
訪問者は言いました。「『救いの計画』
のパンフレットの著者はだれです
か。」

永遠とも思えるような時間の後、あ
の宣教師がびくびくしながら答えまし
た。「ジョン・モルガンです。」

「『どの教会が正しいか』を書いた人
は。」

再度の沈黙の後、彼は答えました。
「マーク・E・ピーターセンです。」

「じゃ、『主の什分の一』は。」

「ジェームズ・E・タルメージが記
しました。」

こうしてわたしたちの用いていた伝
道用パンフレットの名前がことごとく
挙がりました。最後にこの質問がなさ
れました。「ほかにパンフレットはあ
りますか。」

「はい『バプテスマの後、何をなす
べきか』というのがあります。」

「だれが記しましたか。」

ためらわず彼は答えました。「著者
の名はパンフレットには示されていま
せん。しかし伝道部長の話では、マー
ク・E・ピーターセン長老がデビッド・
O・マッケイ大管長から割り当て
を受けて記したそうです。」

それに続いて中央幹部のとった態度はさすがでした。わたしの方を向き直ると、こう言ったのです。「モンソン伝道部長、あなたとあなたの宣教師の方々におわびいたします。彼らは基本的なパンフレットとその著者についてほんとうによく知っていました。」その日、この幹部がとても大きく見えました。以来、わたしたちは個人的に親しい友人となりました。

ではあの宣教師はどうなったでしょうか。彼は名誉ある伝道を全うし、西部の故郷に帰りました。後に彼はワードの監督に召されました。わたしは毎年、彼と彼の奥さんや子供たちからクリスマスカードを受け取ります。彼の署名の下にはいつもこう書き添えてあります。「あなたの一番の宣教師より。」

毎年、クリスマスカードが届く度に、わたしはあの経験を思い出します。そして『聖書』のサムエル記上に記された教訓が心にしみわたるのです。預言者サムエルは主からベツレヘムのエッサイのところに行くように指示されます。啓示により、エッサイの息子たち

の中からイスラエルの王を見つけるためです。サムエルは主が命じられたように行動しました。エッサイの息子たちが一人一人、サムエルに紹介され、7人目まで来ました。彼らは外見上、立派でふさわしく見えたが、サムエルは、選ばれたのはこの人たちではない、と主から告げられました。「サムエルはエッサイに言った、『あなたの息子たちは皆ここにいますか。』彼は言った、『まだ末の子が残っていますが羊を飼っています。』サムエルはエッサイに言った、『人をやって彼を連れてきなさい……そこで人をやって彼をつれてきた。……主は言われた、『立ってこれに油をそそげ。』」⁴

わたしたちが学ぶべき教訓は、サムエル記上の第16章7節にあります。「人は外の顔かたちを見、主は心を見る。」

神権を持つ者として、一つに結ばれたわたしたちは皆、各自の召しを熱心に果たすなら、天父の導きを受けるにふさわしくなれます。わたしたちは主イエス・キリストの御業に携わってい

ます。古の時代の人々のようにわたしたちは、主の召しにこたえています。わたしたちは主の御言葉を受けています。わたしたちは主の御言葉を民に宣言するという、モルモンを通じて与えられた厳粛な義務を継承していかなければなりません。モルモンはこう記しています。「見よ、わたしは神の御子イエス・キリストの弟子である。わたしはイエス・キリストの民の中でイエス・キリストの言葉を告げ知らせ、彼らが永遠の命を得られるようにするために、イエス・キリストから召された。」⁵

次の真理をいつまでも心に留めることができますように。「神を尊ぶ者を、神も尊ばれる。」イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

1. 「み言葉により」『賛美歌』197番
2. ルカ2:52参照
3. 「選べ、正義を」『賛美歌』152番
4. サムエル上16:11-12
5. 3ニーファイ5:13



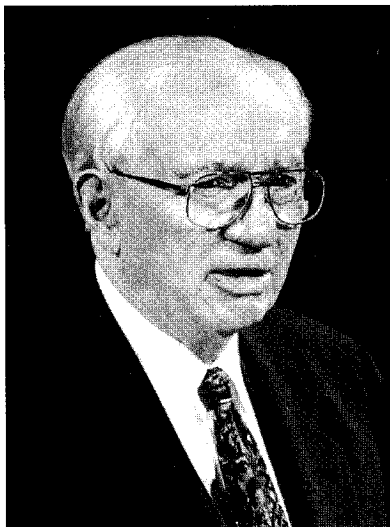
大会開催中のタバナクルの内部。

伝道と神殿、 そして管理の職

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

全能の神の御業を強める仕事に携われることは、何と喜ばしく、すばらしいことでしょう。



皆さんの信仰と祈りに、わたしが少しなりとも影響力を持っていたら、役立つ言葉をお伝えできるように願っています。1週間前の土曜日の夕べ、扶助協会のすばらしい大会がここタバナクルで開かれました。力と信仰と才能に恵まれた大勢の女性たちの顔を拝見できたのは心を鼓舞される経験でした。そして、今、同じように、兄弟たちの顔を拝見し、皆さんの力と信仰、忠実さと献身の程を感じることができ、同じように、心を鼓舞されています。

この時間は靈感に満ちたひとときでした。良い勧告を数多く聞いてきました。それらを受け入れるならば、わたしたちはそれぞれの生活の中で祝福を受けることができます。2、3の点に

ついて皆さんにお話ししたいと思います。

その第1は、すでにモンソン副管長とヒラム長老が話されたことです。わたしはそれを支持するとともに、わたし自身の考えを申し添えたいと思います。

それは、伝道活動のことです。わたしは最近、イギリスのロンドンに行っていました。そこで働いている宣教師たちと集会を持ちました。その模様は、一部、英国放送協会によって撮影されました。彼らは英国諸島における当教会の伝道活動を題材にしたドキュメンタリーを制作しているのです。

それに先立ち、わたしはBBCラジオの国際放送サービスからインタビューを受けました。レポーターの男性は、以前に宣教師たちを見たことがあり、その若々しさを心に留めていたのでした。彼は「まだひよっこのこの若者たちの話に人々が耳を傾けると思えますか」と聞いてきました。

ついですが、この「ひよっこ」という言葉には、未熟、経験が乏しい、洗練されていない、というような意味があります。

わたしはレポーターに笑って答えました。「ひよっこの若者ですって？この宣教師たちは、パウロの時代のテモテと同じなのです。パウロは自分の若い同僚に書き送った手紙の中でこう言いました。『あなたは、年が若いために人に軽んじられてはならない。むしろ、言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範にな

りなさい。』（1テモテ4：12）

驚くべきことです、人々は宣教師たちを受け入れて、彼らの話に耳を傾けています。彼らは健全です。明るく、機敏で、正直です。清潔な感じがしますし、人々は彼らをすぐに信頼します。」

「彼らは奇跡なのです」と付け加えておけばよかったと思っています。彼らは戸別訪問をしますが、最近、ロンドンのような町では、家にいる人が少ないので、街頭に出て、人々と会話を交わすようにもしています。

それは、感受性の強い若者たちにとって容易なことではありません。しかし彼らは、パウロがテモテにあてた、次の言葉を信じるようになってきています。

「というのは、神がわたしたちに下さったのは、臆する霊ではなく、力と愛と憤みとの霊なのである。

だから、あなたは、わたしたちの主のあかしをすること……を、決して恥ずかしく思ってはならない。」（2テモテ1：7-8）

恐れは神からではなく真理の敵からやって来ることを、宣教師たちは知っています。それで彼らは、自分たちが携わっている業とメッセージについて、人々を話に引き付ける能力を伸ばしています。彼らは今年、つまり1995年に30万人の改宗者を教会に導き入れると予想されています。それは、シオンの100のステーキに等しく、またワードにして500を超す数字です。

「ひよっこの若者たち？」そうです。世故にはたけていないかもしれませんが、しかし、それは何とすばらしい祝福でしょうか。彼らには、少しもごまかしがありません。詭弁を弄することもありません。彼らは、自分自身の確信に基づいて、心からの言葉を語ります。一人一人が生ける神の僕であり、主イエス・キリストの使いです。彼らの力は、この世につける事柄を学んだところから来るものではありません。彼らの力は、信仰、祈り、謙遜さから来るものです。皆さん御存じのように、その業は容易なものではありません。これまでも易しいことではありませんでし



大管長会。左から、トーマス・S・モンソン第一副管長、ゴードン・B・ヒンクレー大管長、ジェームズ・E・ファウスト第二副管長。

た。その昔、エレミヤは、主は主の民を町から一人、氏族から二人を取ってシオンへ連れて行き、御自身の心にかなう牧者たちに彼らを養わせる、とおっしゃいました（エレミヤ3：14－15参照）。一人一人の宣教師を見れば、多くの場合、収穫はそれほど大きいものではありません。しかし、全体として見ると、それは大変な数になります。その業は、勇気を必要とします。努力と献身を必要とします。また、ひざまずいて主に助けと導きを求める謙遜さが求められます。

わたしは、こよい集っている大勢の若人の一人一人にチャレンジを与えたいと思います。専任宣教師として主に仕えるにふさわしくなれるよう、今から備えてください。主は、「備えていれば恐れることはない」（教義と聖約38：30）と言っておられます。この神聖な奉仕のためにあなたの人生の2年間をささげる備えをしてください。それは、あなたの人生の最初の20年間の什分の一に当たるものです。今皆さんが手にしている喜び、つまり、命、健康、力、食べ物、衣服、親、兄弟、姉妹、友達のことを考えてください。それらはすべて主から賜ったものです。もちろん、あなたの時間は貴重なものですし、2年間も費やす余裕がない、と思うかもしれません。しかし、わた

しはあなたが伝道地で過ごす時間は、献身的な働きのために用いられるならば、その投資に対しては、人生の中のほかのいかなる2年の歳月にも増して、大きな報いが得られることをお約束します。献身と奉獻が何を意味するかを理解できるようになります。あなたは人に説き勧める力をはぐくみ、それが人生のすべてにわたって祝福となるでしょう。あなたが大胆に、また確信をもって進むとき、おく病な性質、恐れ、内気な性格が徐々になくなっていきます。ほかのひとと協力することを覚え、チームワークの精神をはぐくんでいきます。奉仕の精神が、利己心という害悪に取って代わるようになります。いかなるときにも増して、主に近づけます。主の助けがなければ自分は弱く純朴な者であり、主の助けがあれば奇跡を行えることを知るようになります。

あなたは勤勉に努力する習慣を身に付けることができます。努力目標を立てる才能を伸ばすことができます。心一つにして働くことを覚えます。これらのことはすべて、後に学業に励むとき、また人生を歩むときのすばらしい土台となります。2年間は決して無駄な時間にはなりません。このように様々な技術を身に付けられるからです。

あなたは、自分が宣教師として教える相手の人々とその子孫に祝福を及ぼ

すようになります。そして自分自身の人生にも祝福をもたらすようになります。あなたを支え、祈りをささげてくれる家族の生活にも祝福をもたらすようになります。

何にもまして、主に忠実によく仕えた結果として、心に甘美な安らぎを味わうことでしょう。あなたの働きは、天父への感謝の表現となります。

あなたは、^{あがな}贖い主を現世また永遠における最大の友として知るようになります。また、贖いの犠牲を通して、主が永遠の命と昇栄への道を開いてくださったことを知るようになります。永遠の命と昇栄はほかのいかなる願いをものぐすばらしいものです。

忠実によく伝道を行うならば、さらに良い夫、良い父親、良い学生となり、職場においてもさらに良い働き手となります。この伝道の業の根本は愛です。その本質は、無私（きよう）の精神にあります。自分を律することが求められます。祈りは、力の源の扉を開きます。

若い兄弟の皆さん、末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師として主の畑で収穫の働きをなすことをあなたの人生設計の中に組み入れるよう、今日決心していただきたいと思います。

次の話題に移りましょう。伝道活動は、世界中の天父の生ける子供たちが救いの儀式を受けられるようにする働きと関連しています。一方、神殿の業はおもに、死の幕の向こう側へ行った、神の息子、娘たちの代わりに行う働きと関連しています。神は人を偏り見る御方ではありません。あらゆる国々に生きている人が、福音の救いの儀式を受けるに値するのであれば、すでにこの世を去った人々も同様にこの儀式を受けるに値します。

わたしたち教会員は、自分自身のために神殿の儀式を受け、それから、それらの儀式を亡くなった人々のために行わないかぎり、福音のすべての祝福にあずかることはできません。会員がこのことをなすためには神殿がなければなりません。わたしはこのことについて非常に強く感じるものがあります。

中央幹部として召される前のことですが、1954年にわたしはマッケイ大管

長の事務室に呼ばれ、スイス神殿の建設計画のことを知らされました。大管長は、どのようにしたら、神殿奉仕者の数を増大することなしに、様々な言語で、神殿の儀式を執行できるか、その方法を研究する責任をわたしに与えました。それ以来、わたしはこれらの神聖な建物とそこで行われる儀式に関与してきました。

現在では、47の神殿が運営されています。ユタ州には8つ、合衆国内のその他の地域に16、カナダに2つ、北米以外の地域では21あります。47の神殿のうち28は、わたしが副管長になった1981年以降に献堂されたものです。それらに加えて、4つの神殿が、大々的な改修の後に、再奉献されました。現在、6つの神殿、つまり、ユタ州のアメリカン・フォークとバーナル、ミズーリ州のセントルイス、^{ホンコン}香港、イギリスのプレストン、コロンビアのボゴタに建設中です。

さらに、7つの神殿の建設計画が発表されています。ドミニカ共和国のサント・ドミンゴ、スペインのマドリッド、エクアドルのグアヤキル、ブラジルのレシフェ、ボリビアのコチャバンバ、テネシー州のナッシュビル、コネチカット州のハートフォードにです。現在ベネズエラに神殿を建てる計画についても検討中です。

ここ何年かにわたってハートフォード近辺に神殿の適地を探してきましたが、その間、その北と南の地域で教会が非常に発展し、現時点でハートフォードに神殿を建設する計画は中止することになりました。そのかわりにマサチューセッツ州ボストンとニューヨーク州ホワイトプレーンズに建設することになりました。つまり人々の必要にこたえるため、当初の計画の一つだけでなく、二つの神殿をこの地方に建設することを決め、すばらしい敷地も確保したのです。

ハートフォードの皆さんにはおわびいたします。ハートフォードの信仰篤い聖徒の皆さんはこの発表を聞いてかなりがっかりされるのではないかと思います。わたしたちが現地の指導者とともに長い時間をかけて、ニューヨー

ク州やニューイングランド地方の聖徒の必要にこたえるため、神殿用地としてふさわしい土地を探そうと努力してきたことは、皆さんも御存じだと思います。ハートフォードの教会員の方々ががっかりさせる結果になってしまったことについては大変遺憾に思いますが、今回の新たな決定に導かれたことについては満足しています。この二つの神殿が建設されることによって、ハートフォードの聖徒たちはそれほど遠くまで旅をせずに神殿に行けるようになるでしょう。

これらに加えて、現在6つの敷地が検討されています。実に壮大なプログラムです。

わたしは、世界中の末日聖徒のために神殿が比較的近い所に置かれるようになることを切に願っています。しかし、その速度にも限度があります。それぞれの神殿が、良い場所に建てられ、近隣の方々とも良い関係を永続的に維持できるようにと努力しています。そのような条件の整っている場所の不動産は、たいてい高価です。神殿は、普通の集会所やステーキセンターとは異なり、もっと複雑な建物です。その建築様式は高度なものです。時間もかかりますし、費用もかかります。しかしながら神殿の業は、わたしたちになし得る限りの速度で進んでいます。この業が速度を増し、それによってもっと大勢の人々が神聖な主の宮に参入しやすくなることを、わたしはいつも祈っています。

ブリガム・ヤング大管長はあるとき、もし若い人たちが神殿結婚の祝福についてほんとうに理解するなら、必要とあらばイギリスまでも歩いて行くだろうと言いました (*Journal of Discourses* 『説教集』11:118参照)。皆さんが、それほどまでの距離を行かなくても、神殿に参入できるようになることを願っています。

これらのすばらしく、かつたぐいまれな建物、そして、そこで執行される儀式は、わたしたちの礼拝の究極の姿を表しています。これらの儀式は、わたしたちの神学の最も深遠な表現となっています。わたしはすべての会員

の方々に、神殿推薦状を持つにふさわしい生活をし、それを貴重な財産と考えて大切にし、これまで以上の努力を払って主の宮に参入し、そこで受ける御霊と祝福にあずかるようにと、わたしの持てる限りの力を込めて、強くお勧めします。誠意と信仰をもって神殿に行くすべての人が、参入する度にさらに成長した人となって出て来ることに、わたしは喜びを覚えています。わたしたちは皆、常に、進歩を必要としています。時にはこの世の喧噪^{けんそう}を離れて、神の神聖な宮の中に足を踏み入れ、神聖さと平安の中に主の御霊を感じる必要があります。

もしメルキゼデク神権に聖任された教会員すべてが神殿推薦状を持つにふさわしい生活をし、主の宮に入り、神と証人の前で、厳かに聖約を新たにするならば、だれもがより善い人となります。わたしたちの間に、不貞はなくなります。離婚も完全になくなるでしょう。多くの心の痛みや苦悩を避けることができます。家庭には、これまで以上に平安と愛と幸せがもたらされます。涙する妻と子供たちが少なくなります。わたしたちの間には、これまで以上に相手に対する感謝と尊敬の念が生まれます。そして、主はわたしたちのことを喜ばれ、もっと祝福してくださることでしょう。わたしはそう確信しています。

さて兄弟たち、話を閉じる前にもう一つのことについて話してみたいと思います。規定の時間を少し過ぎるかもしれませんが、ご容赦ください。

教会の神権者の方々に、この偉大な組織の現状報告をわたしなりに話させていただきます。この組織とはすなわち、わたしたちが属している教会であり、また関心を向けている教会の組織のことです。皆さんにはこの種の報告を時折聞く権利があると思うのです。

教会が良い状態にあることを報告でき、うれしく思います。とても健全な状態であるとともに、会員数のうえでもますます伸びています。1994年の終わりには、教会員数は902万5,000人となり、その前年と比較して30万730人の増加となりました。これは3年半ご



部会の開始前に、大会出席者にほほえみかけるゴードン・B・ヒンクレ大管長。

とに、100万人増えていることになり、わたしは、この勢いが今後も加速するものと確信しています。教会は地理的に見ても発展しています。また、管理も適切に行われているように思われます。しかし、問題がないわけではありません。教会から足を遠のける人の数が多すぎます。福音の原則から外れた生活をする人が多すぎます。しかし、それにもかかわらずわたしたちには喜ぶべき理由があります。

教会には負債がありません。資産購入に関する契約上、一定期間返済が必要な債務はあります。しかし、これら

のものを、期日内に完済する財源は確保してあります。

教会が関与する幾つかのビジネスでも、経営の一手法として用いている債務は幾つかあります。しかし、負債と資産の比率は、大企業の経営者の方々もうらやむほどのものです。

教会はその資産に見合った運営をしており、今後もその方針（じやうほう）に変わりはありません。わたしは什分の一の律法に心から感謝しています。それは繰り返し繰り返し行われる奇跡（あかし）です。それは人々の信仰により成り立っています。それは神の王国の御業の財政を確かな

ものとするための主の計画です。

それは単純明快です。教義と聖約第119章の中に短い言葉で述べられています。政府によって制定、実施され、わたしたちも国民として従っている、複雑で面倒な税法と比べて何と対照的でしょうか。

主の戒め以外に、わたしたちに什分の一を義務づけるものはありません。そして、言うまでもなく、主の戒めはわたしたちが従う第一の理由になります。普通大きな団体では会費未納になると除籍されますが、この教会ではそのようなことはありません。わたしの知るかぎりでは、このような大きな団体ではほかに例がないと思います。

什分の一の律法を守ることは、この原則の真実性への確信の証明です。

什分の一の基金は神聖なものです。わたしたちはこれを慎重かつ堅実に使うよう大きな信頼を受けています。わたしは以前にエルサレム支部の支部長だったデビッド・B・ガルブレイス兄弟から頂いた「やもめの銅貨」を事務所の戸棚に飾っていると話したことがあります。（小さくて目立たないかもしれませんが、とにかくそこに飾っています。）わたしがそれを飾っているのは、それが象徴している犠牲を忘れないようにするためです。わたしたちは富裕な人々だけでなくやもめのささげ物も預かっているのです。正直に什分の一やそのほかの献金を主にささげている人々に感謝します。しかし、皆さんがこのことについて特に感謝される必要を感じていないことも知っています。この律法の神聖さに対する証（あかし）、この戒めを守る人に与えられる祝福に対する証の強さは、皆さんもわたしも同じです。

わたしたちは教会の資産に見合った運営をするだけでなく、毎年の予算の一部を預金することになっています。これは各家庭に勧めていることを実行しているだけです。万が一経済的な問題が起きた場合に備えて、それを乗り切る資産を蓄えておくためです。

わたしたちは献身的な奉仕が教会のプログラムの運営に欠かせない重要なものであることをよく理解しています。



教会の業を支えるために時間を惜しみなくささげてくださる献身的な人が多いです。教会の人事部によると、現在このようなボランティアが9万6,484人もいます。彼らは1万人の専従職員と年間3億6,000万ドルに値する働きをしています。彼らは宣教師として、また教会教育部のボランティア、家族歴史の組織、神殿、そして教会の様々な部署で働いています。彼らのすばらしい献身はわたしたちにとって大きな助けであり、心から感謝しています。主は間違いなく彼らの献身的な働きを喜んでおられます。

平日に行われる教会の教育プログラムは前進しています。教会が組織されると、どこであれ必ずセミナーが行われます。同様に、教会はインスティテュートを通して大学生の年代の人々にもすばらしい機会を提供しています。1995年から1996年の学年度にセミナーとインスティテュートに登録した生徒数は58万3,000人に達します。今晚集っている多くの若い男性は、——ほとんどすべての人と言っても過言ではないと思いますが——教会のこのすばらしいプログラムの恩恵にあずかっていると思います。セミナーとインスティテュートに参加している人はちょっと起立していただけますか。よく見てください。このとおりです。ありがとうございます。ご着席ください。

これらのプログラムに参加できる人

は、ぜひ受講してください。福音の知識は増し、信仰は強まり、自分と同じ価値観を持つ人々との交わりや友情を楽しむことができます。

わたしは今、『モルモン書』の初版を出版したときの預言者ジョセフ・スミススミスのの苦闘を考えています。5,000部が印刷された初版は、マーティン・ハリスの惜しみない寄付によって実現しました。去年1年で374万2,629部の『モルモン書』が配布された事実を聞けば、皆さんは驚かれるでしょう。また、『モルモン書』のすべて、またはその中の重要な部分が85か国語で印刷されています。ベンソン大管長が勧めたように、わたしたちは『モルモン書』を洪水のごとく地に満たしてはいないかもしれませんが、375万部近い本を1年で配布するのはただ事ではありません。

わたしは教会が組織されてから115年後の1945年に、150番目のステークを管理する特権にあずかりました。それから50年後の現在、2,101のシオンのステークがあります。772のワードと支部が1994年に新しく組織され、同年末には、合計2万1,774のワードと支部が存在することになったのです。礼拝し、教えを学ぶための建物をなぜこれほど多く建てる必要があるのか、皆さんはその理由がお分かりだと思います。現在375か所で教会の建物を新築中です。建設費は年々高くなってきています。これらの教会の建物を大切に

扱うようお願いします。若い方々に特別なお願いがあります。教会の施設をできるかぎり大切に扱ってください。建物が建てられた目的に添った使い方をしてください。乱暴な使い方をしないでください。電気代やガス代も安くはありません。建物を使っていないときは電気を消してください。ごみなどが落ちていないようにしてください。教会の敷地をきれいに、魅力的なものにしてください。わたしたちの教会の建物の前を通る人々から、「この教会で礼拝している人たちは、清潔、整頓、美、そして品位を大切にしている人たちだな」と言われるようにしましょう。

わたしはすでに神殿の数の増加についてお話しましたが、そのほかの教会のプログラムについても同じことが言えます。わたしには教会の明るい未来が見えます。わたしは教会が数々の問題と直面している事実を軽視しているわけではありません。この業は常に問題と直面してきました。悪の力がいつもこの業に対抗しています。しかし前の時代の人々が前進を続けたように、わたしたちも前に進まなければなりません。今晚わたしの声を聞いたすべての男性、少年には、この偉大な業をさらに広げ強めるのを助ける責任があります。

兄弟たち、皆さんの信仰に、また皆さんの献身に感謝しています。わたしたちは皆さんの大きな信頼とともに、主から付託されている神聖な信頼を感じています。同様に主は、主の聖なる神権を持つ皆さん一人一人を信頼されています。前にも話したように、わたしたちは皆ともに働いているのです。一人一人が主の王国を建てる業の中で責任を負っています。全能の神の御業を強める仕事に携われることは、何と喜ばしく、すばらしいことでしょう。

この業は真実です。まさにわたしたちの天父の御業なのです。この教会は贖い主の教会であり、わたしたちが受けている神権は確かなものであり、非常に貴いものです。祝福と感謝の思いとともに、わたしの証と愛をイエス・キリストの御名によりお伝えします。アーメン。

忍耐——天の徳

第一副管長

トーマス・S・モンソン

わたしたちはチャレンジに対して即座の解決を期待し、天の徳である忍耐が必要なことを忘れてしまいがちです。



最 近わたしは、しばらくぶりに古い友人に会いました。彼はあいさつをして、こう尋ねてきました。「あなたの人生はいかがですか。」具体的に何と答えたか、覚えていませんが、彼のこの挑発的な質問によって、わたしは多くの祝福や、人生そのものへの感謝、奉仕する特権と機会などを思い起こしました。

時には、これと同じような質問に予想しなかった答えが返ってきます。数年前、わたしはテキサスのステーキ大会に出席しました。空港でステーキ会長と会い、ステーキセンターへ向かう車の中で、わたしは尋ねました。「いかがですか、お変わりありませんか?」

彼はこう答えました。「1週間前、その質問をしていただければよかったのですが、今週はいろいろあって大変でした。金曜日にわたしは失業し、今朝、妻は気管支炎で寝込みました。午後に

は、うちの犬が車にひかれて死んでしまいました。それ以外はすべてうまくいっていると思います。」

人生に満ちている苦難は、ささいなものもあれば、重大なものもあります。チャレンジは、すべての人に果てしなく与えられるように思えます。問題は、チャレンジに対して即座の解決を期待し、天の徳である忍耐が必要なことを忘れることです。

若いころに聞いた助言は、今でも適用できますし、心に留めるべきものです。例えば、「我慢しろ」「焦るな」「落ち着け」「そんなに急ぐな」「規則を守れ」「慎重にやれ」などです。これらは単なる古くさい表現ではありません。真の助言であり、経験からの知恵なのです。

若者たちが乗った車が、愚かで無謀なスピードを出して峡谷の曲がりくねった危険な道を走ったとしましょう。突然、車はコントロールを失って傾き、大切な若者たちもろとも、絶壁を越えて谷底に突っ込みます。彼らは障害者になるか、恐らくは若くして死んで家族を悲しませることになるでしょう。大はしゃぎをしている時間が、一生後悔する瞬間になるのです。

どうか、貴い価値を持つ青少年の皆さん、命を大切にしてください。忍耐という徳を実践してください。

病気に伴う苦痛には忍耐が求められます。かつて地上に生を受けた唯一完全な御方、ナザレのイエスでさえ激しい苦痛に耐えるよう求められました。ましてや、完全には及ばないわたしたちが、どうしてそのようなチャレンジから逃れられるでしょうか。

孤独な人、年老いた人、無力な人、人生から見捨てられたと感じる人が大勢います。時代は容赦なく前進して、考えている人、驚いている人、時々疑問を持つ人の視界から消え、彼らは取り残されてしまうのです。このようにストレスの多い時代には、忍耐が、力強い友となります。

わたしは時々、老人ホームを訪問しますが、そこにも忍耐があります。ある施設の日曜日の集会に集ったとき、一人の少女が老人たちを慰めるためにバイオリンを弾きました。彼女は緊張していましたが、全力を尽くすつもりでした。弾き始めると、一人が叫びました。「まあ、何てかわいいお嬢さんだこと。演奏も見事だわ。」弦の上を走る弓の緊張と、少女の指の優雅な動きは、その思わず漏らした褒め言葉に鼓舞されたかのようでした。実にすばらしい演奏でした。

後でわたしが少女と伴奏者にお礼を言うと、彼らはこう答えました。「わたしたちは、病気の人やお年寄りを励ますために来ました。演奏を始めると恐れは消え、自分の心配や問題を忘れました。皆さんを励ませたかもしれませんが、実はわたしたちが励まされたのです。」

時には立場が反対になります。明るく親切な若い友人、ソルトレーク・シティーのウェンディー・ベニオンはその良い例です。実は、おととい彼女は静かにこの世を去り、「命を与えられた神のみもとへ」(アルマ40:11) 帰りました。彼女は5年以上の年月を、^{がん}癌と闘ってきました。明るくて、いつも人を助け、信仰を失わない彼女の笑顔は、磁石が鉄を引き付けるように、人々を引き付けました。ウェンディーに痛みのあるとき、自分の問題で意気消沈した友達が訪ねて来たことがありました。母親のナンシーは、ウェンディーの痛みを知っているだけに、その友達の訪問が長すぎると感じました。そこで、彼女が帰った後、尋ねました。「どうして痛みのひどいときに、そんなに長く友達を引き止めるの。」ウェンディーはこう答えました。「友達のためにすることはわたしの痛みよりも

ずっと大切だし、もし友達を助けられ
たら、痛みなんか問題じゃないわ。」
彼女の態度は、主をしのばせます。主
は世の悲しみを負い、激しい苦痛と失
意に耐えられました。主は静かな足音
とともに、生まれつき盲目の男のそば
を通りかかり、見えるようにされまし
た。またナインでは、嘆き悲しむ寡婦
に近づいて、息子を死からよみがえら
せました。カルバリへの急な坂道を、
残酷にも十字架を負い、絶え間ないあ
ざけりとこのしりにも心を取り乱さず、
1歩ずつ歩かれました。達成すべき神
聖な使命があったからです。実際に主
は一人一人を訪れて教えを伝えられま
す。励ましと靈感あふれる祝福をもた
らされます。主は御自分の命をささげ
られました。それにより、墓が勝利を
得ないように、死がとげを持たないよ
うに、そして、永遠の命が賜物となる
ようにされたのです。

十字架から下ろされ、借り物の墓に
埋葬された、この悲しみと嘆きの御方
は、3日目の朝によみがえられました。
主の復活は、マグダラのマリヤとほか
のマリヤによって発見されました。彼
女たちが墓に近づくと、入り口をふさ
いだ巨大な石は転がされていました。
すると、輝く衣を着た二人の天使が現
れて尋ねました。「あなたがたは、な
ぜ生きた方を死人の中にたずねてい
るのか。そのかたは、ここにはおられな
い。よみがえられたのだ。」¹

パウロはヘブル人に、こう宣言しま
した。「こういうわけで、わたしたち
は、このような多くの証人に雲のよう
に囲まれているのであるから、いっさい
の重荷と、からみつく罪とをかなぐり捨
てて、わたしたちの参加すべき競争を、
耐え忍んで走りぬこうではないか。」²

恐らく、ヨブの模範以上に忍耐を表
した例はないでしょう。『聖書』によ
れば、ヨブは、そのひととなりがかつ、
かつ正しく、神を畏れ、悪から遠ざ
かった人でした。³ また、豊かな富と
財産に恵まれていました。サタンは主
の許可を得て、ヨブを誘惑しようとし
ました。ヨブは何と大きな苦痛を受け、
多くのものを失い、人生をねじ曲げら
れたことでしょうか。しかし妻から、

神をのろって死ぬことを勧められたと
き、ヨブは信仰を示してこう答えまし
た。「わたしは知る、わたしをあがな
う者は生きておられる。末の日に彼は
必ず地の上に立たれる。わたしの皮の
うじがこの体を滅ぼしたのち、わたし
は肉にあって神を見るであろう。」⁴何
という信仰、何という勇気、何という
信頼でしょう。ヨブは財産をすべて失
い、健康も失いましたが、主を信頼し
続けました。まさに忍耐の手本のような
人でした。

忍耐の徳を表した、もう一人の人は
預言者ジョセフ・スミスです。聖なる
森で御父と御子の訪れを受け、神聖な
経験をした後に、ジョセフは待つよう
に言われました。以来、自分の信仰の
ために3年以上にわたってあざけられ
た後、ようやく天使モロナイの訪れを
受けました。それからさらに待たされ、
忍耐が求められました。イザヤ書の勧
告を思い出してみましょう。「わが思
いは、あなたがたの思いとは異なり、
わが道は、あなたがたの道とは異なっ
ていると主は言われる。天が地よりも
高いように、わが道は、あなたがたの
道よりも高く、わが思いは、あなたが
たの思いよりも高い。」⁵

慌ただしい生活を送る現代にあって、
昔、危険な道路を横断するときに教え
られた教訓的な言葉に立ち返るとよい
でしょう。それは、「止まれ、見よ、
聞け」という標語です。これはどのよ
うに現在に当てはまるのでしょうか。滅
びに至る無謀な道で止まり、天を見て
助けを求め、主の次の勧めを聞くので
す。「すべて重荷を負うて苦労してい
る者は、わたしのもとにきなさい。あ
なたがたを休ませてあげよう。」⁶

主は次の詩にある、美しい真理を教
えてくださるでしょう。

ほんとうの命、大切な命、
墓は終わりではない。
ちりはちりに帰るが、
人の魂は不滅である。⁷

わたしたち一人一人は、長兄である
主イエス・キリストにとって、大切な
存在です。主から真に愛されています。

イエスの生涯は、完全な模範です。
主は悲しみと落胆に苦しみながらも、
自分を忘れて人に仕えるという比類な
い模範を示されました。子供のころ覚
えた歌が浮かんできます。

イエス様、わたしを愛し、
わたしを愛し、
イエス様、わたしを愛すと、
『聖書』は告げる⁸

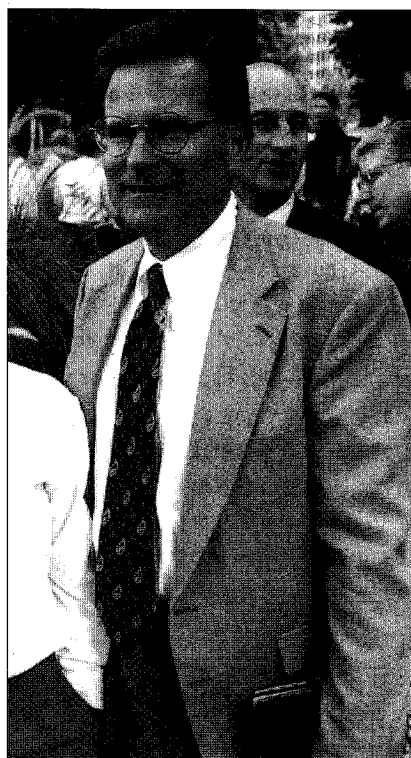
『モルモン書』も『教義と聖約』も
『高価な真珠』も同じことを告げてい
ます。聖文をガイドにしましょう。そ
うすれば、行き止まりの道に迷い込む
ことはないでしょう。

今日、仕事のない人や、お金のない
人、自信を失った人々がいます。飢え
が生活を脅かし、落胆がいつも付きま
といます。しかし、ここに助けの手が
あります。飢えた人に食べ物を、裸の
人に衣服を、家のない人に住む所を与
えているのです。

毎週、教会の倉庫から何千トンもの
食糧や衣類、医薬品、日用品などが地
の隅々に送られ、空の食糧棚や困って
いる人々の必要を満たしています。

わたしは、多忙で才能のある歯科医
や医師が心に促しを感じて、定期的に
自分の職場を離れ、助けを必要とする
人々のために自分の技術を使って奉仕
するのを見ました。彼らは遠い場
所へ旅して口蓋裂を治療し、骨の奇形
を矯正し、体の機能を回復させます。
すべては神の子供たちへの愛によるの
です。忍耐強く援助を待っていた人々
は、これらの「天使のような人」に
よって祝福されています。

よく知られた歌にあるように、皆さ
んが「わたしと一緒に飛んで」先月訪
れた、ドイツ東部へ行けたら、と思い
ます。そこで高速道路を走っていると
き、わたしは27年前に同じ高速道路で
兵士や警官を乗せたトラックしか見な
かったことを思い出しました。至る所
に猛犬が鎖でつながれ、密告者が町を
うろついていた。自由の精神が消え
かけていました。そして恥ずべき壁
が築かれ、鉄のカーテンが降ろされ
ていました。希望は失われたも同然でし



た。人々の貴い人生はただ揺るがぬ信仰のうえに成り立っていました。忍耐して待つことが必要でした。こうして、神への変わらぬ信頼が末日聖徒一人一人の生活に刻み込まれたのです。

わたしが初めて壁の向こうを訪れたときは会員にとって恐怖の時代で、自分たちの義務を果たすのに悪戦苦闘していました。町で見かける多くの人の顔は絶望に沈んでいましたが、会員たちには明るく美しい愛の表情が見られました。ゲルリッツで集会を開いた建物には、砲弾による穴がたくさん空いていましたが、内装は指導者の優しい心遣いを映して、粗末で汚れた建物に明るさと清涼感を与えていました。教会は大戦とそれに続く冷戦の両方に耐えました。聖徒たちの歌声は、すべての人の心を明るくしました。彼らは日曜学校の古い歌を歌いました。

試練の多い道も ひるむな
 厳しい反対にも ひるむな
 悲しみ嘆く道も
 やがて、喜びに満ちて
 刈り入れの時が来る ひるむな
 道半ばにして ひるむな
 どんなときにも 輝く日は待つ

ひるまぬ すべての人に⁹

わたしは会員たちの真剣さに心打たれました。その貧しさを見てへりくだりました。また、祝福師がいないことに胸が痛みました。ワードもステークもなく、あるのは支部だけです。エンダウメントや結び固めなど、神殿の祝福も受けられません。長い間、教会本部からの公式の訪問者もいませんでした。会員たちは、国外に出ることを禁じられていました。しかし、心の底から主を信頼し、自分の知恵には頼りませんでした。すべての道において主を認め、主から導きを受けていました。¹⁰ 説教壇に立ったわたしは、目を潤ませ、感動で声を詰まらせながらこう約束しました。「皆さんが神の戒めに忠実であるなら、ほかの国の教会員が受けているすべての祝福が、皆さんのものになるでしょう。」

その晩、わたしは自分が約束したことを思い返し、ひざまずいて祈りました。「父なる神様、わたしはあなたの僕で、これはあなたの教会です。わたしの話した言葉は、わたしからでなく、あなたと御子から出たものです。ですからどうか、この気高い会員たちへの

約束が成就されますように。」そのとき、わたしの心に詩篇の言葉が浮かんできました。「静まって、わたしこそ神であることを知れ。」¹¹ 忍耐という天の徳が求められたのです。

約束は、少しずつ成就していきました。まず、祝福師が聖任され、テキストが発行されました。ワードとステークが組織されました。礼拝堂やステークセンターが完成し、献堂されました。そして奇跡の中の奇跡、神殿事業が許可され、設計、建築へと進み、やがて奉献されました。さらには、50年ぶりに専任宣教師の入国と、地元の若人が国外で伝道することが許可されました。さらに、エリコの城壁のようにベルリンの壁が壊され、自由がそれに付随する責任とともに返ってきたのです。

27年前の貴重な約束は、一つを除いてすべてが成就しました。わたしが約束を与えた小さな町、ゲルリッツにはまだ礼拝堂がなかったのです。しかし、その夢が現実になりました。建設が許可され、完成したのです。献堂の日がやって来ました。ちょうど1か月前、妻とわたしは、ディーター・ワークトドルフ長老夫妻とともにゲルリッツの献堂式に出席しました。27年前と同じ

歌が歌われました。会員たちは、約束が完全に成就したこのときの重要性を知っていました。歌いながら泣いていました。義人の歌はまさに主への祈りであり、それに対する答えとして、彼らの頭に祝福が注がれるのです。¹²

集会が終わっても、去り難い気持ちでいっぱいでした。会場から出るとき、皆が手を振り、歌ってくれました。「アウフ、ヴィーダゼーン、アウフ、ヴィーダゼーン、神よまた会うまで、汝れを守りませ」と。

天の徳である忍耐は、謙遜な聖徒たちに、天の報いをもたらしました。ラドヤード・キップリングの「レクイエム」の詩がそのときの気持ちにぴったりだと感じました。

騒乱と絶叫は消え果て、
もろもろの軍と王は滅び去る。
残るのは、昔さげたあなたの犠牲と
悔いてへりくだる心。
万軍の主なる神、われらとともに
にいます。
忘れるなかれ、忘れるなかれ。¹³

イエス・キリストの御名により、
アーメン。

注

1. ルカ24:5-6
2. ヘブル12:1
3. ヨブ1:1 参照
4. 欽定訳ヨブ19:25-26
5. イザヤ55:8-9
6. マタイ11:28
7. ヘンリー・ワーズワース・ロングフェロー、A Psalm of Life『命の詩』
8. チャールズ・M・アレクサンダー編
"Jesus Loves Me!" Alexander's Gospel Songs「イエス様、わたしを愛し」
『アレクサンダー賛美歌集』p.139
9. "If the Way Be Full of Trial, Weary Not" Deseret Sunday School Songs
「試練の多い道も ひるむな」『デゼレト日曜学校賛美歌集』p.158
10. 箴言3:5-6 参照
11. 詩篇46:10
12. 教義と聖約25:12 参照
13. 「賛美歌」(英文) 80番

神権の祝福

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

もしわたしたちが神権の祝福を通して、神が抱いておられるわたしたちの未来像のほんの一部だけでもかいま見ることができれば、恐れは消え去り、疑いはなくなることでしょう。



いておられるわたしたちの未来像のほんの一部だけでもかいま見ることができれば、恐れは消え去り、疑いはなくなることでしょう。

子供のころの話ですが、わたしは、年を取った祖母が本を読んだり縫い物をしたりするときに使っていた虫眼鏡に興味を抱いたものです。焦点を合わせると、何でも大きく見えるのです。でも、わたしがいちばん好奇心をそそられたのは、日光をその虫眼鏡で集めて物体に当てることでした。虫眼鏡を通した日光の力は驚くべきものでした。

この偉大な力は、祝福を求めて一晚中格闘したヤコブへの壮大な祝福と比較することができます。

「ヤコブはひとりあとに残ったが、ひとりの人〔神の使い〕¹が、夜明けまで彼と組打ちした。……

その人は言った、『夜が明けるからわたしを去らせてください。』ヤコブは答えた、『わたしを祝福してくださいらないなら、あなたを去らせません。』

その人は彼に言った、『あなたの名はなんと言いますか。』彼は答えた、『ヤコブです。』

その人は言った、『あなたはもはや名をヤコブと言わず、イスラエルと言いなさい。あなたが神と人との間に、力を争って勝ったからです。』²

ヤコブはこの驚くべき経験を通して祝福を得ました。わたしたちもイスラエルの血統に属するアブラハムの相続人として、神からの祝福を得ることができます。主は『教義と聖約』の中でこう述べておられます。

「なぜなら、あなたがたは肉による

愛する兄弟姉妹、そして友人の皆さん。皆さんの忠実さと献身に對して、わたしの愛と感謝をお伝えしたいと思います。本日は最も大切と思われる神聖なテーマについてお話しいたしますので、信仰と祈りを込めて聞いてくださるようお願いします。神権の祝福を通してもたらされる、神聖な、人を高め強める力についてお話しいたと思うのです。

神権の祝福は神聖なものです。それは、わたしたちの願望や必要を、神聖な靈感に満ちた形で述べたものといえます。そして、霊的な波長が合っていれば、約束された祝福が必ず与えられるとの確認の証を得ることができます。また神権の祝福は、わたしたちが人生の決断を下すときの助けになります。決断の大小を問わずにです。もしわたしたちが神権の祝福を通して、神が抱

正当な相続人であり、……

それゆえ、あなたがたの命と神権は存続しており、また、世界が始まって以来すべての聖なる預言者たちの口を通して語られてきた万物の回復まで、神権はあなたがたとあなたがたの血統を通して必ず存続しなければならない。」³

わたしたちはヤコブとは異なり、わたしたちを強め高めてくれる祝福を求めて一晩中格闘する必要はありません。教会では、神権の祝福を受ける権能を持った人、すなわちその任に召された人を通して、ふさわしいすべての人に祝福が授けられます。ステーキ会長や監督、定員会会長、ホームティーチャーは、神権の祝福を受ける権能を有する人々です。また、資格ある父親や祖父、そのほかのメルキゼデク神権者は、病気の教会員や大切な出来事を控えた教会員に対して祝福を受けることができます。こうした個人的な祝福は、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員としてわたしたちが主張する絶えざる啓示の一つです。

ジョン・A・ウィットソー長老はこう述べています。「聖約の下に生まれた子供を持つすべての父親は、子供にとって族長であり、持てる神権の権能を通して子供を祝福する権限を有する。」⁴ わたしたちは、福音が常に家族を通して実践に移されていること、またそれが今後も続くことを知っています。『聖書』の時代から、イスラエルの家は家族という単位を通して秩序を保ってきました。家族はもともと、神の民に平安と安定をもたらす、愛と思いやりと血のつながりを内に持つものでした。それは、同様の理由で、今日でも変わりません。家族に内在する愛と慈しみの心は、社会の中のどの組織も持ち得ないものです。この家族という単位を導くのは両親であり、両親は対等な同僚としての関係に基づいて、愛をもって子供たちを養育します。ただ、父親と母親が子供に与える影響はそれぞれ異なります。こうした家族での諸事にいかに大きな影響をもたらすのが神権の力です。神権の祝福は男性だけのものではありません。家庭の



中の女性や子供にも平等に与えられるものでなければなりません。家族としての秩序が失われれば、家族や社会は崩壊してしまいます。

わたしたちに祝福を宣言し、イスラエルの家のどの血統かを述べる神権の職と召しに、神権指導者の手によって聖任され、その権能を授けられた人がいるという事実は、何にも勝る恵みです。祝福師の祝福の中で欠かせないのが、靈感による血統の宣言です。わたしは、聖任された祝福師として奉仕する尊敬すべき忠実な兄弟の皆さんに敬意を表します。彼らはこの孤独な重責を自ら求めたわけではありません。祝福師はほとんどの場合、兄弟の中でも謙遜で献身的な人々です。そして、天からの靈感を受けるにふさわしい生活をしています。祝福師が祝福を受ける特権を有しているのは、主からの靈感によって権威をもって語る権能を授けられているからです。

祝福師はメルキゼデク神権の中の一つの職です。この職は人を支配するのではなく祝福するために設けられました。祝福師は神聖で霊的な啓示の召しであり、ほとんどの場合生涯にわたって奉仕する責任となります。祝福師の皆さんは、召しに献身し、信仰とふさわしさを保って生活するよう全力を尽くすことにより、授ける祝福の一つ一

つが靈感に満ちたものとなるように努力しています。祝福師の召しは、麗しく、神聖で、霊的な、やりがいのある経験となります。祝福師は、聖き御霊に導かれて、靈感により祝福を受ける人にイスラエルの血統を宣言するとともに、祝福や霊的な賜物、約束、助言、勧告、警告を、靈感に導かれるままに授けます。このように、祝福師の祝福とは本質的に、将来の祝福を預言し宣言したものといえましょう。

聖任された祝福師から受ける祝福は、わたしたちを導く星となります。わたしたち個人にあてた神からの啓示なのです。この星に導かれて進むなら、わたしたちはつまづいたり迷ったりすることはありません。祝福師の祝福はわたしたちの心の錨となり、わたしたちさえふさわしければ、死も悪魔も宣言された祝福を反故にすることはできないのです。宣言された祝福は、今より後永遠にわたってわたしたちに恵みをもたらすことでしょう。

ほかの多くの祝福と同じように、祝福師の祝福も通常、受けたいと望む人からの申請によって授けられます。祝福師の祝福についての責任は、その重要性について理解できる年齢に達した個人が持つべきです。わたしはそのような年齢に達したすべての教会員に対して、資格を得て祝福師の祝福を受け

るようにお勧めします。あらゆる祝福は、その性質上、わたしたちのふさわしさが条件になります。そのふさわしさが具体的に祝福文に明示されているかどうかにかかわらずです。また、祝福師の祝福は本質的に将来への指針であって、過去の出来事のリストではありません。したがって、祝福は、人生の重要な出来事がまだ起こっていない若いうちに受けるべきです。わたしは最近、90歳を超えた人が祝福師の祝福を受けたことを聞きました。どんな祝福か興味があります。

祝福は祝福師個人から生まれるものではありません。リブランド・リチャーズ長老が話してくれたことですが、ある祝福師が一人の女性にこう言ったそうです。「あなたにすばらしい祝福が用意してあります。」しかし、彼がその女性の頭に手を置くと、まったく何も浮かんできません。祝福師は謝りました。「わたしが間違っていました。あなたへの祝福を用意しているのはわたしではなく主です。」その女性は翌日また戻って来ました。そして祝福師は主に助けを求めて祈りました。こうして、祝福が告げられましたが、それはこの善良な姉妹だけしか知らないはずの様々な問題にも触れたものでした。祝福はすべて神から来ます。天の御父は御自身の子供たちのことをよく御存じです。子供たちの長所と弱点をすべて御存じです。祝福師の祝福は、御父がわたしたちに何を求めておられるか、そしてわたしたちがどのような可能性を秘めているかを教えてくれるものなのです。

祝福師の祝福は、へりくだり、祈りをもって何度も読まなければなりません。また、祝福師の祝福は非常に神聖な、しかも個人的なものです。家族には見せてもかまいません。祝福師の祝福は、主から授けられる勧告と約束、情報を含む神聖な指針です。しかし、祝福文の中に将来の出来事がすべて網羅されているとか、疑問への答えがすべて出ていると考えるべきではありません。祝福文の中に伝道や結婚などの重要な出来事が述べられていないからといって、それが起こらないわけでは



部会の開始前にゴードン・B・ヒンクレー大管長（左）と言葉を交わすジェームズ・E・ファウスト第二副管長。

ないのです。祝福師の祝福を成就させるには、祝福文に含まれている大切な言葉を宝としてよく味わい、そのことについて深く考え、示されているとおりの生活することです。そうすれば、わたしたちはこの世で祝福を受けられるばかりでなく、後の世において義の冠を受けられるでしょう。

わたし自身の祝福文は短いものです。1ページの4分の3しかなく、裏には何も書いてありません。しかし、その祝福はわたしにとって適切なものであり、完璧なものでした。わたしが祝福師の祝福を受けたのは10代の初めでした。祝福師は、祝福が生涯にわたって「慰めとなり導きとなる」と約束してくれました。少年だったわたしは、それを何度も何度も読み返しました。一つ一つの言葉について考えました。そして、その霊的な意味を知ろうと熱心に祈りました。そのようにして若いころに祝福を受けたおかげで、わたしは、これまでの人生の重要な出来事やチャレンジを無事に切り抜けることができました。わたしの場合、祝福の意味に

ついて十分に理解できたのは経験を積んで大人になってからのことでした。その祝福文は、わたしが地上における神の王国で果たすべき責任についても触れていました。

ヒーバー・J・グラント大管長は自分の受けた祝福についてこう述べています。「祝福師はわたしの頭に手を置いて、タイプにして1ページの3分の1ほどの小さな祝福を授けてくれた。しかしその祝福は、わたしのまさにこの瞬間までの生活を預言するものだった。」⁵

ジョン・A・ウィッツォー長老はこう言っています。「常に心に留めておかねばならないことは、約束されたことの成就是この世だけでなく後の世に及ぶこともあるということである。わたしたちの中には、約束された祝福が生きている間に成就しないことでつまづく人がいる。彼らは、福音においては、人生とそこに含まれるあらゆる活動が永遠に継続し、この地上での働きが天でも続くことを忘れているのである。また、祝福を受ける側の主が、

主の特別な目的のためにその祝福の成就を控えられることがある。わたしたちも、わたしたちの祝福も、すべて主の御手の内にある。しかしながら、だれもが証するのは、福音の律法を守ることによって約束された祝福が成就したということである。⁶

そのことは、わたしの父親の祝福師の祝福に如実に現れています。父は「たくさんの美しい娘に恵まれる」との祝福を受けました。父と母は5人の息子の親となりましたが、娘は授かりませんでした。でも二人は、息子の嫁を実の娘のようにかわいがりました。何年か前に親族が集まったとき、父の義理の娘たちや孫、ひ孫たちが食事の準備や、小さな子供や老人の世話で動き回っている姿を見て、父への祝福は文字どおり成就していると強く感じました。そうです。父は確かにたくさんの美しい娘に恵まれたわけです。父に祝福を受けた祝福師は、この世を超えた霊の目を持っていたわけです。この世と永遠の世を分ける境界線が消えたのです。

教会は驚くべき速さで発展を遂げつつあります。世界中の非常にたくさんの国にシオンのステーキがあり、ほとんどのステーキには少なくとも一人の祝福師が召されています。こうした発展の結果、世界中の多くの人々が祝福師の祝福を受けられるようになっていきます。ジョセフ・フィールディング・スミス大管長はこう語っています。「この教会の会員になる人の大多数は、ヨセフの息子エフライムを通じてアブラハムの文字どおりの子孫である。」⁷しかし、ヨセフの別の息子であるマナセや、ヤコブのほかの息子の子孫も教会員の中に大勢います。今の時代になると、ヤコブの血統でない人も教会員の中にいるかもしれません。しかし、イスラエルの血統でないからといって祝福が拒まれることは決してありません。主はアブラハムに言われました。「わたしはあなたの名によって彼らを祝福しよう。この福音を受け入れるすべての者はあなたの名によって呼ばれ、あなたの子孫と見なされ、立ち上がってあなたを父としてたたえるであ

う。」⁸

ニーファイはこう述べています。「異邦人であっても悔い改める者は皆、主の聖約の民とな〔る〕。」⁹ですから、イスラエルの家としての祝福が血統によるか養子縁組によるかは問題ではないのです。

中には、同じ家族の中で異なった血統が宣言されたために心を悩ませる人がいるかもしれません。家族の中には異なった血統が交じり合っている場合もあるのです。わたしたちは、イスラエルの家が人類全体のかなりの部分を占めていると考えています。したがって、部族が交じり合っていることから、同じ家族の子供の中でも血統が異なり、一人がエフライムであってもう一人がマナセやほかの部族の血統である場合が出てくるのです。一人の子供には一つの部族の祝福が多くもたらされ、もう一人の子供には別の部族の祝福が多くもたらされるということです。こうして、同じ家族の子供でありながら、異なる部族への祝福を受ける場合があります。

わたしがこのテーマでお話をするのには、一つの大きな理由があります。祝福師の祝福やほかの祝福は、「キリストが神の御子であり、この教会が真実の教会であること」を証しているからです。また、こうした神聖な祝福は、祝福を受けるふさわしい人々の生活にも力を及ぼします。このように、父親の祝福、祝福師の祝福、そのほかの神権の祝福は、その本質と重要性を理解できる成熟した忠実な教会員にもたらされるすばらしい特権なのです。これらの個人を対象とした神権の祝福は、わたしたち一人一人の昇栄を望んでおられる主イエス・キリストの愛の力強い証であり、神からの個人的な啓示と言えるでしょう。

祝福師の祝福は失意にある者を励まし、恐れを覚えている者を強くし、悲しみを味わっている者を慰め、不安に苦しむ者に勇気を与え、士気の弱まっている者を鼓舞してくれます。そして、祝福文を読む度に、わたしたちの証は強められます。

祖母の虫眼鏡が物を大きく見せたよ

うに、わたしたちも強くなることができます。才能や能力を倍加し、理解力をさらに高め、霊性を開花させることができます。モロナイは「あらゆる善い賜物はキリストから来る」¹⁰と述べています。しかし、主はこう言われました。「ある人に贈り物が与えられても、彼がそれを受け取らなければ、それは彼にとって何の益があるだろうか。」¹¹

何らかの理由で宣言された神権の祝福を成就するだけの生活ができていない方々に、へりくだり、祈りをもって申し上げます。祝福が得られるように、どうか生活を整えてください。

また、忠実な教会員の方々にも申し上げます。与えられた祝福の完全な意味を理解するようにしてください。もしかしたら、いろいろな賜物が授けられているのに、気づかないでいるかもしれません。それらは、霊的に深い意味を持った賜物のこともあれば、物質的な賜物のこともあります。わたしたちすべての人がこれらの賜物にあずかるように願っています。

そのような経験を通して、主イエス・キリストに対するわたしたちの理解と信仰と証が増し加えられますように。へりくだり、イエス・キリストの御名により申し上げます。アーメン。

注

1. ジョセフ・フィールディング・スミス「救いの教義」1:17参照
2. 創世32:24, 26-28
3. 教義と聖約86:9-10
4. ジョン・A・ウィットソー, *Evidences and Reconciliations*「証言と和解」p. 72
5. *Messages of the First Presidency of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints*「末日聖徒イエス・キリスト教会大管長会メッセージ」ジェームズ・R・クラーク編, 5:152より引用
6. 「証言と和解」p. 75
7. 「救いの教義」3:221
8. アブラハム2:10
9. 2ニーファイ30:2
10. モロナイ10:18
11. 教義と聖約88:33

世界に告げる メッセージ

七十人

ロバート・E・ウエルズ

キリストに焦点を当てた3つの独特なメッセージとは、すなわちイエス・キリストが神の御子であること、ジョセフ・スミスと『モルモン書』が神聖な使命を果たしていること、教会が神によって設立されたことです。



この安息日の朝、わたしはキリストに焦点を当てた、3つのメッセージについてお話しします。

神の御子であるイエス・キリスト

最初は、救いの計画を理解するための中心であるイエス・キリストが、神の御子であられることです。前世では御父の最初の息子であり、地上では、天父の唯一の独り子です。永遠の父なる神は、主であり、救い主であるイエス・キリストと、神のほかの霊の子供たちの、文字どおりの御父です（1ニーファイ11：18，21；ジェームズ・E・タルメージ『信仰箇条の研究』p.612参照）。

イエス・キリストは、神の御子であるとともに、前世で神としての役割も、果たされました。御父エロヒムの長子は、創世の以前の天上の会議で、まだ生まれていない人類の救い主として選ばれ、聖任されました。（ジェームズ・E・タルメージ『^{キリスト}基督イエス』p.4参照）またイエスは、この地球や太陽系、銀河系、そして数知れない世界を組織し、創造するために、御父によって選ばれました。

イエス・キリストは、過去、現在を通じて旧約のエホバであり、アダムとノアの神であり、アブラハム、イサク、ヤコブの神です。エホバは旧約の預言者たちに現れて、語られました。イエスが語るとき、それは御父の代わりに、御父が語られるであろうことを話されます。『旧約聖書』のエホバは、この世に生まれたとき、『新約聖書』のイエス・キリストとなられました。

「神の御子」とは、「肉における独り子」であることも意味します。古代と現代の聖典で使われる「神の独り子」という称号は、イエス・キリストの神性を強調しています。この称号が表すように、イエスの肉体は、死すべき母親と不死不滅の永遠の御父から受け継いだものです。この基本的な真理は、通常の人間にはなしえない至上の行為、^{しよくざい}贖罪にとって非常に重要です。キリストは自ら命を捨てて、再び得る力を持っていらっしゃいました。なぜなら、天父から不死不滅を受け継ぎ、母マリ

ヤから死すべき体、すなわち死ぬ力を受け継がれたからです。

キリストの無限の贖罪と、イエスが神の御子であることは、すべてのキリスト教の最も重要な教義を形成しています。ブルース・R・マッコンキー長老はこう語りました。「わたしたちは、主イエス・キリストの^{あがな}贖いを、啓示された宗教の中心であり、神髄であり、本質であると見ている。」（*A New Witness for the Articles of Faith* 『信仰箇条の新たな証人』p.81）アミュレクは、「律法の目的そのものである（アルマ34：14）と、宣言しています。

ジョセフ・スミスと 『モルモン書』の神聖な使命

福音の2番目のメッセージで、回復の中心を成すものは、人々をキリストのみもとへ導くという、ジョセフ・スミスと『モルモン書』の神聖な使命です。

わたしたちは、天がジョセフ・スミスに開かれたと宣言します。真昼の太陽よりも明るい光の柱が降りて来て、その中に二人の御方、父なる神と御子イエス・キリストが立っておられました。御二方は言葉に尽くせない輝きと栄光とを持っていらっしゃる、御父はジョセフにこう言われました。「これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい。」（ジョセフ・スミス—歴史1：17）

預言者ジョセフ・スミスの召しの特徴の一つは、古代の使徒と預言者の著書や預言について、神から教えを受けたことです。預言者ジョセフ・スミスの教えや著作は、「古代と現代の聖文の神聖な真理から織られた、継ぎ目のない福音の織物のようです。」（リチャード・C・ガルブレイス、*Scriptural Teachings of Joseph Smith* 『預言者ジョセフ・スミスの聖文からの教え』ジョセフ・フィールディング・スミス編の序文、p.5）

ジョセフはアメリカ開拓地の無教育な農夫の少年以上の存在でした。神から教えを受ける過程で、かつて人に与えられた最も偉大な天からの導きを受

けたのです。ジョセフは祈りの答えを本からでなく、直接、神から受けました。最初の示現の後、そのほかの示現と天使の訪れを数多く受けました。そして、「数年の間に、……ジョセフは神によって天から遣わされた天使によって指導と教えを受け、この教会の基礎を置くために備えられたのです。」(ウィルフォード・ウッドラフ、*Journal of Discourses*『説教集』16:265) 聖霊の導きも同様に、ジョセフの『聖書』解釈の基盤でした。また、イエス・キリストから啓示を受けました。ウリムとトンミムは、ジョセフ・スミスが聖文について教えを受ける、もう一つの手段でした。

ジョセフが教えた永遠の真理は、何世紀もの間、哲学者たちの心にあった疑問に答えを与えています。ジョセフ・スミスに明らかにされた教義的な教えを研究し、真理を真剣に求めるならば、イエス・キリストのみもとへ導かれ、救い主、贖い主^{あがな}、御父への弁護者としてのイエス・キリストの役割を理解するでしょう。救い主に関するジョセフの教えを研究すれば、迷いや疑いは晴れ、その人の心が変わります。正直な人は哲学的な次の質問に対するジョセフの答えによって、人生の意義を見いだします。「わたしはどこから来たのか」「なぜここにいるのか」「死んだ後どこへ行くのか」。ジョセフに与えられた啓示により、現世と前世の間の忘却の幕が、時としてほとんど透けてしまうことがあります。子らの心が先祖に向き、先祖の心が子孫に向くにつれて、現世と霊界との間の幕はますます薄くなり、家族のきずなはさらに強く、甘美で意義深いものになります。

預言者ジョセフは、現世で享受する交わりがそのまま来世でも続くと教えました。それは友人や家族をこの世から見送った人々に大きな慰めをもたらします(教義と聖約130:2参照)。この預言者が教えた救いの教義は、天からの露のようにわたしたちの心を潤します(教義と聖約121:45参照)。ジョセフ・スミスの教えた永遠の真理は、義に飢え渇く人々を生けるキリストと父なる神のみもとへと導きます。



ジョセフ・スミス同様、『モルモン書』は、読む人をキリストのみもとへ導く神聖な書物です。この書物には、西半球に住んでいた預言者たちの記録が収められています。彼らはキリストを信じ、キリストについて預言し、何人かは復活後にアメリカ大陸を訪問されたキリストと少しの期間交わりました。それらの古代アメリカ大陸の預言者たちが、現代のために『モルモン書』を書いたのです。それは疑い深い人々や正直な人々による、あらゆるテストに耐えました。今やわたしたちが、その真理や教え、戒め、宣言を受け入れるかどうか試されているのです(2ニーファイ33:11-14参照)。

エズラ・タフト・ベンソン大管長が力強く語ったように、もし『モルモン書』について教えるのを忘れたら、また、もしこの聖なる書物を研究しその内容について考えるのを忘れたら、わたしたちは罪に定められるでしょう。わたしたちには『モルモン書』の内容を全世界に^{あかし}宣言し、証するという使命と戒めが与えられています(教義と聖約84:54-58参照)。

神によって設立された教会

3番目のメッセージは、キリストの再臨の道を備えるために、末日聖徒イエス・キリスト教会が神によって設立されたことです。この教会はいと高き

ところより、神の権能の回復を受けました。これはキリストの神権を所有し、行使するためであり、神権を用いて救いに必要な儀式を執行し、それらが地においても天においても記録されるようにするためです。

このような回復は主の再臨に不可欠です。なぜなら宗教史を研究すると、最初の律法は犯され、本来の儀式は変えられ、永遠の聖約は、イザヤが何世紀も前に預言したように、破られたからです(イザヤ24:5参照)。さらにパウロが警告したように、キリストと使徒の本来の教えから離れ去った後に、再臨が起こるのです(2テサロニケ2:3-4参照)。

再臨の道を備えるために、回復が起こりました。ジョセフ・スミスを通して、すべての必要な教義と神聖な儀式が回復されました。それらは、過去の神権時代に神から与えられたもので、キリストに焦点を当てた神殿の儀式も含まれます。

かつて地上にもたらされた偉大な救いの計画のすべてが、本来の形で、何一つ変えられずに、ここにあります。わたしたちが信じるのは、古代と同じ神権の権能であり、使徒と預言者によって導かれる、初期の教会と同じ組織です。また、同じ御霊^{みたま たまもの}の賜物であり、古代と同じ末日の聖典、すなわち『モルモン書』『教義と聖約』『高価な真珠』などのです。

わたしは、すべての人々が祈りを伴う熱心な勉強を通して、以上の事柄を理解することの重大性に気づくよう祈っています。すなわちイエス・キリストは神の御子で、世の救い主でいらっしゃる。ジョセフ・スミスの神聖な使命は、イエス・キリストの福音の原則と儀式を回復し、イエス・キリストが生ける神の御子であることを証する『モルモン書』を世に出すことです。そして、「末日聖徒イエス・キリスト教会が、メシヤの再臨に先立って地上に再び設立された主の王国」です(『モルモン書』の序文)。心からへりくだり、証を込めて、わたしはそれらを宣言します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

「わたしを記念するため、 このように行いなさい」

十二使徒定員会会員
ジェフリー・R・ホランド

主を忘れないことがわたしたちのおもな務めであるならば、あの貴く明らかな象徴であるパンと水を頂くとき、わたしたちはどのようなことを考えたらよいでしょうか。



全人類の歴史の意味を変えるような時が、間もなく来ようとしていました。それは、永遠の時の中間、すべての奇跡のうち最大の奇跡であり、またこの地上に住むあらゆる老若男女の幸福のために、創世の前に作られていた計画が成就するときでもありました。贖いの犠牲の時がやって来たのです。肉体をまとして来られた神御自身の御子、神の独り子が世の救い主になろうとされていたのです。

場所はエルサレム、季節は過越の祭り、すなわちこれから起ころうとしていたことの象徴に満ちた祭りのときでした。昔、エジプトで奴隷の境涯に置かれた悩めるイスラエルの人々は、家のかもと入り口の柱に子羊の血を付

けることにより、「過ぎ越」され、助けられ、ついには解放されました（出エジプト12：21-24参照）。これは、アダムとそれ以降のすべての預言者が、世の始めから教えられてきた事柄の単なる象徴的な繰返しにすぎません。すなわち、イスラエルの群れの初子の中からささげられた清く、汚れのない子羊は、これから来ようとしているキリストの大いなる最後の犠牲の「ひながた」「しるし」「予型」だったのです（モーセ5：5-8参照）。

さて、長年こうした預言や象徴的なささげ物が伝えられてきた後、今や「予型」であり「影」であったものが、現実となろうとしていました。イエスが地上における伝道を開始されたとき、バプテスマのヨハネは「見よ、……神の小羊」（ヨハネ1：29）と宣言しましたが、その言葉は、主の伝道が終わりに近づいたその晩、かつてないほど大きな意味を帯びてきたのです。

特別に準備された最後の過越の晩餐が終わるとき、イエスはパンを取り、感謝してこれを裂き、弟子たちに与えて言われました。「取って食べよ……。」（マタイ26：26）「これは、あなたがたのために与えるわたしのからだである。わたしを記念するため、このように行いなさい。」（ルカ22：19）同様にしておどろ酒の杯を取り、しきたりに倣って水で薄め感謝の祝福をすると、次のように言って主の周りに集まった人々へ渡されました。「この杯

は、罪のゆるしを得させるようにと……流すわたしの血で立てられる新しい契約である。……わたしを記念するため、このように行いなさい。……だから、あなたがたは、このパンを食し、この杯を飲むごとに、それによって、主がこられる時に至るまで、主の死を告げ知らせるのである。」（ルカ22：20；マタイ26：28；ルカ22：19；1コリント11：26）

ゲツセマネの前の晩の2階の広間での出来事とゴルゴダでの出来事以来、約束の子らはこのようにして、各自がより新しく、高尚かつ神聖な方法で、キリストの犠牲を思い起こす、という聖約の下に置かれました。

聖餐ではまず最初に、裂かれ祝福されたパンの一切れを取ります。パンは必ず裂かれていなければなりません。このとき、わたしたちは鞭の打ち傷のついた体と打ち砕かれた心、十字架上で「わたしは、かわく」と言われ、最後には「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」と言われた主の肉体的な苦しみを思い起こすのです（ヨハネ19：28；マタイ27：46）。

救い主の肉体的な苦しみにより、人類すべてが主の憐れみと恵みを通して（2ニーファイ2：8参照）、死の縄目を解かれ、墓より復活することができるようになりました。もちろん、復活の時と昇栄の程度はわたしたちの忠実さにかかっています。

次にわたしたちは、水の入った小さな杯を取り、キリストが流された血と、ゲツセマネの園で始まった主の霊的な苦悩と苦痛を思い起こします。ゲツセマネの園で主は、「わたしは悲しみのあまり死ぬほどである」（マタイ26：38）と言われました。イエスは苦しみながらも、「ますます切に祈られた。そして、その汗が血のしたたりのように地に落ちた。」（ルカ22：44）

救い主の霊的な苦しみと流された無垢の血は、愛を込めて、万人のためにささげられました。主はそれにより、アダムの背き、すなわち「最初のとが」（モーセ6：54）の代価を支払ってくださったのです。さらにキリスト

は全人類の罪、悲しみや苦痛のために苦しまれ、主が教えられた福音の原則と儀式に従うかぎり、わたしたちの罪を贖^{あがな}ってくださったのです（2ニーファイ9：21-23参照）。使徒パウロが書いているように、わたしたちは「代価を払って買いとられた」のです（1コリント6：20）。何と高価な代価であり、また何と憐れみ深い買い主でしょう。

このようなことを思い起こすため、福音の儀式はすべて何らかの意味で主イエス・キリストの贖いに焦点が置かれているのです。特に聖餐^{せいさん}の儀式には深い象徴的な意味があり、ほかの儀式よりも頻繁に行われ、わたしたちの生活に溶け込んでいます。だからこそ、「聖餐会は教会のあらゆる集会の中でも、最も神聖な集会である」と言われているのです（ジョセフ・フィールドینگ・スミス『救いの教義』2：315）。

わたしたちは、毎週執り行われる聖餐式にそれほど深い意味があるとは必ずしも考えていないかもしれません。では、聖餐式はどのように神聖なものなのでしょうか。聖餐式はわたしたちにとっての過越であり、わたしたちが守られ、救われ、贖われていることを思い出させてくれるものであると考えているのでしょうか。

多くの面で危機にさらされている状況を考えると、わたしたちが暗黒の天使から逃れることを記念するこの儀式を、もっと真剣に受け止めるべきではないのでしょうか。聖餐式は力強く敬虔^{けいけん}なひとときであり、反省のときであるべきです。また、霊的な気持ちや思いを鼓舞するときです。ですから、聖餐式はせき立てて行い、さっさと終わらせるものではなく、真の目的を果たすように行わなくてはなりません。聖餐会の目的は、今申し上げたとおりですが、そのほか聖餐会で行われる説教や歌、祈りはすべてこの神聖な儀式の意義に添ったものでなくてはなりません。

聖餐の祝福とパスは、全員で賛美歌を歌った後で行われます。どんな声で歌おうと、それは関係ありません。聖餐式の賛美歌はむしろ祈りに近いもの



です。だれでも祈りの声をささげることができます。

「われら、その苦痛知り得ぬとも
主の苦しみ、わがためと信ず。」
（『賛美歌』110番）

感謝を表すこのような感動的な歌詞を口ずさみながら心をつにすることは、礼拝の大切な要素です。

神聖な聖餐式において、若いアロン神権者の皆さんに、救い主の犠牲の象徴をふさわしい状態で、また敬虔な気持ちで準備し、祝福し、パスするようお願いいたします。このような驚くほど若い年代に、何とすばらしい特権と神聖な信頼が与えられていることでしょう。天から皆さんに与えられる最高の賛辞だと言えましょう。わたしたちは皆さんを心から愛しています。最善を尽くして生活し、主の晩餐である聖餐の儀式に携わるときは、できるかぎり身だしなみを整えてください。

聖餐を用意する祭司、教師、執事の兄弟は、できるだけ白いワイシャツを着るように提案したいと思います。教会の神聖な儀式では、しばしば儀式用の服装をしますが、白いワイシャツはバプテスマを受けたときに着た白い服

装や、間もなく皆さんが神殿に参入し、伝道に出るときに着る白い服装を思わせます。

この簡単な提案は、偽善的あるいは形式的な意図によるものではありません。わたしたちは、執事や祭司の兄弟に白いワイシャツを制服にしたり、必要以上に生活の清さにのみ関心を向けたりするよう望んでいるではありません。しかし、若者の服装は、神聖な原則をわたしたち皆に教えるのに非常に効果的であり、神聖な印象を与えることは確かです。かつてデビッド・O・マッケイ大管長は次のように教えました。「白いワイシャツは聖餐の神聖さを印象づけるのに役立つ。」（Conference Report『大会報告』1956年10月、p.89参照）

若い祭司によって簡潔で美しい言葉でささげられる聖餐の祈りの中で、わたしたちが耳にする大切な言葉は「覚える」という言葉です。最初にパンを祝福する少し長い祈りの中には、「進んで御子の御名を受け、……御子が与えてくださった戒めを守る」という言葉があります。

この言葉は、水の祝福では述べられませんが、わたしたちはこの言葉に従うものと見なされ期待されています。どちらの祈りも、すべてキリストを記念して行うことを強調しています。ですから聖餐にあずかるときわたしたちは、いつも御子の御霊^{みたま}を受けられるように、いつも御子を覚えることを証するのです（教義と聖約20：77、79参照）。

主を覚えることがわたしたちのおもな務めであるならば、あの貴く明らかな象徴であるパンと水を頂くとき、わたしたちはどのようなことを考えたらよいのでしょうか。

まず、救い主が前世でなされたこと、すなわち偉大なエホバとして天地とそこにある万物を造られたことを思い起こすことができます。また、天上の会議で主は愛にあふれたすばらしく強い御方であったこと、わたしたちがキリストの力と小羊の血に対するわたしたちの信仰によって悪に打ち勝ったことを思い起こします（黙示12：10-11参照）。

恐らく若い女性の組織に該当する年

齢の女性のもとに、主がお生まれになったという偉大な出来事を思い起こすこともできます。彼女はあらゆる時代のあらゆる忠実な女性に代わって、こう言いました。「わたしは主のはしめです。お言葉どおりこの身に成りますように。」(ルカ1:38)

ほとんど知られていませんが偉大な人物、すなわちイエスのこの世の父親を思い起こすこともできます。彼は謙遜な大工でしたが、静かで素朴なつましい人々が昔からこの大いなる御業を推し進めてきたのであり、また現在もそうであるということをわたしたちに教えてくれました。もし皆さんの働きが目立たないものであっても、この地上でかつて生活した最も善良な人々の一人もそうであったことを忘れないでください。

キリストの奇跡や教え、癒しや助けを思い起こすこともできます。主は、目や耳、手足の不自由な人、病気で弱っている人を癒されました。そのことを思い起こすならば、自分の進歩が止まったように思えたり、喜びが失せ、目の前が暗くなったと感じたりしても、キリストを信じる確固とした信仰と完全な希望の輝きをもって前進することができます(2ニーファイ31:19-20参照)。

救い主は非常に厳粛な使命を帯びておられたにもかかわらず、生活に喜びを見いだし、人々に接することを楽しみ、弟子たちに「元気を出しなさい」と励まされました。もしわたしたちが自分の家の戸口で高価な真珠を見つけたら大喜びするように、福音に対しても同様に喜ぶようにと、主は言われました。また、イエスは子供たちに特別な喜びを見いだし、わたしたち皆に、無垢で清く、すぐに笑い、愛し、赦し、嫌なことをされてもすぐに忘れてしまう子供たちのようになりなさいと、おっしゃいました。

キリストは弟子たちを友と呼ばれ、友とは孤独や失意のときにわたしたちを支えてくれる人であると言われました。わたしたちが連絡すべき友達、あるいは友達になるべき人を思い起こしてください。そうすれば、必要なとき



に手を差し伸べる思いやりの行為を通して、神がしばしば人を祝福されることも思い起こせるでしょう。身近な人々の切実な祈りへの天の答えが、わたしたちを通して与えられることがあるのです。

わたしたちは人生で経験するすばらしい事柄を、そして「善いものはすべてキリストから来る」(モロナイ7:24)ことを思い起こすことができますし、またそうすべきです。多くの困難に直面しながらも明るさを失わず、全力を尽くしながら、「輝く明けの明星」(黙示22:16)である御方が再び来られる日を信じて生きている人々があります。善いものに恵まれているわたしたちは、彼らの勇気を思い起こすことができます。確かにあの星は再び現れることでしょう。

あるいは、イエスが受けられた不親切、拒否、不正、まさしく主が堪え忍ばれた不正を、当然のことながら思い起こすことでしょう。わたしたちもそのような経験を少しなりともするとき、キリストが、四方から艱難を受けても

窮せず、途方に暮れても行き詰まらず、迫害に遭っても見捨てられず、倒されても滅びなかったことを思い起こすことができます(2コリント4:8-9参照)。

イエスは至高の座に着かれる前に、すべてのものの下にまで身を落とされました。また、心を憐れみで満ち、民を彼らの弱さに応じて救う方法を知るために、あらゆる苦痛と苦難と試練を受けられました。わたしたちは困難な状況に直面するとき、この事実を思い起こすことができます(教義と聖約88:6;アルマ7:11-12参照)。

よろよろしたり、つまずいたりすると、主はそばに来られ、わたしたちを支え、力を与えてくださいます。そして、最終的にはわたしたちを救ってくださいます。そのために主は御自分の命をささげてくださいましたのです。わたしたちの進む道がどんなに暗くても、世の救い主はもっと暗い道を歩まれたのです。

事実、聖餐式の主であり、復活されて完全な体を持つことができたはずの

主は、弟子たちのために、手足とわき腹の傷を残しておかれました。その傷は、清く完全な御方にも苦難が訪れることを示すしるしです。この世の苦痛は神が皆さんを愛していないことを示す証拠ではありません。傷つき苦しめられたキリストこそ、わたしたちの魂の主であり、主の体には今でも犠牲の傷跡、愛と謙遜と赦しの傷跡があります。

この傷跡を、老いも若きも、また当時の人も現代の人も、すべての人が進み出て、目で見、手で触れるように、主は勧めておられます（3ニーファイ11：15；18：25参照）。そうすれば、イザヤが述べたように、主がわたしたち一人一人のために「侮られて人に捨てられ、悲しみの人で、病を知っていた」（イザヤ53：3）ことを思い起こせるでしょう。若い祭司がひざまずき、常にキリストを覚えるようにと祈りをささげるとき、わたしたちは以上の事柄を思い起こすことができるのです。

聖餐の儀式に晩餐は含まれていませんが、祝宴であることに変わりありません。人生がわたしたちにどのような問題を課そうとも、聖餐を受けることによりわたしたちは霊の糧を得、また人生の道をともに歩むほかの人々に哀れみ深くなれるのです。

キリストが深い苦しみと悲しみを経験されたあの晩に、弟子たちに頼まれたことはただ一つ、主とともにあり、主を支えることでした。「あなたがたはそんなに、ひと時もわたしと一緒に目をさましていたことが、できなかったのか。」（マタイ26：40）主はこのように切ない問いを寄せられました。主の命の象徴であるパンが裂かれ、祝福され、パスされる安息日にも、主は同じ問いをわたしたちに再び投げかけておられると思います。

「高きに満ちたる 知恵と愛よ
苦しみ死にたもう 主をたまひぬ。」
（『賛美歌』112番）

「ああ、奇しき主のみ業。」（『賛美歌』109番）ただ驚くばかりの偉大な主を、主イエス・キリストの御名により、証いいたします。アーメン。

この道を歩み続け、 信仰を保つ

大管長
ゴードン・B・ヒンクレー

これは主の御業です。決してそれを忘れないでください。愛と熱意をもって受け入れてください。



兄弟姉妹の皆さん、皆さんが手と心をもって支持して下さったこと、また信頼と愛を示して下さったことに感謝しています。この偉大な御業に対するわたしの信仰は、この6か月間皆さんの間を旅して見聞きしてきたことにより、ますます強められました。

わたしは、世界中の末日聖徒を訪れて直接皆さんにお会いし、できるかぎり握手を交わして、この神聖な御業に対する気持ちを親しく分かち合い、また皆さんの熱い思いと、主とその大いなる御業に対する愛を感じることができたらと心から望んでいます。皆さんが様々な方法で示して下さる親切に、個人的にお礼を述べるのができたらと願っています。皆さんからの尊敬、

信頼、愛は、わたしたちが行う務めによるものだということを理解しています。わたしの望みはただ一つです。それは、主がわたしに力を与えて下さるかぎり、主の息子娘である皆さんに奉仕することを通して、忠実かつ熱心に主に仕えていくということです。その目的のために、わたしは自分の力、時間、そして与えられているすべての才能を主にささげます。

わたしはこの教会を愛しています。預言者ジョセフを愛しています。永遠の父なる神と復活された主は、今日わたしが皆さんにお話しているのと同じように、親しくジョセフと話をされました。わたしは教会初期の大変な時期にジョセフの証を受け入れたすべての人々を愛しています。大きな見方をすれば、彼らの命がこの御業の初期の歴史を形作ったと言ってもよいでしょう。強く深い根を持つことはすばらしいことです。現在知られる末日聖徒イエス・キリスト教会の全世界にわたるすばらしい成長は、彼らに根ざすものなのです。

少年期のわたしに、預言者ジョセフ・スミスと、『モルモン書』への愛、またこの御業と王国の土台を築き上げるために多くの苦難を堪え忍んだすばらしい開拓者たちへの愛を植え付けて下さった主に心より感謝しています。わたしは自分たちに与えられている神権をほんとうにうれしく思っています。それは人が神の御名により語るための権能です。死の幕を超える効力を持つ

この神権の力と権能に感謝しています。わたしは、信仰を保ち忠実に歩んでおられるすべての聖徒を愛しています。皆さんの強い証^{あかし}とよい生き方に感謝しています。福音の回復を証しながら、世の最前線で働いている宣教師を愛しています。彼らが守られ、導きを得て、このメッセージを受ける人々を見いだすことができるように祈っております。

わたしはこの教会の若人を愛しています。彼らは何事にも熱心で、真理を探求し、祈り、正しいことをしようと努力しています。国の状況や皮膚の色を問わず、どこにあって美しい扶助協会の姉妹たち、また若い女性、初等協会の子供たちを愛しています。

監督、またステーク会長、そして彼らとともに働いておられる方々、新しく召された地域幹部の方々、中央幹部の方々に心から感謝しています。わたしはこの御業の行く末について明るい見通しを持っています。それは自分の心を励ます、強い思いです。これまで、この御業の発展の奇跡を長きにわたって見てきました。わたしは御業の確立を世界中の至る所で手助けする祝福を数多く頂いてきました。御業はどこにあって、さらに力強く発展しています。御業は至る所で、人々の心に触れ、正しい生き方を選ぶ人の数を増やしています。

教会の統計の仕事を担当している人人の話によると、現在の勢いがそのまま続けば、今からほんの数か月後の、来年の2月には、合衆国外の教会員の数が、合衆国内の教会員の数を超える見込みだといえます。

この教会員の構成比率の逆転はすばらしい意味を持っています。それは伝道の偉大な努力の結晶です。わたしたちは天父の僕です。天父はこの業を特定の地域に偏ったものでよいとは考えておられません。黙示者ヨハネは、「わたしは、もうひとりの御使が中空を飛ぶのを見た。彼は地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、言語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音をたずさえてき」た（黙示14：6）と言っています。この御使いはすでに地を訪れています。その名はモロナイで

す。モロナイの声は、主イエス・キリストが実際に生きておられることについてのもう一つの証であり、ちりの中から出た言葉のように語りかけています。

わたしたちはまだあらゆる国民、部族、言語、民族に福音をもたらしてはいません。しかしこれまでに残してきた足跡はすばらしいものです。許可の得られたすべての所に出かけて行っています。神がその舵^{かじ}を取られ、その神聖な御心^{みこころ}と力により門戸は開かれていきます。わたしはそのことについて、強い確信を持っています。

この御業を、範囲の限られた、特定の地域に限定されたものとする小さなビジョンがわたしには理解できません。視野の狭い話です。全能の父なる神が確かに存在されるように、またわたしたちの聖なる救い主であるその御子が確かに存在されるように、確かにこの御業は全世界の人々に伝えられるという運命を与えられているのです。

カレブとヨシュア、そしてイスラエルの斥候たちの話は、いつ読んでも興味深いものです。モーセはイスラエルの民を荒野に導きました。荒野をさまよい始めてから2年目、彼は12部族から一人ずつ代表を選び、カナンの地を探り、その地の産物と人々についての情報を持ち帰るよう指示しました。カレブはユダ族の部族、そしてヨシュアはエフライムの部族の代表でした。12人はカナンの地へと出かけて行きました。彼らはそこが肥よくな土地であることを知りました。彼らは40日間、探索しました。彼らはその地が肥よくであることの証拠として熟し始めたぶどうを持ち帰りました（民数13：20参照）。

彼らはモーセとアロンそしてイスラエルの全会衆の前にやって来てカナンの地についての報告をしました。「そこはまことに乳と蜜の流れている地です。これはそのくだものです。」（同27節）

しかしその斥候たちのうちの10人は、自分自身の疑いと恐れに負けていました。その10人はカナン人の体格と数の多さについて悪い報告をしました。そして「彼らはわたしたちよりも強い」（同31節）と結論づけたのです。彼ら

はその土地で見た巨人に比べれば、自分たちはいなごのようなものだと言いました。彼らは自分自身のおく病さに負けていたのです。

そこでヨシュアとカレブが人々の前に立ち上がり言いました。「わたしたちが行き巡って探った地は非常に良い地です。

もし、主が良しとされるならば、わたしたちをその地に導いて行って、それをわたしたちに下さるでしょう。それは乳と蜜の流れている地です。

ただ、主にそむいてはなりません。またその地の民を恐れてはなりません。彼らはわたしたちの食べ物にすぎません。彼らを守る者は取り除かれます。主がわたしたちと共におられますから、彼らを恐れてはなりません。」（民数14：7-9）

しかし人々はカレブとヨシュアよりも、10人の疑う者たちを信じることにしました。

このとき主は、疑いと恐れを抱いたこれらの者たちが世を去るまで、イスラエルの民は40年間荒野をさまようことになるであろうと宣告されました。聖文は「すなわち、その地を悪く言いふらした人々は、疫病にかかって主の前に死んだが、

その地を探りに行った人々のうち、……ヨシュアと、……カレブとは生き残った」（同37-38節）と記録しています。40年間さまよい歩いた後、この約束の地に入るまで生き残る特権を受けたのは、この斥候のうちたった二人だけでした。すなわち、その土地に関して前向きな報告をしたヨシュアとカレブだけだったのです。

わたしたちの周りには、この御業の将来に無関心な人、冷淡な人、限界を口にする人、恐れを表す人が非常に多くいます。また、自分の思い込みだけで、まったく無意味なあら探しをし、それを公表することに時間を費やしている人がたくさんいます。過去への疑いを持つ人に、未来へのビジョンは開けません。

古代の人は言っています。「ビジョンがなければ民は滅びる」（欽定訳箴言29：18）。福音を悲観的なものとし



てしか受け取れない人々は、この^{みわざ}御業を理解することができません。福音はよき知らせです。これは勝利のメッセージです。熱い思いをもって受け入れるべき大義です。

主は問題が一つもないとは決して言われませんでした。教会員はこの御業に反対する人々によって引き起こされる様々な苦難を体験してきました。しかしそれらすべての悲しみの中にあっても、信仰が表されてきました。この御業は開始以来、常に前進を続け、後退したことはありません。少年ジョセフも大人たちのあざけりと迫害を受けました。しかしその迫害の傷もモロナイの宣告によって和らげられました。モロナイはジョセフ・スミスに「神がわたしのなすべき業を備えておられること、またわたしの名が良くも悪くもすべての国民、部族、国語の民の中で覚えられること、すなわち、良くも悪くもすべての民の中で語られる」と伝

えたのです（ジョセフ・スミス—歴史1：33）。

彼とその兄ハイラムは、1844年の6月27日カーセージの監獄で暗殺されました。敵は、二人が自らの命を賭した運動もこれで絶えるだろうと考えていました。この殉教の血が、若い教会の根に栄養を与えることになるとは夢にも思わなかったのです。

先日わたしはイギリス、リバプールの古い棧橋の上に立ってみました。わたしたちが訪れた金曜の朝は、そこは特にこれといったこともない静かなたたずまいを見せていました。しかしそこはかつて、人々の活気でむせ返っていたところです。1800年代、何万人という教会員が、わたしたちの歩いた同じ敷石の上を歩いたのです。彼らはこの教会に改宗し、イギリスの島々やヨーロッパの国々からやって来たのです。彼らはその唇に証を、心に信仰を携えてやって来ました。自分の家を捨

てて、未知の新世界へ行くのは大変なことだったのではないのでしょうか。無論言うまでもないことです。しかし彼らは熱意と喜びをもってそうしたのです。彼らは船に乗り込みましたが、当時の船は帆船です。彼らは、どんなに順調な航海であっても、様々な危険が伴うことを知っていました。彼らの航海はつらいことの連続でした。船尾の窮屈な部屋で何週間も過さなければならませんでした。病と嵐にも耐えなければならませんでした。途中で多くの人が死に、海に葬られました。それはつらく、恐怖に満ちた旅でした。心の中に疑いが生じたこともあったでしょう。しかし彼らの信仰は疑いに打ち勝ち、将来への希望は恐れを克服していきました。彼らにはシオンという夢がありました。そしてその成就に向けて進んだのです。

彼らは確固たる信仰を土台にし、このうえなく楽天的な精神をもって、わたしたちが今日集まっているこのタバナクルを建設しました。そして、このすぐ東側にある神殿を40年の歳月をかけて建設しました。彼らは様々な苦しみを味わいましたが、どのようなときもこの御業の発展について、明るく、すばらしいビジョンを見失うことがありませんでした。

わたしには、何万人という人々を荒野に導いたブリガム・ヤングの信仰の大きさを完全に理解することはできません。彼は示現の中で見た以外に、この地を目にしたことがありませんでした。それは理解の限界を超えた、勇敢な行いです。彼にとっては、この地にやって来たことは、御業の発展と将来の壮大な展開の中のほんの先駆けにしかすぎませんでした。そして、彼に従った人々にとっては、それは大きな夢を追い求める旅でした。

それは19世紀の後半のことでした。全世界がこの教会に敵対しているかのように思える時代でした。しかし忠実な人々は、黒雲の向こうに太陽の光があり、堪え忍ぶならば、嵐は過ぎ去るということを知っていました。

今日わたしたちは、多くの^{こんにち}人々の好意に恵まれ、明るい光の中を歩んでい

ます。しかしその一方で、一部には無関心になっていく傾向があります。主の大義を忘れ、世の中の誘惑につられ、道を外れて行く人もいます。ほんの少しなら標準を下げてでもよいと思っている人もいます。このような道に迷い込むと、この御業に対する熱意を失ってしまいます。例えば、安息日を破ることが大したことではないと思っている人がいます。このような人は集会に出席しません。そして物事に批判的になります。他人の悪口を言います。そのような人が教会を去るのは時間の問題です。

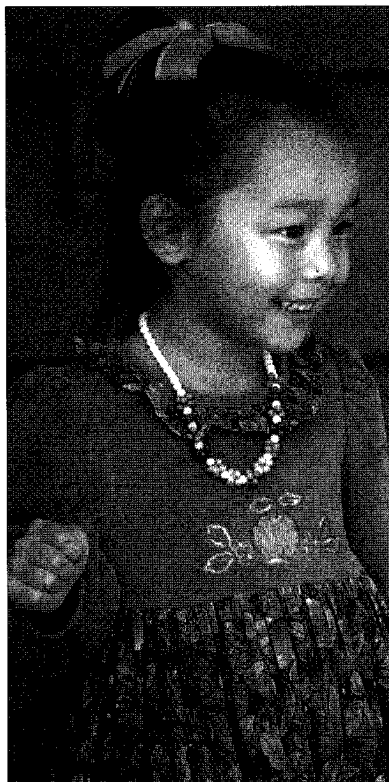
預言者ジョセフはかつてこのように言いました。「疑いがあれば、信仰に力はない。」(Lectures on Faith『信仰講話』p.46)

教会から離れている皆さんに申し上げます。教会という強く確固たるよりどころに戻って来てください。これは全能者の御業です。前進していくかどうかは一人一人の選択にかかっています。しかし教会は決して止まることなく前進していきます。わたしは男性コーラスによって感動的に歌い上げられた古い歌を思い出します。「われを10人の雄々しき男とともに行かせよ。さすれば、すぐに万人以上の男を汝に得させん。」(オスカー・ハマーシュタイン、Stouthearted Men『雄々しき男』)

モーセをみもとに召された後、主はヨシュアに言われました。「強く、また雄々しくあれ。あなたがどこへ行くにも、あなたの神、主が共におられるゆえ、恐れてはならない、おののいてはならない。」(ヨシュア1:9)これは主の御業です。決してそれを忘れないでください。愛と熱意をもって受け入れてください。

恐れてはなりません。イエスがわたしたちの導き手であり、力であり、王なのです。

今は、悲観的な考えがはびこっている時代です。わたしたちには信仰の使命があります。世界中の兄弟姉妹の皆さん、自分の信仰を再確認し、この御業を世に推し進めていこうではありませんか。皆さんは自分自身の生き方に



よって御業を強めることができます。福音を自分の剣と盾にしてください。わたしたちは皆、この地上で最も素晴らしい大義の一翼を担っているのです。この教義は啓示によって与えられました。神権は神から授けられたものです。主イエス・キリストの証に、さらにもう一つの証が加えられました。それはダニエルの夢に出てくる「あたかも人手によらずに山から切り出された石が全地に満ちるまで転がり進むように」(教義と聖約65:2)という小さな石そのものなのです。

「兄弟たちよ、わたしたちはこのような偉大な大義において前進しようではありませんか。退かずに前に進んでください。兄弟たちよ、勇気を出してください。勝利に向かって進み、進んでください。」(教義と聖約128:22)これは、預言者ジョセフが信仰をたたえて書いたものです。

この偉大な御業は過去においても栄光に満ちていました。それは、英雄的な行為と勇気と大胆さとに満たされた時代でした。そして、主の僕のメッセージに耳を傾けようとしている全世界の人々に祝福をもたらすために前進

しているわたしたちの時代も実に素晴らしいものです。全能者が推し進めておられるこの輝かしい御業の行く末は、何と素晴らしいものになることでしょうか。神はこの御業を通して、福音を受け入れ、実践しようとするすべての人を感化し、世の贖い主への愛で心を満たしている人々の無私の働きにより、あらゆる世代の神の息子娘のために備えられた永遠の祝福をも得させようとしておられるのです。

世界大恐慌のときでした。さびついた有刺鉄線にぶら下げられた1枚の看板に、ある農場主がこう書いていました。

干ばつに焼かれ、洪水に見舞われ、
野うさぎに作物を食い尽くされ、
保安官に土地を売られても、
わたしはまだここを離れない。

わたしたちも同様です。脅かす人、批判する人、悲観的な考えを声高に叫ぶ人がたくさんいます。彼らはありとあらゆる手段を用いてこの教会を傷つけ、破壊しようとしてきました。しかし、わたしたちはまだここにいます。さらに力強く、新たな決意をもってこの御業を推し進めようとしています。わたしにとってそれは楽しく、素晴らしいものです。わたしはかつてアンモンが言ったと同じように「それでも、喜んでよい理由はないのだろうか。あると、あなたがたに言おう。世界が始まって以来、わたしたちほど喜んでよい、立派な理由を持っている者はいない。わたしは神にあって自分の喜びを誇るほどまでに、今喜びに浸り切っている。神は、一切の権威とあらゆる知恵、あらゆる理解を備えておられる」(アルマ26:35)という気持ちになっています。

この教会の会員はどこにしようとも、力強く自分の足で立ち、心に歌を忘れずに前進し、福音に生き、主を愛し、王国の建設に励むようにお勧めします。ともにこの道を歩み続け、信仰を保ち、全能者を力の源としていこうではありませんか。イエス・キリストの御名によりお話しします。アーメン。

まず神の国を 求めなさい

十二使徒定員会会員
デビッド・B・ヘイト

まず神の国を求め、歩むべき道に従って生活するなら、そのほかの生活は
ことごとく時宜^{じぎ}にかなって整えられ、素晴らしいことが起こるでしょう。



中には年齢を重ねるにつれ、行動もゆっくりになっていく人々があります。ですから、皆さんに少し我慢していただかなければならないこともあります。わたしは主から頂く祝福に對し、またこの大会に出席でき、これまでの説教に耳を傾けることができ、心から主に感謝しています。

リブランド・リチャーズ長老がいよいよ老境に入ったころ、長老は大会において即興で説教するのを常としていました。皆さん御存じのように、大会には時間的な制約があります。長老に對して、持ち時間の終了をどのように知らせるかということが、議論になったことがあります。説教壇の所に点滅式のライトを設置したことがあります。すると、長老はある大会の説教の途中

で、「ここに小さなライトがあって、今点滅している最中です」と言いました。次の大会のときには、そのライトを赤くしておきました。しかし、長老はそのランプを手で覆ってしまいました。今日は、わたしも同じようなことをしてしまうのかもしれませんが。年を取ってくると、目の前にはずのブロンプター（訳注——大会時、用意された説教の原稿を説教者用に少しずつ写し出すために設置された機器）がまったく意味を持たなくなるような時期もやって来ます。そんな年になると、原稿を印刷してくれた業者の腕も落ちたものだと思ったり、インクの質も昔に比べたら落ちたものだと考えるようになったりするようです。とにかく、わたしは皆さんと一緒にここに集えたことを、心からうれしく思い、感謝しています。

今朝この部会に集い、わたしたちの預言者であり、指導者である方のお話に耳を傾けた皆さんは、きっとわたしが感じたと同じ思いでいらっしゃるに違いないでしょう。それは、神の預言者としての責任が、円滑に、しかも神聖な権能によって、ゴードン・B・ヒンクレー大管長にゆだねられたという実感です。今朝、大管長がわたしたちに向かってあのような確固とした指針と靈感とをもって、勧告の言葉を語り、さらに目標を高く掲げるよう、わたしたちを励ましてくれているとき、わたしは、自分が今主の御声^{みこゑ}を聞いていることを実感していました。教義と聖約

第88章の中で、主はわたしたちに、御自分の声は御霊であると教えられました（66節参照）。

わたしは、今日ここに集えて感謝しているだけではありません。すばらしい音楽と、すばらしい音楽がわたしたちの生活に与える影響と、そして今朝聖歌隊が歌ってくれた「山の強さのため」（『賛美歌』23番）という曲に、心から感謝しています。聖歌隊がこの曲を歌っているとき、わたしは、その強さについて考えていました。その強さとは、わたしが大会だけで感じたものではなく、生涯を通じて感じているものです。それは、忠実で従順な教会員としての生活を続けるときに得られる強さです。わたしたちが歩むべき道に従って生活すれば、わたしたちの人格も強められます。

わたしの祖父はユタ州のファーマーミントンで数年生活した後、要請に応じて家族を引き連れ、アイダホ州南部の中央部に移住し、オークレーという名前の新しい定住地を作る手助けをすることになりました。この移住のとき、父のヘクターはまだ10代でした。母のクララもまだ10代で、ユタ州のトゥーエルに住んでいました。彼女の父親も、オークレーへ移住して、そこで最初の製粉工場を作るよう要請を受けました。こうして、ヘクターとクララは、そのアイダホの小さな町で出会い、愛し合うようになったのです。

1890年に二人は結婚することになったのですが、二人の間で、どこで結婚しようとか、何をしようといったことは、話題にも上りませんでした。何をしなければならないか、二人は知っていたのです。わたしの話を聞いておられる皆さんの中には、アイダホ州のその辺りの地理に詳しくない方もいらっしゃると思いますが、その町からローガン神殿までは、距離にして約290キロあります。それでも、父と母は、結婚のためにその小さな町からローガン神殿まで出かけました。1890年5月15日のことです。わたしは、二人がどんな旅をしたのか、よく考えることがあります。側板もなく、座席が二人ずつ向かい合わせになっている旧式の2輪

馬車に乗り、馬に引かせて旅をする場面を想像してみてください。降りしきる春の雨の中、二人はそんな馬車に乗って290キロに及ぶ旅を始めたのです。

その旅に一体何人が同行したのか、わたしには分かりませんが、屋根にも鉄板があり、サイドには窓ガラスが入り、ヒーターもラジオも快適な座席も装備されている現代の自動車とそのような馬車とを比較すれば、その差が歴然としているのがお分かりいただけるでしょう。とにかく、二人は同行者と、290キロに及ぶ旅の計画を立てました。当時、その旅は1週間かかりました。二人は馬車に乗り、神殿に向かって7日間の旅を開始したのです。二人には寝袋も、わたしたちが今知っているような冬着もありません。しかし、当時の適切な衣類は持って行きました。毛布とキルト、そして食料を詰めた小麦粉用の袋を持って行きました。

ですから、わたしたちが山の強さのためと歌うとき、その強さのゆえに主に感謝する必要があります。自分がここに存在し、自分が神の子であると知り、教えを信じ、教えに従って生活することは、紛れもなくその強さです。現在の若者の中に、わずか数キロしか離れていないマントイ神殿やセントジョージ神殿、またジョージア州アトランタ神殿やスウェーデンのストックホルム神殿、南アフリカのヨハネスブルク神殿、あるいはどこの神殿であれ、出かけて行くのはなかなか大変ではないかと悩んでいる人はいないでしょうか。ほんの数年前の状況を思い浮かべてみてください。そうすれば、神殿への旅がそんなに大変ではないことに気づくはずです。

妻のルビーとわたしは、先日結婚65周年のお祝いをしました。わたしたちは1930年9月4日にソルトレーク神殿で結婚しました。翌朝、わたしたちは二人で、ソルトレーク・シティーのM通りに住む妻の母に別れを告げるために出かけて行きました。静かな語らいの時間が過ぎ、やがて義母は、車の中に置くために作ってくれた小さなバスケットを差し出しながら、わたしにこ

う言いました。「デビッド、わたしに約束してちょうだい。ルビーを心から大切にすって。」わたしは、「約束します」と答えました。わたしは折に触れてルビーに言っているのですが、いつか彼女の母親に再会する日が来て、義母の目をまっすぐに見詰め、「わたしは約束をきちんと守ったつもりです」と言える日の来ることを、心から望んでいます。

ルビーとわたしは正しい方法で結婚し、神聖な聖約と決意の下に神殿で結び固めを受けました。そのおかげで、よりふさわしく、より忠実に、より信仰深く、またより献身的になろうと努めてきました。今、65年のすばらしい歳月を二人そろって振り返ってみて、時間がたつにつれて、結婚生活もいっそうすばらしくなるものだということを実感しているところです。

1930年にルビーとわたしは、小さなT型フォードに乗って、カリフォルニアに向けて出発しました。わたしたちはあのでこぼこの砂利道を、時速160キロで飛ばしながらネバダ州を横断しました。もっとも最初の50キロくらいはまっすぐの道でしたが、残りの100キロ以上は上下に揺られながらの運転でした。わたしたちはそれまでカリフォルニアへ行ったことがありません。ネバダとカリフォルニアとの州境にあるタホ湖までようやくたどり着いたときには、その大きな湖が特別暖かく、また美しく感じられたものでした。わたしは、その湖の水面のほんの2、3センチ下の水は、氷のように冷たいということを知りませんでした。わたしたちは小さなモーターを見つけ、中に入ると、水着に着替えました。わたしは、新妻に、彼女が実に男らしい男と結婚したのだということを、実際の行動で示したいと考えました。わたしたちは湖に突き出た船着き場へ行きました。わたしは実に美しい光景だと考えました。太陽はすでに沈みかかっていました。こうしてわたしは、新妻にすばらしい相手と結婚したんだということを行動で示そうと、湖に頭から飛び込んだのでした。ところが氷のように冷たい水の中に飛び込むやいなや、自

分が死ぬかと思いました。結局、わたしは大騒ぎをしながら、水の中から上がって来たのでした。

わたしたちは二人で楽しい時間を過ごししながら、カリフォルニア州のパークレーまで車を運転して来ました。わたしたちはそこで1か月45ドルの家具付きアパートを見つけました。しかし2日目のこと、その日の夕方アパートへ帰ってみると、ドアの鍵が合いません。結局、わたしは管理人のところへ行き、「すみませんが、鍵が合わないようなんですが」と言いました。すると管理人は「ご心配なく。奥様はもう引っ越されましたよ」と言うではありませんか。わたしが「引っ越したと言うんですか」と尋ねると、管理人はこう答えたのでした。「ええ。もう5ドル安いアパートを見つけておきましたから。」

あるとき、ルビーとわたしはアメリカ国内を何回引っ越したのか、数えてみたことがあります。その数は27回にもなりました。カリフォルニア州への引っ越しは、計3回ありました。イリノイ州へも2回引っ越しました。同じ場所を行ったり来たりしたことも、巡り巡って同じ場所に来たこともありました。しかし、そういう日々を思い返してみると、実に楽しい思い出なのです。現在、3人の子供たちや、50人以上にもなる孫や曾孫たちに恵まれ、わたしたち二人は「実にすばらしい人生だった」と語り合っています。

まず神の国を求め、歩むべき道に従って生活するなら、そのほかの生活はことごとく時宜（ときぎ）になくなって整えられ、すばらしいことが起こるでしょう。ですから、自分の家族のことを考えると、わたしたちの孫のうち、可能な男の子は全員、そして女の子の中でも数人、伝道に出られたことを、わたしたちはほんとうに喜んでいます。その孫たちは皆、「神の子です」（『賛美歌』189番）の歌やそのほかのすばらしいシオンの歌の意味を理解し、歌えます。そんな孫たちをわたしたちは心から誇りにしています。わたしたちの家族の中に、小さな水彩画を大切にしている者がいます。別に有名な画家が描いたも

のではありません。その絵はアルメニアの子供たちが数人で描いたものです。わたしの家族や孫たちの中に、国境を越えてアルメニアへ食糧を届ける手助けをした者がいたことから、命の贈り物のお返しにと、感謝の贈り物として届けられた絵です。生きているということは、実に豊かで満ち足りた素晴らしいものです。人生のあらゆる出来事は、いつか、落ち着くべきところに落ち着くものなのです。そのためには、自分の生き方を通して、自分で努力する必要があります。

数週間前のことですが、ルビーとわたしはアイダホ州のオークレーまで出かけて行きました。2日間ほどの日程で、わたしたち家族の住んだ古い家を再建するためです。そのとき、わたしはミシガン州のデトロイトに住むレオノア・ロムニー姉妹から電話を受けました。レオノアというのはジョージ・ロムニー兄弟の奥さんです。その電話は「今朝、主人が亡くなりました」というものでした。できれば時間をやり繰りしてわたしに葬儀に参列してほしいと言われました。わたしは彼女に、必ず参列するつもりではいるけれども、時間の調整については教会のわたしの管理者と相談しなければならないと伝えました。

わたしは電話を切ると、わたしたちの古い家を出て、通りを歩き始めました。わたしはそのまま用水路を横切り、かつてロムニー家族が住んでいた家のあった辺りまで行って見ました。ジョージの父親の名前はガスケル・ロムニーといいます。わたしの父が彼らの監督でした。わたしは辺りを見回しましたが、ロムニー家族が住んでいた家は、そこにはもうありません。それからわたしは、昔の灌漑用水路の跡の土手を歩いてみました。辺りを見回すと、父がわたしにバプテスマを施してくれた場所が目に入りました。また、昔ジョージと一緒に泳いだ場所も目に入りました。当時の水泳着といえば、胸まで覆うようなズボン型のものしかありませんでした。今皆さんが目に見えるような流行の先端をいくようなものはありません。ほんとうのデニム

製の、旧式のオーバーオールでした。わたしたちはおぼれないように、足の部分を短く切り、またポケットも切り落としました。わたしたちの水泳着と言えば、その程度のものだったのです。わたしたちは、ささやかな日の光を浴びながら用水路の土手に腰を下ろし、寒さに震えていたものでした。しかし、わたしたちにとっては、レクリエーションというと、水泳程度しかなかったのです。ジョージとわたしはほぼ同年齢でした。ジョージはわたしの友人でもあり、また幼なじみでもあったのです。

わたしは用水路の土手を歩きながら、ジョージのことを考えていたとき、ローズマリー・ビネーとステイブン・ビンセント・ビネーが、エブラハム・リンカーンの母親であるナンシー・ハンクスについて書いた詩を思い出しました。ナンシー・ハンクスが亡くなったとき、エブラハム・リンカーンはわずか7歳でした。しかし、この親子は深く愛し合っていました。しかし、その優しい詩の中で、ビネー夫妻は、もしナンシー・ハンクスが今の世によみがえったら、きっとこんなことを尋ねるだろうと想像しています。「わたしの息子のエイブは一体どうしているのだろうか。あの子はちゃんと町へ出て行くことができたのだろうか。ちゃんと読めるようになるまで、勉強したのだろうか。ひとかどの人物になれたのだろうか。」(“Nancy Hanks” The

Book of American Poetry「ナンシー・ハンクス」『米国詩集』エドウィン・マーカム編、p.791参照)。

ジョージの母親も、ジョージが10代のころ亡くなりました。息子がどんなに成長したか、見届ける機会はありませんでした。葬儀のときに、わたしは恵まれて、ミシガン州の現知事と同席する機会を得ました。900万の人々の住むその州で、ジョージは3度にわたって知事に選ばれました。州知事は、ジョージ・ロムニーについて、偉大な人物であり、人に対する務めがあるからといって、決して神に対する務めをおろそかにするような人物ではなかったと語りました。また、デトロイト・ニューズ紙も、ジョージ・ロムニーは自分の公的な生活を送るに当たって、宗教をその羅針盤として活用した人物である、と評しています。

わたしは皆さんのもとに、わたしの愛と証を残してまいります。この御業は真実です。若い皆さんの中には、社会に出て前進しようと思い、不安を抱いている人がいるかもしれません。そういう人は、導きを受けるために福音を羅針盤として使い、立派な仕事をしている人もたくさんいることを、心にとどめておいてください。福音は真実です。この地上には生ける預言者がいます。皆さんが福音の教えに完全に従った生活をすることができますよう、へりくだってイエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。



光と真理の窓

十二使徒定員会会員

ジョセフ・B・ワースリン

この世の嵐がわたしたちを混乱に陥れるときでも、啓示の窓はわたしたちを無事に天の御父のみもとに帰らせてくれます。



愛する兄弟姉妹の皆さん、ヒンクレー大管長はこの会場に向けて歩きながら、こうおっしゃいました。「引き返しましょうか。」わたしは答えました。「それはありがたい。」とにかく、この場でお話しできるのは特権であり、主の御霊がともにいてくださるよう願っています。今日の情報化社会では、コンピューターが、無限に広がる世界をのぞく窓の役割を果たしています。まさにボタンを一つ押すだけで、世界中の大学、博物館、政府機関、研究施設などの電子化された情報ライブラリーを検索できます。世界中を網羅する電子媒体のネットワーク、すなわち情報の高速道路上を、膨大な量のデータが、日ごとにスピードを増して行き来しています。このパソコンモニターの窓を通し、わたしたちは家庭や職場から複雑に交差したデータバンクのネットワークにアクセスし、いろい

ろな所に保存されている文章、グラフィック、写真、地図、図表等を目にしたり、音楽やスピーチを耳にすることができます。

同様に、いろいろな機器により、わたしたちの視野が今まで想像できなかった分野に広められています。望遠鏡や顕微鏡は、日ごとに未知の世界を拡大しています。現代医学では、磁気共鳴画像診断装置（MRI）と呼ばれる画像の「窓」が、患者に関して以前は得られなかった各種の情報を医師に提供してくれます。また空港官制塔のレーダーは、この大切な機械なしでは見られない遠方の物体を検知することによって、わたしたちの生命を守ってくれる窓となっています。技術にだけた官制官が、このレーダーの情報によってパイロットを安全に導いているのです。

啓示の窓

末日聖徒は、これらとは違った窓である天の窓を通して、光と真理の原点から霊的情報にアクセスできると大胆に主張します。「わたしたちは、神がこれまでに啓示されたすべてのこと、神が今啓示されるすべてのことを信じる。またわたしたちは、神がこの後も、神の王国に関する多くの偉大な重要なことを啓示されると信じる。」¹

1820年のあの春の日、聖なる森で一人の農家の少年の熱心な祈りに主がおこたえになり、イエス・キリストの完全な福音が回復されました。その出来事によって幕が開けられたこの完全な福音の時代に、啓示の高速道路が、

膨大な量の永遠の真理を伝送しています。

わたしたちは恵まれて、愛に満ちた天父が預言者、聖見者、啓示者として、偉大な指導者ヒンクレー大管長を召された、この末日の世に生活しています。ヒンクレー大管長を通して、主は啓示の窓をお開きになり、預言者の言葉に耳を傾けるすべての御父の子供たちを導き、祝福してまいります。昔と同様、主は今も、「しもべである預言者にその隠れた事」²を示されることによって、福音の光と真理の窓を開かれるのです。

見る目を持ち、聞く耳を持つ者のみが永遠の原則を学び、³知識と先見、知恵の壮大な眺めを見、人生の指針を手にすることができます。

わたしたちの心と精神を信仰、訓練された従順さ、祈り、聖文学習で正しく環境設定するなら、神の永遠の真理のネットワークにアクセスできます。神の預言者の教えと導きを受け、天の御父とその愛する子イエス・キリストからの知識と啓示の窓がわたしたちに開かれるのです。

主は、わたしたちがこの霊の窓の使い方をよく学び、自分自身や家族のために啓示を求め、受けられるようになりなさいと諭しておられます。この世の嵐がわたしたちを混乱に陥れるときでも、啓示の窓はわたしたちを無事に天の御父のみもとに帰らせてくれます。わたしたちが悪の誘惑に負けてしまったり、霊的に弱ったりしたとき、靈感を受けた監督をはじめ、そのほかの思いやり深い指導者が啓示の窓を開いて霊的な指針を与えてくれます。よく準備のできた、靈感に導かれた宣教師は、天の窓を開いて、「見いだす場所を知らないということだけで真理を得られずにいる……人」⁴に光を投げかけることができます。

天の窓を開ける鍵である従順

天の窓は、忠実で義になかった人々に大きく開かれます。不従順ほどこの窓を速やかに閉ざしてしまうものではありません。ふさわしくない人々は、啓



示された真理のネットワークに十分アクセスできません。「天の力は義の原則に従ってしか制御することも、運用することもできない」⁵とあります。

「天の第一のおきては従順です。」⁶

アルマが「謙遜であり……素直であり……いつも熱心に神の戒めを守る」⁷ように勤めたのはそのためです。

天の窓を開くには、まずわたしたちの気持ちを主の御心に一致させなければなりません。勤勉さと神のおきてにあくまでも従順であることが天の窓を開く鍵です。わたしたちは、従順により主の御心と御旨に敏感になります。「主は心と進んで行く精神とを求める。そして、進んで行く従順な者は」⁸、天の窓を開いて啓示の恩恵にあずかることができます。

伝道活動

主は教会員に、完全な福音の回復を「世に宣言する」⁹ように、そしてすべての兄弟姉妹に対し、「心と、勢力と、思いと、力を尽くして」¹⁰光と真理の窓を開きなさいとおっしゃいました。

救い主は、「警告の声は、……弟子たちの口を通して、すべての民に及ぶ。……彼らは出て行き、彼らをとどめる者はいない」¹¹と言っておられます。

主の教会の会員は、預言者モルモンの言葉を喜びをもって繰り返すことができます。「見よ、わたしは神の御子イエス・キリストの弟子である。わた

しはイエス・キリストの民の中でイエス・キリストの言葉を告げ知らせ、彼らが永遠の命を得られるようにするために、イエス・キリストから召された。」¹²

わたしたちは、世に出て行く主の弟子なのです。わたしたち一人一人は、「イエス・キリストの民の中で〔宣教師として〕イエス・キリストの言葉を告げ知らせ……るために、イエス・キリストから召された」のです。若くして、または老後に専任宣教師として奉仕することができます。比較的短い期間だけ奉仕の窓が開かれます。スペンサー・W・キンボール大管長の勧めに従って「実行」に移しましょう。大管長は「実行しましょう。今すぐに」と付け加えています。ステーキ宣教師や愛の深い隣人にもこの尊い奉仕の機会が訪れます。この暗さを増す世の中に永遠の命の祝福を宣べ伝え、光と真理の窓を大きく開いてください。この責任から逃れたいと思うときは、主が「〔わたしたち〕をとどめる者はいない。……目として見ないものはなく、耳として聞かないものはなく、心として貰かれないものもない」¹³と言われたことを思い起こしてください。

バプテスマを受けて「霊的に神から生まれ……心の中に……大きな変化を経験し……顔に神の面影を受けている」¹⁴新しい兄弟姉妹の目や顔に福音の光が輝くを見ることほど大きな喜びはありません。

天の窓をすべての兄弟姉妹のために開きなさいという主の命令を全うするには、福音を教える準備をしなければなりません。聖文の研究と断食、祈りをもって証を強めなければなりません。また、「信仰、徳、知識、節制、忍耐、兄弟愛、信心、慈愛、謙遜、勤勉」¹⁵などのキリストのような特質を培いましょう。

従順の模範を示すことにより、わたしたちは「光を人々の前に輝かし、そして、人々が〔わたしたち〕のよいおこないを見て、天にいます〔わたしたち〕の父をあがめる」¹⁶ようになるのです。

また、戒めを守ることににより、わたしたちは福音の明かりをともし、それを「燭台の上において、家の中のすべてのものを照らせる」¹⁷ことができます。

什分の一の律法

マラキ書第3章の言葉は、末日聖徒ならだれでもなじみのある言葉です。

「わたしの宮に食物のあるように、十分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい。これをもってわたしを試み、わたしが天の窓を開いて、あふる恵みを、あなたがたに注ぐか否かを見なさいと、万軍の主は言われる。」¹⁸

時々わたしたちは、什分の一の律法をこの世的な戒めと考え、物質的観点からしかとらえようとしなないことがあります。この神聖な律法を忠実に守ることによりもたらされる大きな霊的祝福を見逃すなら、わたしたちは視野が狭く、感謝の心を持ち合わせていないと言われても仕方ありません。忠実にこの律法に従うなら、天の窓が開かれ、物質的な祝福はもちろん、霊的な祝福、すなわち永遠にわたって価値のある祝福があふれるばかりに注がれるでしょう。

ヒンクレー大管長は、什分の一を納めることによってもたらされる祝福は、「目に見える物理的な形で与えられるとは限りません」と言いました。そして次のように説明しています。「主は、この世の富に勝る祝福をいろいろな形

で与えてくださいます。健康というすばらしい祝福もその一つです。主は、わたしたちのために食い滅ぼす者をおさえると、〔マラキ第3章11節で〕約束してくださいました。マラキは、地の産物について話していますが、この約束は、わたしたちが努力している事柄のうえにも、様々な形をとって実現されているのではないのでしょうか。」¹⁹

知恵の言葉

1833年以来、預言者ジョセフ・スミスは、たばこや習慣性の刺激物を避けることによりもたらされる祝福について教えてきました。主が天の窓を開いて、「シオンの聖徒たちのための『知恵の言葉』」を啓示されたからです。主は、「終わりの時に陰謀を企てる人人の心の中に今あり、また将来もある悪ともくろみ」²⁰に対する警告としてこの啓示を授けられました。

喫煙と肺癌の関係が最初に明らかにされたのは、主が窓を開いて預言者に啓示をお授けになってから117年後、1950年に出版された『全米医学協会会報』²¹においてでした。

知恵の言葉に従順であることがもたらす約束としての肉体的強さと健康²²は、いろいろな分献²³に載っており、一般によく知れわたっています。さらに、このような習慣性の刺激物から自分たちの体を守る人々には、「知恵と、知識の大いなる宝、すなわち隠された宝」²⁴である霊的な祝福が与えられます。また、知恵の言葉に従順であれば個人的な揭示の窓が開かれ、わたしたちの心は神の光と真理で満たされます。このようにして体を清く保つ人々には、聖霊が「〔わたしたち〕に降って〔わたしたち〕の心の中にとどま」²⁵り、「不死不滅の栄光の平和なること」²⁶が与えられるのです。

精神的な知恵の言葉

天の御父は、天の窓を開いて御父の子供たちに知恵の言葉を下さり、肉体を滅ぼす悪い物質に対して警告されました。主は同様に、預言者を通じて、

^{こんにち}
今日のメディア、特に雑誌、映画、ビデオ、ビデオゲーム、テレビなどに氾濫する悪に身を染めることに対し警告しておられます。コンピューターモニターやテレビの窓は、わたしたちに有益な情報をもたらす一方、わたしたちを破壊する下品で悪に満ちた情報ももたらすのです。

主は、今日の社会にはびこる悪意を持つ人々の悪巧みや悪の行いに対して警告を与えていらっしゃる。彼らはわいせつな画像、言葉、音楽などを使って誘惑し、わたしたちを欲望と情欲のとりこにしようとねらっています。そこで、主は預言者を通して、わたしたちの霊を汚す思いを取り除くように強く警告しておられるのです。

1950年以来、教会の指導者は、不健全なメディアの影響に対する警告を約75回、この総大会の壇上から説教しています。ますます風紀が乱れ、社会の道德水準が低下している今、そしてその乱れがメディアに反映し、同時にメディア自体がそれをリードする今だからこそ、主の羊の群れを率いる靈感あふれる羊飼いの愛の言葉が繰り返し、緊急性をもって伝えられてきたのです。台の上の見張り人が警告の声を発したのです。

わたしもそれらの言葉に付け加えたいと思います。メディアを通じていとも簡単に家庭に入り込み、蔓延する悪の影響に対して天の御父は警告を発しておられます。その声によく注意を払ってください。わたしは、これまでこのことに関して受けたすべての助言と指示をまとめて「精神的な知恵の言葉」と呼びたいと思います。わたしたちが、口から入る食べ物に大きな注意を払うように、耳や目から霊の体に入る事柄も注意深く選択しなければなりません。

聖霊の賜物

聖霊の賜物は、霊的な窓であり、わたしたちの生命を救ってくれるビジョン、知恵、洞察などを提供する個人的で正確な羅針盤の役割を果たします。この信仰なき社会にあって、聖霊は明

確な導きと指針を与えてくれます。ファウスツ副管長は次のような確信に満ちた証を述べています。「この不安定な世にあって、聖霊の御霊こそほかの何よりも、わたしたちに心の平安を与えてくれるものだと思っています。……わたしたちの心を開き、幸福感を増し……てくれます。……またわたしたちが生まれつき持っている感覚を磨いてくれるので、もっとはっきり見、もっとはっきり聞き取り、忘れてならないことをよく記憶することができるようになります。すなわち、聖霊の導きに従うならば、わたしたちは至上の幸福を得ることができるのです。」²⁷

ふさわしい礼拝

窓は定期的に洗い、ほこりや汚れを取り除かなければなりません。定期的に掃除せずにほこりや汚れがたまると、光を遮り、窓が薄暗くなってしまう。建物の窓を定期的に掃除しなければならないのと同じように、霊の窓もいつもきれいにしておかなければなりません。

わたしたちは毎週聖餐会に出席することにより、自分自身の天の窓をきれいにし、この世の誘惑や妨害という迷いの霧から影響を受けないようにしようという決意が強められます。毎週ふさわしい状態で聖餐を受け、バプテスマの聖約を新たにすると、わたしたちは人生の永遠の目的と神の目から見て何が大切かをしっかり見極めることができます。聖餐の祈りは、いつも救い主イエス・キリストを覚えて生活するというわたしたちの約束の言葉であり、わたしたちに反省と悔い改め、新たな決意の機会を与えるものです。毎週イエス・キリストのようになることを繰り返し決意することこそが、末日聖徒としての最高の生き方なのです。

また、事情が許すかぎり神殿に参入することも、天の窓をきれいに保つために欠かすことができません。主の家で礼拝するなら、人生で何が最も大切か、いつも明確にしっかりと心に留めることができます。そうすれば、この世の汚れに染まらずにいられます。

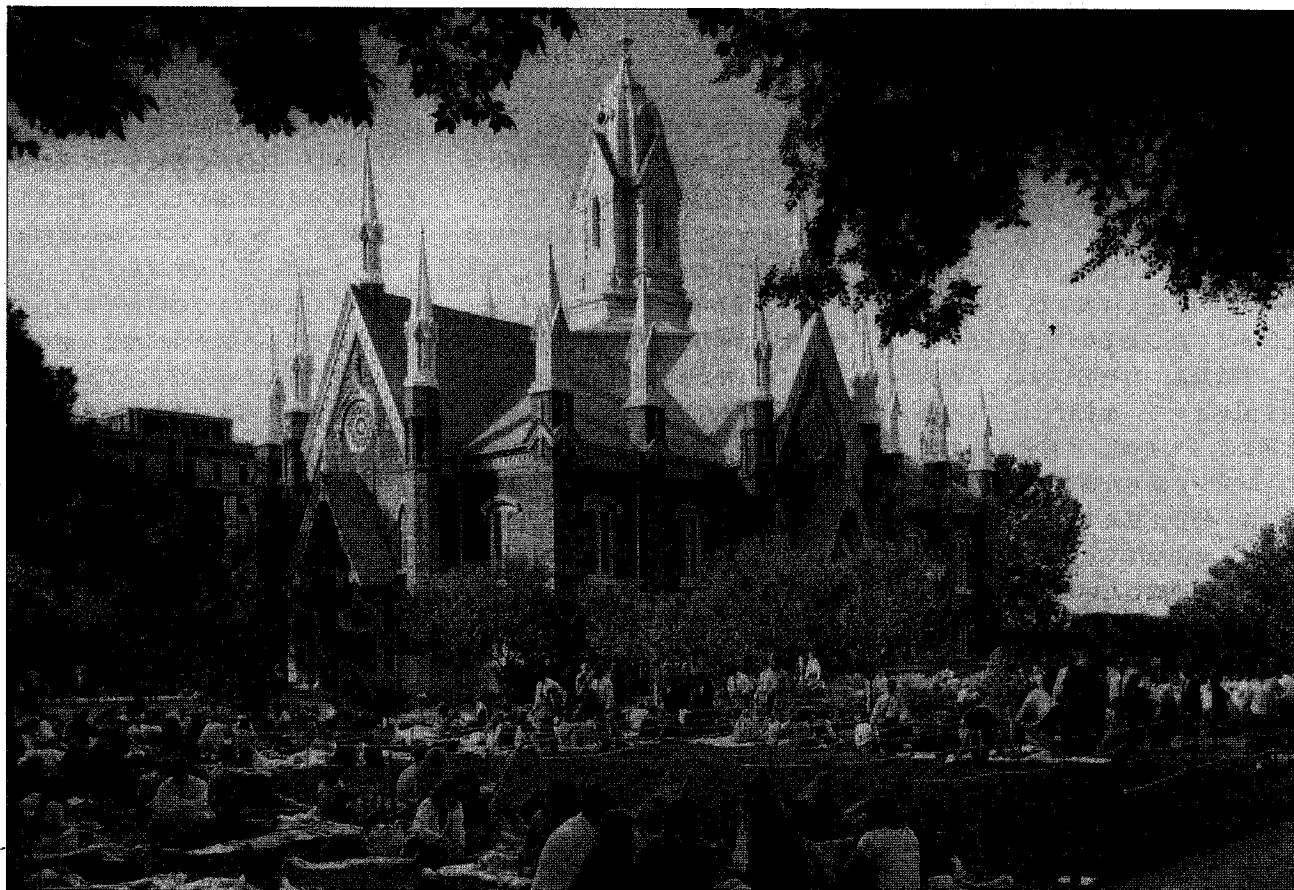
わたしは、天の窓が確かに開かれていることを証します。ヒンクレー大管長は、主から召された現代の生ける預言者です。ジョセフ・スミスは回復の預言者です。イエスはキリストであり、全人類の主であり、救い主です。天の御父は確かに生きておられ、子供たち一人一人を愛しておいでになります。主は、永遠の真理のネットワークを回復なさいました。わたしたちもそれぞれの天の窓を開くことができます。この神聖な窓を開いて、「永遠の大いなる広がり」²⁸、「世々限りな〔い〕」²⁹無限の宇宙を主とともに見詰めることができるのです。

この証をイエス・キリストの御名^{みな}によって申し上げます。アーメン。

*

注

1. 信仰箇条1:9
2. アモス3:7
3. 申命29:4 参照
4. 教義と聖約123:12
5. 教義と聖約121:36
6. エズラ・タフト・ベンソン、伝道部長セミナー、1988年6月21日。*Teachings of Ezra Taft Benson*『エズラ・タフト・ベンソンの教え』p.26; S・デルワース・ヤング、*Conference Report*『大会報告』1952年4月、p.29; ブルース・R・マッコスキー、*The Promised Messiah*『約束されたメシヤ』p.126; *Mormon Doctrine*『モルモンの教義』p.539も参照
7. アルマ7:23、下線付加
8. 教義と聖約64:34
9. 教義と聖約1:18
10. 教義と聖約4:2
11. 教義と聖約1:4-5
12. 3ニーファイ5:13
13. 教義と聖約1:5, 2、下線付加
14. アルマ5:14, 19
15. 教義と聖約4:6
16. マタイ5:16
17. マタイ5:15、下線付加
18. マラキ3:10
19. 『聖徒の道』1982年7月号、p.74、下線付加
20. 教義と聖約89:1, 4
21. "Milestones" *Time* 『マイルストーンズ』『タイム』1995年7月24日、p.19
22. 教義と聖約89:18-21参照
23. ラッセル・M・ネルソン『聖徒の道』1987年1月号、p.70参照。ジェームズ・A・エンストロム "Health Practices and Cancer Mortality among Active California Mormons" *Journal of the National Cancer Institute* 『カリフォルニアの活発なモルモンにおける健康習慣と癌^{がん}死亡率』『アメリカ癌協会会報』第81巻第23号、1989年12月6日; エドワード・ノーデン "How to Live as Long as They Do" *Longevity* 『彼らのように長生きするには』『長寿』1990年9月号も参照
24. 教義と聖約89:19
25. 教義と聖約8:2
26. モーセ6:61
27. 『聖徒の道』1989年7月号、p.35、下線付加
28. 教義と聖約38:1
29. 教義と聖約76:112

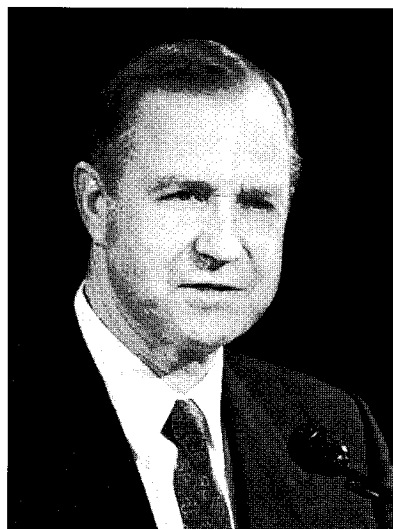


幸福をもたらす 永遠の律法

七十人

リン・A・ミケルセン

十戒を守ることによりわたしたちは神への愛を示します。また、この永遠の原則を積極的に応用することにより隣人への愛を表します。



ヒンクレー大管長、わたしは全世界の聖徒を代表して、このことを伝えても差し支えないと感じています。大管長は、力を増し加え、この御業を前進させていかなければならないと言われましたが、預言者としてのチャレンジに満ちた言葉に、わたしたちは深い感動を覚えています。わたしたちは、全力を尽くして預言者に従い、この目標を達成したいと思います。

1978年にブリガム・ヤング大学で教鞭を執っていたデニス・ラスマッセン兄弟は、米国ユダヤ教神学校で学ぶために願書を提出し、受講者に選ばれました。その開講式において、ラスマッセン兄弟が、自分の名前と所属大学を紹介しますと、ユダヤ教の律法学者であるマフス氏が「あなたはモルモ

ンだ」と大声で叫び、「^{じゅうぶん}十分の一を完全に納めていますか」と聞きました。兄弟が「はい」と答えると、「では、心から喜んでですか」とまた尋ねました。兄弟が「そうです」と言うと、この律法学者は次のように言いました。「喜びほど宗教生活の基本になるものはないと思います。……わたしは今、喜びに関する本を書いています。」ラスマッセン兄弟は、それに答えて、「『モルモン書』の中には、『人が存在するのは喜びを得るためである』¹と書かれてあります」と言いました。

マフス氏はそれに深く感動し、「それこそわたしが生涯探し求めてきた言葉です。何とわたしは今その言葉を、……『モルモン書』の中に見いだししました」と宣言しました。さらに、ラスマッセン兄弟の方を向いて、「もう一度、今度はゆっくり言ってください」と言いました。兄弟がその聞き慣れた聖句を繰り返すと、学者の目には自分の理解した、これまでになく簡潔に表現された偉大な真理に対して、感謝の色がうかがえました。²

わたしたちの存在の目的を知るのは何と大切なことでしょう。人は喜びを得るために存在し、喜びは神の戒めを守ることにによりにもたらされます。³

今年の2月、わたしはこの喜びの実例をチリのサンティアゴで目にしました。わたしはある宣教師と一緒に、改宗者を訪問しました。バスアレ家に着くと、まるで宣教師のようにワイシャツとネクタイに身を包んだ8歳の双子

の兄弟、ニコラスとイグナシオがわたしたちを出迎えてくれました。父親はそれより3週間前にバプテスマを受け、その1週間後自分の奥さんと息子たちにバプテスマを施しました。わたしたちは彼らの改宗について話しました。彼らは宣教師たちをどれほど愛しているか、そして福音に生き、戒めを守ることによりもたらされる喜びについて語り、居間に飾ってあるサンティアゴ神殿の写真を、誇らしげに見せてくれました。それはバプテスマの日からちょうど1年後に、永遠の家族になるための目標の象徴でした。

わたしはニコラスに大きくなったら宣教師になりたいか聞きました。彼は「うん」と答え、そのための準備をする約束を、わたしと握手を交わしました。次に、わたしはイグナシオに同じ質問をしました。彼は、少しためらいながら「ぼくにはその約束ができるかどうか分からないよ。だってまだ8歳だもの」と言いました。「ニコラスは約束したよ。同じことをしたくないの」と続けましたが、彼はまだためらいぎみに「準備できるかどうか分からない」と言うのです。これ以上は無理だと思い、「じゃあ、お父さんと話してみたらいいね」と言いました。

父親は、自分のもとにやって来たイグナシオを抱き締めて、こう言いました。「イグナシオ、イエス様も宣教師だったんだよ。イエス様も、シーツ長老やその同僚のように町を歩き回って、戒めを守るようにように教えながら、人々を幸せにしたんだよ。イエス様みたいになりたいくないのかい。」「うん、なりたいたよ、お父さん。」「皆で頑張ったら19歳になるまでに宣教師になる用意ができると思うかい。」「多分ね。」「それじゃあ、ミケルセン長老とそうする約束をしたくないかい。」「彼はわたしのところにやって来ました。そして、わたしたちは約束を確認するために握手を交わしました。わたしは、ほんの3週間前に改宗したこの若い父親が、家族を救い主に従わせ、息子を教えるために宣教師を模範にするという、こまやかな配慮を示したことに驚きました。永遠の家族になるという彼らの

目標は、この忠実な父親の導きの下に必ずや達成されるでしょう。

創造の初めより、このような家族の幸福は天父の計画の中心でした。エデンの園を追放されたアダムとエバは地に増え、地を満たしました。その家族の人数が増すにつれ、主の助けを求めるようになりました。主は彼らに戒めを与え、それを子供たちにも教えるよう教えられました。⁴ その永遠の律法は、シナイ山上でモーセにも与えられ、救い主の二つの偉大な戒め⁵に要約され、この「教会の律法」⁶としてジョセフ・スミスに再び啓示されました。わたしたちもこれらの戒めを子供たちに教えなければなりません。わたしたちのこの世での幸せと、永遠の家族としての来世での喜びは、わたしたちがこれらの戒めをどれほど熱心を守るにかかっています。わたしは十戒を、救い主の高い律法を反映する積極的な方法で、子供たちに教えることができると考えています。

1. 「あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない。」⁷ 神が生きておられ、確かに存在されるということ、文字どおりわたしたちの霊の父親でいらっしゃるということを、教えましょう。わたしたちは神の形に似せて創造されました。未発達ではありますが、人は神の属性をすべて備えているのです。⁸ 神はわたしたちを愛し、わたしたちが御自身のようになるよう望んでいらっしゃいます。神はわたしたちとの意思疎通を望んでいらっしゃいます。子供たちに祈るよう教えてください。

2. あなたは刻んだ像にひれ伏してはならない。⁹ 天父をまず第一に優先しなければなりません。この世の何ものも、天父に取って代わることはできません。すべての事柄のうに神の御手があることを悟らせ、神を敬い、尊ぶように教えてください。¹⁰ 隣人への無私^{みづか}の奉仕によって神を礼拝する方法を、自らの模範により、子供たちに教えてください。家族の祈りの中でまた家庭の夕べの中で神を礼拝してください。スポーツ、学業、娯楽、富、そのほかこの世のむなしい事柄を優先する



ようになると、神への礼拝がおろそかになります。

3. 「あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。」¹¹ 子供たちに、バプテスマの聖約を通して、主の御名を受ける準備をさせてください。この聖約を受けることによりわたしたちは神の子として認められ、またその戒めを守る約束を交わします。¹² この神との約束と聖約を破りながら悔い改めをしないとき、わたしたちは神の御名を汚していることになるのです。¹³

4. 「安息日を覚えて、これを聖とせよ。」¹⁴ 7日のうちの1日は、神について学び、毎日の務めの重荷から精神を解き放ち、神を覚える日としてささげよう、子供たちに教えましょう。神にこのように時間をささげますと、わたしたちの心と精神を人生のほんとうの目的^{みこころ}に向け、この世から自らを解放することができます。安息日は、神のようになり、神を礼拝し、神の模範に従って隣人に奉仕する日なのです。安息日の目的を理解し、それになった生活をするなら、安息日のための細かい規則は必要ではありません。

5. 「あなたの父と母を敬え。」¹⁵ 子供たちに従順を教え、正しい道を歩む

よう、しつけましょう。¹⁶ 子供たちは地上の父母を敬い、彼らに従うことにより、天父に従うことを学びます。家庭内の倫理的標準を教え、行動規則を立てましょう。主はイスラエルの民に、主の備えられた土地で生き長らえるであろうと約束されました。同じ約束が今日でも有効です。イスラエルの民にとって、それはカナンの地でした。わたしたちには、それは家族とともに享受する、永遠の命なのです。¹⁷

6. 「あなたは殺してはならない。」¹⁸ わたしたちは神の形に似せて造られました。¹⁹ 肉体と霊との結合は完全な喜びをもたらします。²⁰ 人の命の神聖さを尊び、慈しむように教えなければなりません。人の命は永遠の命への貴重な一段階です。母親の体内に宿ったときから、大切に守らなければなりません。²¹

7. 「あなたは姦淫^{かんいん}してはならない。」²² わたしたちの肉体が神の宮であり、神の御霊^{みたま}が宿るところであることを教えましょう。²³ 家族の神聖さと結婚の美しさ、そして天父が人類に与えられた創造の力の本質を教えてください。命を創造するときに、わたしたちは神の協力者となります。この力は尊ばれ、守られ、神聖な結婚のきずなの中でのみ行使されるものです。²⁴ それは日の栄えの力であり、もしも乱用されるなら、取り上げられてしまいます。

8. 「あなたは盗んではならない。」²⁵ ほかにの人に属するもの、特に天父に属するものに対して正直であり、尊ぶことができるよう教えましょう。²⁶ 什分^{じゅうぶん}の一と、そのほかの献金を惜しみなくささげることにより、子供たちの模範となってください。正直に行動するとき、御霊と神の力に満たされるのです。²⁶ 分かち与えることの喜びを教えようではありませんか。²⁷

9. 「あなたは隣人について、偽証してはならない。」²⁸ 常に真実を語るよう教えましょう。ありのままを話すよう教えましょう。ほかの人の良いところを見つけ、称賛を与え、否定的にならないように教えましょう。真実ほど貴重なものはこの世にありません。

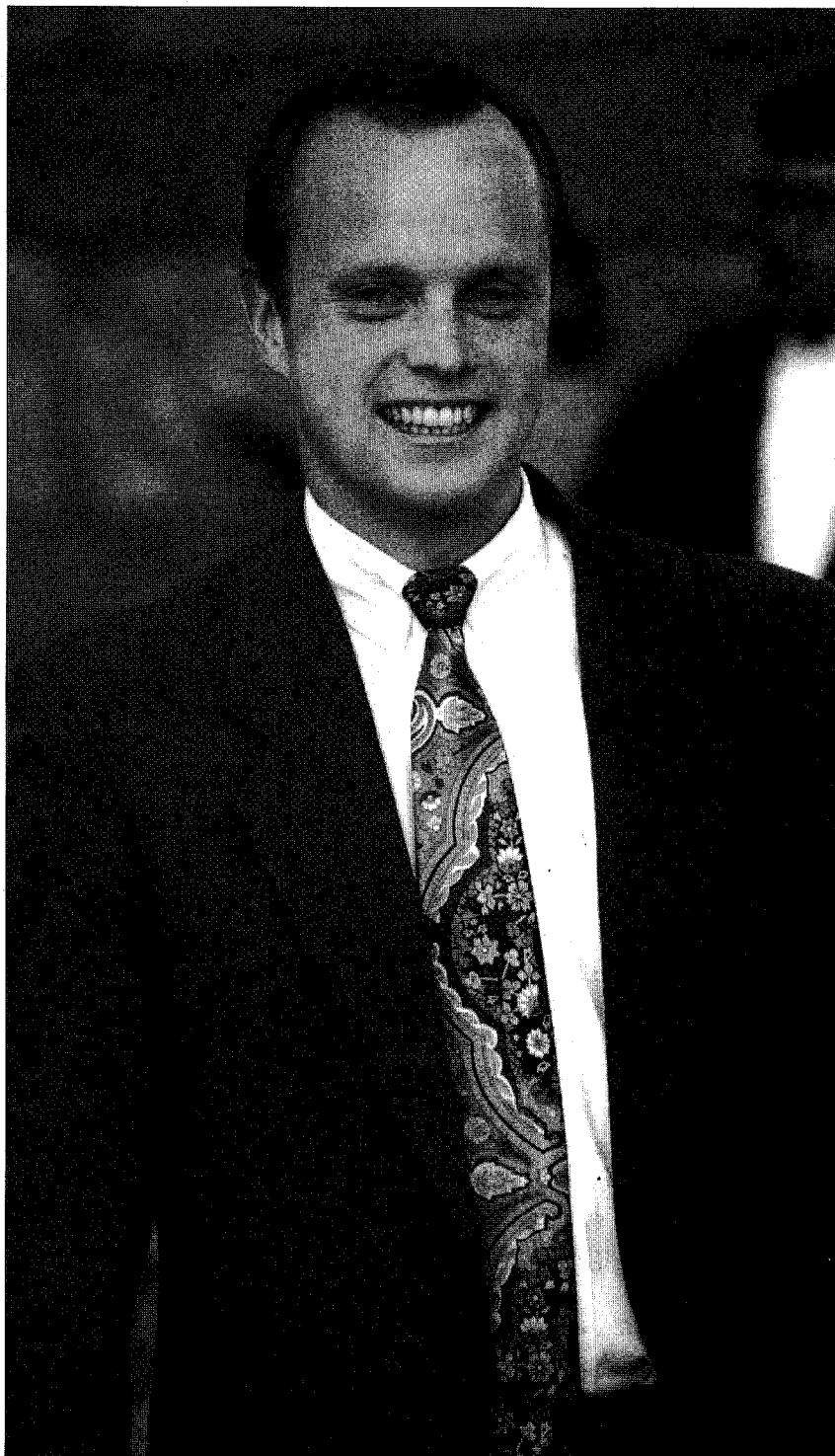
それはわたしたちの存在の本質です。²⁹
真実を語ることにより、神と同胞^{はらから}の中であって、わたしたちの自信は強固になります。³⁰

10. 「あなたは……むさぼってはならない。」³¹ わたしたちは子供たちを愛し、彼らが皆天父の子供であることを教えなければなりません。天父は彼らを愛しておられます。わたしたちの愛を感じるにより、子供たちは天父の愛を感じ、自らの良き名とキリストの御名^{みな}を受けることに感謝するようになります。わたしたちの愛と天父の愛を感じるならば、彼らは他人の持ち物などまったく必要としなくなります。個人の成長が大切なのであり、他人と比較することが大切なのではないと理解させるのです。隣人を愛し、彼らの業績とともに喜ぶように教えましょう。

十戒を守ることによりわたしたちは神への愛を示します。また、この永遠の原則を積極的に応用することにより隣人への愛を表します。これらは幸福になるための永遠の律法であり、これに従うならば、わたしたちを天父のもとに導いてくれるのです。³² 模範と訓戒によりこの永遠の律法を教えることができますように。福音の真理を知り、十戒を子供たちに教えることによりバスアレ家族が感じたような喜びをわたしたちも感じることができますように。

戒めを積極的な態度で理解するならば、子供たちはますますその戒めに従おうとします。また、間違いを犯した場合の赦し^{ゆる}に関する贖^{あがな}いの力をさらに深く理解することができるようになります。主の犠牲を理解するならば、子供たちは悔い改め、主に従う者の罪の代価をキリストが支払ってくださるという知識の下、完全な希望の光に照らされて前進することができます。³³

わたしたちが戒めを守り、それを子供たちに教えることにより、家族として創造の目的^{まこと}を全うし³⁴、天父の望まれる幸福を得ることができますように、イエス・キリストの御名^{みな}により、アーメン。



注

1. 2 ニーファイ 2 : 25。モーセ 5 : 10 ; 6 : 48 と比較
2. デニス・ラスマッセン "An Elder among the Rabbis" *Brigham Young University Studies* 「律法学者に囲まれた一人の長老」『ブリガム・ヤング大学研究紀要』21 : 344-345
3. 『モルモン書』ヤコブ 5 : 75 ; ジョ

セフ・F・スミス『福音の教義』
p.268 参照

4. モーセ 5 : 1-5 ; 6 : 57-62 ; 教義と聖約 20 : 19 参照
5. マタイ 22 : 36-40 ; マルコ 12 : 33 参照
6. 教義と聖約 42 章の前書きと本文を参照
7. 出エジプト 20 : 3

8. ジェームズ・E・タルメージ『信仰箇条の研究』pp.651-652
9. 出エジプト20: 5 参照。マタイ19: 16-22; 2 ニーファイ27: 25; 使徒17: 29; 教義と聖約93: 19も参照
10. 教義と聖約59: 21; アルマ31: 5 参照
11. 出エジプト20: 7
12. アルマ19: 35; モーサヤ 5: 7; モーセ 5: 1-9; 教義と聖約20: 37; モロナイ 6: 1-8 参照
13. 箴言30: 9; 教義と聖約136: 21参照
14. 出エジプト20: 8-11。教義と聖約59: 9-14も参照
15. 出エジプト20: 12
16. 箴言22: 6; *Discourses of Brigham Young* 『ブリガム・ヤング説教集』ジョン・A・ウィットソー編, p.207; ヘブル12: 9 参照
17. 教義と聖約132: 19参照
18. 出エジプト20: 13。教義と聖約42: 18; マタイ19: 18も参照
19. 創世1: 27; モーセ1: 13; モーサヤ7: 27; エテル3: 16-17参照
20. 教義と聖約93: 33参照
21. ジェームズ・E・ファウスト, *Brigham Young University devotional address* 『ブリガム・ヤング大学礼拝集会説教』1994年11月15日
22. 出エジプト20: 14。教義と聖約42: 24も参照
23. 1コリント6: 19参照
24. 教義と聖約49: 15-17参照
25. 出エジプト20: 15。マタイ19: 18; 教義と聖約42: 20, 119章; マラキ3: 8-11も参照
26. 『ブリガム・ヤング説教集』p.43。
27. マタイ5: 42; 使徒20: 35参照
28. 出エジプト20: 16。マタイ19: 18も参照
29. 「賛美歌」175番; 教義と聖約93: 24; ヨハネ8: 32参照
30. 教義と聖約121: 45参照
31. 出エジプト20: 17。教義と聖約19: 25も参照
32. 2ニーファイ9: 18-24参照
33. 2ニーファイ31: 20参照
34. 教義と聖約88: 19; ジョン・テラー, *The Government of God* 『神の支配』pp.32-46参照

*

子供たちの心に触れる

中央初等協会第一副会長
アン・G・ワースリン

子供たちはまずわたしたち親の目を通して救い主を見ます。そして最も信頼する友として主を知り、愛する方法を学んでいくでしょう。



兄弟姉妹の皆さん、ちょうど1年前、スーザン・ワーナー姉妹とわたしは、新しい中央初等協会会長のパトリシア・ピネガー会長の下に、副会長として支持を受けました。わたしたち3人合わせて、24人の子供を育ててきたわけですから、子供たちの必要を理解するには自信があると言っていいのかもしれませんが、しかし、今日の世界中の教会の子供たちを代表するという責任は、非常に重いものです。わたしたちが最も望むのは、天父の御心を知り、導きを求めることです。この召しを受ける際、わたしたちはロバート・D・ヘイルズ長老から様々な助言を受けました。そのとき彼は、聖文を読むときに子供たちに関する聖句に線を引くという提案をしてくれました。わたしたちはたくさん見つけることができ、聖文は家族のために書かれたと思えるほどでした。預言者たちは、

主が幼い子供たちに望んでおられることを、明確に書き記しています。

ニーファイは記録を書き始めるに当たって、このように記しました。「わたしニーファイは善い両親から生まれたので、父が学んだすべてのことの中から幾らかの教えを受けた。」(1ニーファイ1: 1)

エノスの書き始めは次のようでした。「さて見よ、わたしエノスは、父が正しい人であったことを知っている。父はわたしを父の言葉で、また主の薫陶と訓戒によって教えてくれたからである。神の御名がほめたたえられるように。」(エノス1: 1)

また、初等協会のテーマはイザヤの言葉から取ったものです。「あなたの子孫は皆、主によって教えを受け、あなたの子孫の平安は深い。」(3ニーファイ22: 13)

天父は、わたしたちに御自分の子供たちを教えるように、そして子供たちに自分がほんとうは何者であるかを教え、彼らを救い主のみもとに連れ来るようにと願っていらっしゃる。去年の10月の総大会のメッセージの中で、ピネガー姉妹は「子供たちにだれが教えるのでしょうか」という鋭い質問をしました。これは単なる質問ではなく、わたしたちの影響下にある子供たちを知るすべての人に対して、神の子供たちを教えるという天父からの召しにこたえるようにという呼びかけです。

わたしたちが謙遜になってその召しにこたえようとするとき、もう一つのさらに奥深い問いかけが心に浮かんできます。「子供たちにどのように教えるのだろうか。子供たちが幼いうちか

ら主の御言葉をその心に印象づけ、彼らが青少年になったときに真理と誤りを見分ける能力を持ち、誘惑を退ける内なる力を培えるようにするには、どうすればよいのだろうか。子供たちの霊的な成長を促し、彼らが外形的な盲従ではなく、天父への愛と自分の本来の姿を知る知識からわく望みによって従順になれるようにするには、どうしたらよいのだろうか。」

わたしたちを困惑させるこれらの問いかけは、今の時代に限ったものではありません。いつの世代でも、親はこのチャレンジを受けてきたのです。そして何百年も前にモーセを通してイスラエルの子らに語られた主の勧告は、まるで主が今日のわたしたちに語りかけていらっしゃるかのようです。申命記にはこう書かれています。

「あなたは心をつくし、精神をつくし、力をつくして、あなたの神、主を愛さなければならない。

きょう、わたしがあなたに命じるこれらの言葉をあなたの心に留め、

努めてこれをあなたの子らに教え、あなたが家に座している時も、道を歩く時も、寝る時も、起きる時も、これについて語らなければならない。……

またあなたの家の入口の柱と、あなたの門とに書きしるさなければならない。」(申命6:5-7, 9)

わたしたちはまず心を尽くして主を愛して初めて、子供とのあらゆるかわりの中で、彼らを主のみもとへ導くことができます。子供たちはわたしたちの主に対する献身を見て、主に自らをささげるようになるでしょう。祈りを聞いてこたえてくださる、愛に満ちた天父に祈りをささげるわたしたちの姿を見て、子供たちは祈りの力を理解するようになります。わたしたちが信仰によって生きる姿を見て、彼らは信仰を理解するでしょう。また、わたしたちが子供たちに親切的態度で尊敬の念をもって接することにより、彼らは愛の力を理解するようになるでしょう。子供たちとの関係が信頼や思いやりに欠けたものであるならば、わたしたちは彼らに真理を教えることはできません。ハワード・W・ハンター大管長は



こう言いました。「立派な親とは、子供に愛を示し、犠牲を払い、世話をし、教え、子供の必要を満たす人のことです。」(「子供を思いやる両親」『聖徒の道』1984年1月号, p.114)

子供たちがわたしたちの主に対する愛と、彼らに対する無条件の愛を感じるとき、わたしたちの模範は、子供たちにとって自らの霊的な力を強めていくうえで、意義深い指針となります。主がイスラエルの民に与えられた戒めを思い出してください。まず主の御言葉を彼らの心に置き、そして続けて「努めてこれをあなたの子らに教え」(申命6:7)るようにと、主は言われました。わたしたちは何をなすときにも、子供たちに主を愛するよう教えることができます。時には、教えているつもりはないのに、最も心に残る教育をしている場合があります。

わたしが初等協会の11歳の女の子のクラスの教師をしているとき、生徒と母親のための昼食会を開いたことがありました。わたしは生徒たちに、自分のお母さんを紹介し、お母さんについてすばらしいと思うことを一つ話してくれるように頼みました。生徒の一人は、自分のお母さんは聖文を読むのがとても好きだ、と話してくれました。そして聖典を手を持ちながら「お母さんの聖典がある場所が分かれば、お母

さんがそれまで家のどこにいたか当てられます」と言いました。その模範は何年もわたしの心に残りました。この母親にとって聖文に対する愛を子供たちに伝えるのは、何と自然だったでしょう。彼女自身が聖文に対する愛をはぐくんでいたからです。わたしたちはまず、自分自身のひととなりを子供に伝えます。そしてその印象こそが、子供たちの思いや心に生き続けるのです。

主への愛と、互いへの愛、その愛からわく従順への決意があるとき、家庭の中に御霊が広がります。この御霊について話すと、わたしの心に思い出されるのは、夫が伝道部長として働いたドイツのフランクフルト伝道本部のことです。娘のマリアンは当時10歳でした。彼女の友達は何人か学校の帰りによく遊びに来て、時には泊まっていくこともありました。ある晩、友達の一人在こう言いました。「わたし、あなたの家に来るのが好きよ。だって安心するんだもの。」マリアンにはその意味が分かりました。家族全員が伝道本部にあふれる御霊を知っていました。それは無数の献身的な宣教師が残した遺産でした。彼らはこの伝道本部に出入りし、証や、天父と救い主への愛を分かち合いました。そしてこの御霊は、聖文を読みながら家族で証を分かち合ったり、御霊を感じたりするとき、またともにひざまずいて祈るときに、どこの家庭でも感じることができます。

キンボール大管長は家庭での鮮明な記憶を語ってくれました。食前に家族がひざまずいて祈るときは、いすを食卓の反対側に向け、食器皿は伏せてありました。また、夜の祈りは母親のひざでささげたそうです。彼はこう語りました。「このような大切な教訓を、大きくなって、学ぶのがはるかに難しい年齢になってから、会得しなければならない子供たちを、わたしは気の毒に思います。」(エドワード・L・キンボール、アンドリュー・E・キンボール・ジュニア共著, Spencer W. Kimball『スペンサー・W・キンボール』p.31)家庭をこの世のオアシスにすることができると。すべての子供が心に安らぎを感じる権利を持った場所です。

最近わたしが出席した、自分の所属するワードの断食証^{あかし}会で、3人の子供たちが証をしました。リッチーは証会が始まってすぐに壇上に立ち、こう証しました。「昨日の夜、ぼくはニューファイ第一書の第1章と第2章と第3章を読んでいました。そして読んでいるうちにとっても平安になって、いい気持ちになりました。ぼくは聖文に感謝しています。」

チャリティーは家族とコンサートに行き、迷子になったときの経験を次のように話しました。「わたしは隅っこを見つけて座り、天のお父様にお祈りしました。お父さんとお母さんがわたしを見つけてくれるまで、聖霊がわたしと一緒にいてくださるようお願いしたら、恐くなくなりました。」

執事の職を受けたばかりのスペンサーは、自分にアロン神権を授けてくれた監督への感謝を表し、執事であることが自分にとってどんなに大きな意味があるか話しました。この3人の子供たちの心に触れたのは、まず主を愛し、それから子供たちを主に向けさせた親、教師、そして指導者たちでした。

家族の輪の中で、わたしたちは子供が御霊を感じたときの気持ちを識別できるように助け、それを自分の言葉で表現できるように励ますことができます。初等協会やそのほかの教会の集会で彼らが学んでいることを話すように言うこともできます。そのようにしてわたしたちは、御霊が子供たちの心にそれらの教えを確信させるための、扉を開くことができるのです。

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは子供たちの心に触れ、彼らを救い主のもとに連れて行くことができます。彼らはまずわたしたち親の目を通して救い主を見ます。そして最も信頼する友として主を知り、愛する方法を学んでいくでしょう。主の御霊とともにあるということが、どのようなことを理解し、それは彼らの力となるでしょう。兄弟姉妹の皆さん、わたしたち全員が自分の前にそのようなビジョンを持ち続けられるようにお祈りし、イエス・キリストの御名によってそれを願います。アーメン。

「主よ、わたしたちは、だれのところに行きましょう」

七十人名誉会員

ハンス・B・リンガー

わたしたち末日聖徒は、キリストを見いだすには、どの道を通ってどこへ行き、何をしなければならないか、主御自身が教えてくださると信じています。



これは、2,000年前と同様、現在も大きな意味を持った、非常に大切な質問です。わたしたち末日聖徒は、キリストを見いだすには、どの道を通ってどこへ行き、何をしなければならないか、主御自身が教えてくださると信じています。キリストの道を見いだし、それに従って行くのは、わたしたち一人一人の責任です。

2、3か月前、わたしは、真理を求めていた一人の男性の力強い証^{あかし}を聞く機会に恵まれました。福音によって永遠の事柄に目が開かれ、自分の人生の方向を変えることができたのです。同じころわたしは、忠実だったある教会員が福音から離れ、別の教会に入ったことを知りました。この二人の男性は、ともに誠意をもって、だれのところに行くべきか知ろうとしたのですが、正反対の結論に達し、まったく異なる道を歩む結果になってしまったのです。このような正反対の行動を生んだ原因は、一体何だったのでしょうか。

わたしは、言葉や行動はそれぞれの思いに深く根ざしていて、その思いが行動を決定するのだと考えています。計画されたものであれ、衝動的なものであれ、日々の決断はわたしたちの思いの反映であり、わたしたちはその決断に責任を負う必要があるのです。たとえ個人として、自分は神から独立し

ガリラヤ湖畔は、キリストに近づこうと押し合う群衆でいっぱいでした。皆、人類への布教を始められた主のメッセージを、ぜひ聞きたいと願っていたのです。当時、多くの弟子たちが主に従っていました。しかし中には、主の教えに腹を立て、去って行った者たちがいました。そのとき、主は十二使徒に、彼らも御自分のもとを去ろうとするのか、お尋ねになりました。シモン・ペテロはキリストのこの質問に、「主よ、わたしたちは、だれのところに行きましょう」（ヨハネ 6：68）と答えています。

た存在であり、その影響を受けずに自由に行動できると考えたとしても、人が皆永遠の法則の下にあるという事実から逃れるわけにはいきません。この世と来世におけるわたしたちの幸福と平安は、どれくらい心から、思いと行動を神の律法に添ったものとしてできるかにかかっています。つまり、真の心の平安と永遠の幸福は、神との一致から得られるのです。もし神と一致したければ、神ではなく、わたしたち自身が変わらなければなりません。

前述の二人の男性が異なった道を選んだのは、彼らの考え方と神に対する理解に違いがあったからだと思います。イエス・キリストの福音に添って生き、それによって永遠の祝福と救いにあずかるためには、神を知ることが不可欠です。まずキリストと神を知らなければ、人生の目的をほんとうに理解することはできません。ローウェル・L・ベニオン長老は、著書『イエスの遺産』(Legacies of Jesus)の中で次のように書いています。「わたしたちが学ばなければならない重要なことの一つに、神の属性がある。キリストは、神がどのような特質を備えた御方かを教えるために、この世に來られた。教訓と模範によって、信仰、謙遜、正直、愛の意味を教えてくださいましたキリスト御自身こそ、神が人類に与えてくださった啓示そのものである。」(p.61)

わたしたちは、キリストの生涯から神について学び、その模範に従うことによって、神を知るようになります。親愛なる兄弟姉妹、またわたしたちの友であり、この話をお聞きの皆さん、救い主と天の御父をほんとうによく知る努力をしてください。キリストの足跡に従うことができるよう、自分の決断がキリストの模範に添うものかどうか自問してください。だまされたり迷わされたりしてキリストの道から離れることのないように注意し、主に従うことによって平安と永遠の喜びという祝福を享受しましょう。

キリストの教えと、模範と、完全な人格を考えれば、主が神の御子であることに疑問の余地はありません。主は

御自身について次のように語っておられます。「見よ、わたしは世の光であり命である。わたしは、父がわたしに下さったあの苦い杯から飲み、世の罪を自分に負うことによって父に栄光をささげた。わたしは世の罪を負うことによって、初めから、すべてのことについて父の御心に従ってきた。」(3 ニーファイ11:11)

このキリストに関する知識とともに、わたしたちには、ヨハネが記した以下のような約束も与えられています。「わたしの父のみこころは、子を……信じる者が、ことごとく永遠の命を得ることなのである。そして、わたしはその人々を終りの日によみがえらせるであろう。」(ヨハネ6:40)

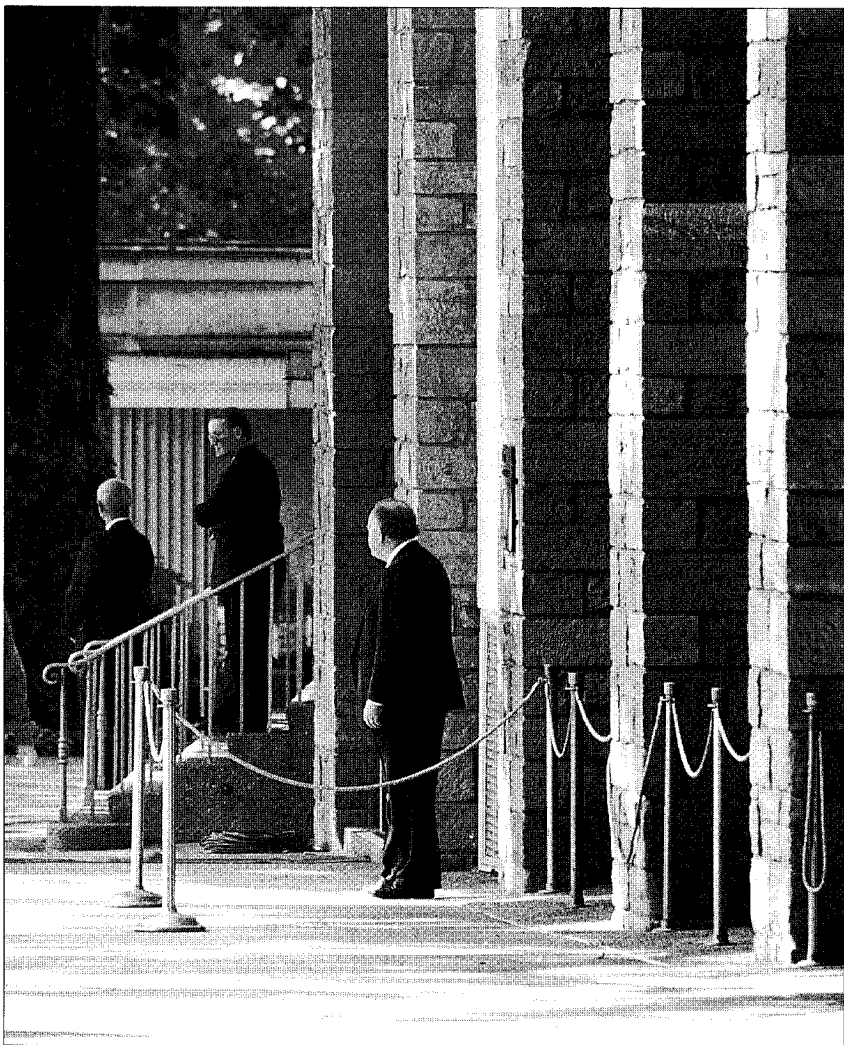
正しい方向に向かって人生を歩み、

福音がもたらす祝福を受けるには、まず回復された福音を喜んで完全に受け入れることが大切です。キリストは福音の回復についてジョセフ・スミスにこう言われました。「光がさすであろう。それはわたしの完全な福音である。」(教義と聖約45:28)

次に、神の聖い権能と、神の僕たちの権能を受け入れなければなりません。パウロは、エペソの支部にあてた手紙の中で、なぜ権能が与えられ、なぜ主の僕に従うことによって祝福を受けるのかを説明しています。こう書いています。

「それは、聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせ、

わたしたちすべての者が、神の子を



3人のアッシャー。総大会を迎えた週末には、220人を超えるボランティアのアッシャーがテンプルスクウェアで働いた。

信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達……するためである。」(エペソ4:12-13)

さらに、神の戒めを知ったなら、妥協することなく、また例外なく、それらの戒めを守らなければなりません。時々、わたしたちは、自分の都合に合うようにキリストの教えをおろそかにしたり、外的な事情に事寄せて信仰を曲げたいという誘惑に駆られることがあります。わたしたちをキリストから引き離そうとする誘惑の影響から逃れるために、主はこう戒めておられます。「あなたは、世の汚れに染まらずに自らをさらに十分に清く保つために、わたしの聖日に祈りの家に行って、聖式をささげなければならない。」(教義と聖約59:9)

主の戒めに従うことによって、自由、独立、強さ、そして真の幸福が与えられます。それでは、ここで皆さんにお尋ねします。「わたしたちは、だれのところに行きましょう。」キリストに従い、主の真の弟子になると決意しようではありませんか。主の真理のメッセージに腹を立てず、それを喜びましょう。わたしも、ほかに道はなく、行ける所もないことを知っています。ですから、キリストに次のように答えたシモン・ペテロ^{あかし}の証に、わたし自身の証を添えたいと思います。「主よ、わたしたちは、だれのところに行きましょう。永遠の命の言^{ことば}をもっているのはあなたです。

わたしたちは、あなたが神の聖者であることを信じ、また知っています。」(ヨハネ6:68-69)

ジョセフ・スミスが確かに天の御父と御子にまみえたことを証します。御二方は確かに生きておられます。イエスは復活なさいました。イエスはキリストであり、救い主です。生ける神の御子です。この知識は、わたし個人の信仰、証、そして人生そのものです。わたしたちが皆、イエス・キリストを知るようになり、その知識に基づいて、清い心と希望、愛をもって行動できるように祈っています。イエス・キリストの御名^{みな}によって、アーメン。

戦 略

前七十人

デュレル・A・ウルジ

勝利のための方程式は昔から今に至るまで変わることがありません。つまり、戒めを守り、預言者に従い、聖文を読んで理解し、深く考えてみることです。



今日わたしは皆さんに戦略ということについてお話ししたいと思います。わたしたちは、「戦い進めつわものよ」(『賛美歌』155番)という賛美歌を歌います。また、パウロは次のように言っています。「また、もしラッパがはっきりした音^{こゑ}を出さないなら、だれが戦闘の準備をするだろうか。」(1コリント14:8)黙示録の中にも、天の戦いのことが書かれています(黙示12:7参照)。一体どのような戦い、また戦争なのでしょう。

この戦争とは人の救いのために行われる戦いです。この戦線はすでにアダムの時代から引かれていました。すなわち、善と悪との戦いです。この最後の神権時代にあつて、また福千年の準備の時代にあつて、悪の軍勢はいよいよ力を強め、サタンの強大な影響の下に集結を始めています。その戦線の一

方の側では、神の王国が恐らくこれまでになかったほど高らかに義のラッパを鳴らし続けています。末日聖徒イエス・キリスト教会は、善は善、悪は悪とし、妥協することなく攻勢に出ています。

イザヤはまさにこの点について、わたしたちの時代を見越して、次のように預言しています。「わざわざいなるかな、彼らは悪を呼んで善といい、善を呼んで悪といい、暗きを光とし、光を暗しとし、苦きを甘しとし、甘きを苦しとする。」(イザヤ5:20)サタンは、ごくわずかの善を巧妙に混ぜ合わせて悪を覆い隠し、破滅に通じる道へといざなっています。そのことについて、古代の預言者ニーファイは次のように言っています。

「見よ、その日、悪魔は人の子らの心の中で荒れ狂い、人の子らをそそのかして善いことに対して怒らせる。

また、悪魔はほかの人々をなだめ、彼らを欺いて現世での安全を確信させるので、彼らは、『シオンの中では、すべてが良い。まことに、シオンは栄えており、すべてが良い』と言う。悪魔はこのようにして人々をだまし、巧みに地獄に誘い落とすのである。」(2ニーファイ28:20-21)

サタンはまさに人の心の中で荒れ狂っています。多くの人々を欺いて、現世での安全を確信させ、また人の心に取り入って、地獄はないなどと言っています。サタンはこれまでも、名声や富や権勢といった誘惑で多くの人々をいざない、自分の軍勢に加担する人々を生み出してきました。サタンは

数々の詭弁^{きべん}を弄^{ろう}して、善を悪、悪を善と呼ばせています。これまでも大勢の人々を混乱に陥れてきました。そのため、多くの国々やその指導者までもが、道徳的な問題を解決するために実に不道徳な手段を取ろうと考えるような状況となっているのです。

ここでサタンの数多くの詭弁の中から、きわめて不敬で実に説得力のある言葉を3つ紹介したいと思います。まず第1は、中絶によって人の生命を滅ぼすことは、選択の自由の問題である、とサタンが言っていることです。第2は、同性同士の性関係から最終的には婚姻関係まで、許されるべきであるという考え方です。第3は、純潔や貞節などという考え方はすでに時代遅れの偏狭な考え方であり、性的な行動については、拘束される必要はないという考え方です。

今このときも、スポーツ界や音楽界、映画界の世界的なヒーローたちが、自ら不道徳な生活を送っているだけでなく、メディアの強力な影響力を使って、世界中の人々に同じように不道徳な生活をさせようと誘っています。こうしたヒーローたちは偶像化され、世界中の何百万という人々に受け入れられているのです。一般的な傾向として、世界は、神から賜り、時の経過によって磨かれてきた道徳律や背景にある原則を捨て、不義という昏睡^{こんすい}状態に陥っているのではないかとされるふしがあります。

幹部の兄弟たちは、世の悪に敢然と立ち向かうように言っています。わたしたちの数は、ソドムとゴモラを救うために必要だった10人よりも、はるかに多いのです。これからその戦いが続くのだとすれば、わたしたちはどのように戦っていったらよいのでしょうか。神の聖なる神権に支えられた信仰深い神の聖徒たちこそ、この地上で最強の軍勢なのです。神は生命の尊厳について教え、また貞潔で汚れない生活を送ることは、永遠かつ不変の教えであると言われました。わたしたちは神から賜ったこれらの力強い御言葉を固く守って生活する必要があります。家族という制度は神によって定められ



たものであり、父親と母親、子供はともに永遠に住まうことができるという愛に満ちた神の教えは、決して例外的な事柄としてでなく、むしろ当然あるべき姿として説かれたのです。一人一人がキリストの教えに立ち返ることによって、混乱は心の平安に、葛藤^{かつとう}は心の平静さに、恐れは勇気と楽観的な考え方に変えることができるのです。

キリストを中心とした生活という考え方は、個人のためだけでなく、家族のため、政府のため、そして国家のためのものでもあります。そして、この考え方は最終的には同様の結果をもたらします。例えば、個人であれ、国家であれ、貞潔で徳高い生活を送っているかぎり、恐怖の病であるエイズのことについては、ほとんど恐れる必要はありません。また、争いや離婚によって生み出される母子家庭などというものも、実質的にはなくなってしまうことでしょう。皆さんが自分の責任について考えるとき、どういう考え方に立脚して物事を進めようとするのでしょうか。不義の坂道を下っているとき、兆候や警戒信号に気づく必要があります。わたしたちが気をつけなければならない10の兆候として、次のようなも

のが挙げられます。

- 霊的な事柄を見るための視力がだんだんと弱まり、霊的なことをはっきりと見る力がなくなる。

- 神にかかわる事柄についてだんだんと鈍感になる。

- 霊的な意味での動脈硬化。霊的な事柄に心を向ける頻度が、毎日から1週間に1度となり、月に1度となり、やがてごく時折となり、最後にはまったく関心を持たなくなる。

- 神権者や神や自分自身に頼るよりも、増え続ける精神病理学の専門家に依存する気持ちの方が強くなっていく。

- 霊的なことに依存しない傾向が強まる。

- 道徳の標準の低い友人との交わりが増える。

- 聖文の引用より、テレビ番組で覚えたような言葉の引用が増える。

- 静かに語るべきところで、大声でしゃべるようになる。

- 愛に満ちた態度で接しなければならない場面でも、時には行動面でも、乱暴に接する。

- 突然にではないにしろ、少しずつだんだんと悪を受け入れるようになる。ゴルフコースのバンカーのある場所

や、テニスのバックハンドの打ち方を
知ってはいても、命の救いにかかわる
聖句の書かれている場所を知らない人
もいます。幸福を求める多くの人々は、
最新の財産運用の本は読みますが、霊
感に満ちた預言者の勧告には耳を傾け
ようとはしません。わたしはこれまで、
世界中の大多数の人々が、昇栄や永遠
の行く末にまったく関係のないことの
ために時間と精力の大部分を使って、
その人生をいたずらに過ごしたり、疲
れ果てたりしている様子をこの目で見
てきました。

わたしたちは義にかなった目的に
もっと心に向ける必要があります。わ
たしたちは、自分自身や家族のことを
客観的な目ではっきりと見詰め直して、
わたしたちの周囲に迫っている2回目
の世界的大洪水の災禍から自分や家族
を守っていかねばなりません。信
仰深い者たちはこの大戦争に勝利を収
め、主イエス・キリストの再臨の時に
は主とまみえるために、勝利のうちに
天に上げられると預言されています。
この勝利のための方程式とは、毎日、
個人でも家族でも祈りをささげ、少な
くとも1週間に1回は家庭の夕べを開
くことです。「時間がない」と言う人
がいるかもしれません。兄弟姉妹の皆
さん、時間が取れないなどと言ってい
る余裕はないのです。驚かれるかもし
れませんが、テレビのスイッチを切る
だけで、すぐにでもかなりの時間を生
み出すことが可能なのです。この方程
式は昔から今に至るまで変わることが
ありません。つまり、戒めを守り、預
言者に従い、聖文を読んで理解し、深
く考えてみることです。

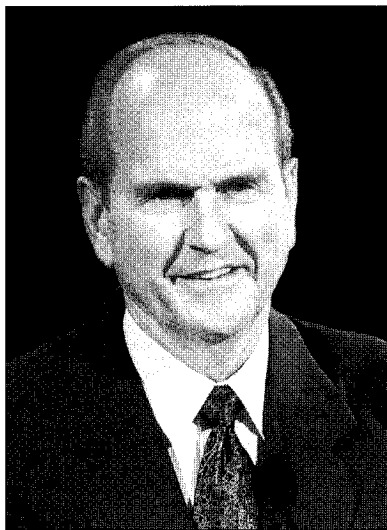
わたしは神が生きておられることと、
その御子イエス・キリストが贖いの計
画を効力のあるものとしてくださった
ことを証します。イエス・キリストが
おられ、その愛に満ちた贖いがあるが
ゆえに、悪との戦いで勝利を得たいと
望む者たちは皆勝利を得ることができ、
イエス・キリストとともに永遠に住ま
うことができるのです。以上のことを
イエス・キリストの御名により証しま
す。アーメン。

完成への道

十二使徒定員会会員

ラッセル・M・ネルソン

完成を目指す熱心な努力が、今は困難で果てしないように感じられるかもしれ
ません。完成とは途絶えることのない過程です。それは復活の後のみ
に、主を通してだけ完全にもたらされるのです。



「主の戒めの中で、いちばん守り
にくい戒めはどれか」と尋ね
られたら、多くの人がマタイによる福
音書第5章48節の「それだから、あな
たがたの天の父が完全であられるよう
に、あなたがたも完全な者となりなさい」
を引用するでしょう。1

この戒めが守りにくいのは、霊的に
も肉体的にも、だれもが完全からは程
遠いからです。この戒めを思い起こさ
せる出来事は度々起こります。鍵を付
けたまま車をロックしてしまったり、
車をどこに留めたか忘れてしまったり
することさえあります。何かをしよう
と思って家の中を歩いているうちに、
その用事自体を忘れてしまったりもし
ます。

自分の行いを主の望まれる至高の標
準と比較して、至らなさに時々落胆し
てしまうことがあります。自分の不完

全さゆえに落胆してしまい、幸福を味
わえないでいる善良な聖徒の方々に向
けてお話ししたいと思います。

次のことに心を留める必要がありま
す。「人が存在するのは喜びを得るた
めであり、不要な罪悪感を得るため
ではない。」2 従うのが不可能な戒めを主
はお与えにならないことも銘記してく
ださい。しかし、わたしたちはそのこ
とを十分に理解できないこともあります。

完成に関する理解を二つの領域に分
類して考えると助けになるでしょう。
この世、つまり現世での完成に関する
ものと、来世、つまり不死不滅の状態
あるいは永遠の完成に関するものです。

現世での完成

この世では、ある種の行いにおいて
は完全になることが可能です。野球の
投手はノーヒットノーランの投球をす
ることができます。外科医は一つの問
違いもなく手術を行うことができます。
音楽家は、1か所も間違わずに曲を奏
でることができます。同様にわたした
ちも時間を守ったり、^{じゅうぶん} 十分の一を納
めたり、知恵の言葉を守ったりするこ
とにおいて完全になれる。そのよう
な克己を達成するには計り知れない努
力を要しますが、深い満足感という報
いがもたらされます。もっと重要なこ
とは、現世において霊的に達成したこ
とは、永遠の世界にも持って行けると
いう事実です。3

ヤコブは現世での完成度を図る分か
りやすい目安を提示しています。こう

言っています。「もし、言葉の上であやまちのない人があれば、そういう人は、全身をも制御することのできる完全な人である。」⁴

聖文には、ノア、セツ、ヨブのことが完全な人として記述されています。⁵

様々な神権時代における数多くの忠実な弟子たちも、同じ言葉を当てはめるにふさわしい人々です。アルマは、主の御前に清められた人々は「大勢おり、非常に多くの数に上った」と言っています。⁶

このことは、彼らが何の誤ちも犯さず、間違いを正す必要が一度もなかったという意味ではありません。完成への道には、克服すべきチャレンジや、非常に苦痛を伴うかもしれない悔い改めの段階が含まれます。⁷

人格を形成するうえで懲らしめが必要なものもあります。御存じのように、「主は愛する者を訓練」されるからです。⁸

現世での完成は、わたしたちがすべての務めを果たし、すべての戒めを守り、天父が御自分の属する世界において完全であられるように、わたしたちも自分の置かれた状況の中で完全になるよう努力するときに達成されます。もし最善を尽くすなら、主はわたしたちの行いと心の望みに応じて祝福してくださいませ。⁹

永遠の完成

しかし、イエスは現世での完成以上のことを望んでおられます。主は「あなたがたの天の父が完全であられるように」と言われたとき、同時に、現世という境界を超えたところまでわたしたちの視点を引き上げられたのです。永遠の御父は永遠の完成を遂げておられます。この紛れもない事実を考えると、はるかに広い視野が得られます。

最近わたしは、英語版とギリシャ語版の『新約聖書』を研究し、「完全」という言葉とその派生語の用い方について集中的に調べました。両方の言語を同時に研究していると、ある興味深い洞察が幾つか得られました。ギリシャ語が『新約聖書』の言語であるこ

とに由来する考えです。

マタイによる福音書第5章48節の「完全」という言葉は、ギリシャ語の「テレイオス (teleios)」という言葉¹⁰を翻訳したもので、「完成する」という意味があります。また「テレイオス」は「終わり」の意味の名詞「テロス (telos)」から派生した形容詞です。¹⁰この動詞の不定詞形は「テレイオノ (teleiono)」で、「果てにたどりつく、十分に発達する、成し遂げる」という意味です。¹¹この言葉には「失敗をしない」という意味は含まれてはおらず、「はるかな目的を達成する」という意味があることに注目してください。実際、ギリシャ語版の『新約聖書』の著者は「品行の完成」、つまり「人間の努力の正確さ、卓越性」を描写したいときには、この「テレイオス」の類の言葉を用いずに別の言葉を選択しています。¹²

「テレイオス」は英語圏の人々にとってはまったく耳慣れない言葉ではありません。この言葉から、英語に頻出する「tele-」という接頭辞が生まれたからです。「遠い」を意味する接頭辞です。「telephone (電話)」は文字どおり「遠くとの話」という意味で、すし、「television (テレビ)」は「遠く離れて見る」を、「telephoto (望遠写真)」は「遠くの光」を意味するといった具合です。

このような背景を念頭に置いて、主が語られたもう一方のきわめて意味深い言葉について考えてみましょう。主は十字架におかかりになるに先立ち「わたしは……三日目に〔完全になる〕であろう」とおっしゃいました。¹³罪がなく、過ちを犯さなかった主が、つまり現世の標準から見ればすでに完全であられた主が、御自身が完全になるのはこれから先のことであると宣言されたのです。¹⁴こうして主は、「永遠の完成」を、復活して「天においても地においても、いっさいの権威」を受けた後に、遂げられました。¹⁵

救い主がわたしたちのために心に描いておられる完成とは、「誤ちのない行為」以上のものです。それは永遠の視野に立った期待であり、主が御父に

ささげられた次の偉大な執り成しの祈りにも表れています。「わたしたちが完全になれるように、そして永遠にともに住まうことができますように。」¹⁶

主の御業の全体と栄光は、一人一人の不死不滅と永遠の命をもたらすことです。¹⁷

主は、この世に御父の御心を行うために来られました。そして御父が主を遣わされました。¹⁸主の神聖な責任は創世の前から予見されており、¹⁹主の聖なるすべての預言者たちによって世の初めから預言されていました。²⁰キリストの贖いは、昔から待ち望まれていた目的を成就しました。この目的のために主は地上に来られたのです。カルバリの十字架の上で主が最後に語られた言葉は、全人類を贖うという主の使命が全うされたことを意味していました。こう言われました。「すべてが終った。」²¹そう考えると、「finished (終った)」という言葉の元になったギリシャ語が「テレイオス」なのもうなずけます。

イエスが復活に続いて永遠の完成を遂げられたことは、『モルモン書』を読めばはっきりと分かります。そこには復活された主が古代アメリカ大陸の人々を訪ねられたことが記されています。このとき主は、前述の重要な戒めに、一つの非常に意義深い言葉を追加して繰り返されました。こう言われたのです。「わたしや天におられるあなたがたの父が完全であるように、あなたがたも完全になることを、わたしは望んでいる。」²²この度は、御父に覚えて御自身のことも完全な御方として挙げられたのです。以前に語られたときは、そうではありませんでした。²³

復活は永遠の完成を遂げるうえで不可欠です。イエス・キリストの贖いのおかげで、現世での朽ちる肉体は、朽ちない肉体になるのです。わたしたちの肉体は、今は病や死、衰えから逃れられない状態にあります。不死不滅の栄光を受けられるようになるのです。²⁴

現在わたしたちの命は血に支えられ、²⁵絶えず老化していますが、復活によりこの肉体は霊に支えられるようになり、

老いることなく死の縄目を解かれたものとなれるのです。²⁶

永遠の完成は、万事を克服し、天の住まいで御父の完全を受け継いだ者にのみ約束されています。完成は、永遠の命、すなわち、神が有しておられる命と同じ命を得ることにより成し遂げられます。²⁷

神殿の儀式と聖約

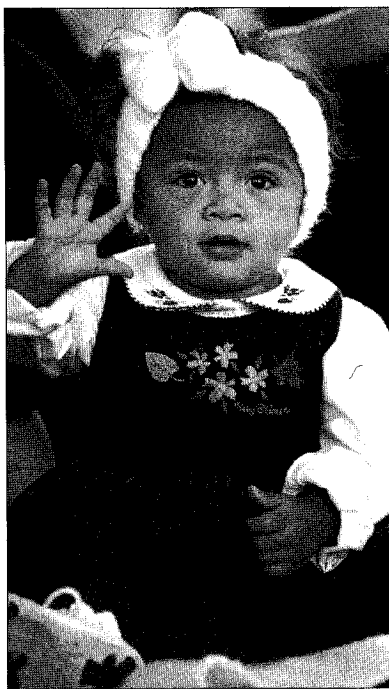
聖文は、永遠の完成にとって重要な、このほかの必須条件について明らかにしています。それは、神殿の儀式と聖約に関連しています。²⁸ 自分の行いに対して責任を負える人で、神殿の儀式を受けなくても日の栄えの王国で昇栄にあずかれる人は一人もいません。エンダウメントと結び固めの儀式は個人の完成のために存在し、わたしたちの忠実さを通して確かなものとされます。²⁹

この条件は、わたしたちの先祖ともかかわっています。パウロは「わたしたちをほかにしては彼らが全うされることはない」と教えています。³⁰ ここでも前述の聖句で「完全」という言葉の元になったギリシャ語は、「テレイオス」でした。³¹

末日の啓示の中で、主はこれらのことを、さらに明確な言葉で語られました。主の預言者はこう書いています。「さて、わたしの親愛なる兄弟姉妹たち、わたしはあなたがたに断言します。これらは死者と生者に関する原則であり、わたしたちの救いに関して軽々しく見過ごすことのできないものです。彼らの救いはわたしたちの救いにとって必要であり、不可欠だからです。……わたしたちの死者なしには、わたしたちも完全な者とされることはないのです。」³²

救い主の模範から受ける励まし

完成への道を登るとき、聖文に記された励ましは助けになります。聖文には、もしすべてのことに忠実であれば、わたしたちは神のようになれると約束されています。愛弟子ヨハネはこう書いています。



「わたしたち〔は〕神の子と呼ばれる……」

彼が現れる時、わたしたちは、自分たちが彼に似るものとなることを知っている。そのまことの御姿を見るからである。

彼についてこの望みをいっている者は皆、彼が清くあられるように、自らをきよくする。」³³

永続する励ましは、イエスの模範に従うときにもたらされます。イエスはこう説かれました。「わたしが聖なる者であるから、あなたがたも聖なる者になるべきである。」³⁴ 主の望みは実に明解です。こうも宣言されました。「あなたがたはどのような人物であるべきか。まことに、あなたがたに言う。わたしのようでなければならない。」³⁵したがって、イエスに対する崇敬の念は、イエスのように生きることによって最もよく表れるのです。³⁶

主の標準が不明確であったり、あまりにも高すぎるために、イエスに従えないなどということはあり得ません。むしろその逆です。また、主の教えが細かすぎるとか、高すぎて実行不可能なように思えて、無視する人々がいます。しかし、どんなに高遠な標準であろうと、熱心に探求するなら、大きな心の平安とほかでは得られないような

喜びがもたらされるでしょう。

イエス・キリストに匹敵する人物はどこにもいません。また、人に希望を与える、次のような主の崇高な表現に並び評せられる勧告はどこにもありません。「わたしや天におられるあなたがたの父が完全であるように、あなたがたも完全になることを、わたしは望んでいる。」³⁷

主のこの切なる願いは、天の父母の子供であるわたしたちが、神のようになる可能性を賜っているという事実と調和しています。ちょうどこの世の子供たちが生みの親のようになるのと似ています。

主は御自身の教会を回復して、わたしたちが完成に備えられるようにしてくださいました。パウロの言葉によれば、救い主は教会に使徒、預言者、教師を置かれ、「それは、聖徒たちをととのえて……キリストのからだを建てさせ、

わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人とな……るためである。」³⁸

パウロの言った「全き人」とは、「テレイオス」、つまり完成された人であり、栄光を受けた人のことです。

モロナイは、この輝かしい目標に到達する方法を教えてください。モロナイの教えは年齢にかかわらず、落胆を取り除き、喜びをもたらします。次の聖句は願いの込められたモロナイの言葉です。「キリストのもとに来て、キリストによって完全になりなさい。神の御心に添わないものをすべて拒みなさい。……勢力と意思と力を尽くして神を愛するならば、……あなたがたは……キリストによって完全になり、……染みのない清い者となるのである。」³⁹

ですから、兄弟姉妹の皆さん、日々最善を尽くし、向上するように努めようではありませんか。自分の不完全さが現れたときでも、間違いを正す努力ができます。自分や愛する人々の中にある弱点に対して、もっと寛大になることができます。慰めを受け、堪え忍ぶことができます。主は教えられました。「あなたがたは今は神の臨在に……堪

えることができない。それゆえ、あなたがたが完全になるまで忍耐し続けなさい。」⁴⁰

完成を目指す熱心な努力が、今は困難で果てしないように感じられるかもしれません。しかしわたしたちは、がっかりする必要はありません。完成とは途絶えることのない過程です。それは復活の後のみに、主を通してだけ完全にもたらされるのです。それは主を愛し、主の戒めを守る人すべてに用意されています。完成とともに王位、王国、公国、力、主権を受け継ぎます。⁴¹ 完成こそわたしたちが堪え忍ぶ目的です。⁴² 永遠の完成は神がわたしたち一人一人のために用意されたものです。これらのことをイエス・キリストの御名^みによって証します。アーメン。

注

1. ジョセフ・スミス訳では、これらの言葉はさらに強調されています。
「それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となるように命じられている。」(ジョセフ・スミス訳マタイ 5 : 50)
2. 2 ニーファイ 2 : 25 参照
3. 教義と聖約 130 : 18-19 参照
4. ヤコブの手紙 3 : 2, 下線付加
5. 創世 6 : 9 ; 教義と聖約 107 : 43 ; ヨブ 1 : 1 参照
6. アルマ 13 : 12
7. ヘブル 5 : 8 参照
8. ヘブル 12 : 6
9. 教義と聖約 137 : 9 参照
10. 偶然にもこの名詞の女性形は「teleia」で、ギリシャ語で文の終わりに来る終止符をいう。
11. マタイ 5 : 48 の脚注 b には次のようにある。「GR (訳注——ギリシャ語の意味を解説) 完成、仕上がり、完全な発達」(末日聖徒版欽定訳聖書, p. 1195)
12. 幾つかの例を挙げる。
 - 「幼な子、乳のみ子たちの口にさんびを備え」(欽定訳英文は“hast perfected”) られた」(マタイ 21 : 16, 下線付加)
 - 「弟子はその師以上のものではないが、修行を積めば」(欽定訳英文は“perfect”), みなその師のようになろう。」(ルカ 6 : 40) いずれの節にもある「perfect」は、ギリシャ語の「kataritzo」から来たものであり、

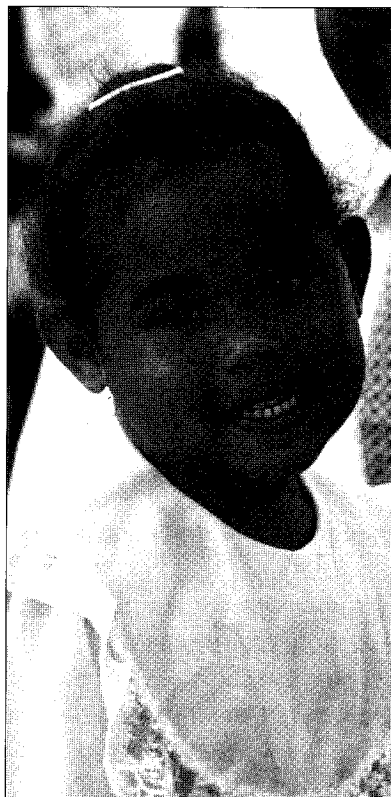
「装備する、備え付ける、整える、手配する、調整する、自分に合うようにするか、作る」などの意味があり、準備の行為を示す。

●別の箇所では「詳しく調べています」(欽定訳英文は“perfect understanding”)(ルカ 1 : 3, 下線付加)とある。この場合の「perfect」は、「厳密に、正確に」を意味するギリシャ語の動詞「akribos」から来ている。

●別の節では、主の衣の端を「さわった者は皆いやされた」(欽定訳英文は“perfectly whole”))と言及している(マタイ 14 : 36, 下線付加)。この場合の「perfect」はギリシャ語の「diasozo」から来ていて、「危険の中を持ちこたえる、安全に保つ、救う、消滅を免れさせる、救助する」を意味する。

13. 欽定訳ルカ 13 : 32
14. ギリシャ語のこの宣言では、動詞「teleiono」が再び使用されて、未来形「teleiouma」となっている。
15. マタイ 28 : 18. 教義と聖約 93 : 2-22 も参照
16. ヨハネ 17 : 23-24 参照
17. モーセ 1 : 39 参照
18. 3 ニーファイ 27 : 13 参照
19. モーセ 4 : 1-2 ; 7 : 62 ; アブラハム 3 : 22-28 参照
20. 使徒 3 : 19-21 参照
21. ヨハネ 19 : 30. 近代の啓示の中でも、イエスは同様の言葉を使用している。
「わたしは杯を飲み、人の子らのためにわたしの備えを終えたのである。」(訳注——英文はいずれも“finished”)(教義と聖約 19 : 19, 下線付加)
22. 3 ニーファイ 12 : 48, 下線付加
23. マタイ 5 : 48 参照
24. アルマ 11 : 45 ; 教義と聖約 76 : 64-70 参照
25. レビ 17 : 11 参照
26. 末日聖徒版聖書辞典 (英文)「復活」の項。「復活とは不死不滅の状態になること。血液は流れていないが、骨肉の体である。」
27. ジョセフ・フィールディング・スミス『完成への道』p. 260 ; ブルース・R・マッコンキー, *Mormon Doctrine*「モルモンの教義」p. 237 参照
28. ジョセフ・スミスは「再生は、儀式を通じ、神の御霊^{みたま}によって起きる」と教えた。(Teachings of the Prophet Joseph Smith「預言者ジョセフ・スミスの教え」p. 162)

29. ジョセフ・フィールディング・スミス『救いの教義』2 : 42 参照
30. ヘブル 11 : 40, 下線付加
31. 「teleioo」
32. 教義と聖約 128 : 15 ; 「預言者ジョセフ・スミスの教え」p. 159 も参照
33. 1 ヨハネ 3 : 1-3. さらに詳しい解説については、「完成への道」pp. 1-3 参照
34. 1 ペテロ 1 : 16. レビ 11 : 44-45 ; 19 : 2 ; 20 : 26 も参照
35. 3 ニーファイ 27 : 27
36. ニール・A・マックスウェル, *We Talk of Christ, We Rejoice in Christ*「わたしたちはキリストのことを話し、キリストのことを喜ぶ」p. 145 ; ヒュー・B・ブラウン, *The Abundant Life*「豊かな人生」p. 199 参照
37. 3 ニーファイ 12 : 48
38. エペソ 4 : 12-13, 下線付加
39. モロナイ 10 : 32-33
40. 教義と聖約 67 : 13
41. 教義と聖約 132 : 19 参照
42. この概念を裏付ける事実として、「新約聖書」の聖句で「堪え忍ぶ」という言葉に関連させて使われている「最後(まで)」という言葉のギリシャ語の原文も、語源はやはり「telos」である(マタイ 10 : 22 ; 24 : 13 ; マルコ 13 : 13 参照)。



あかし 信仰と証が あやなす織物

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

わたしたちが携わっている御業^{みわざ}の偉大な目的は、不死不滅と永遠の命への道を歩んでいるすべての人を助けることです。



非常に素晴らしい大会でした。わたしたちは28人の話に耳を傾けてきました。何を話すべきかというテーマを与えられた人はだれもいません。一人一人が自由に何について話すかを選びます。ですから複数の人が同じ内容のことを話す恐れが常に存在します。しかし素晴らしいことに、すべての話が一つに織り込まれ、信仰と証^{あかし}を表現する1枚の美しい織物に仕上げられてきました。わたしはこれまで聞いたことに感謝しています。この大会で学んだことを生活の中に取り入れるなら、わたしはもっと善い人間になれると思います。そして皆さんにも、この素晴らしい大会で聞いたことを生活の中で実践するなら、さらに素晴らしい人間になることができると申し上げ

たいと思います。

兄弟姉妹の皆さん、わたしは皆さんがよく祈っておられることを知っています。それは多くの人々が祈りの習慣を忘れてこの時代にあって実にすばらしいことです。自分の知恵を超えた知恵、またなすべきことを実行するための力、慰めを求め、感謝の思いを表すために、主に祈ることは意義深く、すばらしいことです。皆さんがわたしのために祈ってくださることを知っています。皆さんのお祈りに感謝しています。それはわたしの支えであり、皆さんからの大いなる信頼を思い起こさせてくれます。わたしたちがいつも皆さんのために祈っていることを知っていただきたいと思います。わたしは皆さんが幸福になること、また福音を实践するときに皆さんの家庭に愛と安らぎがあり、徳が増し加えられることを祈っています。わたしたちがそのようにするのは、「御子^{みこ}を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るため」に神が愛する聖なる独り子を遣わしてくださったからです（ヨハネ3：16）。わたしたちが携わっている御業^{みわざ}の偉大な目的は、不死不滅と永遠の命への道を歩んでいるすべての人を助けることです。

わたしたちが皆さんを心から愛していることを知っていただきたいと思います。わたしは福音が回復されたことと、それが忠実な末日聖徒にとって、有意義なものとなっていることを、毎朝主に感謝しています。

父親と母親の皆さん、子供たちを愛してください。子供たちを大事に育ててください。子供たちはこの上ない大切な存在です。未来は子供たちの中にあります。子育ては自分自身の知恵以上のものが求められます。主の助けが必要です。主の助けを祈り求め、与えられる靈感に従ってください。

この大会の最後に、皆さんに別れのあいさつを述べるに当たり、皆さん一人一人を愛していることを知っていたきたいと思います。罪を犯した人も含めて、わたしたちがすべての人を愛していることを知っていただきたいと思います。罪を見過ごしにすることはできませんが、わたしたちは罪を犯した人々も愛しています。

皆さんのうえに、神の祝福があるように祈っています。信仰をもって歩むときに、心に安らぎが、生活の中に徳と喜びがもたらされるように、また主の御霊^{みたま}がそれぞれの家庭に注がれ、皆さんと皆さんの最愛の人々のうえに守りがあるように、イエス・キリストの御名^{みな}により、祝福いたします。アーメン。



扶助協会

ギレアデの乳香

中央扶助協会会長
イレイン・L・ジャツク

姉妹の皆さん、扶助協会の一員としてわたしたちが果たしている最も重要な役割の一つは、わたしたちが家族をよりよく助けられるように互いを強め合うことです。



今晚お話しすることは単純なことです。皆さんに、わたしが扶助協会を愛していることを知っていただきたいのです。扶助協会は確かに、この教会の女性たちの生活に愛と平安と一致をもたらしています。扶助協会はこれまで、わたしの生活にとって力の源となり、家族を育てるための支えや、親しい友情をはぐくむための核となり、わたしが福音を学び、福音の中で成長するように導いてくれました。そして、生活の中心をイエス・キリストに置き、主の望まれる事柄を実行できるように助けてくれました。

わたしは中央扶助協会会長に召されたとき、トーマス・S・モンソン副管長から勧告を頂きました。ほんの一部

ですが、その勧告を皆さんにお話ししたいと思います。

「今日、世の中も教会も大きく変化しています。例えば、家族の生活様式や家族構成などが変わってきています。ひとり親の家庭や、夫婦間の問題を抱えた家族がたくさん見られます。さらに、不法な薬物に関連した犯罪など、家族を不安に陥れる問題もあります。このような大きな必要を抱えた時代に、あなたは世の中を改善し人々を助けるための力、そして教会のすべての姉妹たちを一致させるための『ギレアデの乳香』を与えられる組織を導くように……召されたのです。」

今晚、わたしはこのモンソン副管長の勧告についてお話ししたいと思います。また、わたしたちの家族や扶助協会、そしてこの偉大な組織がわたしたちすべてにとって「ギレアデの乳香」となるにはどうしたらよいか、特に家庭にあってどのような助けとなるかについてお話ししたいと思います。

二人の訪問教師がある姉妹の家を訪れ、話し始めるやいなや、二人の10代の娘が元気よく入って来て、若い女性の集会へ行くのだと告げました。すると、やはり夜の集会へ出かけようとしていたご主人が、姉たちについて行くと言ってきかない3歳の息子を押しとどめました。隣の部屋では、別の娘たちがどのビデオを見るかで言い合っていました。玄関のドアや隣の部屋のドアが閉まると、母親は泣き始めました。

大変な1週間であったと、彼女は説明しました。

賢明にもこの訪問教師たちは、妻としてまた母親として大変忙しい日々を送っているこの姉妹に、話す機会を与えました。彼女は、この1週間の出来事を話し、最近母親を亡くした悲しみについて語りました。3人の姉妹たちは、福音を理解してはいても日々実践することは難しいと、話し合いました。訪問教師の一人は独身で子供がなく、もう一人は独りで子供を育てていました。二人は彼女が家族を立派に育てるために一生懸命に努力していることを褒めました。

母親は気持ちが軽くなりました。訪問教師たちは互いにきずなを強め、この姉妹とも親しさを増しました。3人ともよい気持ちを味わいました。扶助協会の真の精神を持ったこの姉妹たちは、訪問先の姉妹とその家庭を強めました。この話を聞いて、わたしうれしくなりました。なぜでしょうか。それは、この話はわたしが知っていること、すなわち扶助協会はほんとうにわたしたちを結び合わせる乳香（癒しの力）であり、家族の助けとなれることを証しているからです。姉妹の皆さん、扶助協会の一員としてわたしたちが果たしている最も重要な役割の一つは、わたしたちが家族をよりよく助けられるように互いを強め合うことです。わたしたちはともに集い、互いに学び合います。そして、家へ帰り、家族を強めるのです。何も難しいことではありません。しかし、わたしたちにギレアデの乳香であるこの組織が与えられているということは、非常に大きな意味があります。

十二使徒定員会会長代理のボイド・K・パッカー長老は、かつて教会の女性たちへの話の中で、以下のような大管長会からのメッセージを引用しました。

「わたしたちは扶助協会の姉妹たちに、扶助協会は主の靈感によって組織された世界でも珍しい組織であることを忘れないでいただきたいと思う。……世界中でそのような起源を持つ女性の組織はほかに一つとしてない。」

(『聖徒の道』1981年4月号, p.213)

そのような主の力は、今日もこの組織のうえに注がれており、神権指導者がわたしたちに助言や導き、励ましや靈感を与えてくれます。わたしは預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長をはじめ、扶助協会の働きを尊重してくださる中央幹部に感謝しています。

わたしたちは、慈愛を示し、イエス・キリストの福音に対する個人的な証を築き、教会の家族を強め、福音を中心とした生活を送るようわたしたちに寄せられている信頼にこたえようと努力しています。集会や家庭で、また姉妹たちの交わりを通して、そのように努めています。このような霊的な物の見方こそ、モンソン副管長が告げた「世の中を改善し人々を助けるための力」であり、心に平安をもたらす「ギレアデの乳香」なのです。わたしたちはこの乳香を常に携え、人々の生活を変えていくのです。

最近、霊的な糧を得られることが少なくなっています。世の中の多くの人人にとって、現代は混迷、混沌の世であり、何が人生で最も重要な^{みわざ}のか分からなくなっています。主の御業からわたしたちの注意をそらす問題や緊急事態が、次から次へと起こります。忘れないでください。扶助協会は女性のための主の組織です。日曜日にただクラスに出席するというだけのものではありません。扶助協会での奉仕は、あらゆる姉妹の成長と進歩を助けます。バージニア州のある姉妹はこのように書いています。

「わたしは〔扶助協会の〕召しをほとんど全部受けてきましたが、それらの奉仕を通して、この補助組織を深く愛するようになりました。そして扶助協会は、いろいろな点でわたしの教養を高めてくれました。扶助協会で奉仕した年月は、わたしの教会歴の中で最も霊的で楽しいときでした。扶助協会は、自分が価値ある人間であるということをわたしに教えてくれました。」(バージニア州ビッグ・ストーン・ギャップ、ロレッタ・H・アイソン) 扶助協会では、女性、母親、家族、義にかなった生活にかかわる徳を堅固



に守ります。神から与えられたこの教えを心から守ることにより、扶助協会の姉妹たちは「ギレアデの乳香」を悩み深き世にもたらすことができます。人々の悩みを癒すのに用いる信仰と希望、哀れみの霊的な源をわたしたちは持っているのです。

古代において、「ギレアデの乳香」は病や傷を癒すために用いられたかぐわしい香料でした。ギレアデの周辺に繁茂していた草木から作られ、常に高い需要のある人気商品でした。この乳香の持つ力は、次のような賛美歌の歌詞でわたしたちにもなじみのあるものです。

「傷つく者をすこやかにし、
病める人を癒すために
ギレアデに乳香あり。」
(『レクリエーション歌集』p.130)

わたしたち中央扶助協会会長会は、教会のすべての姉妹が各自の奉仕の意義を認識し、地上の神の王国における務めを通して強められるように願っています。姉妹の皆さん、わたしたちの召しは神聖な召しです。わたしたちが扶助協会の目的を達成するために献身するとき、わたしたちの家庭や社会を破壊しようとする多くの問題が解決されるのを目の当たりにできるでしょう。

「扶助協会」という名前には、わたしたちの目的、すなわち「相互扶助」が表現されています。わたしたちはしばしば問題を解決しようと願ったり、そのために努力したりしますが、わたしたちは「問題解決協会」ではありません。わたしたちは「扶助協会」なのです。ガラテヤ書に書かれている「御

霊^{たま}の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実」(ガラテヤ5:22, 下線付加)の持つ力を知っています。問題を除去することはできなくても、悩む心を癒すことができるのです。励ましと支え、親切と慰めを与えることができるのです。

預言者ジョセフ・スミスはリパティの監獄で苦しんでいるとき、友人たちから受けた乳香についてこのように記しています。

「正当な理由もなく監獄に閉じ込められた経験のない人には、……友人の声を聞くのがどんなにうれしいことか、ほとんど理解できないでしょう。どこから来るものであっても、友情を示すしは、人の心の中にあらゆる感動と共感を目覚めさせ、呼び起こし、……そして御霊の声がそっと訪れ、こうささやくのです。……『あなたの心に平安があるように』と。」(History of the Church『教会歴史』3:293)

ジョセフは、人生の荒波を静め、主の声が聞こえるように、人を励まし、助け、慰める際にわたしたち一人一人が果たす役割に気づいていたのです。

これこそ、今日扶助協会の姉妹たちが用いる乳香です。全世界に広がるわたしたちの教会では、何よりも家族を大切に姉妹たち、聖文を読んで深く考える姉妹たち、生ける預言者の勧告に従う姉妹たち、そしてローレルの若い女性のために野外キャンプを準備し、初等協会の子供たちに信仰箇条を教え、日曜日の朝、扶助協会の部屋の入り口で歓迎をするなど、時間と労力を要する召しを果たす姉妹たちがたくさんいます。そして世界は彼女たちの影響力によって祝福されているのです。

わたしたちが世に貢献する行為の大部分は、人目につかない所で個人レベルで行われます。それは、これまでいつもそうでした。暑さの中をほこりまみれになって旅をしてきたキリストの足を洗い、髪の毛でふき、疲れを癒す香油を塗ったマリヤのことが思い出されます（ヨハネ12：3参照）。また、ドルカスは扶助協会の姉妹を代表する『新約聖書』の女性と時折呼ばれています。彼女は生涯善い行いをしたので、死んだときには、周りの女性たち皆が非常に嘆き悲しみ、ペテロに彼女をよみがえらせてくれるように頼みました（使徒9：36-39参照）。中央扶助協会事務局でわたしと一緒に働いているヘレンのことも思い浮かびます。疲れを知らず、忍耐強く、だれにでも親切なヘレンの周りには、平安があふれています。わたしは彼女がどんなときにもいつでもそばにいて、明るく接してくれるので、とても心が落ち着きます。

わたしは皆さんの中の多くの方々にお会いする特権にあずかりました。皆さんがお互いに示し合っている堅固な愛と模範、奉仕に感謝します。皆さんが互いの肩を抱き、支部、ワードまたはステーキの中で愛と思いやりに満ちた姉妹たちの輪を作り上げていることに感謝します。

第5代中央扶助協会会長エミリン・B・ウエルズ姉妹は、「扶助協会にとっての太陽は決して沈みません」と述べて、姉妹たちの力をたたえました（“R. S. Reports : Alpine Stake” Woman's Exponent「扶助協会報告——アルパインステーキ」『ウーマンズ・エクスポネント』1904年8月号、p.21）。

わたしは世界各地で扶助協会の集まりに出席しましたが、これらの集會に集った善良な姉妹たちほどすばらしい主の御業の働き手は、ほかにいないと思います。わたしたちのギレアドの乳香は様々な形をとります。心と手の両方を使って奉仕するからです。

先日、ジョージア州のある姉妹から報告書を受け取りました。彼女はその地方で起きた大洪水の後、ステーキ内の家屋の被害状況を調べるように頼ま

れていたのです。彼女はくるぶしの上まで泥水につかった1軒の家の台所に入り、食器棚を開けました。中には毒蛇がとぐろを巻いていました。彼女はすぐ戸を閉め、別の食器棚を開けました。見るとそこにも毒蛇がいたのです。びっくり仰天して階段を上がり2階へ行くと、今度はわにが現れました。これは英雄的な慈善行為だと言ってよいと思います。

ノースカロライナ州のある母親は、病気のとき、親切な扶助協会の姉妹たちに世話をしてもらいました。彼女はこうに述べています。「あの姉妹たちはわたしに人の価値について教訓を与えてくれました。人は、あらゆる役割や肩書き、責任を取り去った裸のまま、天父にとってもお互いにとっても価値があり、愛はいつまでも絶えることがない、ということを教えてくれたのです。」

どこへ行ってもわたしたちはギレアドの乳香を携え、周りの人々に振りまくことができるのです。それは、あなたを必要としている人の隣に座る、というような簡単なことです。レッスンの中で、だれかの祈りにこたえるような思慮深い発言をすることかもしれません。だれかに優しいまなざしを向ける、水飲み場で子供を抱き上げて水を飲ませてあげる、ちょっとしたメモを送る、だれかと一緒に聖文を読む、あるいは集會に出席できなかった人や、あなたの心に静かな細い声が告げる人を訪問するなどということです。こうした小さな行為はわたしたちに靈感を与え、わたしたち自身の問題を小さなものに感じさせます。まさに、「小さなことから大いなることが生じる」（教義と聖約64：33）のです。こうして与える者と受ける者がともに祝福されます。

福音における扶助協会の姉妹の力は、家庭において最も明らかに表れ、また最も重要な働きをします。女性は家庭の中心です。皆さんがどのような状況に置かれていようとも、皆さんが家庭の中心であることに変わりありません。どうか皆さん自身の家庭を聖くし、家族を強く養うことを何よりも優先して

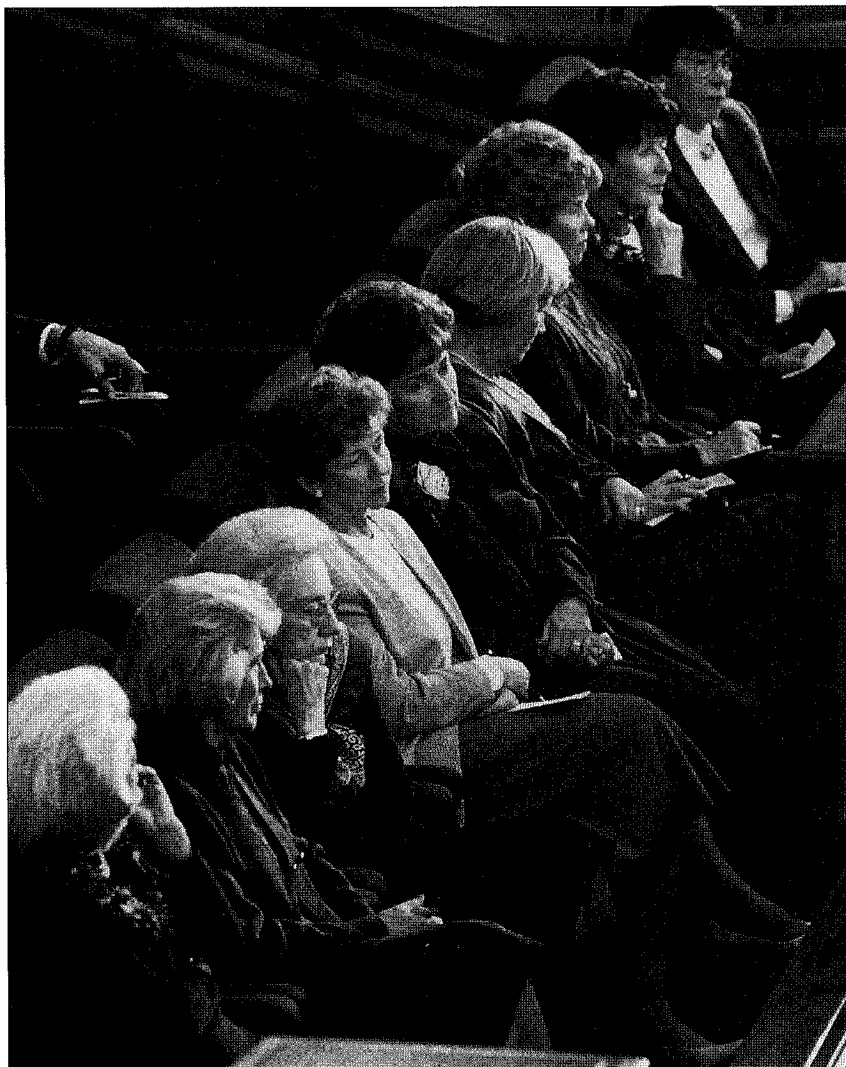
ください。

わたしと妹は、わたしたちが育った家族についてよく語り合います。わたしたちは善い両親から生まれました。母はカナダのアルバータ州にあるカードストンで熱心な扶助協会の会員でした。成長するにつれて、わたしはワードの扶助協会の姉妹たちの影響力を感じるようになりました。これらの人々は、これまでのわたしの人生に変わらぬ模範を示してくれました。父は堅固な証の持ち主で、88歳のとき、わたしに最後の神権の祝福をしてくれました。最近では珍しいことのように、祖父母はすぐ隣に住んでいました。わたしの祖父はステーキの祝福師を務め、わたしが彼の速記者でした。その経験はわたしの人生にとって実に豊かな祝福となりました。妹のジーンとわたしには幸福で平和な家庭で育った思い出がたくさんあります。

家庭はこの世からの神聖な避難所となります。夜露をしのぐ物理的な避難所となるだけでなく、安心感、帰属感、家族との親近感を与えてくれるところです。家族は一つ屋根の下でともに生活します。家族は母親、娘、姉妹、おば、祖母、そして、父親、息子、兄弟、おじ、祖父により成り立っています。

家族はわたしたちに最大の喜びと、時には最大の悲痛を与えます。家庭は学びの場となり、生涯卒業することなく、常に学ぶことのできる学校となります。家族を通してわたしたちは、愛、忍耐、共有、誠実、親切、寛容、自制、奉仕などの原則を応用することによって得られる心の平安がいかに大切かを学びます。姉妹の皆さん、これらは単に家族の価値だけではなく、主が示される生き方なのです。

扶助協会という組織の目的は、手引きに書かれているとおり、姉妹たちとその家族がキリストのみもとへ来るように助けることです。つまり、イエス・キリストの影響力を家庭の中に及ぼすことです。主の福音を中心とした生活を送り、主の戒めを守ることに喜びを見いだすことです。自分が何に時間を費やしているか改めて考え、仲良く一致した家族を築くことに重きを置



左から、大会に臨む扶助協会、若い女性、初等協会の各中央会長会。

くことなのです。

皆さん御存じのように、これは決して易しいことではありません。あらゆるメディアが家族の分裂、さらには崩壊について述べています。経済的な圧力により家族は困難な選択をするよう強いられています。わたしたちは四方八方からいろいろな問題を突きつけられています。福音の原則をしっかりと生活の中心に置かなくてはなりません。そのための努力は、ほかの人にはあまり気づかれず、評価されないかもしれませんが、やる価値があります。家族は現世においても来世においても生活の基本的な骨組みです。家族の結び固めは、主の計画の中で家族こそ第一の目的であることを示しています。

そして、女性は家族の中で鍵となる役割を果たします。わたしたちは家庭の雰囲気や家族の生活様式を築き、人どのように接するかという基準を定めます。さらにわたしたちは、教師でありカウンセラーであり、心を打ち明けられる親友であり、支持者、援護者、話し相手でもあるのです。

扶助協会では長年にわたり、家族を最優先するために重要なプログラムを実施してきました。「母親学級」は扶助協会で教えられた最初の標準的なレッスンです。1901年に始まったこのレッスンは、最初の母親教育課程でした。その意図は、姉妹たちに家庭を管理し、子供たちを鼓舞し、福音を教え、模範的な生活を送れるように助けるも

のでした。それは今も変わりなく行われています。

今日、扶助協会の勉強では、1か月に1度家庭と家族の必要に焦点を当てたレッスンを行っています。しかし、それだけにとどまりません。家庭と家族はすべてのレッスンの主要な基盤となっているのです。

わたしたちは家族を愛するがゆえに、時には家族のことで傷つくことがあります。リーハイとサラリアを例に探ってみましょう。レーマンとレムエルが絶えずいさかいを起こしていることについて、二人はどのように感じていたのでしょうか。ヨセフがエジプトへ売られたとき、彼は兄たちのことをどのように思っていたのでしょうか。王妃エステルはおじのモルデカイから「あなたが……迎えられたのは、このような時のためでなかったとだれが知りましょう」という言葉をほんとうに聞きたかったのでしょうか（エステル4：14）。

家族には互いに対する責任があります。この春、わたしの7歳になる孫息子デビッドが電話をかけてきて、自分のクラスの発表会を見に来てほしいと頼みました。「ぼくが独りで歌うんだよ」とのことでした。発表会は火曜日で、わたしのいちばん忙しい日でしたが、行くようにすると約束しました。発表会当日、開演とともに、わたしはデビッドの両親と一緒に、ミッキーマウスの耳を付けた大勢の子供たちの中のどこに小さなデビッドがいるかと、目を凝らして探しました。確かにデビッドは独りで歌いました。クラス全員が1フレーズずつ独りで歌ったのです。でも、コンサートの終わりにデビッドが、「おばあちゃん、きつと来てくれるって分かっていたよ」と言いながら通路を走り寄って来たとき、わたしは来てよかったと思いました。

つい最近友人が、脳卒中で倒れた父親のことを話してくれました。人生の厳しさに直面しながらも、彼女は父親を世話し支えるために最善の方法を選びました。また同時に、健康で、やりたいことにいろいろと取り組み、孫たちと一緒に過ごす時間に恵まれている母親のことを考えました。そして、そ

のとき感じた父への尊敬の念について、
このように語りました。「父が体の衰
えという難しい局面に正面から向き合
う姿を見ながら、わたしは父から学べ
る喜びを感じました。」

最も困難なときに、家族はわたした
ちを支え、励ましてくれます。わたし
たちはそれを、世界史上最も激しい苦
痛に満ちた経験の一つ、すなわち神の
御子イエス・キリストが十字架におか
りになったときのことから学べます。

ヨハネによる福音書には、このよう
に記されています。「イエスの十字架
のそばには、イエスの母と、母の姉妹
と……が、たたずんでいた。」(ヨハネ
19:25) 彼女たちは、イエスが生まれ
てから死ぬまでずっとそばにいました。
そしてこのときも、十字架のそばにい
たのです。その何年も前に、マリヤと
ヨセフがこの最も美しい子供を育てた
ころのことが思い浮かびます。赤子の
イエスをあやすマリヤの口から、ごく
自然について出る優しい言葉が聞こえ
てきます。「わたしはここにいます
よ。」そして、歴史上最も劇的なこの
瞬間にも、母マリヤがそばにいたの
です。そのときには、イエスの苦痛を和
らげることはできませんでしたが、彼
のそばに立っていたのです。イエスは、
感謝してこのようなすばらしい言葉を
語りました。「婦人よ、ごらんなさい。
これはあなたの子です。」それから弟
子にこう言われました。「ごらんなさ
い。これはあなたの母です。」(ヨハネ
19:26-27)

扶助協会の姉妹の皆さん、わたした
ちはギレアデの乳香を持っています。
扶助協会の姉妹たちのきずなにより皆
さんが慰めと祝福を受けられますよう
に。皆さんが家族のために、また家族
と一緒にすすべてのことについて、
わたしは力になりたいと思っています。
扶助協会の乳香、すなわち高め合い、
助け合う力を皆さんが感じられますよ
うに。

神が生きておられ、イエス・キリス
トは神の御子であり、主の福音がこの
末日に回復されたことを証^{あかし}いたします。
イエス・キリストの御名によって、
アーメン。

生きたネットワーク

中央扶助協会第一副会長

チエコ・N・岡崎

わたしたちは文字どおり霊の姉妹なのです。どの扶助協会も、互いに愛
し合う姉妹たちの集まりでなければなりません。



愛 する姉妹の皆さん、アローハ。
こよいはすべての家族を強める
というテーマで話が進められますが、
わたしは、扶助協会が姉妹たち同士を
強い姉妹愛のきずなで結ぶという働き
を通して、どのようにその目標の達成
に貢献できるかをお話したいと思い
ます。

これは網です。魚をとる網ですね。
わたしの父、西村兼則^{かねのり}がハワイで昔
作ったものです。その父が30年前に亡
くなって以来、わたしが持っています。
形見として大切にしてきました。わた
しは、網を打つ瞬間は美の極致だと思
います。わたしは、網を打つ父の姿を
眺めるのが好きでした。浜の磯の所に
立ち、手には束ねた網を持っています。
そして、力強い、しかしながらダン
サーのようなしなやかな動きで網を投
げ上げます。すると網は扇か傘のよう
に弧を描いて飛び、打ち寄せる波を銀

の矢のように突き抜けようとする魚の
群れの上に落ちます。そして、網の周
囲に付けたおもりによって、網は静か
に底まで沈み、魚の群れを囲んでしま
うのです。

やおら父は海に飛び込み、端の方を
握りながら網を底の方からたぐり寄せ
ます。そして、網を袋にして魚の群れ
をすくい上げるのです。父はピチピチ
跳ねる魚の入った、水の滴る網を持っ
て浜に上がり、網を広げて、手早くそ
の日とその次の日の夕食のための魚を
取り分けます。それから近所の人の分
もよく取り分けていました。そして
残った分は海に放してやります。

わたしは、扶助協会の姉妹同士のき
ずなをこの網と較べてみたいと思いま
す。わたしたちの現代の預言者は網を
打つ人です。扶助協会が使命を達成で
きるように導いてくれています。そし
て扶助協会には、網としてその働きを
遂行する方法が3つあります。第1は、
すべての網の目が大切であるように、
すべての人が大切だということ。第2
は、網は手入れが必要だということ。
そして第3は、網の目的はたくさん
の収穫を得ることだという点です。

父はとれた魚を選別して、残ったも
のは海に放してやりました。でも福音
はすべての人が大切であり、天の両親
の愛する子供であると教えています。
わたしたちは文字どおり霊の姉妹なの
です。どの扶助協会も、互いに愛し合
う姉妹たちの集まりでなければなりま
せん。一部を選んで残りは放してやる
ようであってはなりません。わたした
ちは皆、選ばれるにふさわしい存在です。
父の網の場合、網は魚を住み慣れた

環境から取り出して異質な空気にさらしますから、魚は死んでしまいます。しかし福音の網は、思いやりや親切、愛、奉仕、教え、そして互いに見守り合うという環境にわたしたちを連れて行ってくれますから、わたしたちはそこで天国の姿をかいま見ることができます。つまり、わたしたちは魚であり、網であり、網を打つ人でもあるのです。

網についての2番目のポイントも真実です。わたしたちの姉妹としてのきずなは偶然に生まれたものではないからです。努力が必要です。父はこの網を自分の手で編み上げました。町のよろず屋で網用の丈夫なより糸を買い、仕事が終わった夜や週末に長い時間かけて丹念に編んでいったのです。父は網の中心となるこの四角の部分から編み始めました。そして、その四角の周囲に一つ一つ、やっと親指が通るほどの四角い目を編み足していきました。四角い目の角の部分はすべて本結びにして、網目がずれないようにします。たとえ一つの目が岩に引っかかったり、弱くなって破れたりしても、隣の目までほつれてしまわないようにするためです。このようにすれば網目は丈夫で、ずれることはありません。

また父は、使った後の網は必ず手入れをしていました。家に帰ると真水につけて洗います。海水に含まれる塩分で網の繊維が弱くなるのを防ぐためです。それからさくにかけて干しますが、網を振ってよく伸ばしてから干すようにします。早く均等に乾くようにするためです。乾いてもすぐには畳みません。網目を丹念に調べます。結び目が緩んでいたり、糸がほつれていたときは、大きな問題になる前にすぐに修理をします。このように手入れの行き届いた網は何年でも使えます。手入れを怠らないので丈夫なのです。

これと同じことは、わたしたちが互いに思いやりを示し、見守り、助け合うことにも当てはまります。父の打った網は決して岩に引っかからなかったかということ、そうではありません。わたしたちがほころびや破れなどの問題をすべてなくすることができないのもそれと同じです。でも、姉妹のきずなと



いうわたしたちの網は、使う度に、またほころびが出たときにはいつでも、手入れをし、修理することができるのです。

部屋を見回して、この放送をご覧になっている姉妹たちの顔を見てください。皆さんは強い力とたくさんの祝福を授けられた教会の姉妹なのです。その強さとは、数多くの幸福な結婚、強い証、ふさわしい神権者を伴侶に持つこと、福音を学び福音を愛する子供たち、こまやかな心遣いの下で進んでさげられた長時間にわたる慈善奉仕、福音の原則に対する雄々しい証、定期的な聖文の学習、心配してくれる監督やほかの神権指導者、ワードやステークで召しを受けて奉仕する機会、そして、特にこよいこの場でわたしたちの愛する現代の預言者、ヒンクレー大管長の言葉を聞く機会に代表されるものです。わたしたちには、福音を中心とした理想的な家庭という明確なビジョンがあります。教会の姉妹たちはその理想に向かって努力し、祈りをもってそれを求め、そしてその理想を実現して喜びを得るのです。

さて、福音の計画の一部として善悪の判断が挙げられます。わたしたちは善悪が交じり合う中で生活し、経験を通して賢明な選択をすることを学んでいきます。そして、その経験の多くは

痛みを伴うのです。そうした痛みを伴う経験は、姉妹たちの集まる所ならほとんど例外なく見られます。理想的な姿に見える姉妹でも、その人自身や家庭の中に悲しみや難しい問題を抱えていることがあるのです。皆さんの中でも、虐待やそのほかの犯罪の犠牲になりながら、何とか立ち直ってこられた方が少なからずおられることでしょう。死別や離婚はどんな家庭にも起こり得ます。可能性が消えかけたとき、信仰がなえたとき、愛する人が選択の自由を行使して、自他ともに傷つけるような選りをしてしまったとき、苦痛はやって来ます。皆さんのご家族の中には、あるいは親しくしている方々のご家族の中には、慢性の心身の病や情緒障害、アルコールや薬物の依存症、財政の破綻、そして孤独や悲しみや失意にある家族の世話を強いられている方々がおられることと思います。また、再婚された方々は、3つの問題を同時に抱えています。最初の結婚からの立ち直り、今の結婚を充実したものにする、それに夫の連れ子に対して母親としての愛と思いやりを注ぐことです。

なかなか解決できない問題に苦しむ家庭であれ理想的な環境にある家庭であれ、すべてが貴重でかけがえのない、愛すべき家庭です。救い主は皆さんに成功してほしいと望んでおられます。

天の御父は皆さんを愛しておられます。わたしたちも皆さんを愛しています。皆さんが強くなれるように、また必要な助けを受けるとともに、必要な人に手を差し伸べられるように祈っております。

網との比較の3番目のポイントは、わたしたちのネットワークは父の網と同じで、豊かな恵みをもたらすために作られたものだということです。わたしたちはあふれる祝福と豊かな愛、想像を超えた恵みを受けることができます。父の網は浜から投げられるように作られたものですが、ルカによる福音書の中のすばらしい物語を思い出してください。夜通し漁をしても何もとれなかったペテロに、救い主はこう言われました。「沖へこぎ出し、網をおろして漁をしてみなさい。」(ルカ5:4)何が起こったのでしょうか。あまりにも多くの魚が網にかかったので、網が破れそうでしたね。彼らは網を揚げのに助けを呼びました。そして2そうの舟は魚でいっぱいになりました。彼らが今までにない大漁に驚きながら網を引いている間、救い主が何をしておられたかは、聖典には記されていません。わたしが想像するに、ほほえみながら見ておられたのでしょうか。

浜辺のすばらしいところは、いろいろな活動ができることです。日光浴をしている人もいれば、バレーボールやバーベキューに興じている人もいます。かにが今にも折れそうな弱々しい足ではい回り、イソギンチャクが潮だまりで花を咲かせています。また、波頭に姿を見せる魚をかもめがねらっています。そうです。皆さんは一生を浜辺で過ごすことができます。美しく、興味深く、楽しい生活ができるのです。でもそれは、美しく、興味深く、楽しい活動が浜辺にはあるからです。

しかし救い主は、浜辺ではなく沖へこぎ出して網を入れるように言われました。救い主がわたしたちのために用意しておられる宝は、浜辺の砂や泡立つ波、そして、そこでひっきりなしに行われている活動の中にはありません。主は言われました。「あなたは求めれば、啓示の上に啓示を、知識の上に知



識を受けて、数々の奥義と平和をもたらす事柄、すなわち喜びをもたらす永遠の命をもたらすものを知ることができるようになるであろう。」(教義と聖約42:61) また、ペテロ、ヤコブ、ヨハネの経験から、わたしたちには大漁の網と一緒に引き揚げる仲間が必要であることが分かります。

しかし、詩篇第42篇7節には「淵々呼びこたえ」とあります。ここで言われている淵すなわち深さとは、単なる福音の知識の深さではなく、その人の人間的な深さなのです。皆さんには、たくさんの人と交わって笑いながら日光浴をするような浜辺の部分に相等するパーソナリティーも必要でしょう。でも、浅くて砂の多い浜辺を離れて深い部分を求める心も持つてほしいと思います。そして、好むと好まざるとにかかわらず、人生の荒波によって海の深みに連れて行かれることがあります。悲しみと苦痛の中で自己を見詰める深みです。自分が何者であり、救い主とはどのような御方であられるかを知るのには、そのような深みにおいてなのです。

姉妹の皆さん、わたしたち扶助協会会長会は、皆さんが重荷を負って生活しておられることを知っています。わたしたちは、すべての集会の中で皆さん一人一人が強められるように、そして、そのことによって家族や友人、

ワード、地域社会が皆さんを通して強められるようにと祈っています。わたしたちは皆さんの勇気と明るさに接するときとともに喜び、皆さんの苦痛に対してはともに悲しんでいます。また、皆さんの信仰には謙遜になり、皆さんの愛に養われています。どうぞ、皆さんの勇気と信仰と愛を互いに分かち合ってください。自分自身を力づけ、人を力づけてください。生きたネットワークを作りましょう。

だれでも、抱えている重荷を軽いと感じるときもあれば、押しつぶされるように重く感じる時もあります。皆さんの中には、そうした重荷を、皆さんのことを心にかけてくれる人と分かち合ったときにどれほど大きな力が得られるかを経験しておられる方がいらっしゃることでしょう。あるいは、重荷を自分だけで持とうとしておられる方、さらには、重荷を持っていることを否定したり、重荷などまったくないようなふりをしたりして、さらに大きな重圧に苦しんでおられる方もいらっしゃると思います。

姉妹の皆さん、皆さんの重荷をすべて肩替わりできるのは救い主をおいてほかにないことを心に留めてください。しかし、分かち合うことによって重荷を軽くできることも心に留めてほしいと思います。どうか、自分だけで重荷を背負わないようにしてください。ま

た、ほかの姉妹にもそのようなことはさせないでください。わたしたちがこの地上に來たのは、ここが喜びと悲しみの交錯した学びの場であることを承知のうえでした。悲しみを分かち合うことと不平を声高に言うことの間には一線を画さなければなりません。どうぞ、姉妹たちの抱えている問題に敏感になってください。できる範囲内で重荷を取り去る手伝いをしてください。話すことで打ちひしがれた心を癒すことができるのであれば、よく話を聞いてあげてください。そして、自分が逆境に陥ったときには、皆さんを理解し、力づけてくれる思いやりに満ちた友に助けを求めましょう。このようにしてわたしたちは、網の手入れをし、一つ一つの網の目を丈夫にし、わたしたちの姉妹のきずなを健全で活力のあるものにしていくことができます。

最後に姉妹の皆さん、父の網のことを思い出しながら皆さんの扶助協会に生きたネットワークを作ってください。どのような状況にある家庭にも、勇気と信仰と愛が必要です。わたしたちの親子の関係は、永遠の兄弟姉妹というさらに深い関係を土台としたものです。わたしたちは天の御父の子供であり、御父はわたしたちを愛し、見守り、わたしたちの信仰が深まることを望んでおられます。そして、わたしたちの勇気が人を奮い立たせるように、またわたしたちが御父の模範に倣って、愛をもって人を包み込むことができるように願っておられます。使徒パウロはこう語りました。

「どうか、主が、あなたがた相互の愛とすべての人に対する愛とを、わたしたちがあなたがたを愛する愛と同じように、増し加えて豊かにして下さるように。

そして、どうか、わたしたちの主イエスが、そのすべての聖なる者と共にこられる時、神のみまえに、あなたがたの心を強め、清く、責められるところのない者にして下さるように。」(1テサロニケ3:12-13)

わたしたちがこのようになれるよう、イエス・キリストの御名によりお祈りします。アーメン。

扶助協会は何のために

中央扶助協会第二副会長
アイリーン・H・クライド

扶助協会は神の預言者ジョセフ・スミスによって組織され、……わたしたちが「イエス・キリストに真に従う者」となれるように、今日も預言者によって導かれています。



よいわたしたちは、預言者と預言者を補佐する方々に臨席していただき、愛に満ちた天父が預言者ジョセフ・スミスを通してこの扶助協会を組織されたことに思いをはせ、またそのことを世界中の人々に証できすことを何よりうれしく思っています。そしてわたしたちは、この教会が引き続き神の預言者によって導かれていることを証します。わたしは皆さんとともにこの扶助協会の大会に出席し、わたしたちの時代のわたしたちの預言者であるゴードン・B・ヒンクレー大管長の勧告を聞けることを光栄に思います。わたしたちを導く預言者の声が今必要であるように、1842年、姉妹たちがジョセフ・スミスにノーブーにおける女性の慈善協会設立を打診したときも、預言者の導きは必要でした。姉妹たちは預言者ジョセフに、自分たちの

計画に基づいて組織を作り、神の王国に貢献したいという要望を伝え、預言者の意見を求めました。それに対して預言者はもっと良い方法があると述べ、姉妹たちの善意がさらに大きな実を結ぶように、秩序と目的において神権の指導を得られる組織を提案しました。

わたしたちの時代は、たくさんの組織が競合する時代です。事実、教会のいろいろな組織での召しに熱心になるあまり、「わたしは今扶助協会で働いていない」と考えたり、「わたしが扶助協会にいたとき……」と言ったりしてしまいます。姉妹の皆さん、教会員であるわたしたちはいつも扶助協会の会員です。でも、特に教会員となって間もない人や扶助協会に属する年齢になったばかりの人からは、「扶助協会は何のためにあるの」とか、「なぜ扶助協会に参加しなければならないの」とか、「わたしにどう役立つの」といった言葉を聞くことが珍しくありません。こうした疑問について考えるとともに、わたしたちの預言者が過去に述べた言葉や今回のような機会に話される言葉に思いをはせてみることは、わたしたちすべてにとって意義深いことではないでしょうか。

まず、ごく単純なことですが、わたしたちは、扶助協会が神によりわたしたちのために組織された会であるとの理解の下に、扶助協会に参加します。神は預言者を通して、わたしたちがこの組織の存在によって「喜びを得、このときを皮切りに、知識と英知が流れ出る」と約束してくださいました(History of the Church『教会歴史』4:

607. *History of Relief Society, 1842-1966: The General Board of Relief Society, 1966*「扶助協会中央管理会1966年」『扶助協会の歴史1842-1966年』p.21に引用)。また、預言者ジョセフ・スミスの母親はこう語っています。扶助協会は「わたしたちが天でともに席を得られるように、互いに教え合い、……互いに愛し合う所です。」(*Minutes of the Female Relief Society of Nauvoo*『ノーブー女性扶助協会議事録』1842年3月24日；『扶助協会の歴史1842-1966年』p.20に引用) 姉妹の皆さん、確かにわたしたちには教育が必要です。互いに愛し合うことが必要です。すべての教師とほとんどの経験豊かな生徒は、この二つの原則の間に関連性があることを知っています。愛していない人を教えることはできませんし、自分たちを愛していない人から学ぶこともできないのです。

「インターネット」という、世界を一つにつなぐことを約束する近代のコミュニケーションの武器そのものが、互いのつながりを疎遠にする原因になるのではとよく言われます。そのことについて考えてみてください。個人的なことについて考えてみても、わたしたちのワード、いや家族においてさえ、時間や正当な目的がないという理由で、廊下の反対側にいる人や通りの向かい側に住む人とは他人であり、心を通じ合えないと感ずることがありますし、そのような話をよく耳にします。こうした個人間、また家族内部、そしてワードの中の家族同士の結びつきが希薄になっている今日、扶助協会への参加がますます求められるのです。

ペテロは当時の聖徒たちに一つの強い指示を与えています。それは男性にも女性にも当てはまるものです。わたしたちに特によく当てはまるので、読んでみたいと思います。「何よりもまず、互いの愛を熱く保ちなさい。……不平を言わずに、互にもてなし合いなさい。あなたがたは、それぞれ賜物をいただいているのだから、神のさまざまな恵みの良き管理人として、それをお互のために役立てるべきである。」(1

ペテロ4:8-10) わたしは、この聖句に秘められた力を、これから開かれるすべての扶助協会の集会に何としても伝えたいと願っています。未婚既婚を問わず、専業主婦であるなしを問わず、ほんのひとときの安らぎを感じているか急に落ち込むようなことがあったかを問わず、出席するすべての姉妹が天の御父の御霊を感じ、仲間である姉妹たちの変わることのない愛と励ましを味わえるような何かが、毎回の扶助協会で起こってほしいのです。

姉妹の皆さん、「愛はいつまでも絶えることがない」のです。この言葉は単なるモットーではありません。神から授けられたわたしたちの使命なのです。姉妹として、互いに愛し合い、この御業に働く兄弟たちを愛そうではありませんか。慈愛の中に信仰を示しましょう。

「最も大いなるものである慈愛を固く守りなさい。……

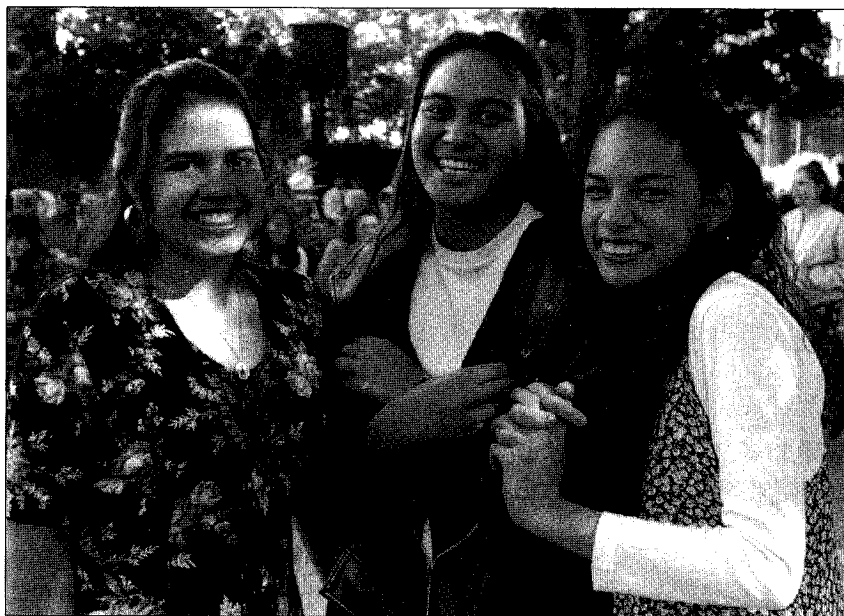
この慈愛は……とこしえに続く。そして、終わりの日にこの慈愛を持っていると認められる人は、幸いである。

したがって、わたしの愛する〔姉妹たち〕よ、あなたがたは、御父が御子イエス・キリストに真に従う者すべてに授けられたこの愛で満たされるように……熱意を込めて御父に祈りなさい。」(モロナイ7:46-48)

扶助協会は神の預言者ジョセフ・スミスによって組織され、わたしたちが「イエス・キリストに真に従う者」となれるように、歴代の預言者によって導かれてきています。これが「なぜ扶助協会があるのか」との問いへの答えです。なぜ参加するのか、何をしてくれるのかという問いへの答えなのです。扶助協会は、主イエス・キリストの弟子となるというわたしたちに与えられた聖約を伴う義務と約束について、さらに完璧に教えてくれる所なのです。また、1842年にジョセフ・スミスは、初期の姉妹たちにこう教えています。「〔この〕……協会は貧しい人々を救済するのみならず、人を救う協会です。」(『教会歴史』5:25) 人を救うとはどういうことでしょうか。わたしは皆さんのもとを訪れながら、その例

をたくさん目撃しました。一つをご紹介します。ある南アフリカの姉妹ですが、6人の子供を残して夫に先立たれた彼女は、『聖書』の教えに頼ることにしました。そして箴言の第13章24節についてよく考えました。この聖句は一般に、鞭(rod)を加えないと子供はだめになるという意味だと解釈されています。そして、わたしたちの教会に改宗した彼女は、理解を求めて『モルモン書』をも読んでみました。そこで彼女は別の“rod”すなわち鉄の「棒」を見いだしました。命の木へと人を導く神の御言葉です。そこで彼女は、『聖書』の中の、“rod”を加えないと子供がだめになるという記述の意味が確実に理解できるようになりました。このようにして彼女は、家を整えて福音の光を家庭にもたらし、子供たちに救いを与えることを学んだのです。

わたしはごく最近、ブリガム・ヤング大学で表彰を受けたマービンペラ姉妹と再会しました。彼女は活躍の場を次第に広げつつあります。話によると彼女は、ソウェトの扶助協会に参加することにより、自分が学んだ人を救うための方法を彼女の住んでいる地域で実践しているとのことでした。教会で発行している『主の道にかないて助けをなす』などに述べられた福祉の原則や家庭訪問などを実践することによって、1,000人を超える子供たちが自分たちのために、また人を助けるために畑を作り、作物を育てるのを指導しています。また、地域の250人を超えるおばあさんたちを募り、子供たちを物心両面にわたって養い育てること、また家族を強めることに力を貸してもらいました。マービンペラ姉妹は人を救っています。彼女は、困難な時代にノーブーで飢えた家族に食物を与え、信仰を失いかけている人を励ますために互いに訪問をすることを始めたエライザ・R・スノー、フィービー・キンボール、ザイナ・D・H・ヤングと肩を並べる傑出した女性です。そうです。扶助協会の目的は、わたしたち女性を、人を物心両面にわたり養い育てることのできる者とし、神の子供たちを「彼らの弱さに応じて……救う」(アルマ



7:12) ことのできる者とするに
あるのです。これは救い主御自身が行
われた御業であり、この協会が神権の
管理の下に置かれたときに、主がわた
したちに求められたことなのです。

マービンベラ姉妹のことは、簡単に
紹介してしまったので、彼女のしてい
ることも造作のないことと思われるか
もしれません。でも、現実とは違います。
今は、ソウェトに住んでいようと、サン
フランシスコや札幌、サンパウロに
住んでいようと、混乱した時代です。
「できれば、聖約による選民である真
の選民をも感わそうとする」ほどの混
乱した時代です（ジョセフ・スミスー
マタイ1:22）。このような中であつて
主の弟子たちが欺かれたいためには、
従うよう求めるたくさん声の中から
真理の声を聞き分ける力を持たなけれ
ばなりません。確かに、聖文を通して
与えられた神の御言葉は鉄の棒であり、
永遠の命の道へとわたしたちを導いて
くれます。そこには真理が明らかにさ
れており、わたしたちはその鉄の棒に
すがることができます。またその真理
は、時代を超えて証明されてきました。
しかし、すべての真理が昔から受け入
れられてきているわけではありません。
ある特定の真理に接したときに、わた
したちはそれが真理であると分からな
ければなりません。それが真理であり
神にかかわることであるという、御霊

あかし
の証を受けなければならないのです。

真理を識別する必要性を説かれた救
い主が、そのとき何をイメージとして
持っておられたかを考えてみてくださ
い。主は真理を知ること「命の水」
を受けることにたとえられました。つ
まり、飲むに適した、清い、流れる水
です。主は井戸端の女にこう言われま
した。「もしあなたが神の賜物のこと
を知り、また、『水を飲ませてくれ』
と言った者が、だれであるか知ってい
たならば、あなたの方から願い出て、
その人から生ける水をもらったことで
あろう。」（ヨハネ4:10）人の命を救
う水と井戸について考えるとき、ハガ
ルのことが心に浮かびます（創世21:
14-20参照）。ハガルは複雑な家庭の
問題を抱えていました。彼女は、幼い
息子イシマエルを連れてベエルシバの
荒野をさまよわなければならなかつた
のでした。やがて、荒野に持って来たパン
と水は底をつき、飢えと渇きが二人を
襲います。記録には、息子が泣く声を
聞くに忍びなかつたハガルは、息子を
木の下に置き、そこから遠く離れた所
で（同16節参照）自分も声を上げて泣
いたとあります。すると、その声にこ
たえて天使が現れ、ハガルに慰めを与
え、ハガルを見捨てることはしないと
言いました。そして、こう書かれてい
ます。「神がハガルの目を開かれたの
で、彼女は水の井戸のあるのを見

た。」（同19節、下線付加）わたしたち
もハガルのように、「水の井戸」を見
る必要があります。また、井戸端の女
のように、「主よ、わたしがかわくこ
とがな [い] ように、その水をわたし
に下さい」（ヨハネ4:15）と言わな
ければなりません。これこそが扶助協
会の目的です。わたしたちが神の娘と
して二度と渇くことがないように、ど
のようにして必要なものを主に求め、
見いだせばよいかを扶助協会は教えて
くれるのです。扶助協会を通じて「喜
びを得、……知識と英知が流れ出る」
という預言者ジョセフ・スミスの約束
を心に留めてください。

わたしたちはこの約束を受けられる
ように行動しなければなりません。ハ
ガルのように遠く離れたのではこの約
束は受けられません。姉妹の皆さん、
互いに近く立つようにしましょう。互
いに愛し合い、大切に合つて、御霊
が「すべてのことの真理」（モロナイ
10:5）を告げてくださるようにしま
しょう。互いに教え合いましょう。聖
霊の賜物を通して神から授けられた識
別の力をもって物事を見るようにしま
しょう。静かな細い声に耳を傾けま
しょう。また、神の御言葉の中に導き
を求めてください。それは、古代の預
言者への言葉として聖典に記されたも
のと、こよい語られる現代の預言者の
言葉の両方です。井戸を見るようにし
ましょう。「かわくことがない」よう
に、水を求めましょう。独り子の贖
罪を通して愛に満ちた天父が差し出さ
れる約束を享受してください。主はこ
う語っておられます。「しかし、わた
しが与える水を飲む者は、いつまでも、
かわくことがないばかりか、わたしが
与える水は、その人のうちで泉となり、
永遠の命に至る水が、わきあがるであ
らう。」（ヨハネ4:14）

わたしはこれが真実であること、ま
たわたしたちが教会において神権の力
によって一つとなっており、地上で主
の王国を建設し、主を知ることによつて
喜びを得られることを証します。救
い主イエス・キリストの御名により申
上げます。アーメン。

世の策略に 対抗して立つ

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

こんにち

今日のチャレンジに対抗できる強さを身に付けることができますように。
常に直面する問題に対して、皆さん自身の知恵を超えた力が授けられま
すように。



皆さんとともにこの会に集うよう
に招待を受けましたことを大変
光栄に思っております。扶助協会でお
話するのは、わたしよりも愛する妻
マージョリーの方が適任ではないかと
思います。わたしは彼女をわが家の扶
助協会会員として尊敬しています。彼
女を通して、また彼女が携わったい
ろんな活動を通して、わたしのこの偉
大な組織への理解は深まっています。
すばらしい大会でした。わたしたちが
信頼を置いている有能な指導者の皆
さんからお話を聞くことができたこと
をうれしく思っております。

何と力のみなざる集まりでしょうか。
扶助協会には350万人の方々がいらっ
しゃいます。住む国も違えば話す言葉

も違います。しかし、皆さんは一つの
心で理解し合います。皆さん一人一
人は神の娘です。この何をも超越した事
実が何を意味するかを、考えてみてい
たきたいと思います。

わたしたちの天の父である御方は、
精神と肉体という驚くべき力を皆さん
に授けられました。それは、わたした
ちが一人残らず、御父の創造の栄光の
冠を得るためです。

1842年4月に、預言者ジョセフ・ス
ミスが扶助協会の女性の皆さんに語っ
た言葉をご紹介します。「皆さん
が与えられた特権にふさわしく生きる
ならば、天使は必ずや皆さんとともに
いてくれるでしょう。」(Nauvoo
Minutes『ノーブー議事録』1842年4
月28日) 皆さんには何と驚くべき可能
性が秘められていることでしょう。

わたしは、こよい実り多い幸福な生
活を夢見ている、美しい若い女性の皆
さんの目を見ています。また、いつも
家族や子供のことを心にかけている母
親の皆さんの目を見ています。さらに
わたしは、のしかかる重荷に耐えなが
ら、孤独の中を主に力と守りを願って
いるひとり親の方々の目を見ています。
そして、打ちつける嵐に耐え、人生の
つらさも楽しさも十分にかみ分けてこ
られた、年老いた祖母や曾祖母の方々
の目を見ています。皆さん一人一人が
この大会に参加してくださっているこ
とに感謝いたします。皆さんの強さと
忠誠、そして皆さんの信仰と愛に感謝

いたします。また、信仰をもって歩み、
戒めを守り、いかなるときでもどのよ
うな状況の下でも正しいことを行おう
という決心を心に抱いておられる皆さ
んに感謝いたします。

世界の歴史の中で、女性にとって今
ほど恵まれた時代はなかったものでは
ないでしょうか。教育の機会、そして技
術や知識の習得の機会について考える
とき、今日ほど門戸が大きく開かれて
いる時代はありません。

しかしながら、少なくとも近年の歴
史と比較するかぎり、今日ほど難しい
問題に直面している時代は見られませ
ん。申すまでもなく、現代は混乱の時代、
価値観の揺らぐ時代です。甲高い
声が、時に裏打ちされた行動の規範に
反旗を翻し、これだ、あれだと叫びま
す。わたしたちの社会の倫理的な基盤
は大きく揺らいでいます。世界中のあ
まりにも多くの若人が、そして同様に
あまりにも多くの年長者たちが、自分
だけを満足させようとする誘惑の声に
のみ耳を傾けているのです。若い独身
女性の皆さんは途方もないチャレンジ
に直面しており、わたしたちも、それ
が皆さんにとってどれほど大変かを理
解しています。教会の標準に従って生
活し、徳の力を身に付けて歩み、世界
中に洪水のようにあふれてきている道
徳的退廃の泥沼から心を遠ざけること
を決意しておられる皆さんに対して、
感謝の言葉もありません。もっと良い
方法があることを知っていただいて、
ありがとうございます。いいえと言う
意志の強さをありがとうございます。
誘惑を拒み、現実を乗り越えながら永
遠の可能性の輝きに目を向けてくださ
り、ありがとうございます。

徳の標準を捨てることによって刈り
取らなければならない実は、何と苦い
ことでしょう。統計はひどい数字を示
しています。アメリカ合衆国で誕生す
る子供の4分の1以上が私生児であり、
しかもこの状況はさらに深刻な問題を
生んでいます。出産をした10代の女性
の46パーセントが4年以内に福祉援助
に依存するようになり、これが未婚で
出産した10代の女性になると、73パー
セントが4年以内に福祉援助を受ける

ようになるというのです。(Starting Points—Meeting the Needs of Our Youngest Children『出発点——最年少の子供の必要を満たす』pp. 4, 21参照) 子供が歓迎され、よく養われ、愛される家庭、そして父親と母親が互いに誠実であり、子供に対しても誠実な家庭に生まれるという祝福は、すべての子供が享受すべきものではないでしょうか。若い女性の皆さんで、これ以下のことを望んでいる人はだれもいないと思います。世の策略にき然とした姿勢を示してください。娯楽を作り出す人々、出版物を提供する人々の多くは、わたしたちとは反対のことを信じています。しかし、何世紀にもわたって積み重ねられた知恵は、明確に、疑いの余地なく述べているのです。結婚前は時に裏打ちされた純潔の徳の標準に従って歩み、結婚後は夫婦間の貞節を守る人だけが、より豊かな幸福、より大きな安心感、より確固とした心の平安、より深い愛を味わえるのだと。たとえ狭い道であっても、主の御心に従うという固い意志をもってまっすぐ

に歩むことができるように願っています。

同性婚と呼ばれるものを正当であると信じ込ませようとしている人々がいます。わたしたちは、同性の人への恋心に悩んでいる人々に対して気の毒に思っています。わたしたちは皆さんのことについて主に祈っています。皆さんに同情の気持ちを抱いています。皆さんは、わたしたちの兄弟であり姉妹です。しかしながら、皆さんの不道德な行為を見過ごしにできないのは、ほかの人々の不道德な行為を見過ごしにできないのと同じです。

安定した家庭を維持するために仕事を持って働いておられる主婦の皆さんに申し上げます。愛と敬意と感謝のある家庭を主は祝福してください。状況がどうあれ、信仰をもって歩んでください。光と真理の下に子供たちを育てましょう。小さなころから祈ることを教えてください。たとえ全部は理解できなくても、聖文を読んであげてください。また、初めてお金を得たときに什分の一^{じゅうぶん}と献金を納めることを教えましょう。そして生涯にわたって

習慣となるようにしてください。男の子たちには女性を大切にすることを教えてください。女の子たちには純潔を守って生きるように教えましょう。教会の責任を引き受け、いかなる責任であろうと主が皆さんをその任にふさわしくしてくださることに信頼を置いてください。皆さんの模範が子供たちの行動を決めるのです。失意にある子供、問題を抱えている子供には手を差し伸べましょう。

子供たちに、本を読む時間を増やし、テレビを見る時間を減らすように教えてください。こうあります。「アメリカ心理学会の研究によると、典型的な子供の場合、テレビを見る時間は週に27時間である。そうすると、3歳から12歳までの間に8,000件の殺人と10万件の暴力行為を見ることになる。」(U. S. News & World Report『U. S. ニュース・アンド・ワールドリポート』1995年9月11日付け, p.66)

家庭を学びの家とするための環境を整えてください。『ウォールストリート・ジャーナル』の社説には、カリ



大会の部会でタバナクル合唱団を前に最後の指揮を振るドナルド・リップリンガー。彼は1995年末で、20年間務めた合唱団副指揮者の責任を退く。

フォルニア大学バークレー校でのアジア系の学生の優秀さが報告されています。彼らの傑出した学業成績についてこう報告されています。「アメリカに台頭する新しいエリートの最も重要な要素は、アジア系の家庭に見られる、密度の濃い、献身的な家族のつながりである。……そこには年長者への敬意があり、子供には高い標準を要求する。学校では熱心に勉強し、放課後は家事を手伝う。親族の仕事を手伝うことを日課とする子供も多い。」(“The Asians at Berkeley”「バークレーのアジア人」1995年5月30日付け、p.A14)

新しい世代を担う人々を生み出すのはそのような家庭です。母親の皆さんにぜひ理解していただきたいのは、いろいろなことが言われ、行われてきましたが、安心感と平安、親子の交わり、愛、成長と成功への啓発という環境の中で子供を養育することほど、大変でありながらも報いの多い務めはない、ということです。

ひとり親の皆さんに申し上げます。皆さんがどのようにして今の状態に陥ったのかその理由はともかく、わたしたちは皆さんに対して同情を禁じ得ません。皆さんの多くは孤独感にさいなまれながら、安らぎのない悩みと恐れの日々を送っています。ほとんどの人はお金が足りたということがありません。そしていつも、子供を今どう育てたらよいのか、子供の将来はどうなるのかという不安が付きまといまいます。皆さんの多くは働きに出なければならず、その結果、長時間子供を独りにしておかなければならない状況に甘んじていることでしょう。でも、子供がまだ小さいときに優しい気持ちを示し、十分な愛を注ぎ、ともに祈るならば、子供たちの心には平安が宿り、強い人格が植え付けられることと思います。子供たちに主の道を教えてください。イザヤはこう述べています。「あなたの子らはみな主に教をうけ、あなたの子らは大いに栄える。」(イザヤ54:13)

皆さんの子育てがイエス・キリストの福音に添った、愛と高い理想に基づいたものであればあるほど、子供たち

の生活に訪れる平安の度合いは大きくなります。

子供たちのために模範を示してください。それは子供たちに対して口で教える以上のことを意味します。甘やかしすぎないでください。労働の意味を理解し、労働に敬意を払うような子供に育てましょう。家の内外の仕事をして家に貢献できるようにし、小遣いの一部は自分で稼ぐようにさせてください。男の子たちには伝道に向けて貯金をさせ、財政面だけでなく霊的な面や行動の面でも、あらゆる利己的な面を捨てて主に仕えるために伝道に出るよう備えさせてください。わたしは何のためらいもなく皆さんに約束します。今申し上げたことを行えば、皆さんは恵みを数え上げることになるでしょう。

ついこの前の月曜日、1通の手紙を受け取りました。それを読みたいと思います。

「20年前の6月のことです。わたしは9歳を頭に5人の子供を持ち、しかも妊娠していました。そんな中で、夫が家族を残して別の道を歩むことを選んだのです。わたしは立派な開拓者ですから、と言えればよかったのですが、現実とはそうではなく、世間のことが何も分からず毎日失敗を繰り返している、か弱い、おどおどした、不安でいっぱいの子供の母親でした。しかし、わたしは指導者に助言を求めました。そして、生活がもっと困窮すると予測できるようなことでも、指導者からの指示には従いました。指導者の助言には疑問を差し挟むべきでないと心に決めたのです。ですから、彼らの助言によって一時的に苦しい思いをしなければならぬときは、わたしにとって必要なことだと考えるようになりました。

わたしは毎月、『エンサイン(Ensign)』のキンボール大管長のメッセージに目を通していました。その中で大管長は、毎日聖文を読んでいれば、日々直面するあらゆる問題の答えを聖文の中から見つけられると約束していました。わたしは心の中でこう言いました。『分かりました、キンボール大管長。やってみましょう。わたしには問題がたくさんあります。どうしても答えを見つ

けなければならないものばかりです。』わたしは子供たちを集めて毎日聖文を読み、祈り、彼らの父親や自分たちのために断食をし、家庭の夕べを開き、集会に集いました。わたしたちは子供たちの父親を赦し、わたし自身、夫との関係については選択の自由をすべて天の御父にゆだねることにしました。わたしは御父に、最初考えていたように夫を永遠の伴侶とすることがふさわしくないのであれば、夫への妻としての愛をキリストの愛に変えてくださることを喜んで受け入れたいと申しました。たとえ一瞬たりとも、子供たちの父親を憎んだり恨んだりするのなら、死んだ方がましだと思ったからです。子供たちには、怒りや嫌悪感、恨みは教えたくありませんでした。夫は基本的には善人で、才能もあり、将来性も豊かな人間です。彼はひどい過ちを犯しました。そして、そのことから生じる心の傷は、自分で刈り取らなければならないでしょう。実際、彼はそうしてきています。でもわたしには、間もなく6人になる子供たちを育てるという差し迫った仕事がありました。イエス・キリストの福音を誤解しないように教えなければなりません。夫を失うという心の痛手には耐えられても、わたしに託された神の貴い子供をたとえ一人といえども失うことは、わたしには耐えられませんでした。

わたしは心からへりくだり、主がわたしの祈りを聞き、しかも祈りにこたえてくださったことを報告させていただきたいと思います。最初の夫との間の4人の息子のいちばん下は今伝道中です。……彼は3人の兄と1人の姉の模範に倣って、全世界の人々に福音を宣べ伝えるべきだと考えました。……長女は帰還宣教師と神殿で結婚しました。……上の3人の息子は長老定員会会長、ワード伝道主任に召され、2人の娘は初等協会と扶助協会の会長会で奉仕しています。4人の子供はすばらしい永遠の伴侶を見つけ、神殿で結婚しました。みんな人生の進むべき道を歩んでおり、少しなりとも人に仕える喜びを経験しています。

ヒンクレイ大管長、奇跡が存在する



とすれば、これこそが奇跡ではないでしょうか。主は子供たちを守られ、養われました。彼らの祈りにこたえられました。……

主はわたしに2番目の夫を授けるべきだとお考えくださり、わたしたちは神殿で結び固めを受けました。そして、家族として生活してきています。簡単な道のりだったのでしょうか。いいえ。解決しなければならない問題は無数にありました。しかし、聖文を鉄の棒として、祈りを土台として、そして従順を定められた道として、わたしの子供たちは『心をつくして主に信頼せよ、自分の知識にたよってはならない』ということを学んでいます。

わたしは自分のことを誇るために自分の体験をお話ししているのではありません。……でも、主のことは心から誇りにすることができます。贖罪は

わたしたちにとってまったくの現実です。傷ついた心は癒され、自信は取り戻され、今は平安を心置きなく味わっています。確かに大管長がおっしゃるように、『神が明らかにされたすべての原則には、その真理への確信が伴う』のです。わたしは最初の夫のことを考えています。もうすでに自分の過ちの代価は支払ったのだということを夫が分かってくれればと思うのですが。夫は、才能ある彼の子供たちが主であって成長するのを見る喜びを失いました。また、彼らの学校や教会での業績、それに伝道の送別会と報告会を見逃しました。すべて、わたしたちの人生に潤いを与えてくれるものばかりです。いつも子供たちのそばにいられたことをどれほど感謝していることでしょうか。

今日、世界中にはひとり親の方がた

くさんいらっしゃると思います。わたしは、心の傷を追体験して時間を浪費してはならないと、声を大にして言いたいです。救い主の足もとに重荷を下ろせば、救い主は代わってそれを背負ってくださり、苦しみを愛に替えてくださるのです。……大管長とご家族に主の祝福がございますように。心からの愛と感謝を込めて。」こうして彼女は署名で手紙を結んでいます。

さて、祖母ならびに曾祖母の皆さんに一言だけ申し上げたいと思います。皆さんの経験は偉大です。皆さんの理解の心は想像を超えています。価値観の揺らぐこの世の中であって、皆さんは錨となることができます。皆さんは過ぎ去った長い人生の中で、数々の逆境によって磨かれてきました。皆さんのやり方は穏やかであり、忠告は知恵に満ちたものです。心から愛する皆さんは、このすべてが誤りであり逆行している社会であって宝です。神が皆さんを祝福されますように。皆さんの晩年が輝きで満たされ、愛する方々からの愛と主の愛で満たされた日々となりますように。

さて、大勢の姉妹の皆さんが直面する重大な問題について、これまで少し触れてきました。

わたしたちの方で皆さんに警告したいことがあります。現在起こっていることと、これから起こることの両方に対する警告です。今の世の中には、真理という仮面をかぶった詭弁があふれており、倫理基準や価値観に対する欺瞞が後を絶たず、じわじわと世の汚れに染めていこうとする誘惑があまりにも多いからです。このことを踏まえて、わたしたち大管長会と十二使徒評議会は、教会員ならびに一般の方々に向けて一つの宣言を発表いたします。これは、わたしたちの教会の預言者、聖見者、啓示者が歴史を通じて繰り返し述べてきた、家族にかかわる標準と教義とその運用についての宣言を再確認するものです。では、ここで読ませていただきたいと思います。

「わたしたち、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長会と十二使徒評議会は、男女の間の結婚は神によって定

められたものであり、家族は神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中心を成すものであることを、厳粛に宣言します。

すべての人は、男性も女性も、神の形に創造されています。人は皆、天の両親の大切な霊の息子、娘です。したがって、人は皆、神の属性と神になる可能性とを備えています。そして性別は、人の前世、現世および永遠の状態と目的にとって必須の特性なのです。

前世で、霊の息子、娘たちは神を知っていて、永遠の御父として神を礼拝し、神の計画を受け入れました。その計画によって、神の子供たちは肉体を得ることができ、また、完成に向かって進歩して、最終的に永遠の命を受け継ぐ者としての神聖な行く末を得るために、地上での経験を得られるようになったのです。神の幸福の計画は、家族関係が墓を超えて続くことを可能にしました。聖なる神殿において得られる神聖な儀式と聖約は、わたしたちが個人として神のみもとに帰り、また家族として永遠に一つとなることを可能にするのです。

神がアダムとエバに授けられた最初の戒めは、彼らが夫婦として親になる能力を持つことに関連したものでした。わたしたちは宣言します。すなわち、増えよ、地に満ちよ、という神の子供たちに対する神の戒めは今なお有効です。またわたしたちは宣言します。生殖の神聖な力は、法律に基づいて結婚した夫婦である男女の間においてのみ用いるべきです。

わたしたちは宣言します。この世に命をもたらす手段は、神によって定められたものです。わたしたちは断言します。命は神聖であり、神の永遠の計画の中で重要なものです。

夫婦は、互いに愛と関心を示し合うとともに、子供たちに対しても愛と関心を示すという厳粛な責任を負っています。『子供たちは神から賜った嗣業であり』（詩篇127：3）とあります。両親には、愛と義をもって子供たちを育て、物質的にも霊的にも必要なものを与え、また互いに愛し合い仕え合い、神の戒めを守り、どこにいても



法律を守る市民となるように教えるという神聖な義務があります。夫と妻、すなわち父親と母親は、これらの責務の遂行について、将来神の御前で報告することになります。

家族は神によって定められたものです。男女の間の結婚は、神の永遠の計画に不可欠なものです。子供たちは結婚のきずなの中で生を受け、結婚の誓いを完全な誠意をもって尊ぶ父親と母親により育てられる権利を有しています。家庭生活における幸福は、主イエス・キリストの教えに基づいた生活を送るときに達成されるに違いありません。実りある結婚と家庭は、信仰と祈り、悔い改め、救済、尊敬、愛、思いやり、労働、健全な娯楽活動の原則にのっとりて確立され、維持されます。神の計画により、父親は愛と義をもって自分の家族を管理しなければなりません。また、生活必需品を提供し、家族を守るという責任を負っています。また母親には、子供を養い育てるという主要な責任があります。これらの神聖な責任において、父親と母親は対等のパートナーとして互いに助け合うという義務を負っています。心身の障害や死別、そのほか様々な状況で、個々に修正を加えなければならないことがあるかもしれません。また、必要なときに、親族が援助しなければなりません。

わたしたちは警告します。貞節の律法を犯す人々、伴侶や子供を虐待する人々、家族の責任を果たさない人々は、いつの日か、神の御前に立って報告することになります。またわたしたちは警告します。家庭の崩壊は、個人や地域社会、国家に、古今の預言者たちが預言した災いをもたらすことでしょう。

わたしたちは、全地の責任ある市民と政府の行政官の方々に、社会の基本単位である家族を維持し、強めるために、これらの定められた事柄を推し進めてくださるよう呼びかけるものであります。」

わたしたちは、すべての方々がこの宣言を入念に、よく考えながら、祈りを込めて読んでくださることをお勧めいたします。いかなる国家であろうと、その強さは家庭という囲いの中に根ざしているのです。わたしたちは、世界中に住むわたしたちの民が、時を超えて生き続けるこの価値観ののっとりて家族を堅固なものにするようにと、強くお勧めいたします。

愛する姉妹の皆さんに主の祝福がありますように。皆さんは家庭の守り手です。子供たちの生みの母です。子供たちを養い育て、生活の習慣を教え込むのは皆さんです。神の息子、娘を養い育てることほど神に近い仕事はありません。今日のチャレンジに対抗できる強さを身に付けることができますように。常に直面する問題に対して、皆さん自身の知恵を超えた力が授けられますように。皆さんの祈りと願いが皆さんへの祝福として、また皆さんが愛する人々への祝福としてこたえられますように。皆さんの人生が平安と喜びに満たされたものとなるよう、わたしたちの愛と祝福を残したいと思います。必ずそのようになります。皆さんの中ので大勢の方々がそれを証してくださっています。今もこれから後も主が皆さんを祝福されますように。へりくだり、救い主イエス・キリストの御名により申し上げます。アーメン。

中央幹部の異動

第 165回半期総大会の土曜日午後
の部会で、七十人定員会の会員
7人の異動と中央日曜学校会長の再
組織が発表された。さらに、以前に発
表されていた七十人会長の新たな会
員が、それぞれの召しへの支持を受け
た。

ジャック・H・ゴーズリンド長老お
よびハロルド・G・ヒラム長老は、地
域会長の責任を受けたレックス・
D・ピネガー長老およびチャールズ・
ディディエ長老を引き継いで、七十人
会長の一人として支持された。

名誉幹部の称号を受けたテッド・
E・ブルーアートン長老は、1978年に
七十人第一定員会に召された。それ以
前はステーキ会長、伝道部長および地
区代表の任にあった。七十人として長
年にわたり様々な責任を果たしてきたが、
最近では北アメリカ北西地域会長を務め
ていた。ブルーアートン長老はアル
バータ大学薬学部を卒業し、第二次世
界大戦中、カナダ空軍で軍務に就いた
後、アルバータ州カルガリーで薬剤師
として働いていた。

1985年から七十人第一定員会で働い
てきたハンス・B・リンガー長老も名

誉幹部の称号を受けた。スイス出身の
リンガー長老は、七十人として召され
る以前は地区代表、ステーキ会長およ
び監督を歴任している。中央幹部とし
ての最近の責任は、ヨーロッパ・地中
海地域会長第一副会長であった。ス
イス陸軍の元大佐であるリンガー長老
は、電気技師、建築家、工業デザイ
ナー、また工場や研究所での企画担当
者として働いていた。

5年間の任務を終えて、エドワ
ルド・アヤラ長老、リグランド・R・
カーティス長老、ヘルベシオ・マー
ティンズ長老、J・バラード・ウォ
シュバーン長老、デュレル・A・ウル
ジ長老が七十人第二定員会から解任と
なった。5人とも1990年3月31日に七
十人として召された。

チリ出身のアヤラ長老は南アメリカ
南地域および南アメリカ北地域の各会
長会で副会長として働いてきた。現在
はチリ・サンティアゴ神殿神殿長とし
て働いている。

カーティス長老は北アメリカ南東地
域、ヨーロッパ・地中海地域および北
アメリカ北西地域の各会長会で副会長
を務めてきた。また、中央若い男性会

長会でも働いた。

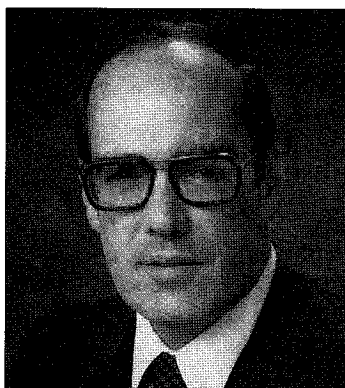
マーティンズ長老はブラジル出身で、
七十人としての5年間、母国ブラジル
で働いてきた。ブラジル地域会長の
第一および第二副会長を務めてきた。

ウォシュバーン長老はユタ北地域、
アフリカ地域、およびユタ中央地域の
各会長会の副会長として、また中央日
曜学校会長会で働いてきた。現在、ネ
バダ州のラスベガス神殿神殿長として
働いている。

ウルジ長老はこれまでフィリピン・
ミクロネシア地域、北アメリカ北東地
域およびユタ中央地域の各会長会で働
いてきた。そして、最近まで太平洋地
域会長の任にあった。

七十人会長のハロルド・G・ヒラ
ム長老が中央日曜学校会長会会長に支
持され、七十人のF・バートン・ハ
ワード長老が第一副会長に、同じく七
十人のグレン・L・ペイス長老が第二
副会長に支持された。同会長会を解任
となったのは、会長のチャールズ・
ディディエ長老、第一副会長のJ・バ
ラード・ウォシュバーン長老および第
二副会長のF・バートン・ハワード長
老である。□

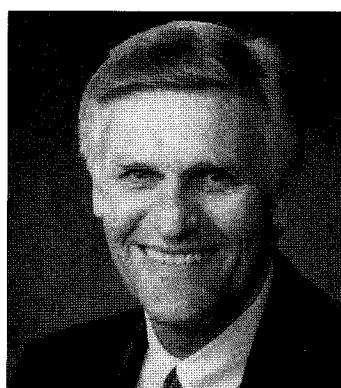
中央日曜学校会長会



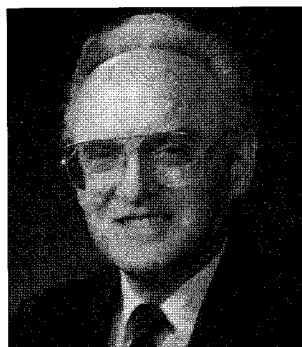
第一副会長
F・バートン・ハワード長老



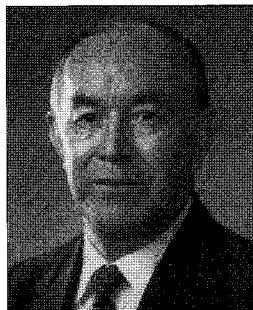
会 長
ハロルド・G・ヒラム長老



第二副会長
グレン・L・ペイス長老



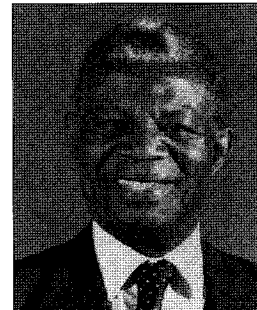
テッド・E・
ブルーアートン長老



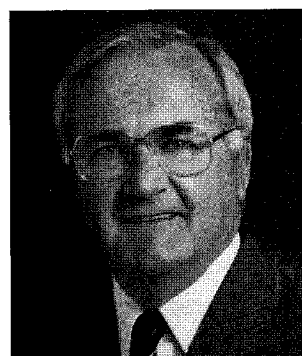
エドワルド・
アヤラ長老



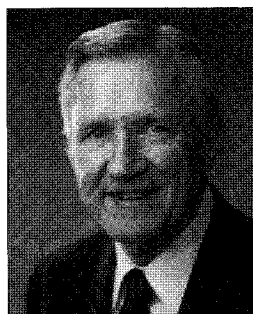
リブランド・R・
カーティス長老



ヘルベシオ・
マーティンズ長老



ハンス・B・リンガー長老



J・バラード・
ウォシュバーン長老



デュレル・A・
ウルジ長老

新たな神殿の敷地、 発表される

第165回半期総大会神権会部会で、
ゴードン・B・ヒンクレイ大管
長は、マサチューセッツ州ボストンと
ニューヨーク州ホワイトプレーンズの
2か所に神殿を建てる計画を発表した。

ヒンクレイ大管長は次のように述べ
た。「ここ何年かにわたって〔コネチ
カット州〕ハートフォード近辺に神殿
の適地を探してきましたが、その間、
その北と南の地域で教会が非常に発展
し、現時点でハートフォードに神殿を

建設する計画は中止することになりま
した。その代わりにマサチューセッツ
州ボストンとニューヨーク州ホワイ
トプレーンズに建設することになりまし
た。……

ハートフォードの信仰篤い聖徒の皆
さんにはおわびいたします。……〔し
かし、〕今回の新たな決定に導かれた
ことについては満足しています。この
二つの神殿が建設されることによって、
ハートフォードの聖徒たちはそれほど

遠くまで旅をせずに神殿に行けるよう
になるでしょう。」

さらにヒンクレイ大管長は、現在ベ
ネズエラとそのほか6か所に神殿を建
設することを検討していると発表した。
そして次のように述べた。「わたしは、
世界中の末日聖徒のために神殿が比較
的近いところに置かれるようになるこ
とを切に願っています。しかし、その
速度にも限度があります。」

現在、世界中で47の神殿が運営され
ている。ユタ州に8つ、合衆国内のそ
のほかの地域に16、カナダに2つ、北
米以外の地域では21ある。また6つの
神殿が建設中である。加えて、6つの
神殿建設の計画がすでに発表されてい
る。□

ベイトマン管理監督、 ブリガム・ヤング大学学長に指名される



現 在教会の管理監督の職にあるメリル・J・ベイトマン監督が、ユタ州プロボにあるブリガム・ヤング大学の学長となった。今後、七十人第一定員会の職と兼任になる。

1996年1月1日から効力を発するこの任命は、ブリガム・ヤング大学理事会の会長を務めるゴードン・B・ヒンクレー大管長によって発表された。

ベイトマン長老は、1989年10月に第10代学長に就任したものの健康上の問題で辞意を表明していたレックス・E・リー兄弟の後任となる。

ベイトマン長老（59歳）は、ブリガム・ヤング大学との縁が深く、以前同大学で経済学を教え、経営学部で学部長も務めている。また、ガーナ大学では経済学の講師を務め、コロラド州の合衆国空軍士官学校でも経済学を教えた。その後、合衆国とイギリスのマーズ製菓会社で様々な管理職を歴任している。1992年6月に七十人第二定員会に召されたときには、経営コンサル

ティングと資産運用の会社を経営していた。管理監督に召されたのは、1994年4月である。

こうした実業界での経歴に加え、ベイトマン長老はその半生を教会での奉仕にささげてきた。成人してから監督を1度、高等評議員を7度、ステーキ会長を2度務めている。中央幹部に召されたときは、地区代表の任にあった。幹部に召されてからは、東京に本部を置くアジア北地域の会長を務めた。

ユタ州リーハイ出身のベイトマン長老は、ユタ大学で経済学の学士号を取得し、後にマサチューセッツ工科大学において同じ経済学で博士号を得た。1959年にソルトレーク神殿でマリリン・スコールズ姉妹と結婚、7人の子供と16人の孫に恵まれている。□

教会補助組織会長会、 テレビ番組の浄化を呼びかける

ソルトレーク・シティー発

扶 助協会、若い女性、初等協会の3つの中央会長会は最近、テレビから暴力や不敬な言葉、下品さ、わいせつを締め出すよう呼びかけた。

これは、ラジオ・テレビ局が制作する番組の認可と監視を担当する連邦通信委員会（FCC）への文書という形で行われたもので、特に合衆国における番組編成の改善を呼びかけている。会長会が指摘するのは、自分たちが世界中の370万人の扶助協会の女性と54万4,000人の若い女性、それに120万人の初等協会の子供たちを代表している

ということである。また、福音の原則に基づいて書かれたこの文書は、全世界の親たちの懸念を反映したものとなっており、こう記されている。

「わたしたちは、一般放送番組ならびにケーブルテレビ番組の編成を子供と家庭のために改善しようとする連邦通信委員会の努力に対して、強力な支持を表明いたします。

子供とテレビとのかかわりを左右する最大の力は親にあります。しかしながら、不適切で破壊的なテレビ番組から子供を守るために、親は助けを必要としています。FCCはケーブルならびにテレビ業界に対して厳格な指針を

示すことにより、番組の品位を高め、子供たちのために質の高い番組を確立していただきたいと思います。

わたしたちは、暴力や不敬な言葉、下品さ、わいせつを含んだ番組を規制しようとするFCCの努力を支持します。わたしたちが強く懸念しているのは、そうした番組が人々の心を鈍化させることです。家族関係や学校、宗教に対する侮辱は許すべきではありません。番組に含まれる破壊的な描写は、わたしたちの社会のかけがえのない基を、知らず知らずのうちに大きな力で覆していきます。

わたしたちは、FCCが番組の浄化に毅然とした態度をとるよう求めるものです。社会的な価値観を決定づけるテレビの力は、社会の良さに寄与すべきものであって、ことさらに社会の恥部を強調すべきものではないはずです。金もうけのために人の理性も感情も搾

取しようとする今の傾向には、一般市民の鋭い監視が必要です。わたしたちは、FCCが先頭に立って現在の番組編成に対して必要な正を行うことにより、子供たちを守り、家庭の環境を健全に保つよう強く求めるものです。」

この文書には、中央扶助協会会長のイレイン・L・ジャック、副会長のチ

エコ・N・岡崎とアイリーン・H・クライド、中央若い女性会長のジャネット・C・ヘイルズ・ベッカム、副会長のバージニア・H・ピアスとボニー・D・パーキン、中央初等協会会長のパトリシア・P・ピネガー、副会長のアン・G・ワースリンとスーザン・L・ワーナーの署名がある。□

ルガリア、クロアチア、アルバニア、ウクライナ、ポーランドに送られた。

また最近では、地元政府からの要請で、医療や教育、身障者援助、そのほかの分野で技術と経験を有する成熟した夫婦が、宣教師として派遣されるケースが多くなってきている。今のところ、ヨーロッパ、アフリカ、アジア、ラテンアメリカで、こうした夫婦が専任で人道的救援活動に携わっている。また、医師や看護婦、教育者などが、多くの国の政府機関や病院、学校などで、短期間の診療や相談による援助を行ってきた。

地元の活動への支援

地元の人々の地域開発プロジェクトを支援することにより、貧困と苦痛をその原因から排除する活動も多く行われてきた。ガーナでの穀物の加工処理、アフリカでの読み書き能力向上プログラム、タイやコスタリカ、エルサルバドル、ニカラグアでの村立信用組合の設立、ジンバブウェとケニアでの農業開発などはその例である。

教会は救援活動を直接行うこともあるが、多くの場合、誠実で効率的な活動をしていると実証されている外部機関を通して行われてきた。

しかしながら、教会という団体による援助よりもさらに重要なのは、全世界の聖徒個人個人から直接寄せられる援助であろう。教会員や専任宣教師は、文字どおり数百万時間を自分の住む町での慈善奉仕や人道的救援活動のためにささげているのである。

1994年から1995年にかけての統計

43か国で働く福祉宣教師の数 …383人
大規模自然災害への援助数

(1985-1995) ……………73件

人道的救援活動 (1985-1994)

- 現金による援助……………23,750,000ドル
- 援助総額……………72,480,000ドル
- 援助国 ……………109か国
- 配給した食糧 ……………3,615トン
- 配給した医療品 ……………243トン
- 余剰衣類……………11,200トン

教会の福祉事業、世界的な広がりを見せる

ソルトレーク・シティー発

教 会は長年の間、世界的な救済活動や人道援助に活発に携わってきているが、特別な努力が傾けられるようになったのは過去10年間のことである。教会が焦点を当てている分野は、人命の救助と苦痛からの救済であり、また窮乏状態にある人々が自立し、生産性を向上させることである。最近出された統計によると、教会は1985年以来114に上る国で、1,154の救済活動と209の自立のための活動を行っている。

これらの人道的救援活動は、ペニヤミン王の次の勧告を基とするものである。「あなたがたが同胞のために務めるのは、とりもなおさず、あなたがたの神のために務めるのであるということ^{はらから}を悟らせるためである。」(モーサヤ2:17)

過去1年の教会の人道的救援活動は、400件以上の飢餓救済活動や地域開発、物品支給活動に代表されるものであり、対象となった地域は、アジア、東ヨーロッパ、アフリカ、ラテンアメリカ、カリブ諸島、アメリカ合衆国、カナダに及ぶ。こうした活動の中で、民間ボランティア組織や地域機関、ほかの宗教団体との協力の下に行われたものは350件以上になる。

人道的救援活動の資金は、教会員やそのほかの人々からの献金によって賄われている。また、物品援助の多くは、

教会員が生産もしくは寄贈したものである。

衣料品と食糧

1994年の活動は多岐にわたるものであった。まず、846万ポンド(約3,840トン)の中古衣料品が合衆国内外の難民や住む場所を失った家族など、窮乏状態にある人々のもとに届けられた。これは800万人分以上の量である。また、ルワンダでの窮乏には特別な配慮がなされ、130万ドル(約1億3,000万円)分の食糧、衣類、医療品、そのほかの救済物資が難民に支給されている。さらに、幾つかの国のホームレスの人々や貧困に苦しむ人々のための食糧倉庫や食事提供活動のために、食糧が寄贈された。

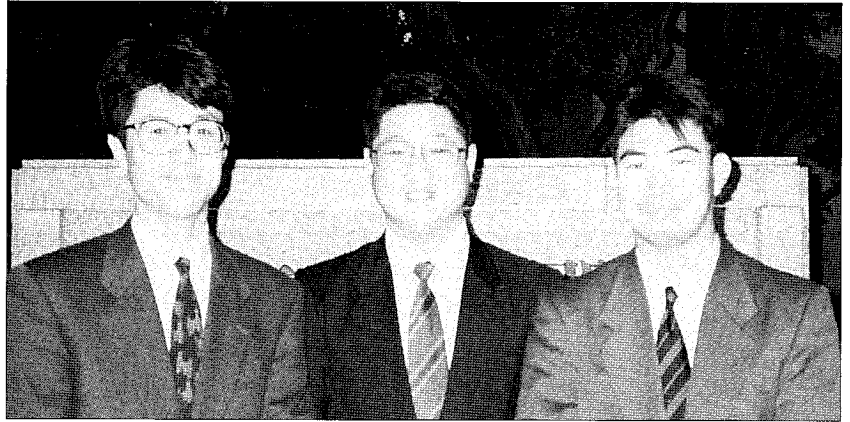
また、日本やアフリカ、フィリピン、パキスタン、アメリカ合衆国でのハリケーンや火山噴火、地震などの自然災害の際には、対象を教会員に絞ることなく救済活動が行われている。

東ヨーロッパへの援助

現在は、東ヨーロッパ諸国や旧ソビエト連邦の国々の貧困にあえぐ人々に関心が向けられている。1994年、食糧や衣類、医療品、教科書などの物資が、ロシア、ラトビア、エストニア、リトアニア、モルダビア、ルーマニア、ブ

再組織された青森地方部長会

昨年9月10日、日本仙台伝道部のリチャード・M・オースティン伝道部長管理の下に開催された青森地方部大会で、1992年1月より地方部長の責任を果たしてきた森浩典兄弟が解任され、新たに山田正兄弟（写真中央）が召された。第一副地方部長には蝦名公誠兄弟（写真左）が、第二副地方部長には、佐々木卓兄弟（写真右）が召され、その任に当たる。



人生に目的を与えてくれた 宣教師との出会い

——いつも福音にあって喜び、シオンを築くために——

青森地方部長 山田 正

昨年9月10日の地方部大会で、リチャード・M・オースティン伝道部長より青森地方部の地方部長に召されました。

それまで、青森支部で伝道主任とインスティテュート教師の責任を受けていましたので、いきなり地方部長の召しの面接を受けたときは、ほんとうにびっくりしました。しかし、今まで主の召しを断ったことがありませんでしたので、自分にできるかなという不安はかなりありましたが、この御業は主の業であり、主が召されたのであれば、わたしは恐れる必要はないと思いました。

同じような気持ちを抱いたことが、今までに何度かあります。わたしが専任宣教師として働き始め、5か月が過ぎたころに、伝道部長から監督長老になるように言われ、さらに支部長も兼任するようにと大きな責任を受けたとき。また、山形でワードの伝道主任を

していて仙台ステークのことをほとんど知らないわたしに、ステーク会長からステーク伝道部長の召しを受けたとき。さらに、監督会の経験もないわたしが突然監督に召されたときにも、そうでした。

今回の召しについても、心の中で副地方部長の経験があれば……と思いました。しかし、今までの信仰生活を省みて、いつも主の導きと助けを受けて主の召しを果たすことができましたので、一生懸命謙遜に頑張りたいと思います。

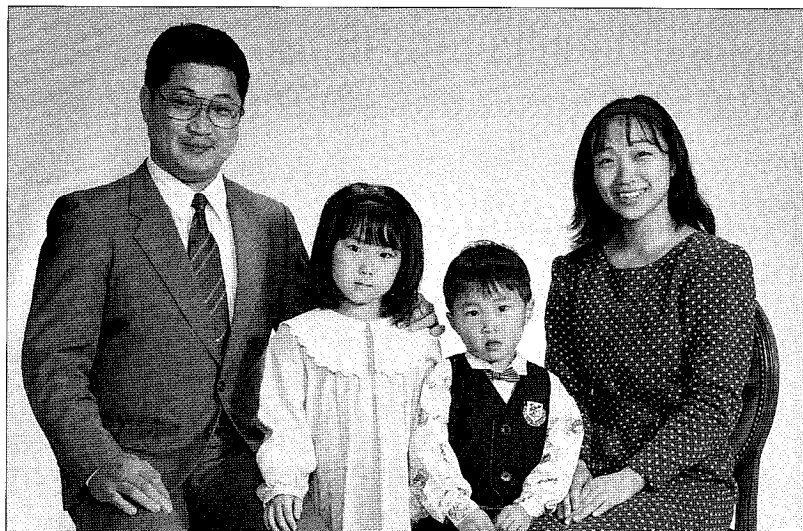
わたしがこの教会を知るきっかけになったのは、今から14年前の大学生のころでした。何の目的もなく入った大学で、自分は何をしたいのかも分からず毎日が過ぎていきました。ある日、寮の先輩のところへ宣教師が訪ねてきました。先輩が約束していたのですが、先輩は自分の代わりに宣教師の話を聞くようにわたしに言いました。先輩の

命令は絶対でしたので、何が何だ分からず彼らに会いました。それが宣教師との最初の出会でした。

宣教師のまじめで誠実な態度にはとても心が引かれていましたが、4、5回レッスンを聞いても、どうしても神様を信じることできずに彼らに申し訳なく思い、お断りしました。

それから1年ほどして、墮落した目的のない学生生活を送っていることに気づき、人生の目的について考える機会がありました。どのように生きるべきか考えました。わたしは学校を休学し、社会に出てみようと思いました。両親や大学側からは、猛反対を受けましたが、自分の人生を見詰めるためのわたしの大きな決意でした。

そんなとき、神様は再びわたしを宣教師に会わせてくださいました。レッスンを聞くことができたときには、救われる思いがしました。今思うと、とても不思議なのですが、最初の宣教師からもらった『モルモン書』は、お断りした後もいつも枕もとにありました。そして大の本嫌いだったわたしが酔って帰って来たときでも読んでいたのです。また、最初からわたし自身が宣教師に会っていたのなら、話を聞くことはなかったでしょう。神様はわたしにいちばん合った方法を用いて導いてくださいました。



山田正地方部長の紹介

1960年青森県南津軽郡生まれ。21歳で改宗。国立室蘭工業大学中退。24歳で日本福岡伝道部で伝道。1988年に鳴海浩美姉妹と結婚し、子供が二人いる。現在、日本テレコム代理店、ダスキン個人事業主。青森地方部青森支部に所属。これまで、ステーキ伝道部長、監督、長老定員会会長、伝道主任、独身成人代表、若い男性会長、インスティテュート教師、セミナリー教師などを歴任している。

教会員になって一度も後悔したことはありません。それはこの教会が真の教会であり、真実の喜びを見いだせる教会だからです。喜びを多くの方々とともに分かち合って主の御業に携わりたいと思います。わたしの力は小さくても、すばらしい地方部長会の兄弟た

ちがいます。そして地方部長会が一致するならば、主の御霊がわたしたちを導きます。

青森地方部のモットーはジョイフリー（喜んでいる）です。いつも福音にあって喜び、シオンのステーキを築くために青森地方部の兄弟姉妹ととも

に前進していきたいと思っています。

「主はその民をシオンと呼ばれた。彼らが心をつにし、思いをつにし、義のうちに住んだからである。そして彼らの中に貧しい者はいなかった。」

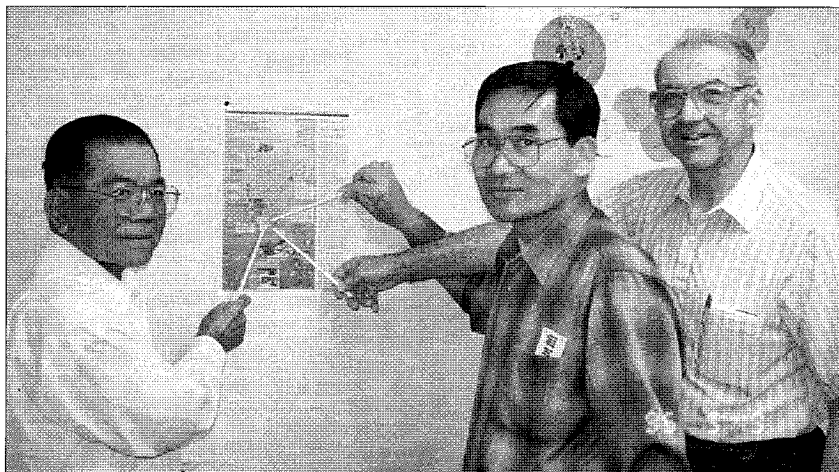
（青森地方部テーマ聖句 モーセ7：18）（やまだ・ただし）

戦争がもたらさなかったもの

第二次世界大戦の終結50周年を記念する様々な行事が、この夏行われている。

当時ともに戦った戦友同士が再会し

ている中、先日東京神殿では、別の形の再会があった。敵として、危うく対戦するところだった者同士が再会したのである。



50年前の沖縄にいた3人（左から野原正雄兄弟、大城朝次郎兄弟、アイラ・タッド長老）

ユタ州バウンティフル出身の神殿宣教師アイラ・タッド長老と、沖縄の野原正雄兄弟、大城朝次郎兄弟は神殿で再会した。大城兄弟は沖縄那覇ステーキでステーキ副会長を務めている。話をしているうちに、半世紀前の1945年4月1日、沖縄戦で危うく対戦するところであったことを知ったのだ。

タッド長老は当時19歳で、沖縄南部沖で海軍兵として軍艦に乗っていた。当時、アメリカ軍は沖縄の西部にすでに侵略していた。若い海軍兵を乗せたその軍艦は、侵略をさらに進めるかのように浜に近づいていた。

浜では、当時19歳だった日本陸軍の野原兄弟が、アメリカ軍艦を撃退しようと待機していた。彼は軍艦が今にも攻撃して来るだろうと、軍艦の動きを緊張して見守っていた。

野原兄弟は、「あなたがたを待ち受けていたんですよ」と語った。

大城ステーキ副会長もやはり、その日、同じ場所にいた。彼は当時8歳の少年で、予想される壮絶な戦いをこの目で見ようと、浜を見渡せる山に登っ

ていたのであった。

しかしアメリカ軍艦が単に牽制^{けんせい}していただけと分かり、日本兵は撤退した。野原兄弟は次のように述べた。「あなたがたが侵略して来なかったのも、わたしたちは島の西部から侵略して来たアメリカ軍と戦うために、そこからもっと北へ移動したのです。」

それから50年後、3人は静かな神殿

で出会い、当時対戦することがなかった幸運を悟ったのである。

当時若い海軍兵であったタッド長老は、1950年から53年まで日本で伝道し、現在パトリシア夫人とともに神殿宣教師として働いている。一方、野原兄弟は3年前に改宗し、1年に何度か地元沖縄から神殿に訪問している。大城ステーク副会長も頻繁に神殿に参入して

おり、儀式執行者としても働いている。3人は神殿で、福音がもたらしたものと、戦争がもたらさなかったものに対して、感謝の念で胸を満たした。——ブルック・カワルズィク：ユタ州フルート・ハイツステーク、フルート・ハイツ第2ワード所属（Church News 『チャーチニュース』1995年9月30日付け）

「求めよ、そうすれば与えられるであろう」

——念願の献堂式を迎えて——

名古屋伝道部名古屋西ステーク

大垣支部

高木 寛

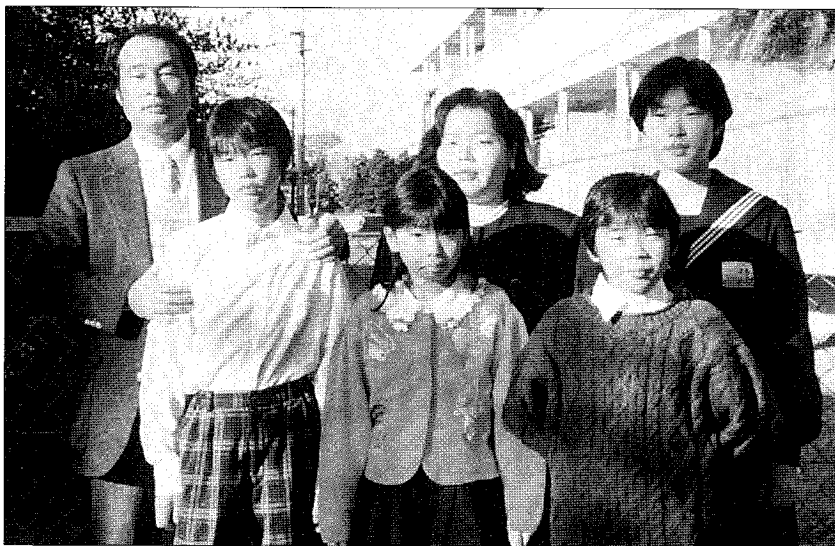
この度恵まれて大垣の地に教会堂が建ち、今まで以上に神様の祝福を受けられることを心から感謝しています。

わたしが末日聖徒イエス・キリスト教会を知ったのは、19年前の1976年7月のことでした。宣教師から1冊の本を買ったのが始まりです。そのころは岐阜市に教会があり、日曜日には宣教師とともに教会に行っていました。

その年の11月から、大垣で日曜日の集会を行うと聞き、近くなるなと思いました。場所は金物屋の3階を使用していました。その後は、お風呂屋をみんなで改造し、番台を説教台として使い、集会を行いました。

それから、もっと交通の便の良い所へということで、駅前通りのビルを使うことになり、そちらで集会を行っていました。しかしどこへ行っても問題がありました。第1に集会所の広さ、第2に部屋の数、第3に冷暖房の問題。これらはどこへ行ってもなかなか解決できず、大垣の地にあって、理想的な建物がありませんでした。

そんな中、久瀬川（今まで使っていた所）方面で良い場所があると聞き、見に行きました。ここにしようとして決



写真上——献堂された大垣支部に集う兄弟姉妹たち。下——高木ご家族

し、少しでも部屋を多くと、みんなで見取図を考えました。その当時は、集会所の広さや部屋の数、以前の建物よりだんぜん良いとのことで、集会を持ちました。そんな中でも早く教会堂をという思いがあり、1年から2年でこの建物から出ようねと、みんなで一致して頑張りました。結局、8年近くそこにいました。

集会所がいろいろな場所へ変わる度に、早く教会堂が欲しいと思いながら教会に集っていました。歴代の支部長は声を合わせて教会堂をと進めてきました。彼らの働きに心から感謝しています。わたしも支部長に召されてから、建築、建築と会員に話し、60人という厚い壁を乗り越えられるように努めました。とても難しい目標でした。マタイによる福音書に「求めよ、そうすれば、与えられるであろう」（マタイ7：7）とありますが、わたしたちの求めは聞いてもらえないのかなと思ったくらいです。

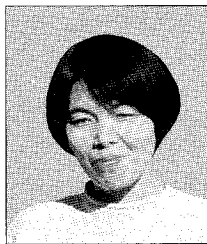
それでも、一昨年11月、^{くわ}鋳入れ式を行い、昨年6月には献堂式を行うことができました。わたしは、心から神様に感謝しています。大垣支部の一人一人の兄弟姉妹がよりいっそう祝福され、霊的に向上し、絶えず愛と一致を忘れずに進んでいけるよう願っています。

これからは次の目標に向かって会員が一つとなり、教会の中にあって成長し、その祝福の喜びを多くの方と分か合うことができたと願っています。

神様が愛とチャレンジをいつも与えてくださり、それらを通して、わたしたちが成長できることを心から証します。^{あかし}（たかぎ・さとる 支部長）

10年目の目標達成

名古屋伝道部名古屋西ステーク大垣支部 藤木美保子



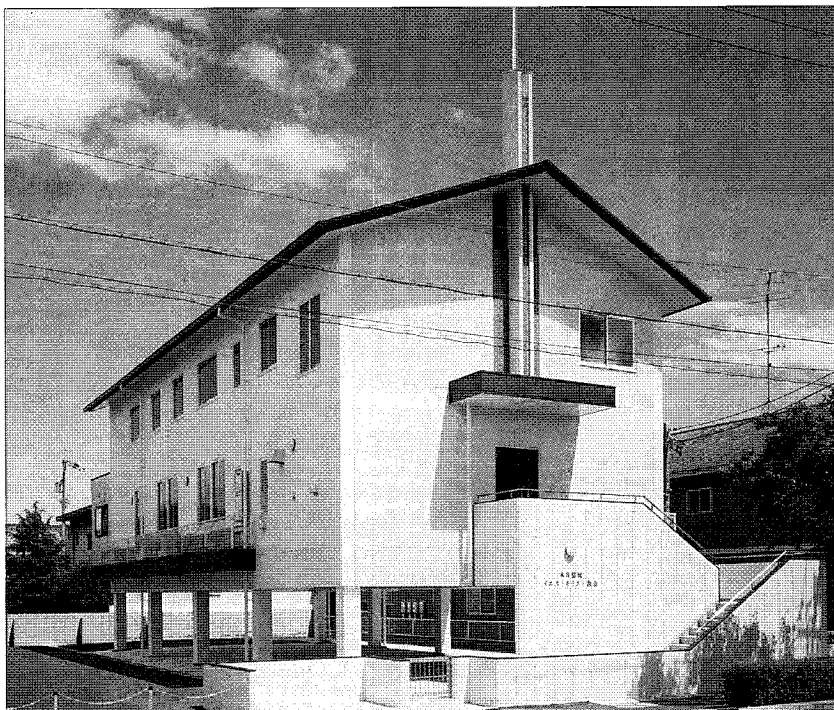
教会の土地購入が決まって大喜びをしてから10年。毎年、今年こそ教会堂を建ようという目標を掲げ、頑張ってきました。が、なかなか目標達成はなりません。10年目にし、ようやく建ったわけですが、決まったときは、喜びと同時に、ほんとうに建つのだろうかと半信半疑の気持ちでした。

新しい建物に入ってから、レッスン中も隣の部屋の声、外の騒音、景色などに気を取られず集中できますし、寒さ暑さを心配する必要もなく、快適な気分で行われるのはすばらしいことです。

礼拝堂で座っていると、ここには騒がしい音や憎み合う心、不親切さ、礼儀正しくない態度などは、まったく似つかわしくないと感じます。今までの集会場では、霊的な気持ちになろうとするのはとても努力の要ることでしたが、今は、静かに礼拝堂のいすに座るだけで、とても敬虔な気持ちになることができます。

「主の言葉に聞き従いなさい。そして、あなたがたが必要としているものは何でも、イエスの名によって御父に求めなさい。疑ってはならない。信じなさい。昔のようになり、心を尽くして主のもとに来て、主の前に恐れおののいて、自分の救いを達成しなさい。」（モルモン9：27）

この言葉をよくかみしめ、神様の大きな愛に感謝し、この立派な建物にふさわしい人になれるように頑張りたいと思います。（ふじき・みほこ 支部若い女性副会長）



所在地 岐阜県大垣市室本町4丁目15

電話 0584-74-9763

完成 1995年6月8日

敷地面積 566.05㎡

建築面積 205.80㎡

延床面積 529.20㎡

鉄骨造 3階建

『モルモン書』の寄贈

教会広報部

改 訂新版『モルモン書』の発刊を記念して、教会の広報部では各地の図書館に『モルモン書』の寄贈をしています。大学やマスメディアの図書館では手続きが必要なため、初めに案内状を送り、希望のあった図書館に寄贈しています。寄贈した図書館からは、丁寧なお礼状が届いています。

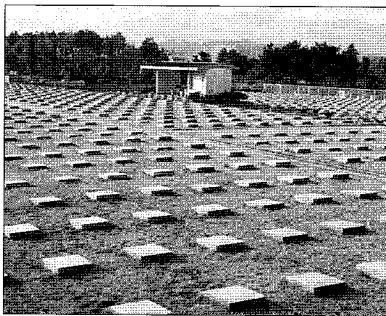
●寄贈先（1995年11月30日現在）

国公立大学図書	15
新聞社	6
テレビ・ラジオ局	9
私立大学	34
その他国会図書館など	2
合計	66冊



国会図書館に『モルモン書』を寄贈する地域広報ディレクターの井上龍一兄弟

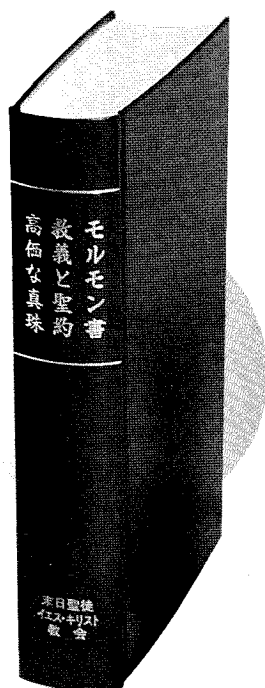
1996年度「クモラの丘霊園」分譲のお知らせ



所在地：埼玉県入間郡毛呂山町長瀬
1313 武蔵野霊園内
（池袋駅から東武東上・越生線
で約1時間、武州長瀬駅下車、徒歩7分）

1. 墓地永代使用料
支払い方法
1区画 315,000円
一括または分割払い。分割払いの場合は、初回金5,250円、以降毎月5,250円59回払いの無利子分割払いとなります。
2. 墓地管理料
年間3,000円（初回金とともに1年分を前納し、以降毎年定められた期日までに支払うものとします。）
3. 申し込み方法
以下の書類をクモラの丘霊園事務局に提出してください。
（1）クモラの丘霊園使用申し込み書
（2）住民票
（3）クモラの丘霊園永代使用契約書 2通
（4）銀行自動振替手続き書類
4. 1996年度申し込み期限
1996年12月31日
5. 墓所の指定
申し込み書類受領確認の後、順番に行います。
6. 初回金および
管理料の振込先
三和銀行青山支店 普通預金口座219499
クモラの丘霊園 代表 岡本 亮
〒106 東京都港区南麻布5-10-30
末日聖徒イエス・キリスト教会内
クモラの丘霊園事務局 電話03(3440)2351（代）
7. お問い合わせ先
分譲開始年月日：1982年9月19日
分譲数：1,600墓所中、586墓所が分譲済み（1995年10月13日現在）。
他霊園との比較——永代使用料は他霊園の5分の1から8分の1。
8. その他の情報

新刊紹介



改訂新版 『末日聖典合本』

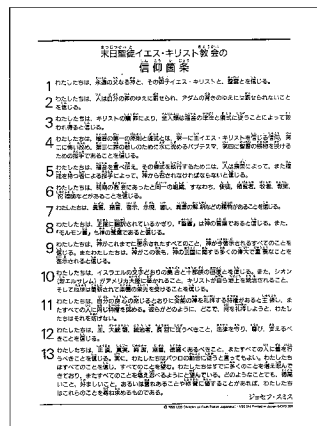
カタログ番号 34404 300 1,200円

当教会の標準聖典である『モルモン書』『教義と聖約』『高価な真珠』の合本。

◎A5判変形 (21×13.3cm)

ハードカバー1,468頁

◎376頁におよぶ『聖句ガイド』には、テーマ別に聖典を研究したり、話やレッスンの準備をする際に活用できる資料を豊富に収録。聖書のジョセフ・スミス訳(抜粋)、聖書関係と末日聖徒イエス・キリスト教会の歴史上の地図、地名索引、史跡写真付き。



信仰箇条ポスター

カタログ番号 64370 300 20円

◎A4判変形 (28×21cm)

13節から成る信仰箇条を学ぶために、家庭や教会でこのポスターを活用できる。

英語版定期刊行物および国際機関誌の送付方法の変更と購読料の改定



教会の成長と会員数の増加に伴い、ソルトレーク・ディストリビューションセンターから世界各国の会員への国際機関誌の直接送付が困難になってきています。そのため昨年10月(一部11月)より、『エンサイン』『ニューエ

ラ』『フレンド』の英語版定期刊行物(月刊)および『チャーチニュース』(週刊)については、一括して航空便で日本の教会配送センターに送られて来たものを、国内から購読者の皆さんへ発送しています。

この変更により、これまでの航空便・船便の区別がなくなり、すべて航空便での取り寄せとなります。これまで、遅配や未着などでご迷惑をおかけすることがありましたが、これによって迅速かつ確実な送付ができるようになりました。

なお、外国語版の刊行物は第三種郵便の扱いが受けられないため、国内での郵送費については購読者負担とさせていただきます。郵送費を含む年間購読料は以下のとおりです。

●英語版定期刊行物

『エンサイン』 4,700円

『ニューエラ』『フレンド』

各 4,500円

『チャーチニュース』 11,700円

*複数種類お申し込みの場合

『エンサイン』+『ニューエラ』

+『フレンド』 11,900円

『ニューエラ』+『フレンド』

5,500円

『エンサイン』+『ニューエラ』

または『フレンド』 7,100円
(『チャーチニュース』との組み合わせについては割引がありません。)

●各国語の国際機関誌

『リアホナ』(英語版、スペイン語版、
ポルトガル語版) 各 4,700円
中国語版・韓国語版 各 4,400円
そのほかの外国語機関誌、および複

数冊の場合の購読料については、配送
センター(☎044-811-0417)へお問い
合わせください。

この新購読料は1995年11月25日より
適用されています。

なお、郵便料金などの改定により、
購読料が変更される場合がありますの
でご注意ください。

*注意——日本国内からソルトレー
ク・ディストリビューションセンター
へ直接購読申し込みをされる方につい
ても、発送処理は日本国内で行います
ので、上記の国内郵送費分を個別に追
加徴収させていただくことになります。
ご了承ください。

JMTC

11月に召された専任宣教師

第194期生 6人



後列左から1-4, 前列左から5-6

〈名前〉

1. 大久保琢磨
2. 石原章雅
3. 山田千尋
4. 田村英和
5. 田中美樹
6. 岸野ありさ

〈出身地〉

- 横浜S/上大岡W
大阪S/阿倍野W
札幌西S/夢似W
東京北S/豊島W
横浜S/横浜第二W
東京西S/八王子第二W

〈伝道地〉

- 岡山伝道部
仙台伝道部
仙台伝道部
札幌伝道部
札幌伝道部
沖縄伝道部

S:ステーク, M:伝道部, D:地方部, W:ワード, B:支部

役員の異動

1995年10月13日から1995年11月14日ま
でに管理本部会員統計記録課に通知の
あった役員の異動(敬称略)

●京都ステーク

新ステーク会長: 梶内啓正 かじうちひろまさ

●神戸伝道部福知山地方部
新地方部長: 新谷国昭 しんたにくにさき

●岡山ステーク松江ワード
新監督: 義村徳宏 よしむらのりひろ

●岡山伝道部山口地方部宇部支部
新支部長: 中川満男 みつお

皆さんの原稿を 募集しています

◎ご投稿の際には連絡先(住所、電話
番号)、教会での責任(役職名)、所属
ユニット名と併せて生年を記入し、写
真を同封のうえお送りください。原稿
は一部手直しさせていただくことがあ
ります。また、掲載までに時間がかか
る場合もありますので、ご了承ください。

◎お願い——海外に召される日本人宣
教師たちを紹介いたしますので、伝道
の召しを受け取り次第、『聖徒の道』
編集室に写真を添えてお知らせくださ
い。(氏名〔フリガナ〕、伝道部名、召
された月を明記)

◎あて先: ☎106 東京都港区南麻布5
-10-30 末日聖徒イエス・キリスト
教会 『聖徒の道』編集室

☎03(3440)2666 FAX 03(3440)3275

末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部

大管長会



第一副管長
トーマス・S・モンソン



大管長
ゴードン・B・ヒンクレー



第二副管長
ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会



ボイド・K・パッカー



L・トム・ペリー



デビッド・B・ヘイト



ニール・A・マックスウェル



ラッセル・M・ネルソン



ダリン・H・オークス



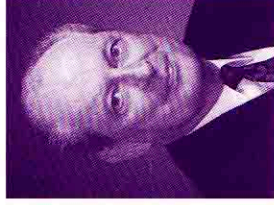
M・ラッセル・バラード



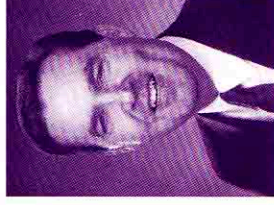
ジョセフ・B・ワースリン



リチャード・G・スコット



ロバート・D・ヘイルズ



ジェフリー・R・ホランド



ヘンリー・B・アイリング

七十人会長会



カーロス・E・エイシー



L・アルティン・タンナー



ジョン・H・クリステンセン



モントギ・J・プラフ



W・ユージン・ハンセン



ジャック・H・エーザリング



ハロルド・G・ビラム

七十人第一委員会



七十人第二委員会



管理監督会



(1995年9月30日現在)



「門口」アル・ラウズ画

この現代画は、1894年当時のソルトレーク神殿と、その近隣の様子を想像で描いたものである。1894年は神殿が奉獻された翌年に当たる。
北東方向からのこの眺めには、ソルトレーク神殿（左）、アッセンブリーホール^{アセンブリホール}の尖塔、タバナクルの丸屋根などが見える。



「**す**べて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。」（マタイ11：28－29）

